

FT-950

オペレーションマニュアル

	ページ
ご使用の前に	1
受信操作	43
送信操作	71
メモリー操作	100
スキャン操作	106
データ通信	108
メニューモード	112
保守	137
オプション	138
付録	148



この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

このオペレーションマニュアルについて

FT-950は、多くの新しい機能を装備した多機能、高性能通信機です。
FT-950の性能、機能を最大限に発揮させるために、ご使用前にこのオペレーションマニュアルをお読みになってください。

4ページに記載されている「初めにお読みください」は、ご使用前にかならずお読みください。

お読みになった後は、このオペレーションマニュアルを大切に保管してください。

このオペレーションマニュアルの読みかた

例として次のように表記します。

【××】スイッチを短く押す、または【××】スイッチを約1秒間押します。

・・・同じスイッチで“短く押したとき”と“長く押したとき”の動作が違う場合に記載します。

【〇〇】スイッチを押す・・・“短く押したとき”の動作しかないスイッチの場合に記載します。

ご注意 運用時に注意していただきたい内容を説明しています。

アドバイス 操作へのアドバイスなどを補足説明しています。

例 例をあげて操作方法を説明しています。

ワンポイント 知っておくと便利なことを説明しています。

用語説明 用語の説明をしています。

このオペレーションマニュアルに記載の社名・商品名などは、各社の商標または登録商標です。
製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。

目次

ご使用の前に

初めにお読みください	4
1. 電源を入れる	4
2. メインダイヤルのトルク調整	5
3. 前脚の使い方	5
4. BAND (周波数帯) の選択	6
5. MODE (電波型式) の選択	6
6. ダイヤル操作	7
7. 各 VFO による送信方法	7
8. SELECT ツマミの使い方	8
9. マルチファンクションダイヤル (CLAR/VFO-B ツマミ) の使い方	9
10. メニューモードの変更方法について	10
11. リセット操作	11
特長	12
安全上のご注意	14
付属品	17
オプション	18
設置と接続方法	19
アンテナについて	19
同軸ケーブルについて	19
アースについて	19
アンテナと電源ケーブルの接続	20
マイクロホン、ヘッドホン、 FH2 リモートコントロール キーボード (オプション) の接続	21
電鍵 (KEY) の接続	22
リニアアンプ VL-1000 (オプション) の接続	23
その他のリニアアンプの接続	23
各プラグの接続図	24
パネル面の説明	26
背面の説明	40

受信操作

基本操作 (アマチュアバンドを受信する)	43
電源を入れる前に	43
操作方法	44
送信周波数を変えずに受信周波数だけを 変える (CLAR: クラリファイアー) ...	46
誤って【MAIN】ダイヤルツマミに触れても 周波数に変化しないようにする (LOCK)	47
ディスプレイの明るさを 調節する (DIM: ディマー)	47
便利な機能	48
VFO-B による受信	48
マイバンド機能	49
バンドスタック機能	50
C.S (カスタムセレクション) スイッチ	50
ローテーターコントロール機能	51
MAIN ダイヤルツマミ以外の周波数の設定方法	52
■数字キーから直接周波数を設定する方法	52
■【CLAR/VFO-B】ツマミで VFO-A の 運用周波数を 1MHz ステップで設定する方法	52

■付属のハンドマイク MH-31B8 の

UP/DOWN スイッチによる方法	52
ANTENNA SELECT	53
受信時の多彩な機能	54
受信感度を低減させる	55
ATT	55
数 kHz 以上離れた強力な妨害信号を減衰させる	56
μ-TUNE を使う	56
受信感度を調節する	57
IPO (Intercept Point Optimization)	57
受信部 RF プリアンプ (AMP1, AMP2) について	57
混信・雑音が激しいとき	
隣接した妨害信号を減衰させる	58
RFLT (ルーフィングフィルター) を使う	58
3kHz 以内の雑音を軽減させる	59
NB (Noise Blanker) 機能を使う	59
3kHz 以内にある妨害信号を減衰させる	60
CONTOUR (コンター) 機能を使う	60
SHIFT (シフト) 機能を使う	61
WIDTH (ワイス) 機能を使う	62
SHIFT & WIDTH を併用する	62
NAR (ナロー) スイッチを使う	63
NOTCH (ノッチ) 機能を使う	64
DNF (デジタルノッチフィルター) 機能を使う	65
DNR (デジタルノイズリダクション) 機能を使う	65
最適な受信を行うために	66
RF GAIN	66
SSB 受信音の音質を変える	67
AGC (Automatic Gain Control) 機能を使う	68
APF 機能を使う	68
MUTE 機能を使う	69

送信操作

SSB/AM モードでの交信

(交信を試みましょう)	71
アンテナチューナーの使い方	72
基本操作	72
アンテナチューナーの動作について	73
(送信音質を変えてみましょう)	75
送信帯域を広くしたり狭くしたりする	75
送信周波数特性をパラメトリック マイクイコライザーで変える	76
パラメトリックマイクイコライザー を使って送信する	78
PROC (スピーチプロセッサ) を使う	79
(自分の音声を録音して送信してみましょう)	80
ボイスメモリー (オプション DVS-6)	80
送信時に便利な機能	82
音声による	
自動送受信切り替え機能 (VOX)	82
送信音を モニターする機能 (MONITOR)	82
送信周波数だけを一時的に動かす機能 (TX CLAR)	83

スプリット (たすきがけ) 運用	84	メモリーを呼び出す	102
クイックスプリット 機能	85	メモリーチェック機能	103
CWモードでの交信	86	メモリーチャンネルデータの消去	103
縦振れ電鍵や		メモリーデータを	
複式電鍵を使って運用する方法	86	MAIN VFO-A へ移す方法	104
内蔵エレトロニックキーヤーを		メモリーチューン機能を使う	104
使って運用する方法	87	QMB (Quick Memory Bank)	105
フルブレークイン操作を切り換える	87	QMBに書き込む	105
短点と長点の比率を設定する	88	QMBを呼び出す	105
キーヤー動作を変更する	88		
キーヤーの極性を反転する	88	スキャン操作	
正確に相手の周波数へゼロインする	89	VFO スキャンとメモリースキャン機能	106
◎CW-TUNE (CWゼロイン) 機能を使う	89	プログラマブルメモリースキャン (PMS)	107
◎SPOT 機能を使う	89		
CW REVERSE 機能を使う	90	データ通信	
キーイングスピードの調節	91	RTTY (ラジオテレタイプ) 運用	108
CW ディレイタイムの調節	91	パケット 運用	109
CW ピッチの調節	91	AFSK によるデータ通信	110
コンテストメモリーキーヤー			
(Contest Memory Keyer)	92	メニューモード	
MESSAGE メモリー	92	メニューモード	112
◆メモリーに書き込む前の準備	92	設定のしかた	112
◆メモリーに書き込む	93	メニューモードリセット	112
◆メモリーの内容を確認する	93	メニューモードのグループ名	113
◆メモリーした CW 符号を送出する	93	メニューモード一覧表	114
ビーコンの送出手法	93	メニューモード詳細	117
◆FH-2 でメモリーに書き込む	94		
◆FH-2 でメモリーの内容を確認する	94	保守	
◆FH-2 でメモリーした CW 符号を送出する	94	故障かな?・・・と思うまえに	137
ビーコンの送出手法	94	アフターサービスについて	137
TEXT メモリー	95		
◆メモリーに書き込む前の準備	95	オプション	
◆メモリーに書き込む	96	オプションについて	138
◆メモリーの内容を確認する	96	最高級ディスクトップ	
◆メモリーした CW 符号を送出する	96	マイクロホン(MD-200A8X)	139
あがじめ入れである文字を修正する場合	96	ディスクトップ	
あがじめ入れである文字を消去する場合	96	マイクロホン(MD-100A8X)	139
◆FH-2 でメモリーに書き込む	97	[UP][DWN][FAST]キー付き	
◆FH-2 でメモリーの内容を確認する	97	ハンドマイクロホン(MH-31B8)	140
◆FH-2 でメモリーした CW 符号を送出する	97	通信用ヘッドホン(YH-77STA)	140
あがじめ入れである文字を修正する場合	97	リモートコントロールキーパッド (FH-2)	
あがじめ入れである文字を消去する場合	97	の接続方法	141
FMモードでの交信	98	ロングワイヤー用オートマッチック	
レピーター (REPEATER) 運用	99	アンテナチューナー (FC-40)	142
トーンスケルチの設定		RF μ Tuning Kit	144
(静かな待ち受けをしたとき)	99	データマネージメントユニット	
		(DMU-2000)	145
メモリー操作		デジタルボイスレコーダ (DVS-6)	147
多彩なメモリー機能をお使いいただくために ..	100	付録	
メモリーグループ	101	バンド区分	148
メモリーグループの設定	101	アマチュア無線局免許申請書類の書き方	149
メモリーグループの切り換え	101	送信機系統図	153
メモリー操作	102	定格	154
メモリーに書き込む	102	索引	156

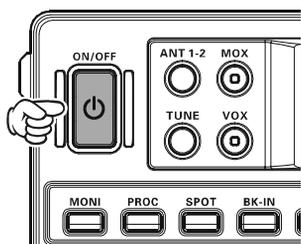
初めにお読みください

1. 電源を入れる

市販の直流電源の電源スイッチを入れてから、FT-950の【ON/OFF】電源スイッチを入れてください。また、電源を切るときは、FT-950の【ON/OFF】電源スイッチを切ってから直流電源の電源スイッチを切ってください。

1. 市販の直流電源 (13.8V, 25A 以上) を接続します (下図参照)。
2. 市販の直流電源の電源スイッチを入れます。
3. FT-950の前面にある【ON/OFF】電源スイッチをディスプレイの表示が出るまで長く押して電源を入れます。

電源投入後、約5秒で運用が可能になります。



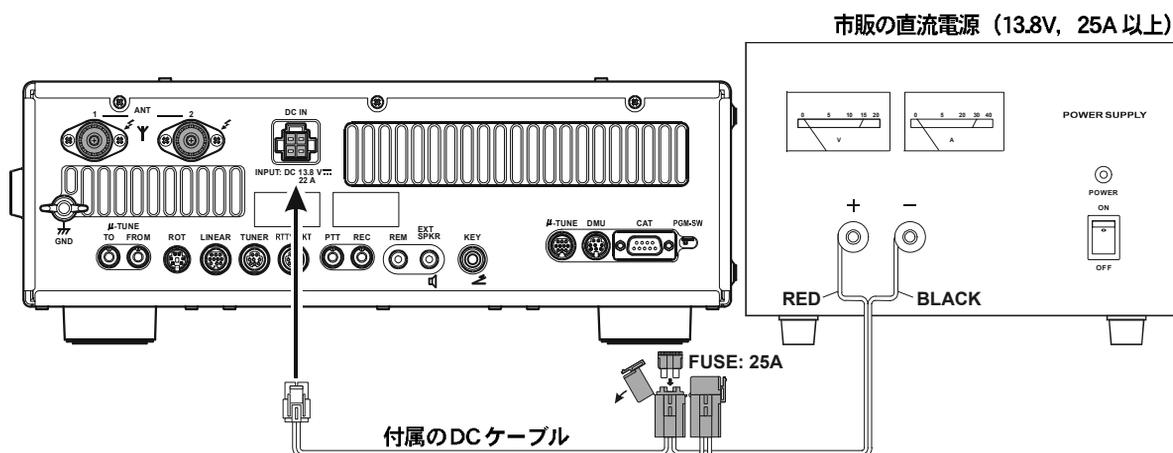
ご注意

- オプションのRF μ Tuning Kitを接続している場合は、 μ 同調回路がコンピュータのデータを取り込みセルフチェックをした後、最適点へ移動します。
- μ 同調回路がデータを取り込みセルフチェックをする際に、移動可能範囲の端から端まで高速で移動するため移動時にモーター音が聞こえますが故障ではありません。
- オプションのRF μ Tuning Kit、またはデータマネージメントユニット DMU-2000を接続した場合は、電源投入後、約10秒で運用が可能になります。

アドバイス

電源が入っているときに【ON/OFF】電源スイッチを短く押すと、スピーカーからの音声出力を3秒間ミュートすることができます。

もう一度【ON/OFF】電源スイッチを長く押すとディスプレイの表示が消えて電源が切れます。

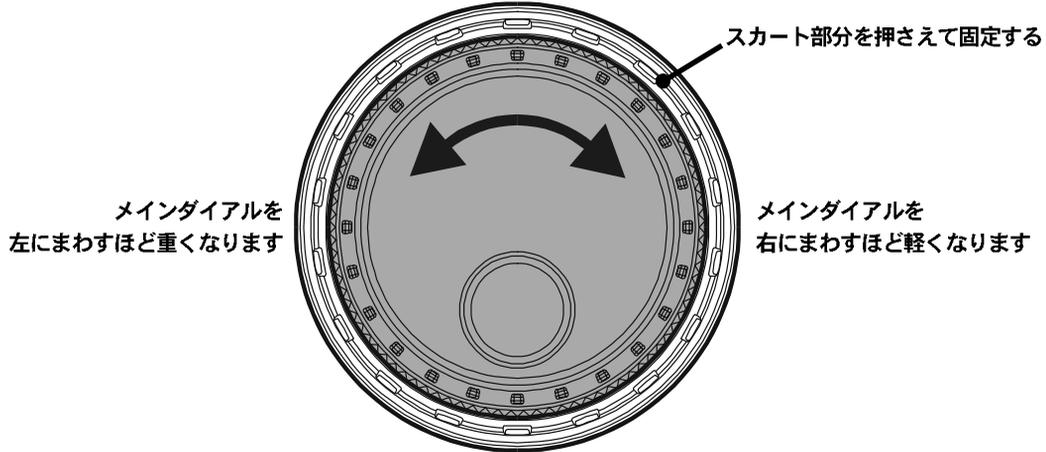


初めにお読みください(つづき)

2 メインダイヤルのトルク調整

メインダイヤルのトルク(重さ)を好みに合わせて調整することができます。

片方の手でスカート部分を押さえて固定しながら、メインダイヤルツマミをまわします。
右にまわすと軽くなり、左にまわすと重くなります。

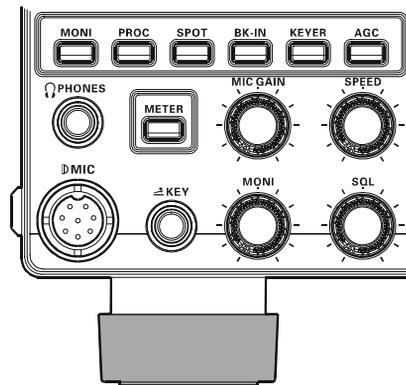


3. 前脚の使い方

左右の前脚を長くすることにより、セットを傾斜させて使用することができます。

1. 前脚を引き出します。
2. 前脚を反時計(左)方向へまわし、ロックする位置までまわし切ります。

【ご注意】 ロックする位置までまわし切ったあと、ロックしたことを必ず確認してください。
確実にロックしていないと製品の重量で突然前脚が縮んで思わぬ事故の原因になります。

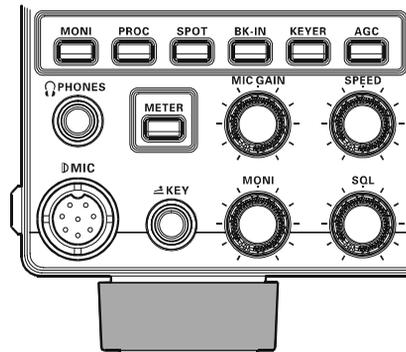


① 引き出す

② 反時計(左)方向へまわし切る
(前脚が出た状態でロックされます)

前脚を縮めるときには、

- 前脚を時計(右)方向へまわします。
- 前脚を縮めます。



① 時計(右)方向へまわす

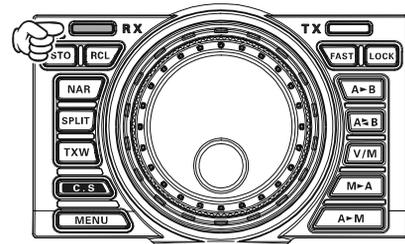
② 縮める

初めにお読みください(つづき)

4. BAND(周波数帯)の選択

■ VFO-A の BAND 選択

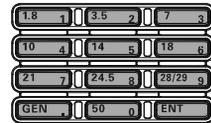
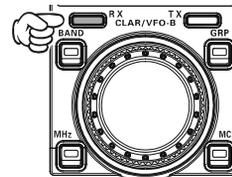
1. 【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯しているか確認します。
【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅(あるいは消灯)しているときは、【RX】インジケータースイッチを押してください。
2. いずれかのバンドキーを押してバンドを選択します。
【1.8/1】を押すと1.8MHz帯を選択することができます。
【3.5/2】を押すと3.5MHz帯を選択することができます。
【7/3】を押すと7MHz帯を選択することができます。
【10/4】を押すと10MHz帯を選択することができます。
【14/5】を押すと14MHz帯を選択することができます。
【18/6】を押すと18MHz帯を選択することができます。
【21/7】を押すと21MHz帯を選択することができます。
【24.5/8】を押すと24.5MHz帯を選択することができます。
【28/29 /9】を押すと28MHz帯を選択することができます。
【50/0】を押すと50MHz帯を選択することができます。
【GEN./】を押すとジェネラルバンドを選択することができます。
(工場出荷時は15MHzを表示)



バンドキー

■ VFO-B の BAND 選択

1. 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します(緑色点灯を確認)。
2. いずれかのバンドキーを押してバンドを選択します。
【1.8/1】を押すと1.8MHz帯を選択することができます。
【3.5/2】を押すと3.5MHz帯を選択することができます。
【7/3】を押すと7MHz帯を選択することができます。
【10/4】を押すと10MHz帯を選択することができます。
【14/5】を押すと14MHz帯を選択することができます。
【18/6】を押すと18MHz帯を選択することができます。
【21/7】を押すと21MHz帯を選択することができます。
【24.5/8】を押すと24.5MHz帯を選択することができます。
【28/29 /9】を押すと28MHz帯を選択することができます。
【50/0】を押すと50MHz帯を選択することができます。
【GEN./】を押すとジェネラルバンドを選択することができます。
(工場出荷時は15MHzを表示)

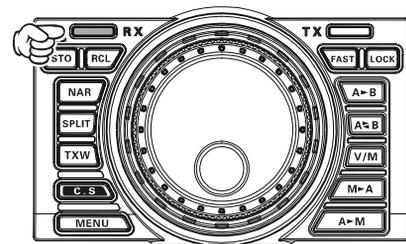


バンドキー

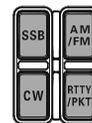
5. MODE(電波型式)の選択

■ VFO-A の MODE 選択

1. 【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します(緑色点灯を確認)。
【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯しているときは、【RX】インジケータースイッチを押す必要ありません。
2. いずれかのモードスイッチを押してモードを選択します。
【SSB】を押すごとに LSB⇄USB と切り替わります。
【CW】を押すごとに USB CW⇄LSB CW と切り替わります。
【AM/FM】を押すごとに AM⇄FM と切り替わります。
【RTTY/PKT】を短く押すごとに LSB RTTY⇄LSB PKT と切り替わります。
さらにLSB RTTYを選択後、【RTTY/PKT】を1秒間押すごとに、
LSB RTTY⇄USB RTTY と切り替わります。
さらにLSB PKTを選択後、【RTTY/PKT】を1秒間押すごとに、
LSB PKT⇄USB PKT⇄FM PKT と切り替わります。

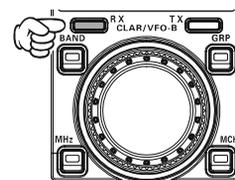


MODE

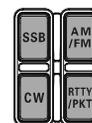


■ VFO-B の MODE 選択

1. 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します(緑色点灯を確認)。
2. いずれかのモードスイッチを押してモードを選択します。
【SSB】を押すごとに LSB⇄USB と切り替わります。
【CW】を押すごとに USB CW⇄LSB CW と切り替わります。
【AM/FM】を押すごとに AM⇄FM と切り替わります。
【RTTY/PKT】を短く押すごとに LSB RTTY⇄LSB PKT と切り替わります。
さらにLSB RTTYを選択後、【RTTY/PKT】を1秒間押すごとに、
LSB RTTY⇄USB RTTY と切り替わります。
さらにLSB PKTを選択後、【RTTY/PKT】を1秒間押すごとに、
LSB PKT⇄USB PKT⇄FM PKT と切り替わります。



MODE

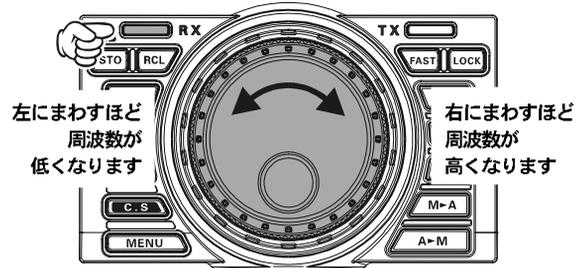


初めにお読みください(つづき)

6. ダイヤル操作

■ VFO-Aによるダイヤル操作

1. 【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します（緑色点灯を確認）。
2. 【MAIN】ダイヤルツマミで受信周波数を選択します。



■ VFO-Bによるダイヤル操作

1. 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します（緑色点灯を確認）。
2. 【CLAR/VFO-B】ツマミで受信周波数を選択します。



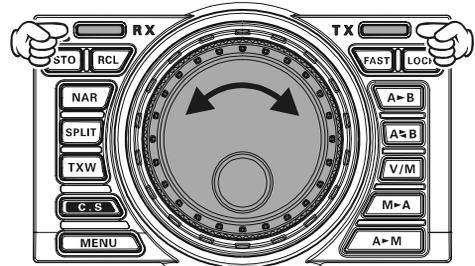
用語説明

VFOとは、Variable Frequency Oscillator（可変周波数発振器）のことを言います。FT-950には2つのVFO（VFO-A/VFO-B）を搭載しており、VFO-Aを選択すると【MAIN】ダイヤルツマミで周波数を可変することができます。また、VFO-Bを選択すると【CLAR/VFO-B】ツマミで周波数を可変することができます。

7. 各VFOによる送信方法

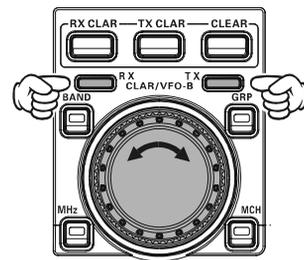
■ VFO-Aの周波数で送信する

1. 【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押しインジケータが緑色に点灯していることを確認します。
2. 【MAIN】ダイヤルツマミで送信周波数を選択します。
3. VFO-Aの【TX】インジケータースイッチを押しインジケータが赤色に点灯していることを確認します。
4. マイクロホンのPTT（または【MOX】スイッチ）押して送信します。



■ VFO-Bの周波数で送信する

1. 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します（緑色点灯を確認）。
2. 【CLAR/VFO-B】ツマミで送信周波数を選択します。
3. VFO-Bの【TX】インジケータースイッチを押しインジケータが赤色に点灯していることを確認します。
4. マイクロホンのPTT（または【MOX】スイッチ）押して送信します。



初めにお読みください(つづき)

8. SELECT ツマミの使い方

■ DSP 機能の操作として使う場合

通常は DSP 機能の操作ツマミとして動作します。

【SHIFT】スイッチ

帯域幅は変えずにフィルターを電氣的に最大±1kHz動かして、近接妨害波をフィルターの帯域の外に出して混信を軽減します。

【WIDTH】スイッチ

通過帯域幅を変えて妨害信号をフィルターの帯域外に出すことによって混信を軽減します。

【CONT】スイッチ

DSP フィルタの通過帯域の輪郭をなめらかに変えることにより帯域内成分を部分的に減衰することができ、妨害信号を減衰させて目的の信号を浮かび上がらせることができます。減衰量、帯域幅をメニューモードで変えることができます。

【NOTCH】スイッチ

受信信号のビート音があるときには、マニュアルで不要なビート音を減衰することができます。減衰量が大きくフィルターのシェープファクターも鋭いノッチフィルターですからビート信号をほぼ完全に除去することができます。

【μ-TUNE】スイッチ

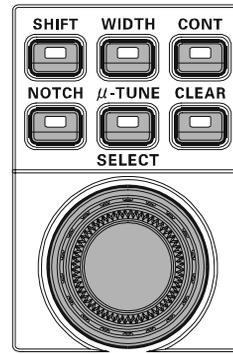
オプションの RF μ Tuning Kit を接続すると μ 同調回路特有の急激なシェープファクターによって強力な妨害信号を減衰させることができます。高速の高精度モーターで自動チューニングをとります。なお RF μ Tuning Kit は A タイプ (1.8MHz 帯)、B タイプ (3.5/7MHz 帯)、C タイプ (10/14MHz 帯) の 3 種類用意されています。

【CLEAR】スイッチ

スイッチを押すと選択されている機能を初期値に戻します。

1. 【SELECT】ツマミ上側の各スイッチ（【SHIFT】、【WIDTH】、【CONT】、【NOTCH】、【μ-TUNE】）を押して機能を選択します。
選択したスイッチの LED が点灯します。
2. 【SELECT】ツマミをまわして調整します。

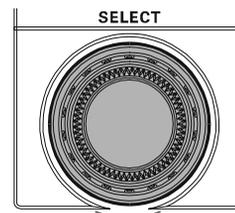
CONT、NOTCH、μ-TUNE（オプション）機能は各機能のスイッチを短く押す以外に、【SELECT】ツマミを短く押すごとに機能を ON/OFF することができます。機能を OFF にすると、DSP グラフィックディスプレイのグラフやブロックダイアグラムディスプレイのアイコンが消灯します。



■ ボイスメモリーの操作として使う場合（オプション）

オプションのボイスメモリー DVS-6 を搭載することにより、5チャンネルのボイスメモリーとして操作することができます。1メモリーに対して20秒間録音することができ、その内容を送信することができます。詳細は80ページを参照してください。

1. 【SELECT】ツマミを1秒以上長く押して、さらに【SELECT】ツマミをまわすとマルチディスプレイ（ディスプレイの右下）に“rEC1”～“PLY5”が表示されます。
2. 録音するには“rEC1”～“rEC5”のいずれかを【SELECT】ツマミで選択し、さらに【SELECT】ツマミを押して設定します。
次に、マイクロホンのPTTスイッチを短く押して音声を録音します。
3. 送信する場合は【BK-IN】スイッチをONにし、“PLY1”～“PLY5”（“rEC1”で録音した場合は“PLY1”を選択）のいずれかを【SELECT】ツマミで選択後、【SELECT】ツマミを短く押すと録音した内容が送信されます。



■ メニューモードの設定操作として使う場合

【MENU】（メニュー）スイッチを短く押して【SELECT】ツマミをまわすとメニューモードを周波数ディスプレイに表示させて設定を変更することができます。詳細は10ページ、112ページを参照してください。

初めにお読みください(つづき)

9. マルチファンクションダイヤル (CLAR/VFO-B ツマミ) の使い方

■ クラリファイア機能として使う場合

【CLAR/VFO-B】ツマミの左側の【RX】インジケータースイッチと、右側の【TX】インジケータースイッチが消灯していることを確認してください。

【RX CLAR】スイッチ

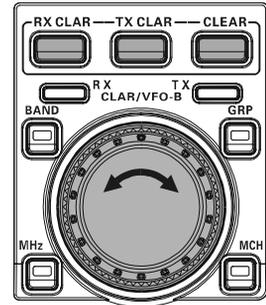
【RX CLAR】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと送信周波数を変えずに受信周波数だけを変えることができます。

【TX CLAR】スイッチ

【TX CLAR】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと受信周波数を変えずに送信周波数だけを変えることができます。

【CLEAR】スイッチ

【CLEAR】スイッチを押すとオフセット量を“ゼロ”にすることができます。



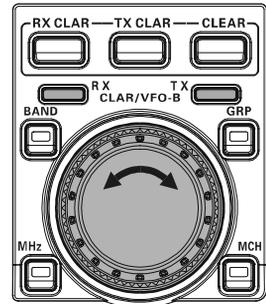
■ VFO-B のダイヤル操作として使う場合

【RX】インジケータースイッチ

【RX】インジケータースイッチを押して (緑色点灯を確認) 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、受信周波数を設定することができます。もう一度スイッチを押す (緑色点滅を確認) と音声ミュートを解除するミュート機能になります。さらにスイッチを押すとミュートが解除されます。

【TX】インジケータースイッチ

【TX】インジケータースイッチを押すと (赤色点灯を確認) 設定した受信周波数で送信することができます。



■ VFO-A/VFO-B の補助機能として使う場合

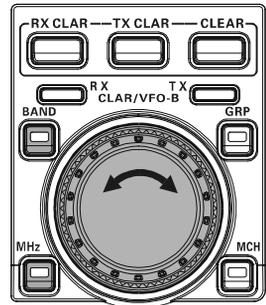
【BAND】スイッチ (バンドのアップダウン)

VFO-A の場合は【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します (緑色点灯)。次に【BAND】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、バンドをアップダウンすることができます。VFO-B の場合は【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します (緑色点灯)。次に【BAND】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、バンドをアップダウンすることができます。

アドバイス メニューモードの設定でマイバンド機能の選択として使用することも可能です (p.49 参照)。

【MHz】スイッチ (1MHz ステップ)

VFO-A の場合は【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します (緑色点灯)。次に【MHz】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、周波数を1MHz ステップで可変することができます。VFO-B の場合は【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します (緑色点灯)。次に【MHz】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、周波数を1MHz ステップで可変することができます。



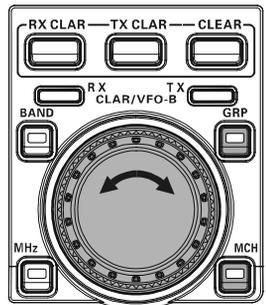
■ メモリーの補助機能として使う場合

【GRP】スイッチ (メモリーグループ)

あらかじめメモリーチャンネルにメモリーしておき、メニューモード「029 MEM GRP」を「ON」にしておきます。【GRP】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、GRP (メモリーグループ) 選択ツマミとして動作します。

【MCH】スイッチ (メモリーチャンネル)

【MCH】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、MCH (メモリーチャンネル) 選択ツマミとして動作します。



初めにお読みください(つづき)

10. メニューモードの変更方法について

工場出荷時に設定されている機能を変更したい場合は、メニューモードを周波数ディスプレイに表示させて設定を変更します。

メニューモードに入るには、

1. 【MENU】(メニュー)スイッチを短く押してメニューモードを画面に表示します。

2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ)をまわして変更したい項目へ移動します。

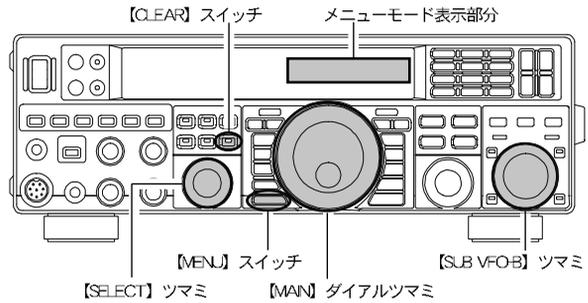
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。

3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして設定を変更します。

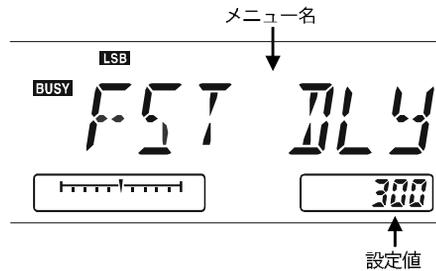
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】キーを押すと、工場出荷時(初期値)に戻すことができます。

変更が終了しましたら、必ず【MENU】(メニュー)スイッチを約1秒間押して(ピピッと電子音を発生)変更を確定します。

この際に変更をしたくない場合は、【MENU】(メニュー)スイッチを短く押せば、元の状態に戻ります。



【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。



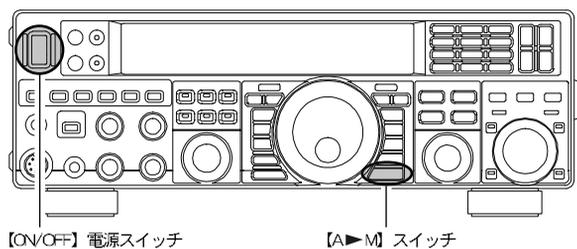
初めにお読みください(つづき)

11. リセット操作

■ メモリーリセット

メモリーチャンネルの内容を、初期値（工場出荷時）の状態に戻すことができます。

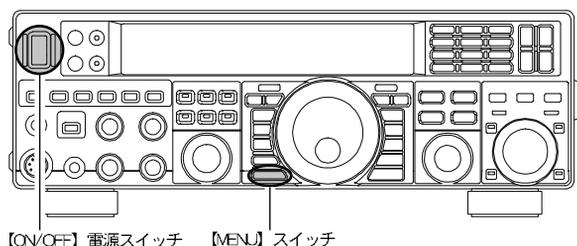
1. 前面パネルの【ON/OFF】電源スイッチを長く押して、一度電源を切ります。
2. 【A▶M】スイッチを押しながら【ON/OFF】電源スイッチをディスプレイの表示が出るまで長く押し、電源を入れます。



■ メニューモードリセット

メニューモードの内容だけを初期値（工場出荷時）の状態に戻すことができます。

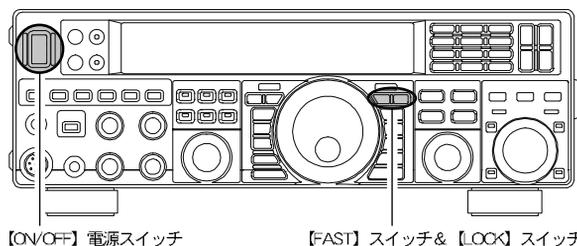
1. 前面パネルの【ON/OFF】電源スイッチを長く押して、一度電源を切ります。
2. 【MENU】スイッチを押しながら【ON/OFF】電源スイッチをディスプレイの表示が出るまで長く押し、電源を入れます。



■ オールリセット

メモリー、メニューモード、マッチングデータメモリーなど、すべての内容を初期値（工場出荷時）の状態に戻すことができます。

1. 前面パネルの【ON/OFF】電源スイッチを長く押して、一度電源を切ります。
2. 【FAST】スイッチと【LOCK】スイッチの2つのスイッチを押しながら【ON/OFF】電源スイッチをディスプレイの表示が出るまで長く押し、電源を入れます。



ご注意 オプションのRF μ TUNE Kitを接続している場合は、RF μ TUNE Kitを取り外してからオールリセットをしてください。取り付けられた状態で行うと正常にリセットされません。

用語説明 マッチングデータメモリーとは、チューニングを行った周波数とそのマッチングデータを専用の100個のメモリーに自動的に記憶するものです。

特 長

グラフィック表示付き大型ディスプレイを搭載

DX ペディションやコンテストなどオペレーションに集中している時でも、各機能の状態が瞬時にわかるよう、アンテナ入力端子からIF 段の信号の流れに沿って各段の状況を集中表示します。メインディスプレイは、蛍光表示管を使用し、数字や文字だけでなく受信帯域、各種混信除去機能、AGCなどをグラフィカルに表示します。

触れた瞬間にDX'erの闘争心がわいてくる重厚なメインダイヤル

フロントパネル中央に配置した外径 58 mm の大型メインダイヤルは、重量感とフライホイール効果を持たせるため、ダイヤル軸部に黄銅製切削加工品を採用しました。また、ダイヤルのトルクは、お好みに合わせて調節することも可能です。

近接多信号特性に優れた受信性能

弱い信号を受信することだけをターゲットするだけでなく、近接する多信号の中でも目的の信号だけを忠実に捉えることを重視した受信回路設計により優れたダイナミックレンジ、IP3、BDRを実現しています。

高安定度 TCXO 内蔵

FT-950 の心臓部の 34.5MHz 基準発振器には、+25°C において ±0.5ppm (−10°C ~ +50°C においては、±1ppm) の高精度を誇る温度補償タイプを採用しています。

安定した高出力を保証するファイナル部

ファイナル部には、RD100HHF1 を採用しブッシュアップ接続をして、100W 出力を得ています。また、クーリングファンは静かで大型のクーリングファンを採用し、コンテストなどの過酷な運用でも安定した運用をサポートします。

マルチファンクションダイヤル 9, 39 ページ

VFO-B の VFO 関連の操作、VFO-A/VFO-B の補助機能、メモリーの補助機能、クラリファイアの操作として機能する多機能ダイヤルです。また、運用するバンドをあらかじめメニューモードで選んでおくと、コンテスト運用などでバンド間の移動や、マルチバンドアンテナを使用していて運用バンドが限られている場合などに便利なマイバンド機能のダイヤルとしても使用します。

カスタムセレクション(C.S)スイッチ 50 ページ

メニューモードの中から1つを選択してその機能をワンタッチで呼び出すことができます。

ローテーターコントロール機能 51 ページ

FT-950 のフロントパネルの操作で、YAESU のアンテナローテーターをコントロールすることができます。

バンド外の妨害信号を大幅にカットする RF フロントエンド 55, 56 ページ

RF フロントエンドの入力回路には、0/6/12/18dB の4段階のATT回路、さらにYAESU独自のRF μTUNE Kitを接続することによって、帯域外の妨害信号を十分に減衰させ適切なレベルにしてRFアンプや1st.ミキサーの負荷を抑制しています。

ローバンドからハイバンドまで目的の信号だけを 増幅する2つのRFアンプ 57 ページ

1つのローノイズ負帰還RFアンプAMP1とハイバンドなどにおいてさらに高いゲインが必要な場合に、AMP1と同じRFアンプを直列に接続したAMP2を搭載していますので、バンドのコンディションに合わせて細かく選択することができます。またIPO (Intercept Point Optimization)機能によって、特にローバンドなど強力な放送局の影響を最小限に抑えて極めて微弱な信号を受信するために、ダイナミックレンジを最大限にして近接多信号特性、相互変調特性を向上するためにRFアンプをOFFにすることができます。

3種類のルーフィングフィルターを標準装備 58 ページ

3kHz、6kHz、15kHzの3種類のルーフィングフィルターを装備しました。コンテストなどバンド内が混み合っているとき特に効果がある狭帯域ルーフィングフィルターは、第1IF段で帯域外からの強力な信号を大幅に減衰させ、次段の負荷を軽減するため、微弱な信号から強力な信号まで多様な信号を処理できる優れたダイナミックレンジ特性、IP3特性を向上させることができます。

ゲイン可変型IFノイズブランカー 59 ページ

イグニッションノイズ、電灯線の放電ノイズなどパルス性のノイズ抑制に効果があるIFノイズブランカーは、フロントパネルのNBゲインコントロールでノイズの特性に合わせて瞬時に最適なポイントに調整することができます。

ノイズ抑制にも効果がある定評な CONTOUR 機能 60 ページ

CONTOUR (輪郭)回路は、DSPに特有の鋭い減衰特性を持たせるのではなく、DSPフィルタの通過帯域の輪郭をなめらかに変えることによって帯域内成分を部分的に減衰させることができます。信号が突然カットされることなく視覚的に自然的に妨害信号を減衰させて目的信号を浮かび上がらせる効果があります。

Wide から Narrow まで最適な帯域幅を設定できる WIDTH 機能と受信帯域を連続可変できる SHIFT 機能 61, 62 ページ

パイルアップなど接近した混信により弱い信号が隠れた瞬間、SELECT ツマミで帯域幅を狭くできる WIDTH 機能とサイドからの混信をカットする SHIFT 機能は、DSP ならではの鋭いフィルター特性により混信を除去して、目的の信号だけを抽出することができます。

不要なビート信号をシャープにカットする NOTCH 機能と 複数ビートでも瞬時に減衰する DNF 機能 64, 65 ページ

通過帯域の中に不要なビート信号があるときには、IF NOTCH 機能で通過帯域の一部をシャープにカットしてビート信号を排除することができます。また、複数の妨害信号がある場合やその周波数が変化している状況でも、DSP による自動追尾式の DNF (デジタルノッチフィルター) を装備しています。

DSP デジタル処理による DNR (デジタルノイズリダクション) 65 ページ

ノイズの種類によりパラメータを 15 段階で可変し、最適な動作ポイントを設定できるデジタルノイズリダクション回路を搭載しています。

送信帯域幅を思いのままに設定できるデジタル SSB 平衡変調 75 ページ

数値演算型平衡変調により、マイクから入力される音声信号を忠実に SSB 変調します。また、変調時の送信帯域幅はメニューモードで設定することができますので、マイクの特長や声の特長に合わせて最適な送信電波の発射が可能です。

パラメトリックイコライザーを搭載したマイクアンプ 76 ページ

マイクアンプのイコライザー機能は、低音、中音、高音のそれぞれが独立して帯域幅とゲインを細かく調整することができる 3 ステージパラメトリックイコライザーを搭載しています。

5ch の送信メッセージメモリー (ボイスメモリー) 80 ページ

オプションの DVS-6 を搭載すると、コンテストなどの運用に便利な 5 チャンネルボイスメモリー機能を追加することができます。このボイスメモリーは、送信したいメッセージをそれぞれ最大 20 秒間録音することができます。オプションの FH-2 を接続することにより操作性が向上します。

多彩なスプリット運用をサポート 84, 85 ページ

SPLIT スイッチを押すと瞬時にスプリット運用に、また、SPLIT スイッチを長押しすると 5kHz UP のスプリット運用状態がセットできるクイックスプリット機能を搭載しています。また、押ししている間だけ送信する周波数を受信することができる TXW 機能も装備しています。

安全上のご注意（必ずお読みください）

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味

- | | |
|---|--|
|  危険 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

図記号の種類と意味

- | |
|--|
|  本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。図の中や近くに具体的な禁止内容(⊘の場合は分解禁止)が描かれています。 |
|  本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。図の中に具体的な指示内容(⦿の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。 |

警告

- | | |
|--|--|
|  本機を改造しないでください。また、本書に記載のない方法で分解しないでください。火災や感電・故障の原因になります。 |  “煙が出ている”“変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。 |
|  病院内や医療用電子機器の近くでは使用しないでください。医療用電子機器に影響を与える場合があります。 |  すぐに市販の電源スイッチと本機の電源スイッチを切り、本機を電源から外してください。煙や変な臭いなどが出なくなったことを確認の上、お買い上げいただきました販売店または当社アマチュアカスタマーサポートに修理をご依頼ください。 |
|  送信中にアンテナにふれないでください。火傷やケガ等の原因になります。 |  濡れた手で電源ケーブルのコネクターを抜き差ししたり、機器に触れたりしないでください。感電やケガ等の原因になります。 |
|  ガス管や配電用のコンジットパイプなどにアースを取らないでください。爆発・火災・感電・故障の原因になります。また、アースは市販のアース棒や銅板を使用してください。また、アースが確実に取れない場合は、販売店へご相談ください。 |  指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。火災や感電の原因になります。 |
|  雷が鳴り出したら、早めに市販の電源スイッチと本機の電源スイッチを切り、電源コードとアンテナケーブルを本機から外してください。雷によっては、火災や感電・故障の原因になります。 |  付属品以外の電源ケーブルで市販の直流電源に接続しないでください。火災や感電・故障の原因になります。 |
|  |  アースを確実に取り付けてください。感電やテレビ・ラジオへの電波障害になる原因になります。 |



安全上のご注意 (必ずお読みください)

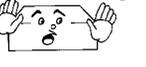
⚠ 注意

- 本機を押し入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

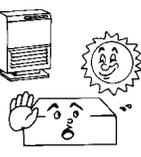

- 本機をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
- 本機をジュウタンや布団の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- 本機の上に重い物を置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
- 本機の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。


- 本機の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。
中に入った場合、火災や故障の原因になります。
- EXT SPKR 端子には、イヤホンやヘッドホンは接続しないでください。
聴力障害の原因になることがあります。
- ヘッドホンを使用するときは、電源を入れる前に音量を最低にしてください。
聴力障害の原因になります。
- 電源コードの上に重い物を載せたり、無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
電源コードが傷つき、火災や故障の原因になります。
- 無線中継装置の近くでは使用しないでください。
業務無線通信に、妨害を与える場合があります。
- シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは、やわらかい乾いた布で拭き取ってください。


- 本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。


- 本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。
ケガや故障の原因になります。


- 長期間ご使用にならない場合には、安全のため、市販の電源スイッチと本機の電源スイッチを切るとともに、電源コードを電源から外してください。
- 万一、内部に異物が入った場合には、すぐに市販の電源スイッチと本機の電源スイッチを切り、本機を電源から外してください。
そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。
- むやみに内部に触れないでください。オプションの取り付け時以外は、お手を触れないでください。
- オプションの取り付けなどで、本機の内部に触れるときには、電源コードを本機から外してください。
故障や感電の原因になります。
- オプションの取り付け時には、シャーシの角などでケガをしないよう十分ご注意ください。
- オプションの取り付けに使用するビスは、必ず指定サイズのものをご使用ください。
サイズの異なったビスを使用すると、火災や感電・故障の原因になります。
- 運搬や設置をする場合は必ず本機の取っ手を持って行ってください。
落下によるケガや機器の故障や破損の原因になります。
- 【MAIN】ダイヤルツマミやその他のツマミを持って、本機を持ち上げないでください。
ツマミ・パネル・基板等を破損させる原因になります。
- 本機を移動させるときには、電源コードを本機から外すと同時に、アンテナケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。
- 磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。
- 本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。


- 長時間の連続送信はしないでください。
長時間にわたり送信すると故障の原因になります。また、本機の上面や側面を触れると、やけどの原因になります。
- 本機の上面や側面に触れないでください。
長時間使用すると、上面と側面の温度が高くなります。触れるとやけどの原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くに設置しないでください。
妨害電波を与えるまたは受けたりすることがありますので充分離してください。
- 外部アンテナはテレビアンテナや電灯線からなるべく離してください。
妨害電波を与える場合があります。

安全上のご注意 (必ずお読みください)

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けている、との連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考

無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときには、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。
(以下省略)

ご使用の前に

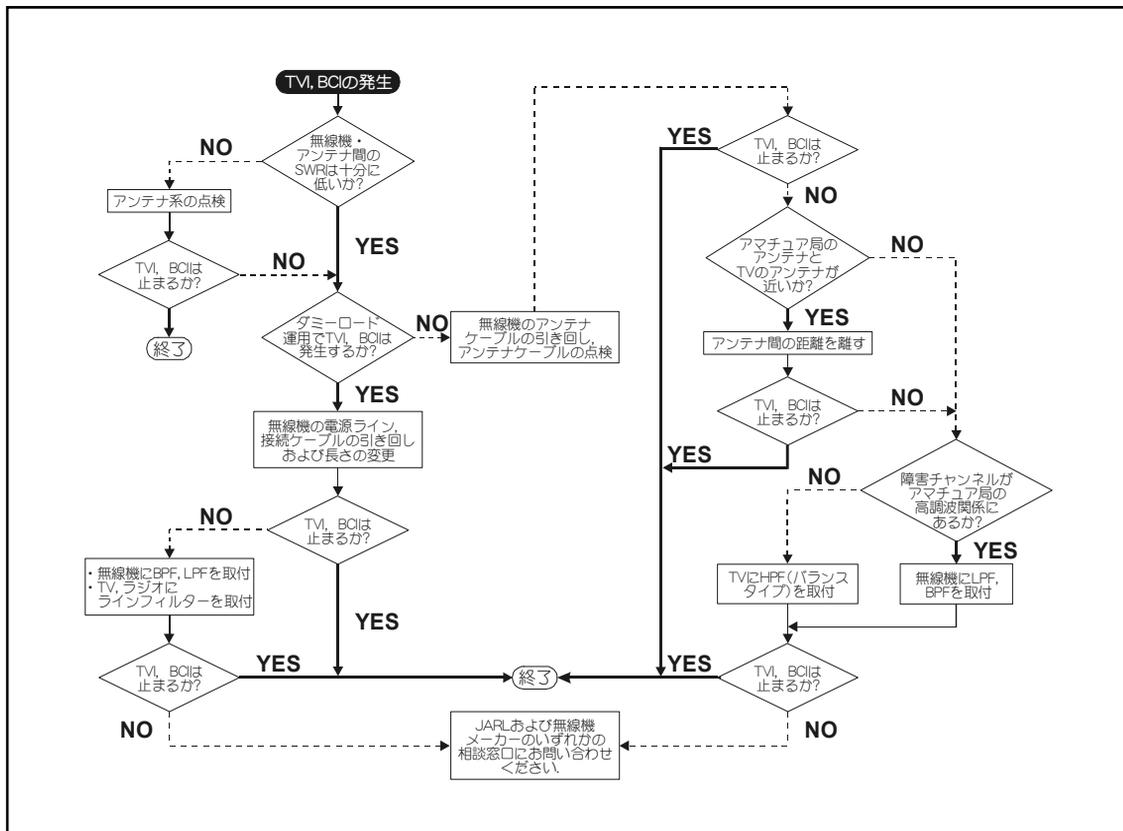
障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じて、お買いあげの販売店または、当社アマチュアカスタマーサポート(電話:03-5725-6151)に相談するなどして、適切な処置を行ってください。

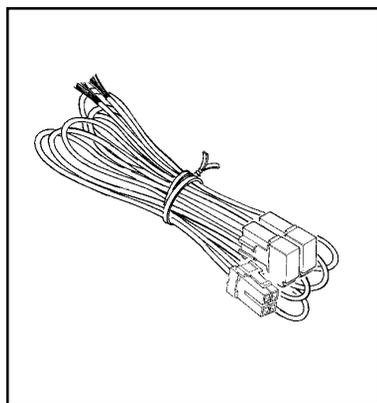
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

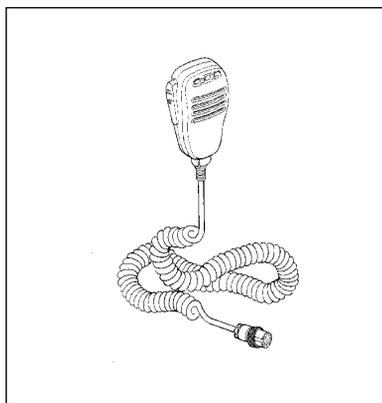
(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区巢鴨 1-14-5 TEL 03-5395-3111

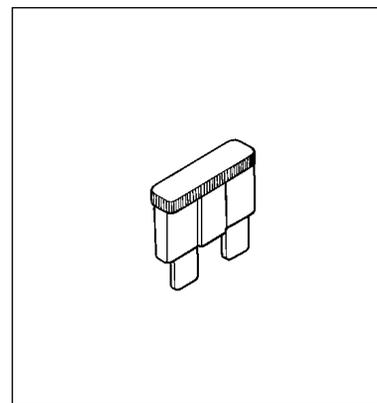




DC 電源ケーブル



マイクロホン MH-31^{B8}
(マイクフック付属)



ブレードヒューズ 25A(1個)

その他

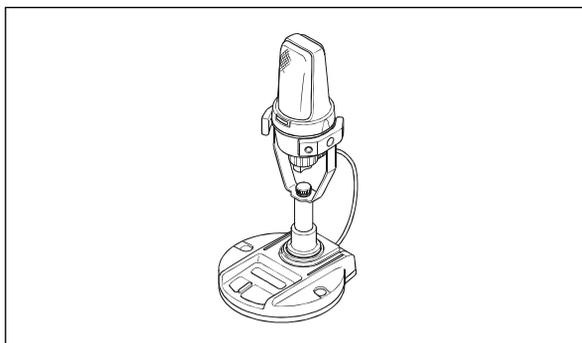
- オペレーションマニュアル (本書)
- 保証書

保証書にお買い上げになりました販売店と日付が記入されていることをご確認ください。

付属品のイラストは実際のものとは多少異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

オプション (詳細 138 ページの「オプションについて」またはカタログをご覧ください)

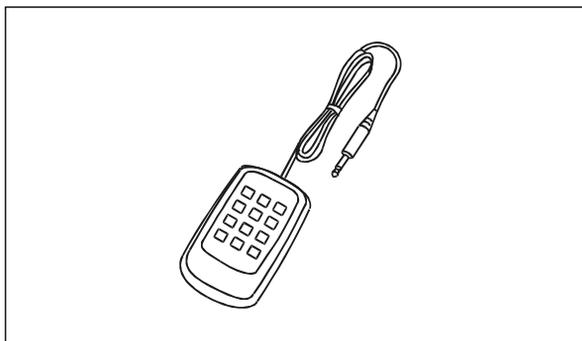
ご使用前に



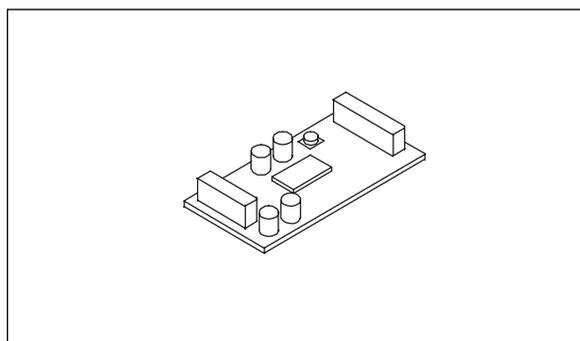
スタンドマイク MD-200A8X



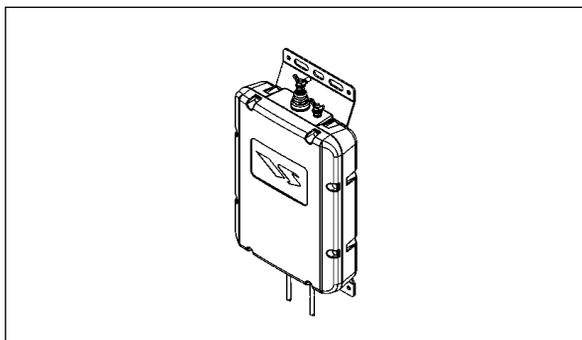
ステレオヘッドホン YH-77STA



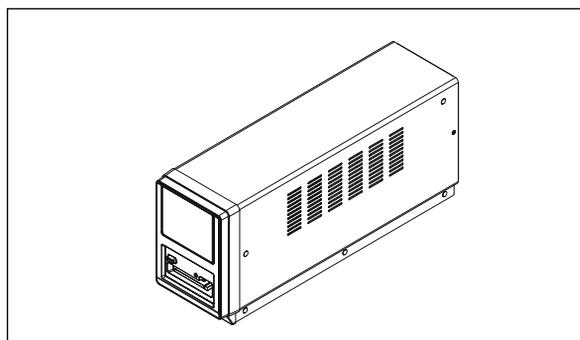
リモートコントロールキーパッド FH-2



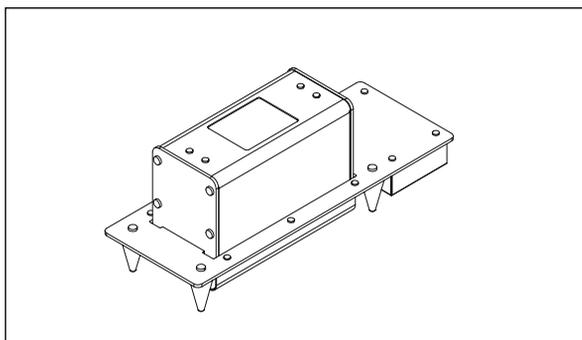
ボイスメモリーユニット DVS-6



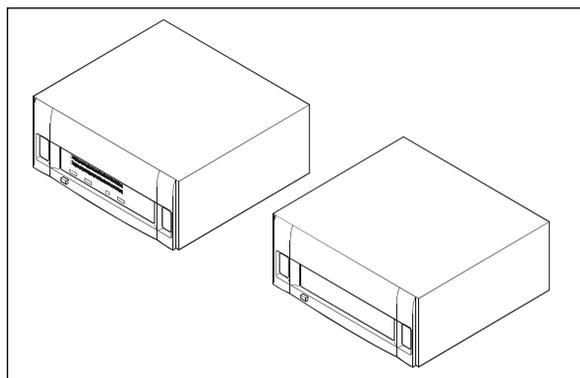
ロングワイヤー用オートマッチック
アンテナチューナー FC-40



データマネージメントユニット DMU-2000



RF μ Tuning Kit A 160m BAND 用
RF μ Tuning Kit B 80/40m BAND 用
RF μ Tuning Kit C 30/20m BAND 用



オールソリッドステートリニアアンプ VL-1000
(VL-1000 用外部交流用電源 VP-1000 が必要です)

その他

- ◎ ハンドマイク MH-31B8 (付属品と同等)
- ◎ スタンドマイク MD-100A8X
- ◎ アンテナローテーター接続ケーブル
(P/N : T9101556)

設置と接続方法

アンテナについて

本機のアンテナインピーダンスは、50 Ωのアンテナに整合するように設計してあります。したがって、アンテナ端子に接続する点のインピーダンスがこの値にある耐電力 100W 以上のアンテナであれば、どのような型式のものでも使用することができます。

アンテナの種類には、ダイポールアンテナ・八木アンテナ・キュービカルクワッドアンテナなど、多くの種類のアンテナがありますから、設置場所や周囲の状況にあわせてお選びください。

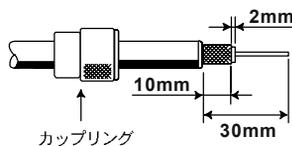
いずれの場合にも、アンテナによって受信感度や送信電波の飛び具合などに大きく影響しますから、アンテナの調節は念入りに行うとともに、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機の間整合を確実にとり、SWR が 1.5 以下になるように調節して使用するようになしてください。

同軸ケーブルについて

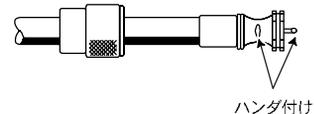
本機とアンテナを結ぶ同軸ケーブルはなるべく損失の少ない良質の同軸ケーブルを使用してください。同軸の特性インピーダンスは、50 Ωのものをご利用ください。本機と接続するには、M型同軸コネクタを使用してください。M型同軸コネクタの接続方法は下図を参照し確実に取り付けてください。

M型同軸コネクタの取り付け方

- (1) カップリングを同軸に通します。端から 30mm 程度から外被を切り取ります。網組線を 10mm 程度残して前ハンダをしておきます。内部の絶縁体を 2mm 程度残して切り取り、心線に前ハンダをしておきます。



- (2) 心線にコネクタを通します。網組線部分と心線部分をコネクタとハンダ付けをします。



- (3) カップリングをコネクタのネジが超えるまでまわしきり取り付けます。



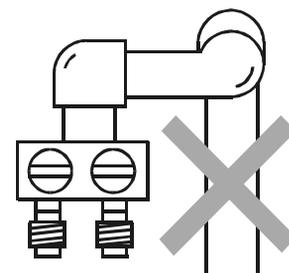
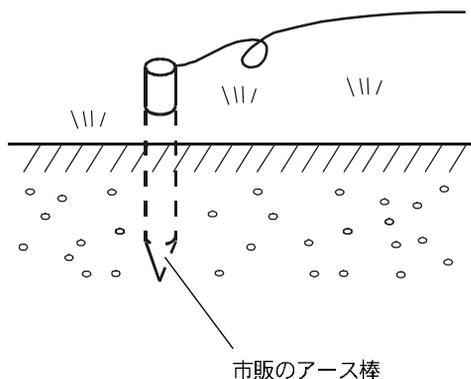
アースについて

感電事故を未然に防ぐため、またスプリアス輻射を少なくして質の高い電波を発射するためにも、良好なアースをとることは大切なことです。

市販のアース棒や銅板などを地中に埋め、十分に太い銅線を使用して、できるだけ最短距離で本体背面の GND 端子に接続してください。

ご注意

ガス配管や配電用のコンジットパイプなどは、爆発などの事故防止のため、絶対にご使用にしないでください。

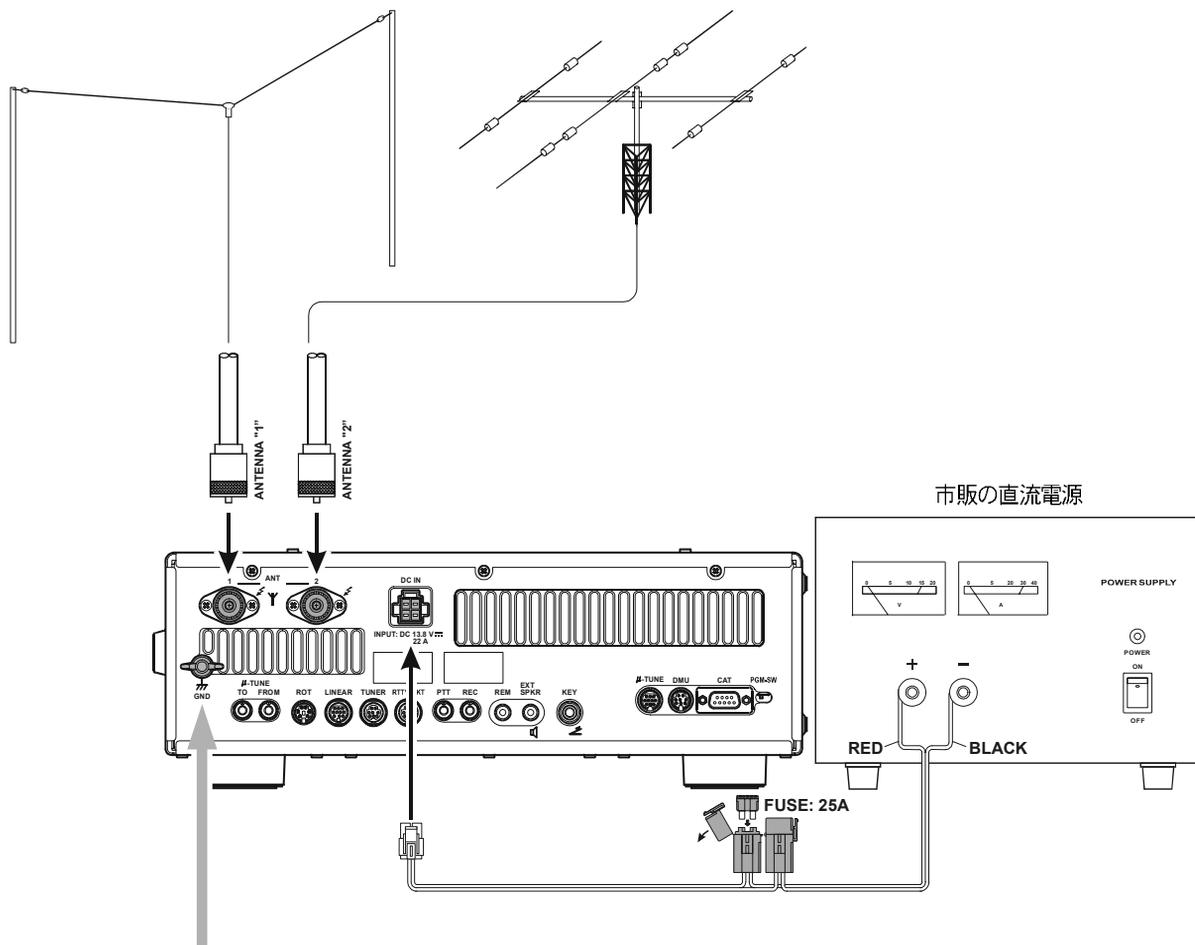


設置と接続方法

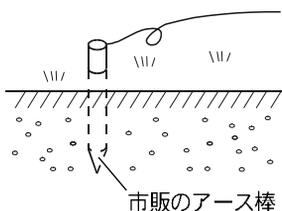
アンテナと電源ケーブルの接続

下図を参考に電源ケーブルとアンテナを接続してください。

ご使用の前に



市販のアース棒や銅板などを地中に埋め、十分に太い銅線を使用して、できるだけ最短距離で本体背面のGND端子に接続してください。

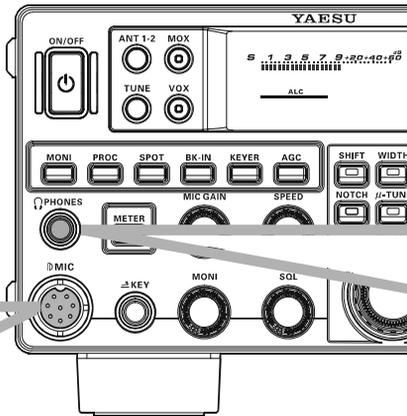
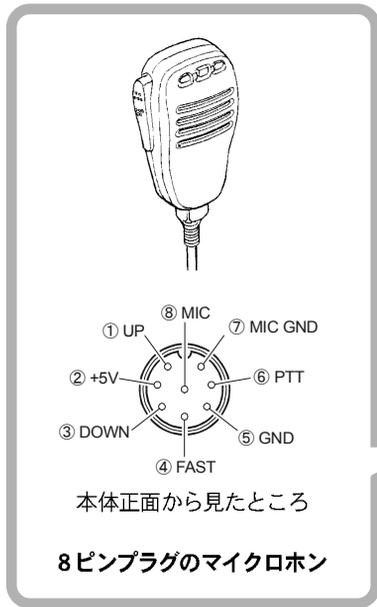


アドバイス

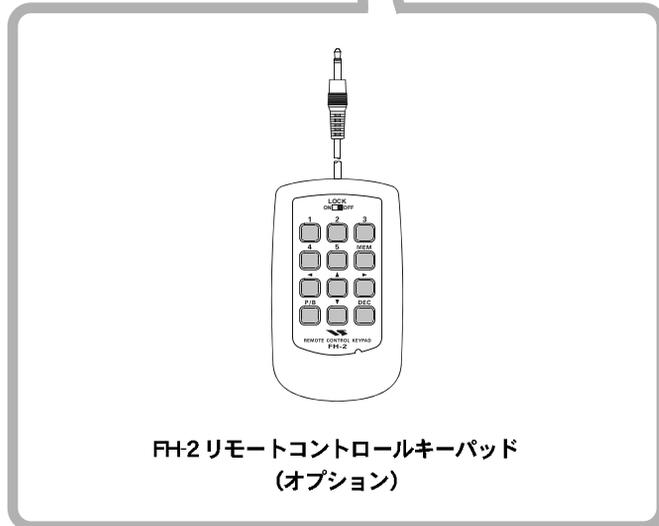
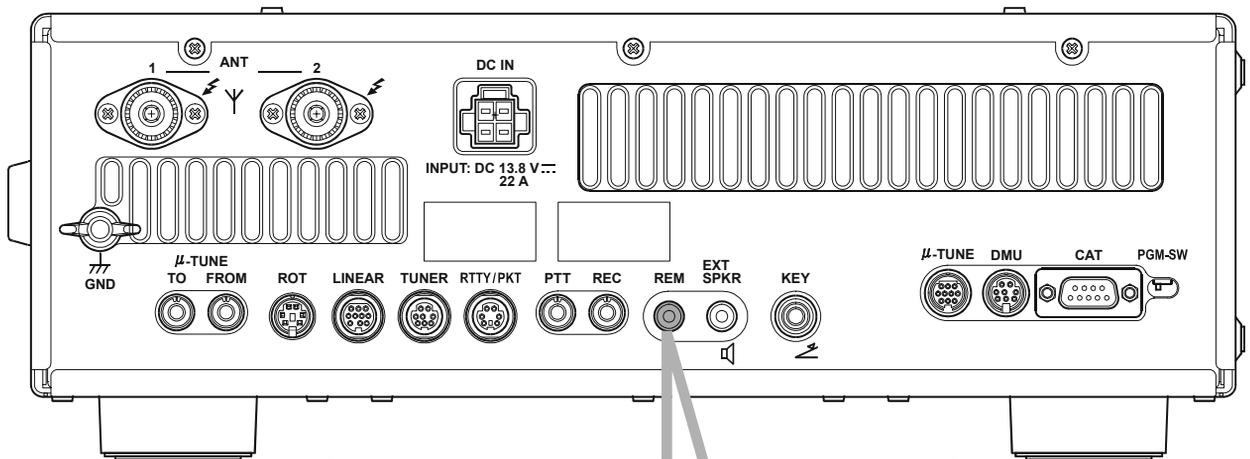
- 直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
- 湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
- 風通しが悪いところで長時間送信すると本機本体の温度が上昇しますので、放熱の妨げにならないよう設置場所を選んでください。
- ぐらついた台や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
- テレビやラジオの近くに設置すると、ノイズを受けたりTVIやBCIの原因となることがありますので、できるだけ本機やアンテナを離して設置してください。
- 電源コードの上に重いものを載せたり、電源コードを無理に曲げたり引っ張ったりすると断線する恐れがあります。
- 外部アンテナはテレビアンテナや電灯線からなるべく離してください。

設置と接続方法

マイクロホン、ヘッドホン、FH2リモートコントロールキーパッド(オプション)の接続



使用前に



設置と接続方法

電鍵(KEY)の接続

KEY ジャックに電鍵(縦振電鍵や複式電鍵, あるいはエレクトロニックキーヤー用のマニピュレータ)を接続します。

パネル面と背面に KEY ジャックを設けてあります。

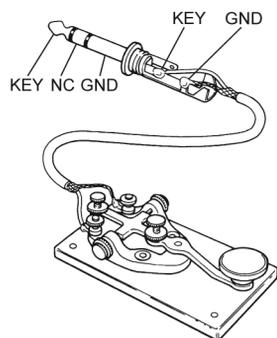
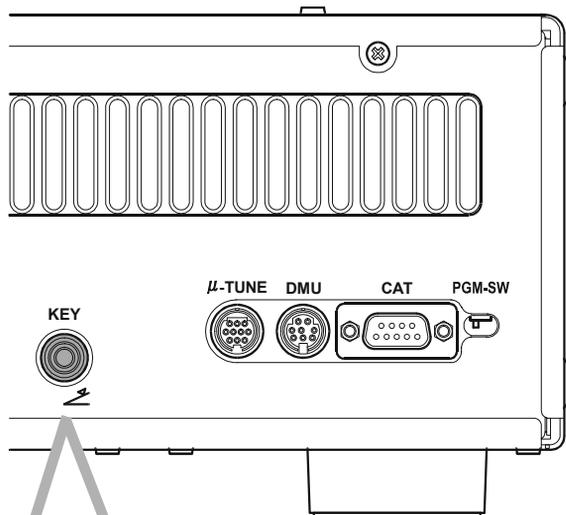
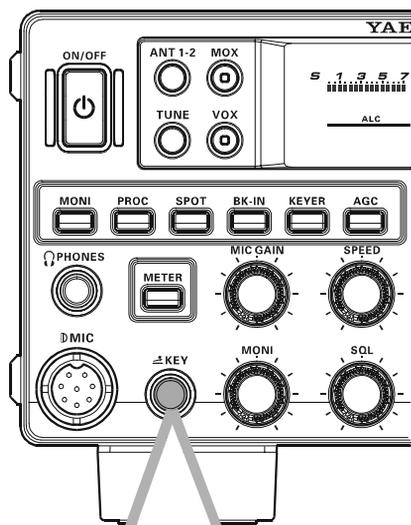
たとえば, 前面に縦振れ電鍵, 背面にマニピュレータを独立して接続することができます。

電鍵の選択はメニューモードで設定することができます。

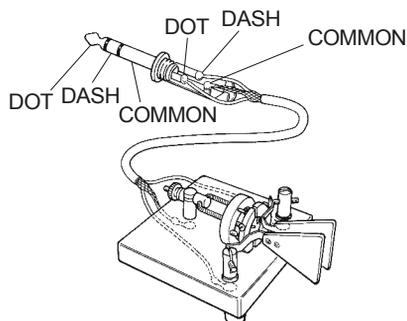
- ・ 037 A1A F-TYPE (F-KEYER TYPE)
- ・ 039 A1A R-TYPE (R-KEYER TYPE)

なお, KEY ジャックの開放端電圧は +3.3V, 短絡時の電流は約 0.3mA です。

ご使用の前に



縦振れや複式電鍵



マニピュレータ

アドバイス

電鍵のプラグがモノラル(2ピン)の場合には, ステレオ(3ピン)プラグに交換してください。

このジャックにモノラル(2ピン)プラグを接続すると, キーイング操作にかかわらず連続送信の状態になります。

リニアアンプ VL-1000 (オプション) の接続

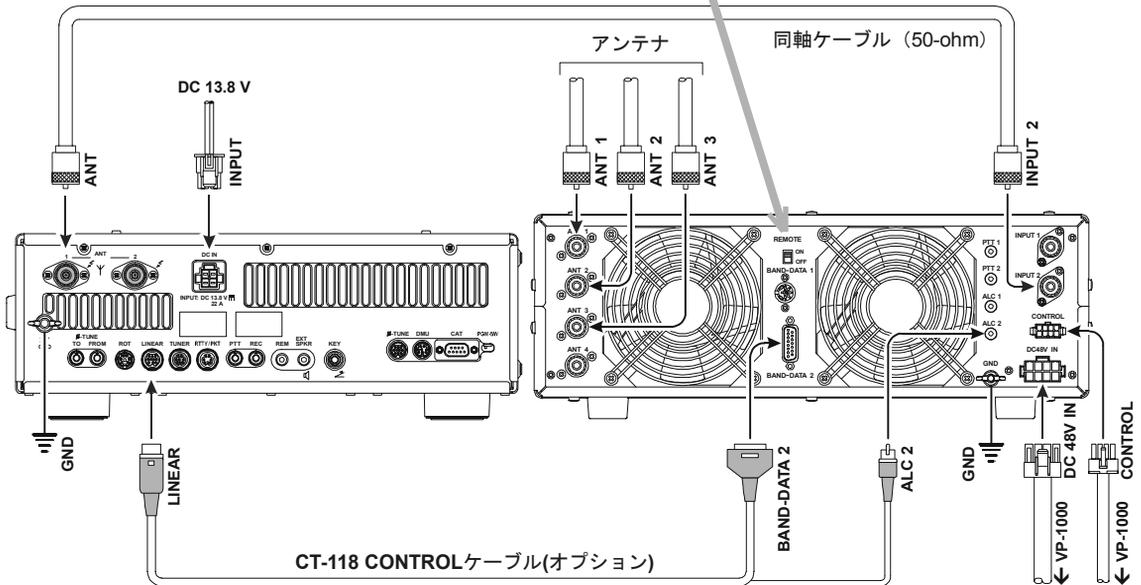
FT-950 と VL-1000 の電源をオフにし、下図を参考に “VL-1000” を接続します。



- リニアアンプの操作方法はリニアアンプの取扱説明書をご覧ください。
- 濡れた手でアンテナケーブルのコネクターを抜き差ししないでください。

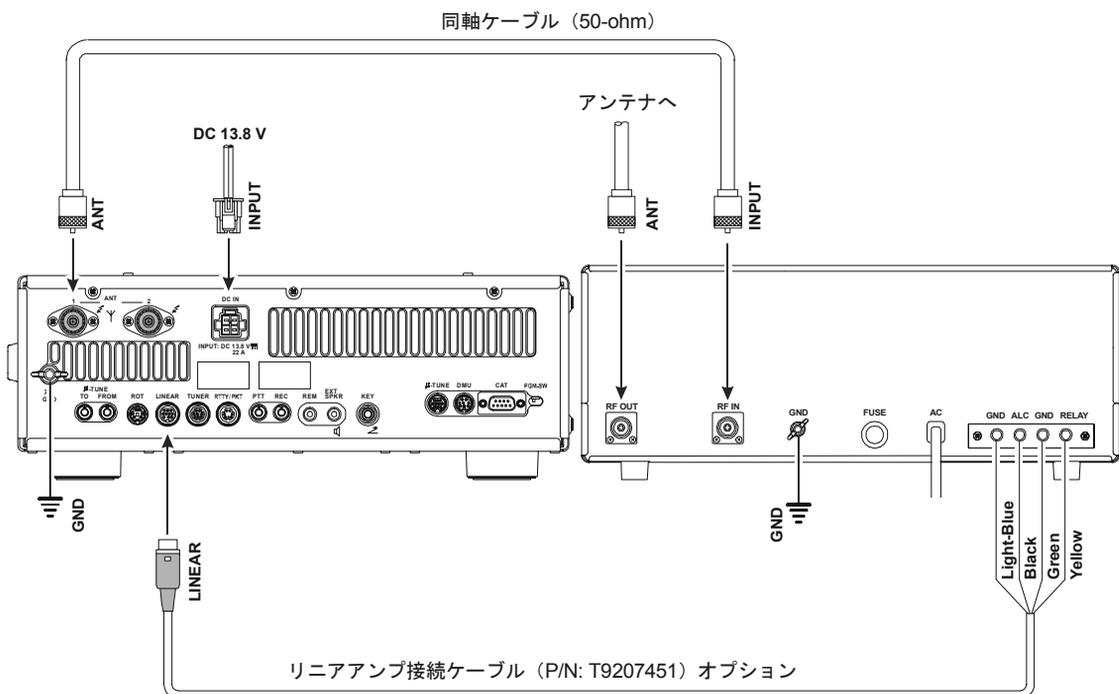
CONTROL CT-118ケーブルについて (オプション)
CONTROL ケーブルを接続しなくても VL-1000 を操作することができますが、CONTROL ケーブルを接続すると VL-1000 の F SET スイッチや TUNE スイッチを押したときに、自動的に最適なキャリアが出るようになります。

FT-950 の電源スイッチと VL-1000 の電源スイッチを連動する場合 VL-1000 の REMOTE スイッチを “ON” にしてください。



使用前に

その他のリニアアンプの接続

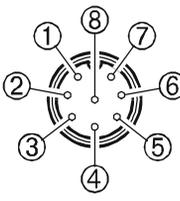
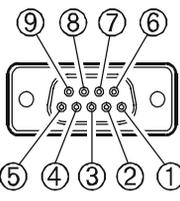
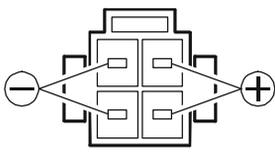
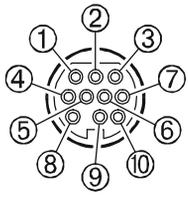
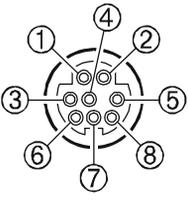
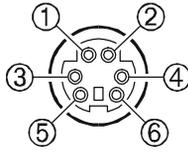
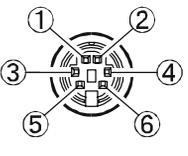
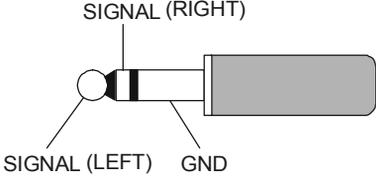
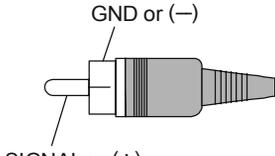
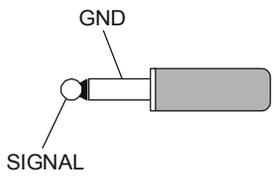
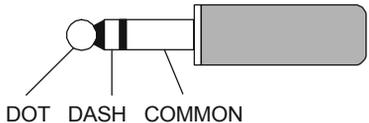
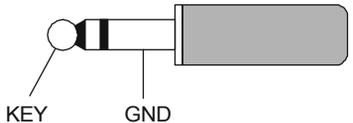
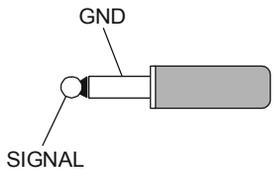


送受信を切り換える回路はオープンコレクター出力で、直流 60V、200mA または 30V、1A です。

設置と接続方法

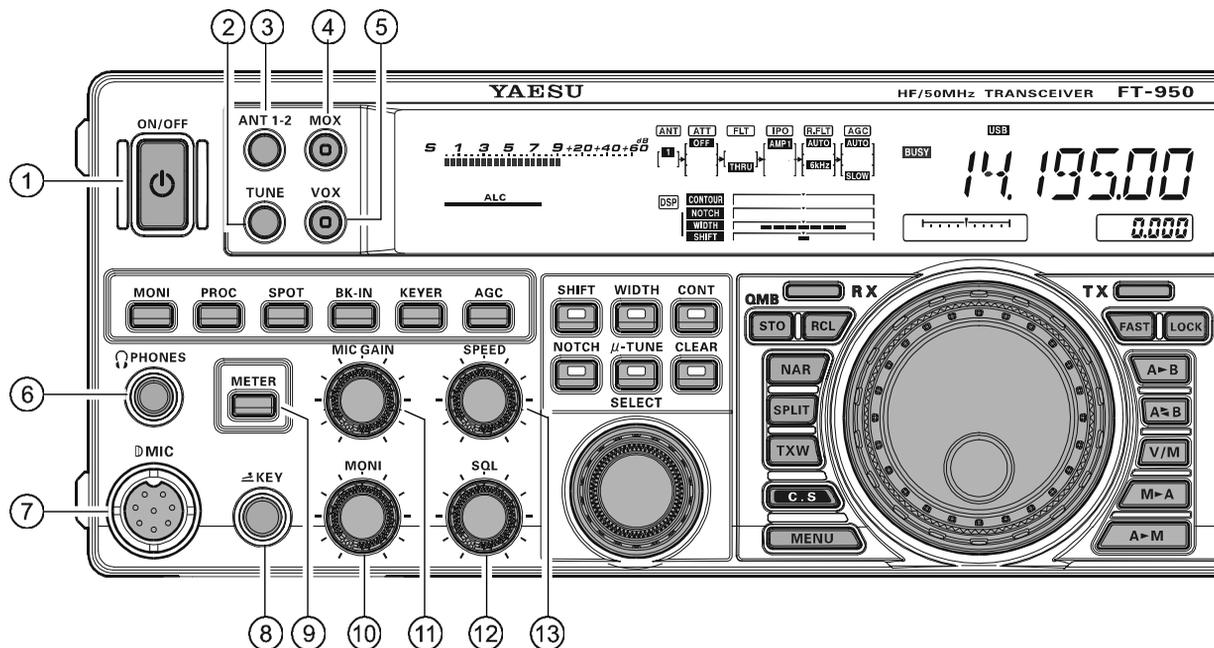
各プラグの接続図

ご使用前に

MIC	CAT	DC IN
 <ul style="list-style-type: none"> ① UP ② +5V ③ DOWN ④ FAST ⑤ GND ⑥ PTT ⑦ MIC GND ⑧ MIC <p>(前面パネル側から見たところ)</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ① 内部で④,⑥と接続 ② SERIAL OUT ③ SERIAL IN ④ 内部で①,⑥と接続 ⑤ GND ⑥ 内部で①,④と接続 ⑦ RTS ⑧ CTS ⑨ NC <p>(背面側から見たところ)</p>	 <p>(背面側から見たところ)</p>
LINEAR	TUNER	RTTY/PKT
 <ul style="list-style-type: none"> ① +13V OUT ② TX GND ③ GND ④ BAND DATA A ⑤ BAND DATA B ⑥ BAND DATA C ⑦ BAND DATA D ⑧ TX INH ⑨ EXT ALC IN ⑩ TX REQ IN <p>(背面側から見たところ)</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ① +13V OUT ② TX GND ③ GND ④ RX D ⑤ TX D ⑥ TUNER SENSE ⑦ RESET OUT ⑧ TX INH <p>(背面側から見たところ)</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ① DATA IN ② GND ③ DATA PTT ④ FSK IN ⑤ DATA OUT ⑥ SQL OUT <p>(背面側から見たところ)</p>
ROT (ROTATOR)	PHONE	RCA PLUG
 <ul style="list-style-type: none"> ① Rt1 (CW) ② Rt2 (CCW) ③ Rt3 (SPEED) ④ Rt4 (DIR) ⑤ GND ⑥ NC <p>(背面側から見たところ)</p>	 <p>SIGNAL (RIGHT)</p> <p>SIGNAL (LEFT) GND</p>	 <p>GND or (-)</p> <p>SIGNAL or (+)</p>
REM (REMOTE)	KEY	
 <p>GND</p> <p>SIGNAL</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>マニピュレーター</p>  <p>DOT DASH COMMON</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>縦振れ電鍵</p>  <p>KEY GND</p> </div> </div>	
EXT SPKR		
 <p>GND</p> <p>SIGNAL</p>	<p>MICは、本体の前面パネル側から見たピン配置図です。 CAT, DC IN, LINEAR, TUNER, RTTY/PKT, , ROTATORは、本体の背面側から見たピン配置図です。 PHONE, RCA PLUG, REMOTE, EXT SPKR, KEYはプラグの接続図です。</p>	

パネル面の説明

ご使用前に



① 電源スイッチ

スイッチをディスプレイの表示が出るまで長く押すと電源が入ります。もう一度スイッチを長く押すとディスプレイの表示が消えて電源が切れます。

アドバイス

- 市販の直流電源を接続し、直流電源の【ON/OFF】電源スイッチを入れると、スタンバイ状態になります。スタンバイ状態にしないと本機の【ON/OFF】電源スイッチで電源を入れることはできません。なお、市販の直流電源の接続方法は4、20ページを参照してください。
- 電源が入っているときに本機の【ON/OFF】電源スイッチを短く押すと、スピーカーからの受信音を3秒間ミュートすることができます。

② TUNE スイッチ (☞ p.72 参照)

本機に内蔵してある“アンテナ・チューナー回路”の動作を“ON/OFF”するスイッチです。【TUNE】スイッチを短く押すと周波数ディスプレイの **TUNER** が表示され、アンテナ・チューナー回路が動作します。

もう一度【TUNE】スイッチを短く押すと **TUNER** の表示は消え、アンテナ・チューナー回路の動作は停止します。この【TUNE】スイッチを約1秒押すと **TUNER** が点滅し“オートチューン動作”をスタートさせることができます。

ご注意

- オートチューン動作時には、本機から電波が自動的に発射されますので、このスイッチの操作は必ず、アンテナかダミーロードを接続してから行ってください。
- 整合できない場合は周波数ディスプレイに **HI-SWR** が表示されます。

③ ANTENNA SELECT スイッチ (☞ p.53 参照)

2本の送受信用アンテナを選択するスイッチです。

送受信用アンテナは【ANT 1-2】スイッチを押すたびに本体背面に接続した2本のアンテナ (ANT 1 または ANT 2) を切り換えて使用することができます。

④ MOX スイッチ

スイッチを押すと送信状態になり、送信を保持します。もう一度押すと受信状態に戻ります。

ご注意

スイッチを押すとそのまま送信状態になりますので十分にご注意ください。また必ずアンテナかダミーロードが接続してあることを確認してから送信してください。送信部の終段回路が壊れる原因になります。

⑤ VOX スイッチ (☞ p.82 参照)

スイッチを押すと“VOX 運用”になり、もう一度押すと動作がOFFになります。

マイクロホンの音声入力により自動的に送受信状態が切り替わります。

アドバイス

VOX 感度はメニューモード「115 TGEN V GAIN」で設定します。VOX DELAY のメニューモード「116 TGEN VOX DLY」で送信から受信へ戻るときの時間を調整して、普段の声で自動的に送信になり、話し終わると受信に戻るようなポイントに設定すればハンズフリー運用ができます。

⑥ PHONES ジャック (☞ p.21 参照)

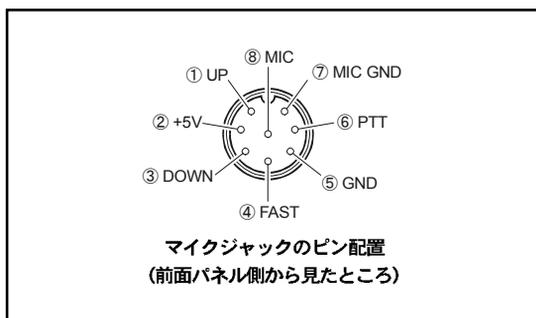
ヘッドホンを接続するための6φ標準ステレオジャックです。

ジャックを差し込むと内蔵または外部スピーカーの動作は止まります。

【ご注意】 ヘッドホンを使用するときは、電源を“ON”にする前に【AF GAIN】ツマミを反時計(左)方向にまわしきって音量を最低にしてください。聴力障害の原因になることがありますのでご注意ください。

⑦ MC ジャック (☞ p.21 参照)

8ピンのマイクロホンを接続するためのジャックです。

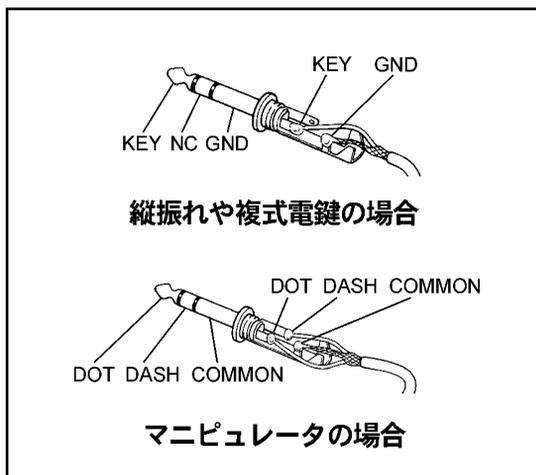


⑧ KEY ジャック (☞ p.22, 86 参照)

CW モードで運用するとき使用する、電鍵(縦振電鍵や複式電鍵、あるいはエレクトロニックキーヤー用のマニピュレータ)を接続するためのジャックです。

【アドバイス】

- 電鍵のプラグが2ピンの場合は、必ず3ピンプラグに交換してください。このジャックに2ピンプラグを接続すると、キーイング操作にかかわらず連続送信状態になります。
- 開放時の電圧は+3.3V、短絡時の電流は約0.3mAです。



⑨ METER スイッチ

送信時のメーター表示を切り換えるスイッチです。COMP, ALC, SWR, ID, VDDのメーターを切り換えることができます。

◎ COMP メーター (☞ p.79 参照)

スピーチプロセッサのコンプレッションレベルを表示します。

◎ ALC メーター (☞ p.71, 78, 79 参照)

ALC 電圧を表示します。

◎ SWR メーター

アンテナの整合状態を表示します。

◎ ID メーター

終段FETに流れ込む、ドレイン電流を表示します。

◎ VDD メーター

終段FETのドレイン電圧を表示します。

【アドバイス】 S, PO, ALC, IDメーターのピークホールド時間を設定することができます。メニューモードの「007 DISP PKH S ~ 010 DISP PKH ID」で設定することができます。

⑩ MON ツマミ (☞ p.82 参照)

モニター音の音量調節を行うツマミです。時計方向(右)にまわすほどモニター音量が大きくなります。

⑪ MC GAIN ツマミ (☞ p.71 参照)

SSB モード時にマイク入力レベルを調節するツマミです。

ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部に0~62のパラメータを表示します。時計(右)方向にまわすほどマイク入力レベルが高くなります。

【アドバイス】 【METER】スイッチをALCに切り換えると、送信時にメータがALC(送信時自動レベルコントロール)として動作します。メーターを見ながら少し大きな声で話した時にALCのゾーンいっぱいになる程度に調整すると歪みの少ない電波を送信することができます。

⑫ SQL ツマミ (☞ p.45 参照)

受信信号の入感がないときに出る“ノイズ”を消すためのツマミです。

ローカルラグチューの待ち合わせの時などでノイズが気になる時は、ノイズが消える点より少し時計(右)方向へまわした位置で使用します。なお、右方向にまわしすぎると、弱い信号を受信することができなくなりますので、目的信号の強さに合わせて調節してください。通常のSSBやCWの運用では反時計(左)方向に回しきった“OFF”の状態にしておきます。

⑬ SPEED ツマミ (☞ p.87 参照)

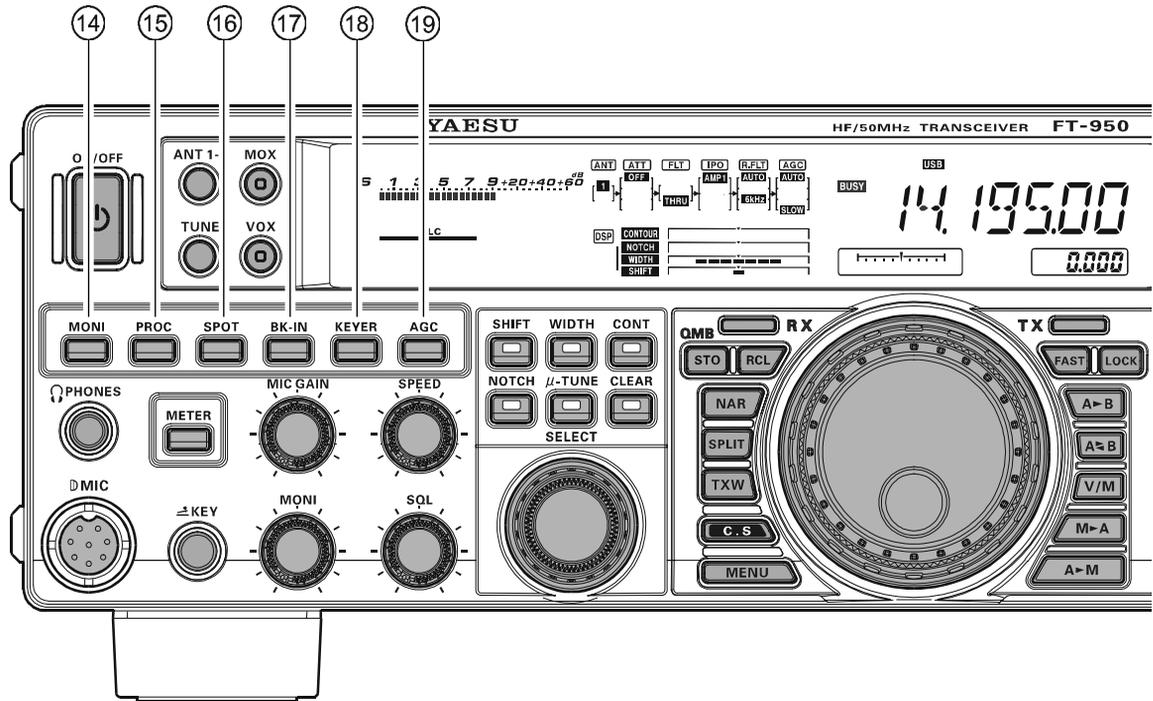
本機に内蔵してある“エレクトロニックキーヤー”のキーイングスピードを調節するツマミです。

ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部にキーイングスピードを表示し、4WPM~60WPMのスピードコントロールができます。時計(右)方向にまわすほどキーイングスピードが速くなります。

【アドバイス】 【KEYER】スイッチを約1秒間押すと現在のキーイングスピードを周波数表示部に表示します。

パネル面の説明

使用の前に



⑭ MONI スイッチ (☞ p.82 参照)

自局の送信音声をモニターする“モニター回路”の動作を“ON/OFF”するスイッチで、SSB/CW/AM/FM/RTTYのモード(電波型式)で動作します。

【MONI】スイッチを押すと周波数ディスプレイに【MONI】が表示され、自局の送信音声(CWはサイドトーン)をモニターすることができます。また、モニター音の音量調節は【MONI】つまみで行います。

もう一度【MONI】スイッチを押すと【MONI】の表示が消え、モニター回路の動作は停止します。

アドバイス

ヘッドホンを使用しているときにモニター回路を動作させると、ヘッドホンを使用したまま話すときの不自然さが無く、声の大きさの確認などにも使用できます。

⑮ PROC スイッチ (☞ p.78, 79 参照)

スイッチを押すと“DSP3 ステージパラメトリックイコライザー回路”が動作し、もう一度スイッチを押すと“DSP スピーチプロセッサ回路”が動作します。さらにスイッチを押すと“OFF”になります。



アドバイス

工場出荷時はパラメトリックマイクイコライザーの中心周波数がすべてOFFに設定してありますので【MICEQ】が点滅します。中心周波数のいずれかを設定すると【MICEQ】が点灯します。

SSB(またはAM)モードで運用しているときにこの【PROC】スイッチを押すと、周波数ディスプレイに【PROC】と【MICEQ】が表示され、スピーチプロセッサ回路とスピーチプロセッサ用3ステージパラメトリックマイクイコライザーが動作し、トークパワーのある力強いSSB信号を送信できます。スピーチプロセッサのコンプレッション(圧縮)レベルの調整は、メニューモードの「109 PROCLVL」で行います。また、パラメトリックイコライザーを設定して好みの送信音質をつくることができます。

もう一度【PROC】スイッチを押すと【PROC】と【MICEQ】の表示が消え、スピーチプロセッサ回路の動作は停止します。

スピーチプロセッサは原音を歪ませて平均送信電力を上げて受信側の了解度を上げようとする機能ですが、相手に対して耳ざわりになるほどコンプレッションレベルを上げてしまつては逆効果となります。コンプレッションレベルの調整には、【MONI】スイッチを押してモニター機能を動作させて自局の送信音声を直接モニターすると良いでしょう(モニター音の音量調整は【MONI】つまみで行います)。

アドバイス

オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”と、市販の外部モニターを接続すると、オーディオスコープ/オシロスコープ機能を表示することができます。このオーディオスコープとオシロスコープで送信波形をチェックしながら画面上の平均電力が上がってくるポイントに設定すると、音質の変化もなく適切なコンプレッションレベルを設定することができます。

⑩ SPOT スイッチ (☞ p.89 参照)

CW受信時にこのスイッチを押し続けると、相手局の信号に正確にゼロイン(同調)できるよう、SPOT機能が動作します。

SPOT機能は自局の受信トーンと同じトーン信号を連続して発振する便利な機能です。

SPOTスイッチを押している間だけトーン信号の周波数を周波数表示部に表示します。

⑪ BK-IN スイッチ (☞ p.86, 87 参照)

キー操作で自動的に送信状態とするブレークイン機能を“ON/OFF”するスイッチです。

ブレークイン機能を“ON”にすると、VFO-Aの周波数ディスプレイに**BK-IN**が表示されます。

ボイスメモリーの内容を送信する場合も、このスイッチを“ON”にしてください。

⑫ KEYER スイッチ (☞ p.87 参照)

本機に内蔵してある“エレクトロニックキーヤー”の動作を“ON/OFF”するスイッチです。エレクトロニックキーヤーの速度調整は【SPEED】ツマミで行います。

エレクトロニックキーヤーの動作を“ON”にすると、周波数ディスプレイに**KEYER**が表示されます。

【KEYER】スイッチを約1秒間押すと現在のキーイングスピードを周波数表示部に表示します。

アドバイス

CW DELAYの調整はメニューモード「044 A1A DELAY」で行うことができます。

⑬ AGC スイッチ (☞ p.68 参照)

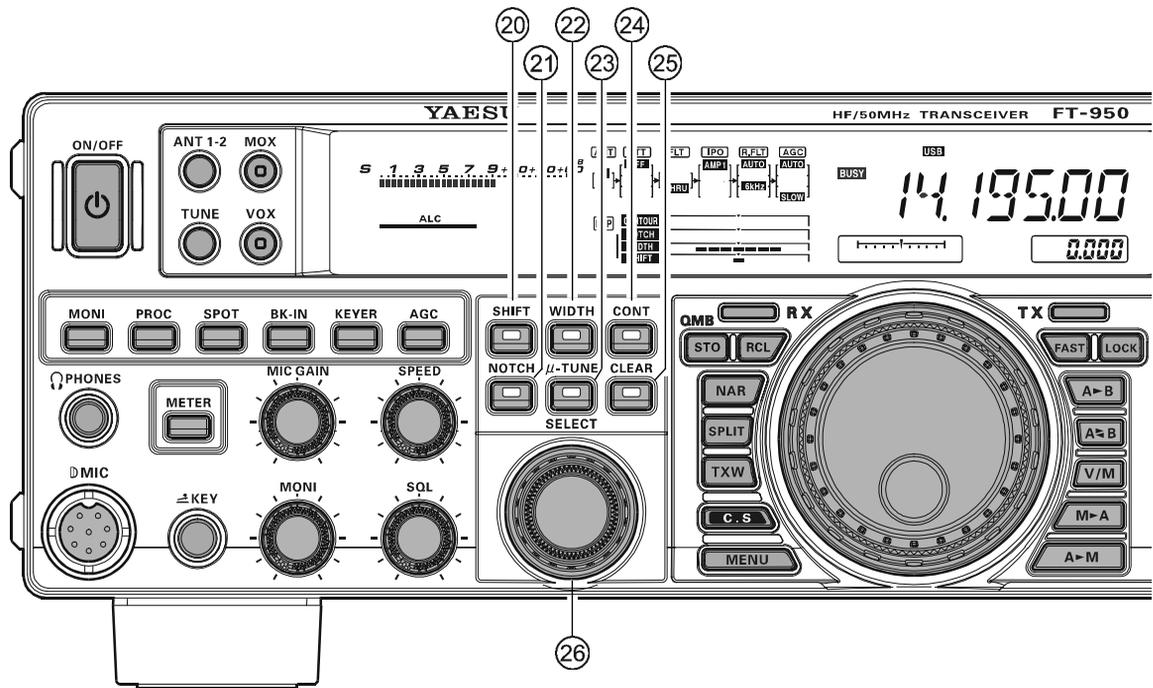
AGC回路の時定数を切り換えるスイッチです。

【AGC】スイッチを約1秒間押すとAGCはOFFになります。AUTO, FAST, MID, SLOW, OFF(約1秒間押す)と切り換えることができます。通常は“AUTO”の位置で使用します。

“AUTO”は各モード(電波型式)によって変わります。AGCの詳細な設定は、メニューモードのAGCの設定「001 AGC FST DLY」～「003 AGC SLW DLY」で行うことができます。

パネル面の説明

使用の前に



②① SHIFTスイッチ (☞ p.61 参照)

スイッチを押すと【SELECT】ツマミが“IF SHIFT機能”の調整ツマミとして動作します。近接妨害波による混信を軽減するときに使用します。

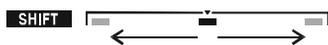
【SELECT】ツマミをまわすことにより中間周波数を20Hzステップで±1kHzシフトさせることができます。

【SELECT】ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部にIFフィルターのシフト周波数を表示します。

周波数ディスプレイ内左下にIFフィルターのシフトをグラフィックで表示します。



反時計(左)方向にまわすと帯域幅は左矢印方向にスライドし、時計(右)方向にまわすと帯域幅は右矢印方向にスライドします。



ツマミを反時計(左)方向にまわす ツマミを時計(右)方向にまわす

通常は、中央の位置で使用します。

②② NOTCHスイッチ (☞ p.64 参照)

スイッチを押すとNOTCH回路がONになり、【SELECT】ツマミが“IF NOTCH機能”の調整ツマミとして動作します。NOTCH回路をOFFにするには、もう一度【NOTCH】スイッチを押すか、または【SELECT】ツマミを押します。受信信号の中にある不要なビート音を取り除く“IF NOTCH回路”の中心周波数を【SELECT】ツマミをまわすことにより調節することができます。

【SELECT】ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部にノッチの中心周波数を表示します。

周波数ディスプレイ内左下にIFフィルターの減衰部分をグラフィックで表示します。



ツマミを反時計(左)方向にまわす ツマミを時計(右)方向にまわす

アドバイス

オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”と、市販の外部モニターを接続するとオーディオスコープ/オシロスコープ機能が表示されます。この画面に切り替えると、オーディオスコープで帯域内のノッチの位置を確認することができます。この画面を見ながら帯域内のビート周波数とノッチ周波数の位置を確認しながらビート信号の減衰の状態もチェックできます。

②③ WIDTHスイッチ (☞ p.62 参照)

スイッチを押すと【SELECT】ツマミが“IF WIDTH機能”の調整ツマミとして動作します。近接妨害波による混信を軽減するときに使用します。

【SELECT】ツマミをまわすことにより中間周波増幅段の帯域幅を調節することができます。

【SELECT】ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部にIFフィルターのシフト帯域幅を表示します。

周波数ディスプレイ内左下にIFフィルターの帯域幅をグラフィックで表示します。



反時計(左)方向にまわすと帯域幅が狭くなり、時計(右)方向にまわすと帯域幅が広がります。



ツマミを反時計(左)方向にまわす



ツマミを時計(右)方向にまわす

23 μ-TUNE スイッチ (参照 p.56 参照)

オプションの“RF μ Tuning Kit”を接続して【μ-TUNE】スイッチを押すとRF μ Tune回路がONになり、【SELECT】ツマミが“μ-TUNE機能”の調整ツマミとして動作します。

RF μ Tune回路をOFFにするには、もう一度【μ-TUNE】スイッチを押すか、または【SELECT】ツマミを押します。

1.9MHz帯から14MHz帯のアマチュアバンドで動作します。詳細はRF μ Tuning Kitの取扱説明書を参照してください。

ワンポイント RF μ Tuning Kitを接続していない状態では、【μ-TUNE】スイッチを押すごとにブロックダイアグラムディスプレイの【FLT】に【THRU】が表示されるか、または【μ-TUNE THRU】が同時に表示されます。

【THRU】を選択したときは、フィルターが接続されずスルーの状態を受信回路に接続されますので、通常はこの状態で使用します。また、【μ-TUNE THRU】を選択する場合は、自作のバンドパスフィルター等をμ-TUNEのTO/FROM端子に接続する場合があります。

ご注意 【μ-TUNE THRU】を選択してをμ-TUNEのTO/FROM端子に何も接続しないと受信回路が接続されていない状態になり、何も聞こえませんのでご注意ください。

アドバイス ○ “ON”のときはブロックダイアグラムディスプレイに【μ-TUNE】を表示します。RF μ Tuning Kitは鋭いシェーブファクターを持ったRF同調回路です。近くに強力な妨害電波があるときに効果を発揮します。

○ RF μ Tuning Kitは、自動的に受信周波数付近へ移動しますので通常細かい調整は必要ありません。数十kHz以内に強力なローカル局があり、RF μ Tuning Kitでそのローカル局の信号を減衰させたいような場合は、【SELECT】ツマミをまわして効果が最大になるところに調整してください。

24 CONT スイッチ (参照 p.60 参照)

スイッチを押すとCONTOUR回路がONになり、【SELECT】ツマミが“CONTOUR(コンツァー)機能”の調整ツマミとして動作します。CONTOUR回路をOFFにするには、もう一度【CONT】スイッチを押すか、または【SELECT】ツマミを押します。

DSPにより通過帯域の輪郭を可変することができます。帯域内成分を部分的に減衰することができます。受信状況に応じて可変してください。

【SELECT】ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部にコンツァーの中心周波数を表示します。

“ON”のときは周波数ディスプレイ内左下にCONTOURによる減衰部分をグラフィックで表示します。



【SELECT】ツマミで中心周波数を可変することができます。



ツマミを時計(右)方向にまわす



ツマミを反時計(左)方向にまわす

アドバイス

○ DSPの鋭いフィルタ特性によって妨害信号を除去しようとする、あるポイントで突然信号が聞こえなくなるという違和感を感じることがあります。コンツァー(輪郭)回路は、DSPフィルタの通過帯域の輪郭をなめらかに変えることによって帯域内の不要成分を部分的に減衰させる機能です。通過帯域内をあたかも球体が動いているように曲線的に変化させ減衰部分を移動させますので、信号が突然カットされるようなことがなく聴覚的に自然に妨害信号を減衰させ目的の信号を浮かび上がらせます。

○ コンツァー回路は、メニューモードの「069 RGEN CNTR LV」, 「070 RGEN CNTR WI」で減衰量と帯域幅をそれぞれ好みに合わせて設定することができます。工場出荷時は、減衰量: -15, 帯域幅: 10となっています。

○ オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”と、市販の外部モニターを接続するとオーディオスコープ/オシロスコープ機能を表示することができます。この画面に切り替えると、オーディオスコープで帯域内のコンツァー回路の動作を確認することができます。この画面を見ながらフィルタの通過帯域がどのように変わっているかを確認しながらCONTOURを最適な位置に設定します。

25 CLEAR スイッチ

“SHIFT” “WIDTH” “CONT” “NOTCH” の設定を初期値の状態に戻します。RF μ Tuning Kitは受信周波数付近へ戻ります。

アドバイス

メニューモードで設定値を変更中に【CLEAR】スイッチを押すと、工場出荷時の状態(初期値)に戻すことができます。

26 SELECT ツマミ

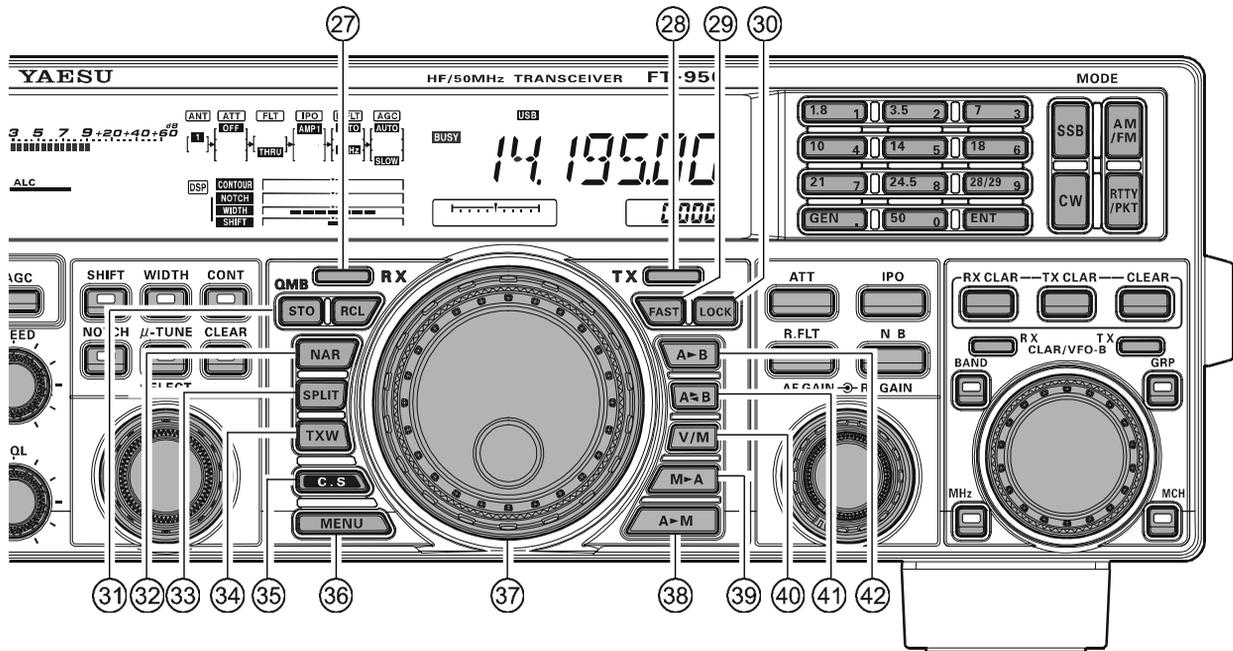
“SHIFT” “WIDTH” “CONT” “NOTCH” “オプションのRF μ Tuning Kit”を調整するツマミです。

【SELECT】ツマミを“NOTCH” “CONT”または“μ-TUNE”に選択中【SELECT】ツマミを短く押すと、各回路をON/OFFすることができます。

【MENU】スイッチを押してメニューモードにすると、【SELECT】ツマミでメニューを選択することができます。また、メニューNoとメニューグループを表示中に【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を表示することができます。

パネル面の説明

使用前の



27 RX インジケータースイッチ (VFO-A)

このインジケータが緑色に点灯しているときには、VFO-Aで設定した周波数を受信することができます。

アドバイス 【RX】インジケータースイッチをさらに押しすとスイッチが点滅し、受信音を一時的に“OFF”になる“MUTE”動作になります。もう一度押しすと、スイッチは点灯に戻り、受信音を聴くことができます。

28 TX インジケータースイッチ (VFO-A)

このインジケータが赤色に点灯しているときには、VFO-Aで設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。

アドバイス 【TX】インジケータースイッチを“OFF”にする場合は、VFO-B側の【TX】インジケータースイッチを押して“ON”にします(VFO-B側の【TX】インジケータースイッチが赤色に点灯し、VFO-Bが送信周波数として動作します)。

29 FAST スイッチ

【MAIN】ダイヤルツマミまたは【CLAR/VFO-B】ツマミの周波数変化量を切り換えるスイッチです。【MAIN】ダイヤルツマミまたは【CLAR/VFO-B】ツマミの周波数変化量を個別に設定することができます。

VFO-Aの時に、【FAST】スイッチを押すと、周波数ディスプレイに**FAST**が表示されて、【MAIN】ダイヤルツマミの周波数変化量が10倍になります。また、VFO-Bの時に、【FAST】スイッチを押すと、周波数ディスプレイに**FAST**が表示されて、【CLAR/VFO-B】ツマミの周波数変化量が10倍になります。ただし、メニューモードの「084 TUN DIALSTP」でステップ幅を1Hzに設定した場合は100Hzになります。もう一度押しすと**FAST**の表示は消えて、元の変化量に戻ります。

30 LOCK スイッチ (☞ p.47 参照)

【MAIN】ダイヤルツマミまたは【CLAR/VFO-B】ツマミの動作を“ロック”するスイッチです。【MAIN】ダイヤルツマミまたは【CLAR/VFO-B】ツマミを個別に設定することができます。

VFO-Aの時に、【LOCK】スイッチを押すと、周波数ディスプレイに**LOCK**が表示されて、【MAIN】ダイヤルツマミの動作がロックします。VFO-Bの時に、【LOCK】スイッチを押すと、周波数ディスプレイに**LOCK**が表示されて、【CLAR/VFO-B】ツマミの動作がロックします。もう一度【LOCK】スイッチを押すと**LOCK**の表示は消えて、ロック状態は解除されます。

31 クイックメモリーバンク(QMB)スイッチ (☞ p.105 参照)

◎ STO スイッチ

VFO-Aで設定した周波数などのデータをクイックメモリーバンク(QMB)内のメモリーチャンネルに書き込むためのスイッチです。【STO】スイッチを押すとQMBに書き込まれます。QMBのメモリー数は5チャンネルです。

◎ RCL スイッチ

クイックメモリーバンク(QMB)内のメモリーチャンネルを選択するスイッチです。【RCL】スイッチを押すと、QMB内のメモリーチャンネルが順番に呼び出されます。

32 NAR スイッチ (☞ p.63 参照)

【NAR】スイッチを押すと通過帯域幅を強制的にナロー帯域にすることができます。【SELECT】ツマミをまわすと、さらに帯域を狭くすることができます。

もう一度【NAR】スイッチを押すと、ナロー帯域を解除することができます。

－SSBのとき－

標準2.4kHzの帯域幅が【NAR】スイッチを押すと1.8kHzの帯域幅になり、【SELECT】ツマミをまわすと200Hz～1.8kHzの間で帯域幅を調節することができます。

－CWのとき－

標準2.4kHzの帯域幅が【NAR】スイッチを押すと500Hzの帯域幅になり、【SELECT】ツマミをまわすと100Hz～500Hzの間で帯域幅を調節することができます。

－RTTY, PKT (LSB, USB) のとき－

標準500Hzの帯域幅が【NAR】スイッチを押すと300Hzの帯域幅になり、【SELECT】ツマミをまわすと100Hz～500Hzの間で帯域幅を調節することができます。

－AMのとき－

標準9kHzの帯域幅が【NAR】スイッチを押すと6kHzの帯域幅になります。

－FM, PKT (FM) のとき(28MHz帯, 50MHz帯)－

標準16kHzの帯域幅が【NAR】スイッチを押すと9kHzの帯域幅になります。また、送信変調度も約半分になります。

アドバイス

【SELECT】ツマミで帯域幅を設定してあっても、【NAR】スイッチを押すとナロー機能が優先されます。また、【NAR】スイッチを押してナロー機能を解除すると【SELECT】ツマミで設定した帯域幅に戻ります。

③③ SPLIT スイッチ (☞ p.84 参照)

VFO-A に設定した周波数と VFO-B に設定した周波数を利用して、異なる周波数で送受信することができます。

【SPLIT】スイッチを約1秒間押すと、クイックスプリット機能として動作します。自動的にVFO-Bの周波数が、VFO-Aの周波数より5kHz高い周波数に設定されますので、VFO-Aで受信、VFO-Bで送信することができます。

③④ TXW スイッチ (☞ p.84 参照)

【SPLIT】スイッチを押してスプリット運用を行っているときに【TXW】スイッチを押すと、押している間だけ、送信周波数を受信することができます。

③⑤ C.S スイッチ (☞ p.50 参照)

メニューモードのショートカットキーです。よく使用するメニューモードを登録しておく、ショートカットキーとして使用することができます。設定方法は【MENU】スイッチを短く押してメニューモードを周波数ディスプレイに表示し、希望するメニューを選択した後に【C.S】スイッチを約1秒間押します。その後【MENU】スイッチを約1秒間押して設定を確定します。

③⑥ MENU スイッチ

メニューモードに入るときに押すスイッチです。このキーを押すと、周波数ディスプレイにメニューモードが表示され、メニューモードの設定操作が行えるようになります。

【MENU】スイッチを押した後【SELECT】ツマミ（または【MAIN】ダイヤルツマミ）で変更したい機能メニューを選択し、【CLAR/VFO-B】ツマミで変更したい設定値を選択します。設定後【MENU】スイッチを約1秒間押すと、内容を保存してメニューモードに入る前の状態に戻ります。

③⑦ MAIN ダイヤルツマミ

VFO-A の運用周波数を設定するツマミです。

【MAIN】ダイヤルツマミを時計(右)方向にまわすと運用周波数が高くなり、反時計(左)方向にまわすと運用周波数が低くなります。なお、このツマミの周波数変化量(ステップ幅)は運用モード(電波型式)と【FAST】スイッチの設定により異なり、下表に示す通りです。

運用モード(電波型式)	1ステップ	1回転
LSB, USB, CW, AM, RTTY, PKT(LSB, USB)	10Hz [100 Hz]	10 kHz [100 kHz]
FM, PKT(FM)	100Hz [1 kHz]	100 kHz [1 MHz]

[]: 【FAST】スイッチが“ON”のときの値

アドバイス

【MAIN】ダイヤルツマミの周波数変化量(ステップ幅)は、工場出荷時は10Hzになっていますが、メニューモードの「084 TUN DIALSTP」で“1Hz”、“5Hz”、“10Hz”に選択することができます。

③⑧ A▶M スイッチ (☞ p.102 参照)

VFO-A で設定した周波数などのデータをメモリーチャンネルに書き込むためのスイッチです。

【A▶M】スイッチを約1秒間押すと「ピピッ」と電子音がなりメモリーチャンネルに書き込まれます。

③⑨ M▶A スイッチ (☞ p.104 参照)

メモリーチャンネルに書き込まれている周波数などのデータをVFO-Aにコピーするスイッチです。

【M▶A】スイッチを約1秒間押すと「ピピッ」と電子音がなりVFO-Aにコピーされます。

④⑩ V/M スイッチ (☞ p.102 参照)

VFO-Aの運用状態を切り換えるスイッチです。

【V/M】スイッチを押すたびに、VFOに設定してあるデータとメモリーチャンネルにメモリーされているデータが交互に呼び出されます。

④⑪ A▶B スイッチ

VFO-A で設定した周波数などのデータとVFO-Bで設定した周波数などのデータを入れ換えるスイッチです。

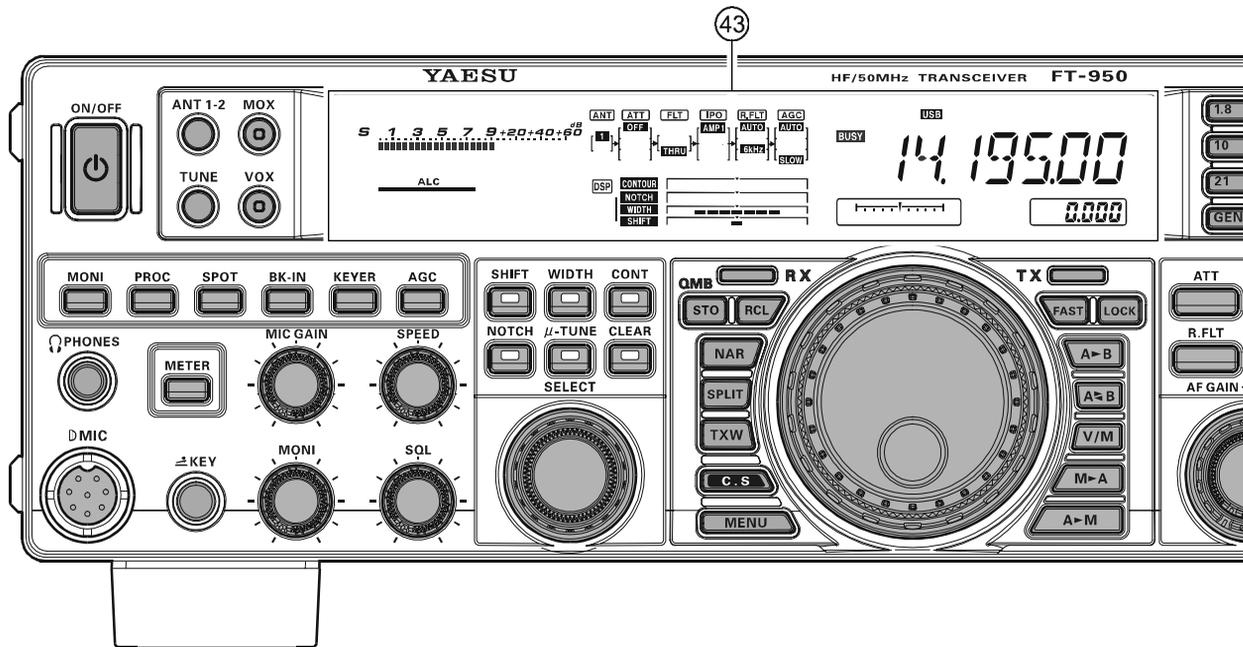
④⑫ A▶B スイッチ

VFO-A で設定した周波数などのデータをVFO-Bにコピーするスイッチです。

【A▶B】スイッチを押すとVFO-Bにコピーされます。

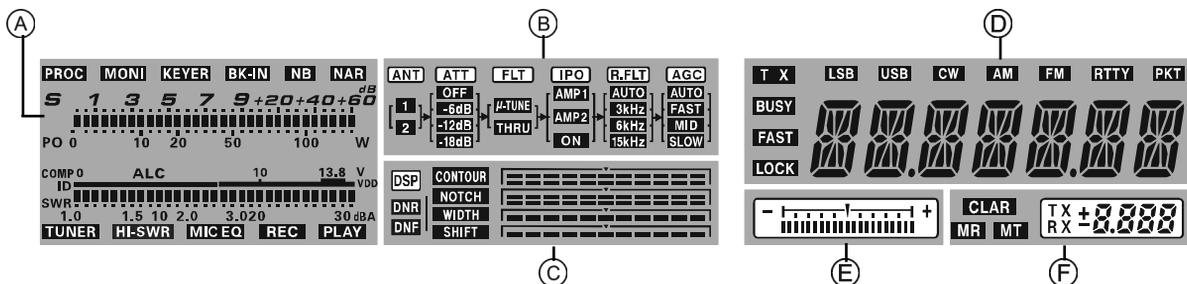
パネル面の説明

使用前の前に



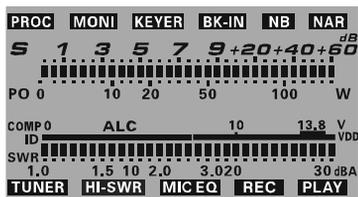
④3 周波数ディスプレイ

VFO-AやVFO-Bの周波数を表示します。その他に、ブロックダイアグラムディスプレイ、DSPグラフィックディスプレイ、BARディスプレイやマルチディスプレイによるクラリファイアやレピータ情報など各種の情報を表示させることができます。



④A Sメーター/各種アイコン

受信時に入感した信号の強さを表示します。送信時には下記に示す情報を表示します。POメーターは送信時表示され、COMP、ID、SWR、ALC、VDDは【METER】スイッチで切り替えることができます。



PO	送信出力を表示します。
COMP	スピーチプロセッサのコンプレッションレベルを表示します。
ID	終段FETトランジスタに流れ込むドレイン電流を表示します。
SWR	アンテナの整合状態を表示します。
ALC	ALC電圧を表示します。送信時のALCの調整は【MIC】ツマミで行います。
VDD	終段FETのドレイン電圧を表示します。13.8Vが適正電圧です。

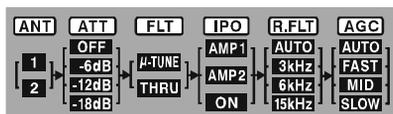
アドバイス

S、PO、ID、ALCメーターのピークホールド時間を、メニューモードの「007 DISP PKH S~010 DISP PKH ID」で設定することができます。

- PROC** : スピーチプロセッサが動作時に表示します (☞p.79 参照)。
- MONI** : モニターが動作時に表示します (☞p.82 参照)。
- KEYER** : キーヤーが動作時に表示します (☞p.87 参照)。
- BK-IN** : ブレークインが動作時に表示します (☞p.86, 87 参照)。
- NB** : ノイズブランカーが動作時に表示します (☞p.59 参照)。
- NAR** : 【NAR】スイッチを押して通過帯域幅をナローにすると表示します (☞p.63 参照)。
- TUNER** : オートアンテナチューナーが動作時に表示します (☞p.72 参照)。
- HI-SWR** : 本機とアンテナの整合悪化や内蔵アンテナチューナーのトラブル等、異常を知らせる警告表示です (☞p.73 参照)。
【ご注意】 この表示が出た場合は、直ちに送信を止め、アンテナ・コネクター・ケーブル等の点検・修理を行ってください。
- MIC EQ** : パラメトリックマイクイコライザー機能が動作時に表示します (☞p.76, 78 参照)。
- REC, PLAY** : ボイスメモリーやコンテストメモリーキーヤー機能が動作時に表示します。【REC】が録音中、【PLAY】が再生中です (☞p.80, 92 参照)。

⑧ ブロックダイアグラムディスプレイ

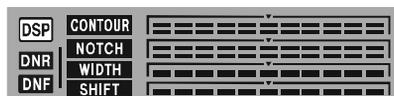
各受信機能の動作を簡単に把握することができます。



- ANT** : 現在使用しているアンテナが、“1”あるいは“2”のアンテナ端子に接続されているかを表示します (☞p.53 参照)。
- ATT** : 現在のATT (受信入力信号の減衰量) を表示します (☞p.55 参照)。
- FLT** : **μ-TUNE** (オプション) 機能を使用時に表示します。この機能がOFFのときは**THRU**を表示します (☞p.56 参照)。オプションのRF μ -Tuning Kitを接続しないと**μ-TUNE**を選択することはできません。
- IPO** : 受信部高周波増幅回路(AMP)をOFFにすると**ON**を表示します。また受信部高周波増幅回路を入れると、**AMP1**または**AMP2**を表示します (☞p.57 参照)。
- R.FLT** : 選択されているルーフィングフィルタを表示します (☞p.58 参照)。
- AGC** : 選択されているAGCの設定を表示します (☞p.68 参照)。

⑨ DSP グラフィックディスプレイ

各種のDSP IFフィルターによる混信除去機能の動作をグラフィックで確認することができます。



- DNR** : デジタルノイズリダクションを“ON”にすると**DNR**を表示します (☞p.65 参照)。
- DNF** : デジタルオートノッチフィルターを“ON”にすると**DNF**を表示します (☞p.65 参照)。
- CONTOUR** : CONTOURを調節したIFフィルターの減衰部分をグラフィックで表示します (☞p.60 参照)。
- NOTCH** : NOTCH機能により不要なピークを調節した位置をグラフィックで表示します (☞p.64 参照)。
- WIDTH** : WIDTHを調節するとIFフィルターの幅をグラフィックで表示します (☞p.62 参照)。
- SHIFT** : SHIFTを調節するとIFフィルターの通過帯域の位置をグラフィックで表示します (☞p.61 参照)。

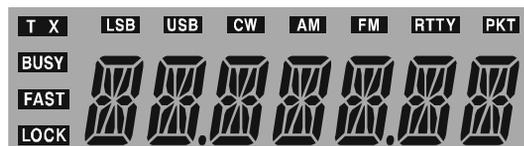
ご注意

周波数ディスプレイは蛍光表示管を使用しています。この蛍光表示管は消耗品です。経年変化により表示管の発光部分が変色したり、輝度の低下が発生します。平均輝度が50%になるまでの期間は約3万時間以上です。

蛍光表示管の交換は、部品代及び工賃込みで有償になります。詳細は当社アマチュアカスタマーサポートにお問い合わせください。

⑩ 周波数表示部

VFO-AまたはVFO-Bの周波数表示と動作状態を表示するインジケータです。



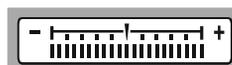
- T X**, **BUSY** : VFO-Aの送信 (**T X**) / 受信 (**BUSY**) の動作状態を表示します。
- FAST** : 周波数変化量のステップを大きくしている時に表示します (☞p.45 参照)。
- LOCK** : **[MAIN]** ダイアルツマミがロック状態の時に表示します (☞p.47 参照)。
- LSB**, **USB**, **CW**, **AM**, **FM**, **RTTY**, **PKT** : VFO-AまたはVFO-Bの電波型式を表示します。

アドバイス

- キーイングスピードを調節時に周波数表示部へ wpm の単位でキーイングスピードを表示します。
- CONTOUR を調節時に周波数表示部へ CONTOUR の中心周波数を表示します。
- NOTCH を調節時に周波数表示部へ NOTCH の中心周波数を表示します。
- トーンエンコーダやトーンスケルチを設定時には、周波数表示部へトーンの種類を表示します。

⑪ BAR ディスプレイ

CW-TUNE, μ -TUNE, クラリファイアなどの中心周波数を表示します。



⑫ マルチディスプレイ

各種の情報を表示させることができます。



CLAR (クラリファイア) :

クラリファイアのオフセット周波数(送信周波数と受信周波数の差)を表示します (☞p.46, 83 参照)。クラリファイア動作時は“**CLAR**”を表示します。

MR (メモリーリコール) :

[V/M] スイッチを押して、メモリーを呼び出しているときに“**MR**”とメモリーチャンネルを表示します (☞p.102 参照)。

MT (メモリーチューン) :

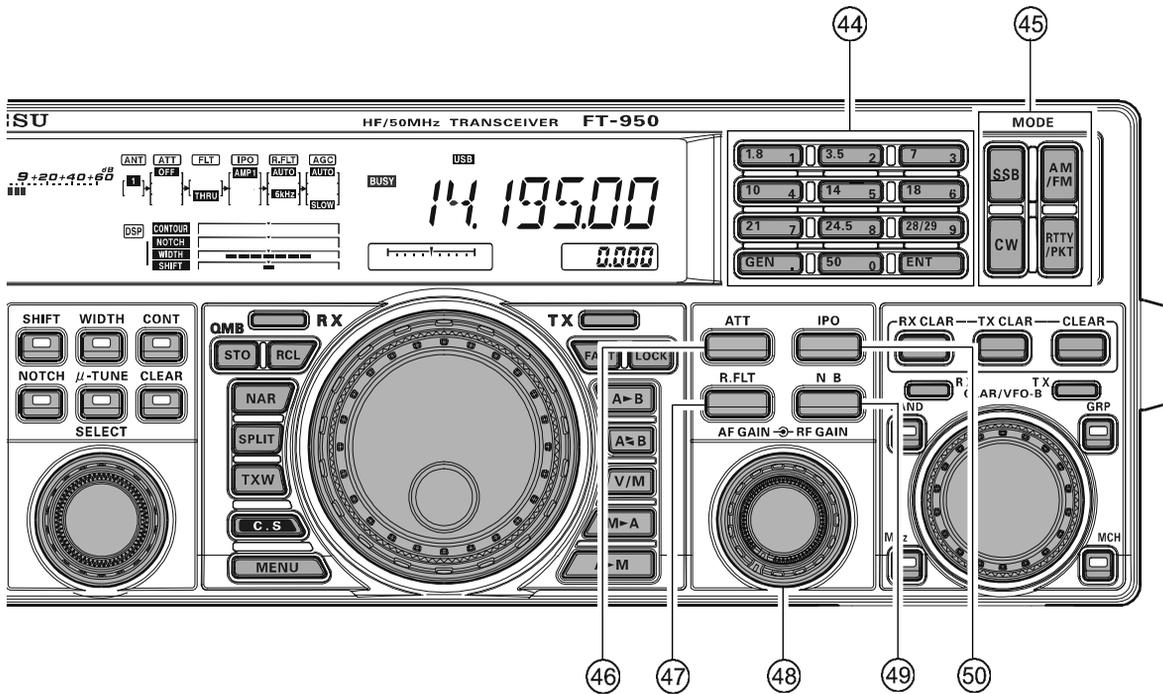
メモリーチャンネルの周波数や運用モード(電波型式)を、一時的に変更したときに“**MT**”が表示され、記憶されているメモリーチャンネルのデータを変えて運用していることをあらわします (☞p.104 参照)。

レピータシフト情報 :

レピータ運用をしているときにシフト情報を表示します (☞p.99 参照)。マイナスシフトのときは“**-**” プラスシフトのときは“**+**” シンプレックスのときは“**5**”を表示します。

パネル面の説明

使用前に



④ BAND キー (☞ p.44, 52 参照)

運用バンドを切り換えるキーです。

1.8MHzから50MHzまでのアマチュアバンドとジェネラルバンドをワンタッチで呼び出すことができます。

また、VFOに運用周波数を直接書き込むことのできる“ダイレクトエントリー操作”時には、“0”から“9”までの数字キーとして動作します。

アドバイス バンドを切り換える直前に設定してあった運用状態（周波数や電波型式など）を、各アマチュアバンドごとに3つずつ記憶することができるバンドスタック機能を使用することができます。

【BAND】 キーの **【ENT】** を約1秒間押しすと、周波数ディスプレイの表示がローテーターコントロール画面に切り替わり、本機からオプションのアンテナローテーター (G-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA または G-2800DXA) をコントロールすることができます (☞ p.51)。

④ MODE スイッチ

(☞ p.45, 71, 86, 98, 108, 109 参照)

SSB, CW, AM/FM, RTTY/PKT スイッチ

電波型式 (運用モード) を切り換えるスイッチです。

【SSB】 スイッチ

SSB スイッチを押すごとに LSB または USB に切り替わります。

【CW】 スイッチ

CW スイッチを押すごとに USB CW または LSB CW (CW REVERSE) に切り替わります。

【AM/FM】 スイッチ

AM/FM スイッチを短く押すごとに AM または FM に切り替わります。また、1秒間押しすとトーンエンコーダ/トーンスケルチの設定モードにまります。

【RTTY/PKT】 スイッチ

RTTY/PKT スイッチを短く押すごとに LSB RTTY または LSB PKT に切り替わります。LSB RTTY を選択後1秒間押しすと USB RTTY になります。LSB PKT を選択後1秒間押しすと USB PKT, FM PKT, LSB PKT の順に切り替わります。

④ ATT スイッチ (☞ p.55 参照)

受信信号を減衰させるスイッチです。

受信入力信号を、3段階 “6dB (1/2)” “12dB (1/4)” “18dB (1/8)” に減衰させることができます。通常は、受信入力信号は減衰しない “OFF” の位置で使用します。

ブロックダイアグラムディスプレイに選択したアイコンが表示され確認することができます。

アドバイス 強力な信号を受信している場合には、始めに **【IPO】** スイッチで受信部の増幅回路 “OFF” にして、それでも信号強度が落ちない場合にアッテネータを使用して信号を減衰させます。

④7 RFLTスイッチ (☞ p.58 参照)

“ルーフィングフィルター”の帯域幅を切り換えるスイッチです。近接で強力な信号を減衰させることができます。

通常は運用モードによって自動的にルーフィングフィルターの帯域幅が切り替わる“AUTO”に設定されていますが、マニュアル操作で3種類(3kHz, 6kHz, 15kHz)のルーフィングフィルターに切り換えることができ、ブロックダイアグラムディスプレイに選択しているアイコンが表示され確認することができます。

アドバイス

ルーフィングフィルターは第1 IF回路に入るので近接の強力な妨害信号を減衰させるには非常に効果的です。AUTOに設定しておく、電波型式によってSSB/PKT: 6kHz (AMP2では15kHz), CW/RTTY: 3kHz, AM/FM/FM-PKT: 15kHzに自動で切り替わります。

通常はAUTOで十分ですが、SSB運用において数kHz以内に強力な局があるような場合には3kHzに切替えて妨害信号を減衰させることができます。

④8 AF GAIN⇄RF GAINツマミ

◎ AF GAINツマミ (☞ p.44 参照)

受信音量を調節するツマミです。

時計方向(右)方向にまわすほどVFO-Aの受信音が大きくなります。通常は9時から10時方向で使用します。

◎ RF GAINツマミ (☞ p.66 参照)

受信部高周波増幅段および中間周波増幅段の利得を調節するツマミです。

時計方向(右)方向にまわすほど利得が大きくなり、通常は右方向にまわし切った“利得最大”の位置で使用します。

④9 NBスイッチ (☞ p.59 参照)

ノイズブランカー回路の動作を“ON/OFF”するスイッチです。

NBはVFO-AとVFO-Bに独立して設定することができます。

イグニッションノイズのような“パルス性の雑音”を軽減する場合は、このスイッチを短く押します(Sメーター右上に**NB**が点灯します)。

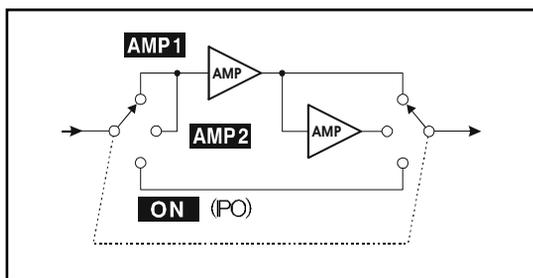
“幅の広い雑音”を軽減する場合は、このスイッチを約1秒間押します(Sメーター右上に**NB**が約3秒間点滅後、点灯に変わります)。

セットモード「067 RGEN NB 1 LV」で“パルス性の雑音”、セットモード「068 RGEN NB 2 LV」で“幅の広い雑音”のノイズブランカーレベルを調整し、ノイズが軽減するように設定することができます(工場出荷時は“128”に設定してあります)。

⑤0 IPOスイッチ (☞ p.57 参照)

受信部高周波増幅回路の動作を“ON/OFF”するスイッチです。

【IPO】スイッチを押すと、ブロックダイアグラムディスプレイの【IPO】が**ON**表示になり、受信部高周波増幅回路の動作が停止します。受信部高周波増幅回路には**AMP1**と**AMP2**の二種類を装備しています(工場出荷時は**AMP1**に設定してあります)。**IPO**を“OFF”にする場合は**IPO**スイッチを数回押して**AMP1**または**AMP2**に設定してください。



ご注意

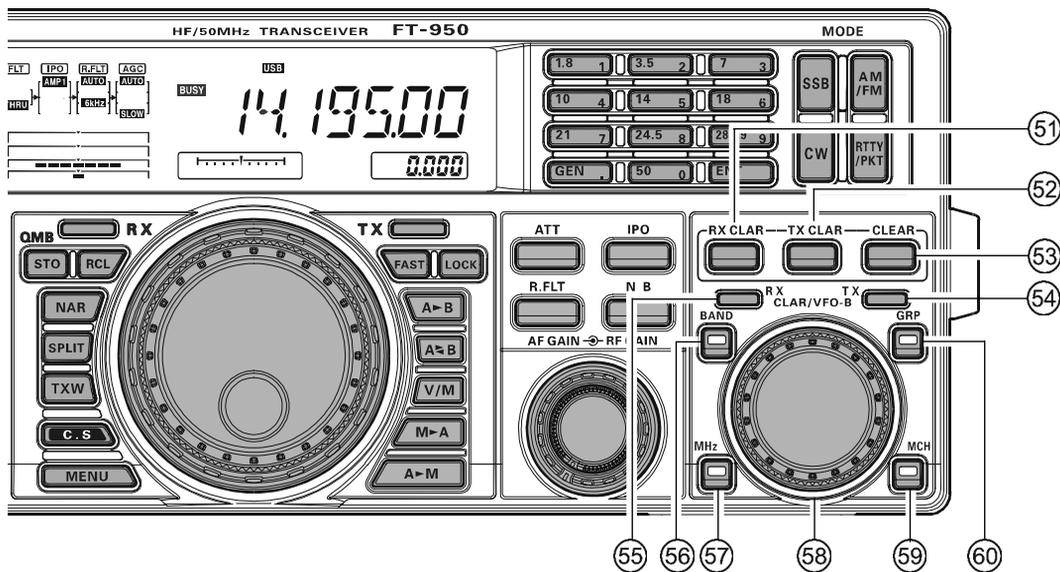
AMP2で電界強度の強い信号を受信すると、受信音が歪むことがありますので、**AMP1**に設定するかまたは**IPO**を**ON**にしてください。通常は、受信部高周波増幅回路の動作を**AMP1**の位置で使用します。

アドバイス

FT-950に使用している1stミキサー回路はGaAsミキサーICを使用したFETによるダブルバランスドミキサーであり、ミキサー自体でゲインを稼ぐことができるアクティブタイプです。RFアンプにおいてゲインを必要以上に上げる必要がなく、RFアンプとミキサーのゲインバランス配分を最適にする効果もあります。また1stミキサーにおけるゲイン損失がありませんので、IPO(インターセプトポイント最適化)動作時には、RFアンプをいっさい通さずに受信信号を直接1stミキサーに注入することが可能となり、その結果、IP3(3次インターセプトポイント)を大幅に改善することができます。特にローバンドのオペレーションでノイズレベルが高くなっているような場合に使用してください。

パネル面の説明

使用前の前に



51 RX CLAR スイッチ (☞ p.46 参照)

VFO-A で受信中に【RX CLAR】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと VFO-A の RX クラリファイアとして動作します。また、VFO-B で受信中に【RX CLAR】スイッチを押して【MAIN】ダイヤルツマミをまわすと VFO-B の RX クラリファイアとして動作します。もう一度【RX CLAR】スイッチを押すと、RX クラリファイアは“OFF”になります。クラリファイアの周波数は【CLEAR】スイッチを押すまで記憶されています。

52 TX CLAR スイッチ (☞ p.83 参照)

VFO-A で受信中に【TX CLAR】スイッチを押して、【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと VFO-A の TX クラリファイアとして動作します。また、VFO-B で受信中に【RX CLAR】スイッチを押して【MAIN】ダイヤルツマミをまわすと VFO-B の TX クラリファイアとして動作します。もう一度【TX CLAR】スイッチを押すと TX クラリファイアは“OFF”になります。クラリファイアの周波数は【CLEAR】スイッチを押すまで記憶されています。

53 CLEAR スイッチ (☞ p.46, 83 参照)

【CLEAR】スイッチを押すと、【CLAR】ツマミにより設定したクラリファイアのシフト周波数(オフセット量)が“ゼロ”にリセットされます。

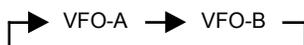
54 TX インジケータースイッチ (VFO-B)

このインジケータースイッチが赤色に点灯しているときには、VFO-B で設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。

スイッチを押すたびに送信できる VFO が交互に切り換わります。

55 RX インジケータースイッチ (VFO-B)

このインジケータースイッチを押すと緑色に点灯し、【CLAR/VFO-B】ツマミで設定した周波数を受信することができます。



VFO-B の受信を“OFF”にする場合は、【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】スイッチを押して緑色のインジケータースイッチを消灯します。

56 BAND スイッチ (☞ p.44, 49 参照)

VFO-A 運用時に【BAND】スイッチを押すとスイッチの LED が橙色に点灯し、VFO-A の BAND (アマチュア周波数帯) を【CLAR/VFO-B】ツマミで選択することができます。同様に VFO-B 運用時に【BAND】スイッチを押すと VFO-B の BAND (アマチュア周波数帯) を【CLAR/VFO-B】ツマミで選択することができます。

アドバイス

メニューモードの「090 TUN MY BAND」でマイバンド機能を設定すると、【BAND】スイッチを押して、【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと希望するアマチュアバンドのみを選択することができます。

57 MHz スイッチ (☞ p.52 参照)

VFO-A 運用時に【MHz】スイッチを押すとスイッチの LED が橙色に点灯し、VFO-A の周波数を【CLAR/VFO-B】ツマミで 1MHz ステップで可変することができます。同様に VFO-B 運用時に【MHz】スイッチを押すと VFO-B の BAND (アマチュア周波数帯) を【CLAR/VFO-B】ツマミで 1MHz ステップで可変することができます。

58 CLAR / VFO-B ツマミ

通常はクラリファイアのオフセット値を設定するツマミとして動作します。【RX-CLAR】スイッチを押すと、【MAIN】ダイヤルツマミを動かさずにクラリファイアの周波数を最大±9.999kHz 動かすことができます。また、VFO-B の【RX】インジケータースイッチを押すと、VFO-B の運用周波数を設定するツマミとして動作します。さらに【BAND】スイッチまたは【MHz】スイッチを押すと VFO-A/VFO-B の補助機能として動作します。また、【GRP】スイッチまたは【MCH】スイッチを押すとメモリーの補助機能として動作します。

補助機能の動作説明は次ページの“アドバイス：マルチファンクションダイヤルの使い方”をご覧ください。

59 MCHスイッチ (☞ p.102 参照)

このスイッチを押すとスイッチのLEDが橙色に点灯し、【CLAR/VFO-B】ツマミがMCH(メモリーチャンネル)選択ツマミとして動作します。

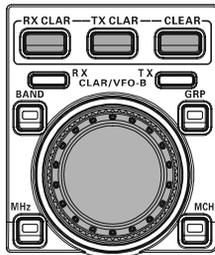
60 GRPスイッチ (☞ p.101 参照)

このスイッチを押すとスイッチのLEDが橙色に点灯し、【CLAR/VFO-B】ツマミがGRP(メモリーグループ)選択ツマミとして動作します。

アドバイス：マルチファンクションダイアルの使い方

クラリファイア機能として使う場合

通常はクラリファイア機能が動作します。【CLAR/VFO-B】ツマミの左側の【RX】インジケータースイッチと右側の【TX】インジケータースイッチが消灯しているか確認してください。【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすとオフセット量が変化します。



◎ 送信周波数を変えずに受信周波数だけを変える

【RX CLAR】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわします。送信周波数を変えずに受信周波数だけを変えることができます。

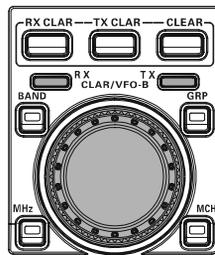
◎ 受信周波数を変えずに送信周波数だけを変える

【TX CLAR】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミをまわします。受信周波数は変えずに送信周波数だけを変えることができます。

◎ オフセット量を“ゼロ”にする

【CLEAR】スイッチを押すとオフセット量を“ゼロ”にすることができます。

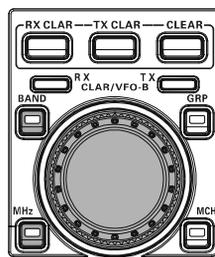
VFO-Bのダイヤル操作として使う場合



VFO-Bの【RX】インジケータースイッチを押し（緑色点灯）、【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと受信周波数を選択することができます。【TX】インジケータースイッチを押すと（赤色点灯）設定した受信周波数で送信します。

CLAR/VFO-B ツマミを VFO-A/VFO-B の補助機能として使う場合

VFO-A/VFO-Bのバンドの切り替えとMHzのアップダウンの切り替えとして使用することができます。



◎ バンドの(BAND)アップダウンの使い方

VFO-Aの【RX】インジケータースイッチを押し（緑色点灯）【BAND】スイッチを押すと、スイッチのLEDが橙色に点灯し、VFO-Aのアマチュアバンドをアップダウンすることができます。

VFO-Bの【RX】インジケータースイッチを押し（緑色点灯）【BAND】スイッチを押すと、スイッチのLEDが橙色に点灯し、VFO-Bのアマチュアバンドをアップダウンすることができます。

メニューモードの「090 TUN MY BAND」でマイバンド機能を設定すると、VFO-A/VFO-Bを希望するアマチュアバンドのみを選択してアップダウンすることができます。

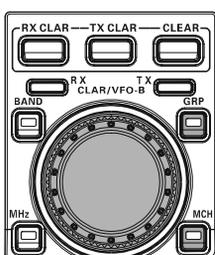
◎ MHzのアップダウンの使い方

VFO-Aの【RX】インジケータースイッチを押し（緑色点灯）【MHz】スイッチを押すと、スイッチのLEDが橙色に点灯し、VFO-Aの周波数を1MHzステップで可変することができます。

VFO-Bの【RX】インジケータースイッチを押し（緑色点灯）【MHz】スイッチを押すと、スイッチのLEDが橙色に点灯し、VFO-Bの周波数を1MHzステップで可変することができます。

CLAR/VFO-B ツマミをメモリーの補助機能として使う場合

メモリーチャンネルとメモリーグループの切り替えとして使用することができます。



◎ メモリーグループ(GRP)の切り替え方

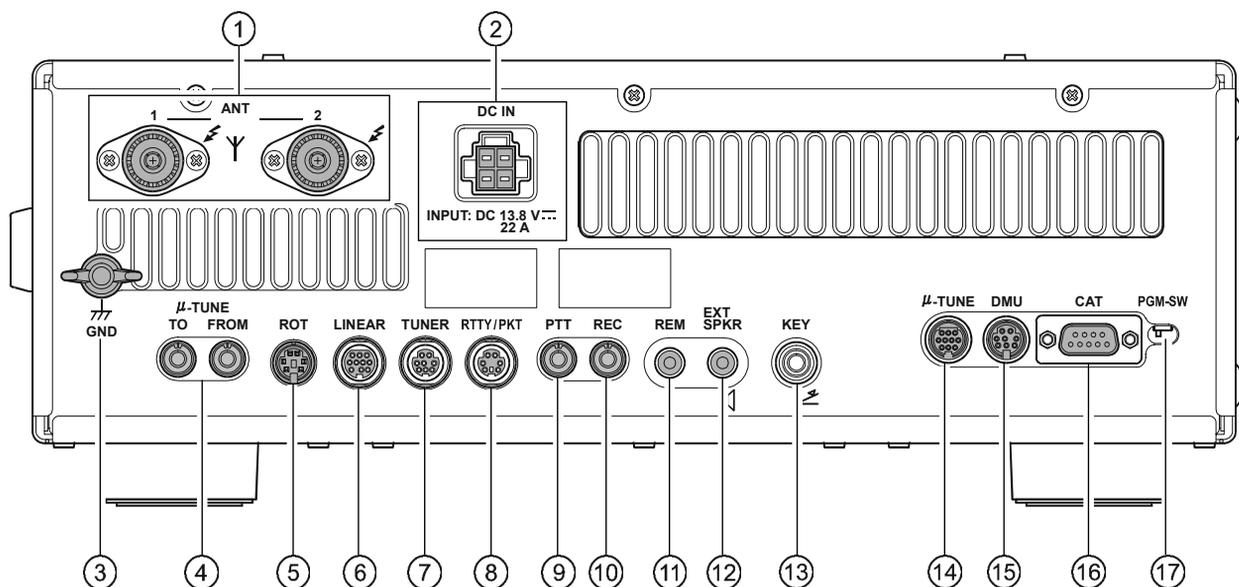
メモリーグループ設定時には、【GRP】スイッチを押すと、GRP(メモリーグループ)選択ツマミとして動作します(メモリーグループの設定方法は101ページをご覧ください)。

◎ メモリーチャンネル(MCH)の切り替え方

【MCH】スイッチを押すと、MCH(メモリーチャンネル)選択ツマミとして動作します。

背面の説明

使用の前に



① ANT

50 Ω系のアンテナを接続するM型同軸コネクターです。最大2本のアンテナを接続することができます。

② DC IN

DC電源 (DC13.8V, 22A) のINPUT端子です。付属のDCケーブルで市販の直流電源を接続します。

③ GND

本機をアースする端子です。
できるだけ太い線材を使用し、最短距離で大地に接続してください。アースの接続は「設置と接続方法」の「アースについて」(p.19, 20)を参照してください。

④ μ-TUNE

オプションのRF μ Tuning Kitの信号系ケーブルを接続する端子です。端子はIN側 (TO) とOUT側 (FROM) の2端子を接続します。

◎ FROM

信号系のOUT端子です。

◎ TO

信号系のIN端子です。

⑤ ROT

当社オプションのローテーターのコントローラー (外部コントロール端子) を接続する端子です。キャップを取り付けてありますので、オプションのケーブルを接続するときは、キャップを外してください。

対応機器はG-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA, G-2800DXAのローテーターです (2009年2月現在)。

⑥ LINEAR

当社オプションのリニアアンプ“VL-1000”を接続するときに使用する端子です。

⑦ TUNER

当社オプションの外付け用アンテナチューナー“FC-40”などを接続するときに使用する端子です。

⑧ RTTY/PKT

RTTY用のターミナルユニットやパケット通信用のTNCを接続するための入出力端子です。

⑨ PTT

フットスイッチなどの外部スイッチによって送受信切換操作を行うときに使用する端子です。この端子を短絡させると送信状態、開放にすると受信状態になります。

なお、この端子の開放時の電圧は5V、短絡時の電流は1mAです。

⑩ REC

受信音と送信音 (モニタースイッチを“ON”にしたとき) のオーディオを出力することができます。録音機を接続すると送受信音を録音することができる端子です。

【AF GAIN】ツマミの位置に関わらず、受信と送信共に約30mV_{p-p}(10k Ω)の一定出力になります。

⑪ REM

オプションのリモートコントロールキーボード“FH-2”を接続する端子です。端子は金メッキ仕様となっています。

⑫ EXT SPKR

外部スピーカー(4Ω~8Ω)を接続するためのモノラルジャックです。

このジャックに外部スピーカーを接続すると、内蔵スピーカーの動作は停止します。

端子は金メッキ仕様となっています。

⑬ KEY

CWモードで運用するとき使用する電鍵を接続するための端子です。

⑭ μ-TUNE

オプションのRF μ Tuning Kit のコントロール系ケーブルを接続する端子です。

キャップを取り付けてありますので、ケーブルを接続するときは、キャップを外してください。

⑮ DMU

オプションのデータマネージメントユニットDMU-2000を接続するための端子です。

キャップを取り付けてありますので、ケーブルを接続するときは、キャップを外してください。

⑯ CAT

パソコン接続用のRS-232C端子です。

この端子に市販のRS-232C用ストレートケーブルを使用してパーソナルコンピュータを接続することにより、各種のコントロール(CAT運用)が行えるようになります。

⑰ PGM SW

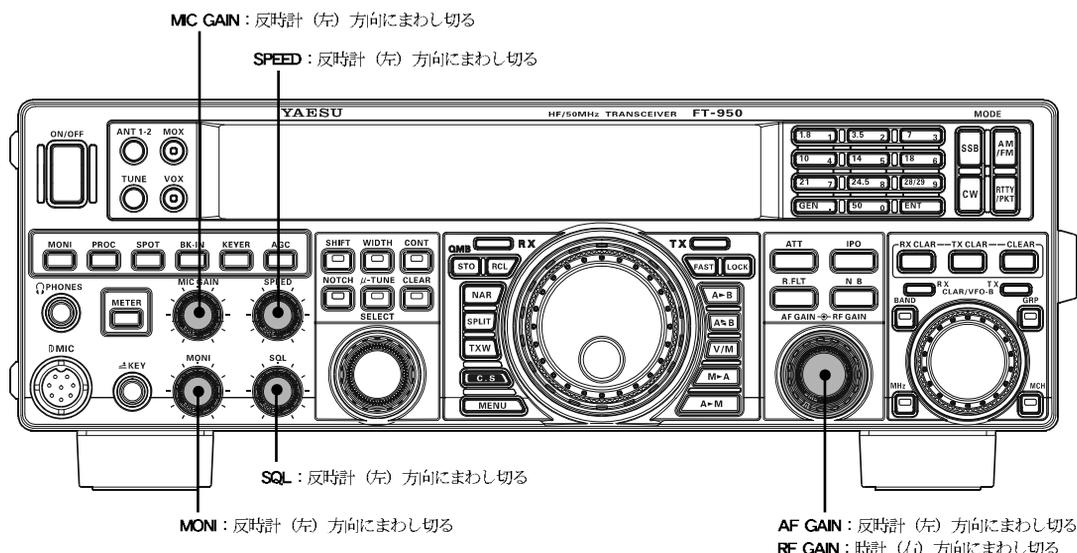
ファームウェアをアップデートする時のスイッチです。アップデートの仕方はWDXCのホームページを参照してください。

基本操作 (アマチュアバンドを受信する)

電源を入れる前に

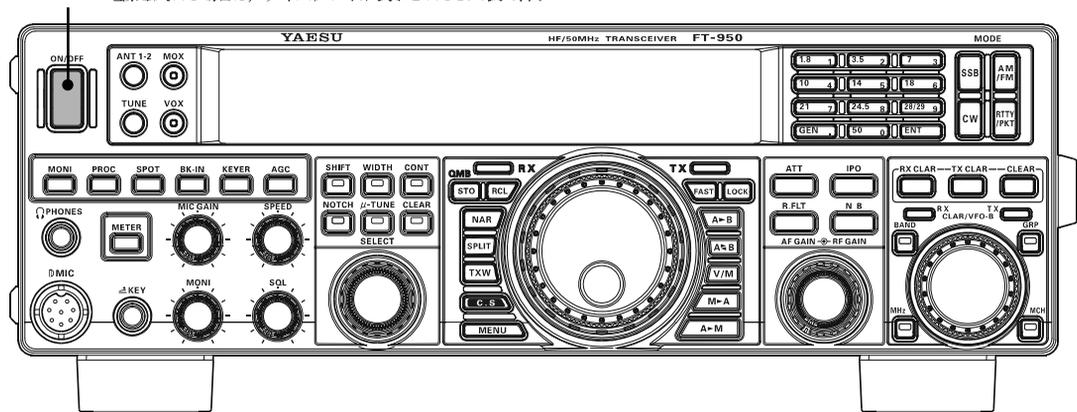
電源を入れる前に下記のことがらをもう一度ご確認ください。

- 市販の直流電源は正しく接続されていますか？ (☞ p.4, 20)
- アースは正しく接続されていますか？ (☞ p.19, 20)
- アンテナは正しく接続されていますか？ (☞ p.19, 20)
- マイクロホンや電鍵は正しく接続されていますか？ (☞ p.21, 22)
- リニアアンプを接続される場合は、正しく接続されていますか？ (☞ p.23)
- 【AF GAIN】 ツマミを反時計(左)方向にまわしきり、音量を下げてください。
- 電源を入れる前に、下図を参考にパネル面のツマミ、スイッチを設定してください。



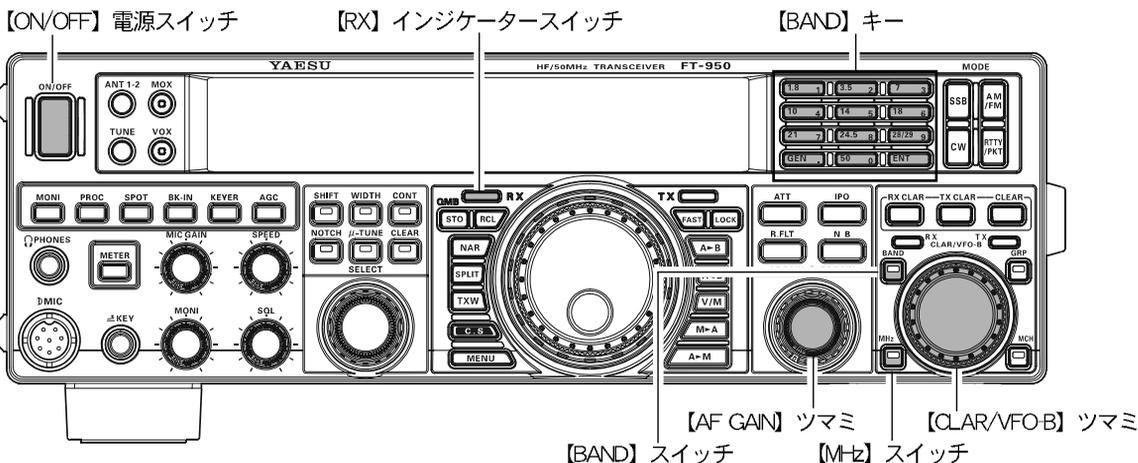
- 電源電圧の変動、またはその他の原因で製品が正常な動作をしなくなった場合は、FT-950の電源スイッチを長く押し続けて(ディスプレイの表示が消えます)電源を切ります。市販の直流電源の電源スイッチを切り、電源コードを抜いてください。数秒たってから、ふたたび電源コードを接続して市販の直流電源の電源スイッチを入れてさらにFT-950の【電源】スイッチを入れてください。

電源スイッチ : 電源を切る場合は、ディスプレイの表示が消えるまで長く押し
電源を入れる場合は、ディスプレイが表示されるまで長く押し



基本操作 (アマチュアバンドを受信する)

操作方法

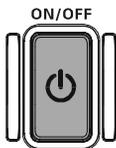


受信操作

1. 市販の直流電源の電源スイッチを入れます。

2. FT-950の【ON/OFF】電源スイッチをディスプレイの表示が出るまで長く押し続けて電源を入ります。

電源を切るには、FT-950の【ON/OFF】電源スイッチを長く押し続けて切り、さらに市販の直流電源の電源スイッチを切ります。



3. セルフチェックが終了すると、7,000.00MHzの周波数をLSBモードで受信することができます。

次に電源を入れるときにはバックアップ機能により、電源を切ったときの運用状態を再び表示します。

ワンポイント

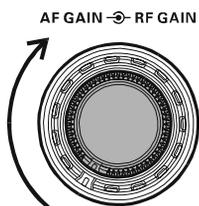
- 【ON/OFF】電源スイッチを押して電源を入れると、約5秒で動作が可能となります。
- 電源が入っているときに【ON/OFF】電源スイッチを短く押すと、スピーカーからの受信音を3秒間ミュートすることができます。

4. 【AF GAIN】ツマミをまわして音量を調節します。

時計(右)方向にまわすほど受信音が大きくなります。

ご注意

ヘッドホンを接続するときは、【AF GAIN】ツマミを反時計(左)方向にまわして、音量を最低にしてください。その後、聞きやすい位置に調節してご使用ください。



5. VFO-Aの【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯しているか確認してください。点灯していない場合は【RX】インジケータースイッチを押してVFO-Aを選択します。



アドバイス

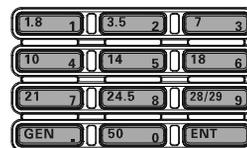
スイッチが緑色に点灯しているときに、もう一度スイッチを押すと緑色に点滅して、音量を一時的にミュートするミュート機能になります。

6. 【BAND】スイッチを押して、受信するバンドを選びます。

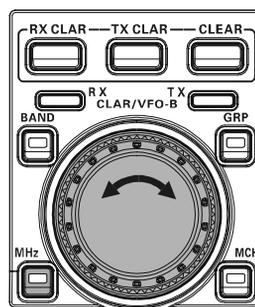
1.8MHzから50MHzのアマチュアバンドをワンタッチで呼び出すことができます。

アドバイス

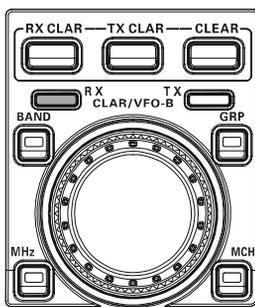
- バンドを選択すると“バンドスタック機能”により、バンドを切り換える直前に設定してあった運用状態(周波数や電波型式など)を、各アマチュアバンドごとに3つずつ記憶することができます。バンドスタック機能については50ページを参考にしてください。



- 【BAND】スイッチを押し【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすとアマチュアバンドを切り換えることができます。また、【MHz】スイッチを押すと、【CLAR/VFO-B】ツマミがVFO-Aの1MHzアップダウンツマミとして機能します。

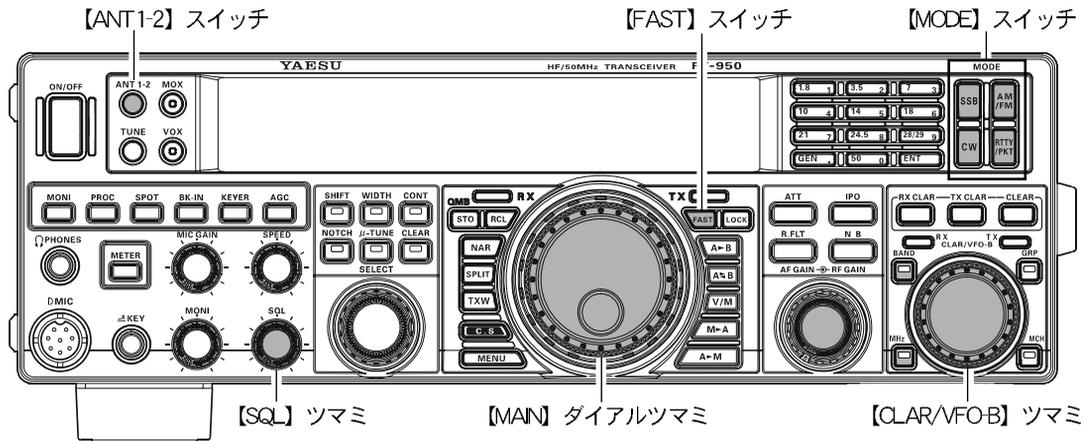


- 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押すと、【CLAR/VFO-B】ツマミでVFO-Bの運用周波数を設定することができます。詳しくは48ページを参考にしてください。



基本操作 (アマチュアバンドを受信する)

操作方法(つづき)



7. 【ANT 1-2】スイッチを押して使用するアンテナを選択します。

アドバイス

バンドを選択してアンテナを切り換えると、選択したアンテナの情報をご各バンドごとに自動的に記憶します。次回から、バンドを選択するだけで自動的にアンテナが切り換わります。



8. 【MODE】スイッチを押して希望の運用モード(電波型式)を設定します。

【SSB】を押すごとに

LSB⇄USBと切り替わります。

【CW】を押すごとに

USB CW⇄LSB CWと切り替わります。

【AM/FM】を押すごとに

AM⇄FMと切り替わります。

【RTTY/PKT】を短く押すごとに

LSB RTTY⇄LSB PKTと切り替わります。

さらにLSB RTTYを選択後、【RTTY/PKT】を1秒間押すごとに、

LSB RTTY⇄USB RTTYと切り替わります。

さらにLSB PKTを選択後、【RTTY/PKT】を1秒間押すごとに、

LSB PKT⇄USB PKT⇄FM PKTと切り替わります。

アドバイス

○ SSBモードに関しては、一般的に7MHz以下のバンドではLSBモード、10MHz以上のバンドではUSBモードで運用します。

○ 運用モードをCWモードに切り換えると、SSBモードとくらべCWモードではPITCH周波数分だけオフセットした周波数を表示しますが、好みによってCWモード時でもPITCH周波数分オフセットせずにSSBモードと同じ表示周波数を表示することができます(メニューモード「047 A1A FRQDISP」)。

○ FMモードで受信する場合は、【SQL】ツマミをまわしてスケルチを調節します。

【SQL】ツマミを時計(右)方向にまわしていくと、ノイズが聞こえなくなります。時計方向にまわしすぎると、弱い信号が受信できなくなりますので、相手局の信号強度にあわせて【SQL】ツマミを調節してください。

9. 【MAIN】ダイアルツマミをまわして希望の周波数にあわせませす。

時計(右)方向にまわすと1ステップずつ周波数が高くなり、反時計(左)方向にまわすと1ステップずつ周波数が低くなります。

なお、【MAIN】ダイアルツマミの1ステップの周波数変化量(ステップ幅)は下表に示すように、設定してある電波型式と【FAST】スイッチの状態により異なります。

運用モード(電波型式)	1ステップ	1回転
LSB, USB, CW, AM	10Hz	10kHz
RTTY, PKT(LSB, USB)	[100Hz]	[100kHz]
FM, PKT(FM)	100Hz	100kHz
	[1kHz]	[1MHz]

[]: 【FAST】スイッチが“ON”のときの値(ディスプレイに**FAST**が表示されます)

アドバイス

- AM, FM, FM-PKTモード時に【SELECT】ツマミをまわすと±5kHz(【FAST】スイッチが“ON”のときは±50kHz)で周波数変化量(ステップ幅)が変化します。【SELECT】ツマミがDSP機能の操作ツマミとして動作しているときはこの機能をOFFにしてください。OFFにする方法として、CONT, NOTCH, μ -TUNEのいずれかのLEDが点灯しているときは【SHIFT】スイッチまたは【WIDTH】スイッチを押してOFFにしてください。

- 【MAIN】ダイアルツマミおよび【CLAR/VFO-B】ツマミの1ステップさせたときの周波数変化量をCWモードの時に、自動的に変更することができます(メニューモード「084 TUN DIAL STP, 085 TUN CW FINE」)。

- 【MAIN】ダイアルツマミおよび【CLAR/VFO-B】ツマミの1ステップさせたときの周波数変化量をCWモードの時に、自動的に変更することができます(メニューモード「084 TUN DIAL STP, 085 TUN CW FINE」)。

- FM/FM-PKTモード時の【MAIN】ダイアルツマミおよび【CLAR/VFO-B】ツマミの1ステップあたりの周波数変化量を変更することができます(メニューモード「089 TUN FM DIAL」)。

- VFO-Aの周波数を変える方法は、【MAIN】ダイアルツマミをまわすほかに、大きく周波数を変えたい場合には下記の方法でも可能です。詳しくは52ページを参考にしてください。

- ・ 数字キーから直接周波数を設定する方法
- ・ 【CLAR/VFO-B】ツマミで1MHzステップずつ周波数を設定する方法
- ・ マイクロホンのUP/DOWNスイッチによる方法

ワンポイント

- 本機のスイッチやキーを押したときのピープ音の音量レベルを変更することができます(メニューモード「025 GENE BEP LVL」)。

- 基準周波数の校正をすることができます。経年経過により周波数がずれた場合は調節してください(メニューモード「035 GENE FRQ ADJ」)。

受信操作

基本操作 (アマチュアバンドを受信する)

送信周波数を変えずに受信周波数だけを変える (CLAR: クラリファイア)

- VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

送信周波数を変えずに受信周波数だけを変えることができます。VFO-A または VFO-B の受信周波数を個別に設定することが可能です。相手の送信周波数がずれている場合にこちらの送信周波数をそのままにして受信周波数だけを動かしたり、コンテストなどで意識的に送信周波数を動かしてパイルアップの中で相手局の注意を引くような場合に使用するクラリファイアは、メニューモードの設定によりその動作状態を【MAIN】ダイヤルツマミと周波数表示部の間に設けた BAR ディスプレイに表示することもできます。アナログ感覚で送受信周波数のずれを表示しますから、ローカルラグチューなどで複数の局と交信をしている時でもどの局がどの程度送受信周波数がずれているのかが瞬時に確認できます。

◎ VFO-A の場合

VFO-Aを受信中に【RX CLAR】スイッチを押し、【CLAR/VFO-B】ツマミをまわすと、オフセット量だけ VFO-A の受信周波数が変わります。

- 周波数ディスプレイ内のマルチディスプレイ内に“RX”，マルチディスプレイ下に“CLAR”が表示されます。
- 調節範囲は最大± 9.999kHz です。

◎ VFO-B の場合

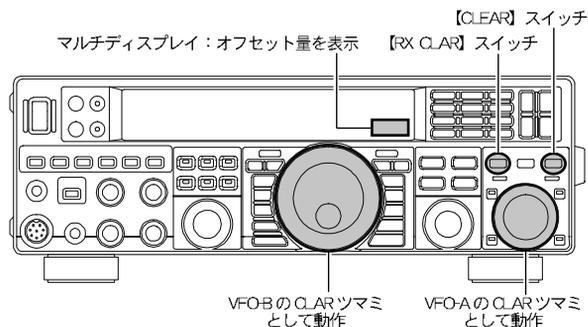
VFO-Bを受信中 (☞p.7, 48) に【RX CLAR】スイッチを押し、【MAIN】ダイヤルツマミをまわすと、オフセット量だけ VFO-B の受信周波数だけが変わります。

- 周波数ディスプレイ内のマルチディスプレイ内に“RX”，マルチディスプレイ下に“CLAR”が表示されます。
- 調節範囲は最大± 9.999kHz です。

一時的に RX CLAR を解除するには、【RX CLAR】を押します。

マルチディスプレイ内の“CLAR”の表示が消えます。

オフセット量を“ゼロ”にしたいときには、【CLEAR】スイッチを押します。



アドバイス

- 受信クラリファイア機能の動作を“OFF” (解除) にしても、オフセット量 (送信周波数と周波数の差) はそのまま保持されます。オフセット量を“ゼロ”にしたいときには、【CLEAR】スイッチを押します。
- 受信周波数と送信周波数の差 (オフセット量) は、周波数ディスプレイ内のマルチディスプレイに表示されます。
- TX CLAR: 受信周波数を変えずに送信周波数だけを変えることができます (☞p.83)。

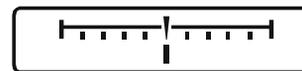
BAR ディスプレイによるオフセット量の表示

通常 BAR ディスプレイは、CW モードのゼロイン機能を表示しますが、メニューモードの設定を変えることによって、VFO-A (または VFO-B) の周波数とクラリファイア周波数との差をアナログ感覚で表示することができます。

1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、“メニューモード「006 DISP BAR SEL」”を呼び出します。【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、“CLAR”を選択します (工場出荷時 C-tn (CW-TUNE))。
4. 【MENU】スイッチを約 1 秒間押すと、設定内容が保存されメニューモードが終了します。



受信周波数と送信周波数のオフセット量がプラスの場合



受信周波数と送信周波数が同じ場合



受信周波数と送信周波数のオフセット量がマイナスの場合

基本操作 (アマチュアバンドを受信する)

誤って【MAIN】ダイヤルツマミに触れても周波数が変わらないようにする (LOCK)

- VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

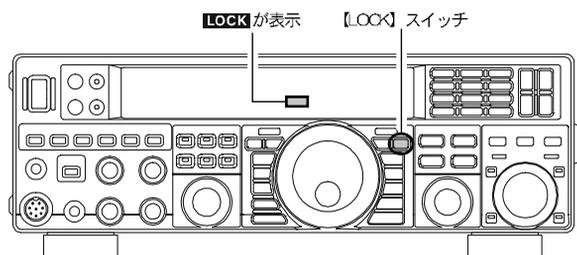
誤って【MAIN】ダイヤルツマミに触れても周波数が変わらないよう、【MAIN】ダイヤルツマミの動作をロックすることができます。

【MAIN】ダイヤルツマミの右上にある【LOCK】

スイッチを押すとロックします。

周波数ディスプレイに**LOCK**が表示されます。

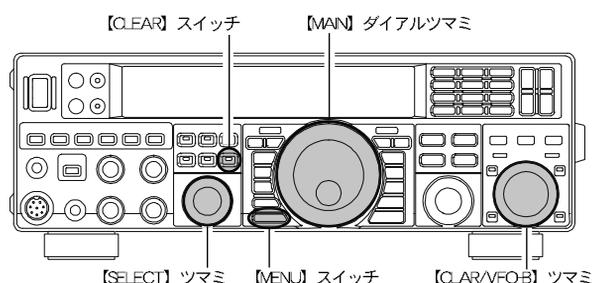
ロックを解除するには、もう一度【LOCK】スイッチを押します。



ディスプレイの明るさを調節する (DM: デイマー)

ディスプレイの明るさ(照度)を切り換えることができます。

1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、“メニューモード「005 DISP DIM VFD」”を呼び出します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、明るさ(0: 暗い~ 15: 明るい)を調整します(工場出荷時: 8)。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと、設定内容が保存されメニューモードが終了します。



便利な機能

VFO-B による受信

FT-950にはVFO-A専用の【MAIN】ダイヤルツマミとVFO-B専用の【CLAR/VFO-B】ツマミが用意されており、個別に周波数を設定することができます。

1. 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押してVFO-Bの受信部を“ON”にします。

アドバイス VFO-Bの【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯し、VFO-Aの【RX】インジケータースイッチは消灯します。
VFO-Bの【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯中に【RX】インジケータースイッチを押すと、緑色に点滅し受信音を一時的に“OFF”にするミュート機能が動作します。もう一度【RX】インジケータースイッチを押すと緑色に点灯しミュート機能がOFF”になります。

2. 【AF GAIN】ツマミをまわして音量を調節します。
【AF GAIN】ツマミはVFO-AとVFO-B共通のツマミです。
3. 【BAND】キーを押して、受信するバンドを選びます。
4. 【MODE】スイッチを押して、運用モード（電波型式）を選びます。

アドバイス SSBモードに関しては、一般的に7MHz以下のバンドではLSBモード、10MHz以上のバンドではUSBモードで運用します。

5. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして希望の周波数にあわせます。

時計(右)方向にまわすと1ステップずつ周波数が高くなり、反時計(左)方向にまわすと1ステップずつ周波数が低くなります。

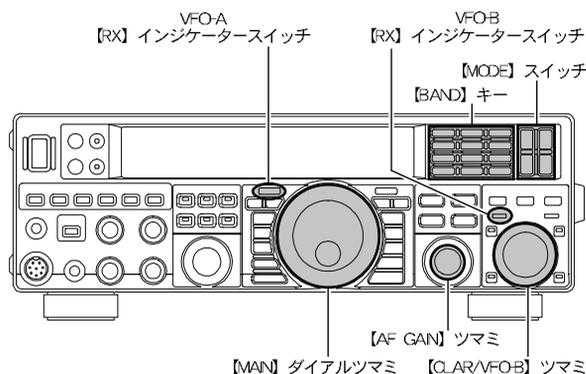
なお、1ステップの周波数変化量(ステップ幅)は下表に示すように、設定してある電波型式と【FAST】スイッチの状態により異なります。

運用モード(電波型式)	1ステップ	1回転
SSB(LSB, USB), CW, AM, RTTY, PKT(LSB, USB)	10Hz [100Hz]	2kHz [20kHz]
FM, PKT(FM)	100Hz [1kHz]	20kHz [200kHz]

[]: 【FAST】スイッチが“ON”のときの値
(ディスプレイに**FAST**が表示されます)

6. VFO-Bの受信を解除するには、VFO-Aの【RX】インジケータースイッチを押すとVFO-Bの【RX】インジケータースイッチのLEDは消灯します。

VFO-Bの受信動作が停止し、VFO-Aの受信動作を開始します。



- アドバイス**
- 【FAST】スイッチを押すと【CLAR/VFO-B】ツマミの周波数変化量がSSB(LSB, USB), CW, RTTY, PKT(LSB, USB)の場合は100Hz/1step変化し、AM, FM, PKT(FM)の場合は1kHz/1step変化します。
 - 【CLAR/VFO-B】ツマミの周波数変化量を設定することができます。なお、【MAIN】ダイヤルツマミと共通で、個別に設定することはできません(メニューモード「084 TUN DIAL STP」)。
 - 運用モード(電波型式)の切り換えを行っても、キャリア周波数は変わらずに表示周波数が変化する“キャリア周波数固定切替方式”に変更することができます(メニューモード「047 A1A FRQDISP」)。
 - FMモードを受信する場合は、【SQL】ツマミをまわしてスケルチを調節します。
【SQL】ツマミはVFO-AとVFO-B共通です。
【SQL】ツマミを時計(右)方向にまわして行くと、ノイズが聞こえなくなります。あまり時計方向にまわしすぎると、弱い信号が受信できなくなりますので、ノイズがカットされる付近に【SQL】ツマミを調節してください。
 - VFO-Bの【TX】インジケータースイッチを押すと赤色に点灯し、VFO-B側の周波数で送信することができます(☞p. 84)。

マイバンド機能

VFO-A のアマチュアバンド（周波数帯）を変えたい時は、【BAND】スイッチを押して【CLAR/VFO-B】ツマミまわすことによって、アマチュアバンド内を移動することができますが、マイバンド機能を使えば、運用するアマチュアバンドだけをあらかじめ選んで呼び出すことができます。コンテストなどで運用するバンド間のみ移動する場合や、マルチバンド用アンテナを使用して運用バンドが限られている場合などに便利な機能です。

◎ マイバンド機能の登録

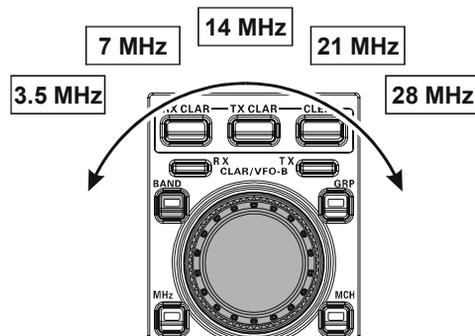
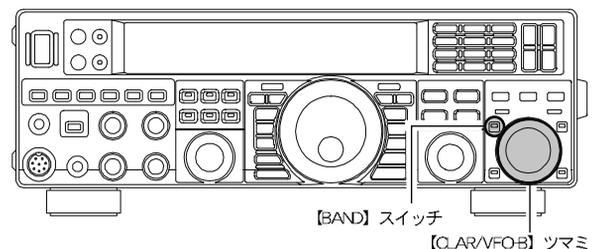
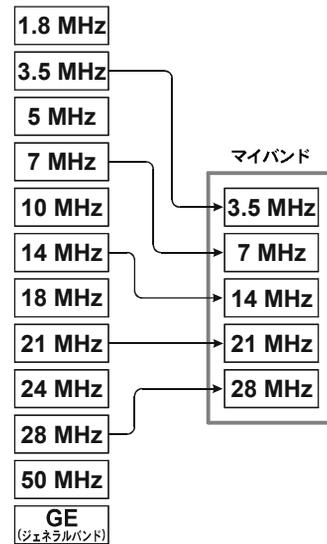
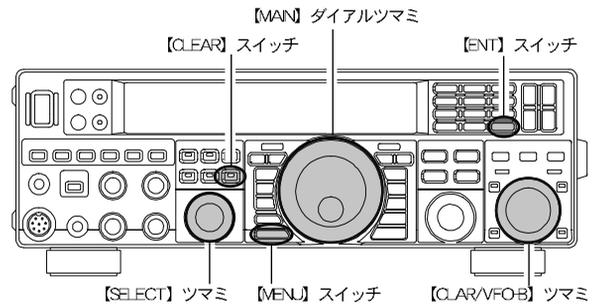
1. 【MENU】スイッチを短く押すと、周波数ディスプレイにメニューモードが表示されます。
2. 【SELECT】ツマミ（または【MAIN】ダイヤルツマミ）をまわして、“メニューモード「090 TUN MY BAND」”を呼び出します。【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、運用したいバンド（マイバンド）を選びます。
1.8/3.5/7/10/14/18/21/24/28/50/GE
から選択できます。
GE：ジェネラルバンド
マルチディスプレイに設定バンドが表示されます。
1.8 MHz 帯の場合はマルチディスプレイ内に“1.8 E”と表示され、「1.8MHz帯を運用するバンド（マイバンド）」として選択されていることをあらわします。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【BAND】キーの【ENT】を押して“E (ENABLE)”にします。
“E (ENABLE)”にすると“運用するバンド”として選択され、“d (DISABLE)”にすると“運用しないバンド”としてスキップされます。

例 1.8MHz帯の場合は、下記のように表示されます。
“E (ENABLE)”で登録した場合：1.8 E
“d (DISABLE)”で登録した場合：1.8 d

5. 操作 3. 4. を繰り返し、運用したいバンドを“E (ENABLE)”にします。
6. 【MENU】スイッチを約 1 秒間押すと、設定内容が保存され、メニューモードが終了します。

◎ マイバンド機能の操作

1. 【BAND】スイッチを押すと、スイッチの LED が橙色に点灯します。
2. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、希望のバンドを選択します。



運用するバンドのみを選択することができます。

便利な機能

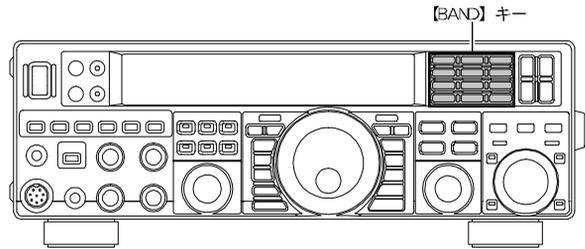
バンドスタック機能

本機は“バンドスタック機能”により、バンドを切り換える直前に設定してあった運用状態（周波数や電波型式など）を、各アマチュアバンドごとに3つずつ記憶することができます。ペディションやコンテストなど、同じバンドで周波数やモードを変えて交信する場合に大変便利です。下表は、VFO-AとVFO-Bの初期値（工場出荷時）です。バンドスタックはVFO-Aだけでなく、VFO-Bにも有効です。

例 14MHz帯で異なる周波数と運用モードを3つのバンドスタックに記憶する方法

1. 14.0250MHz, CWモードにして【BAND】キーの【14】を押します。
2. 14.0800MHz, RTTYモードにして【BAND】キーの【14】を押します。
3. 14.1950MHz, USBモードにして【BAND】キーの【14】を押します。

この記憶された3つの運用状態を呼び出すには、【BAND】キーの【14】を繰り返し押すことにより、順次呼び出すことができます。

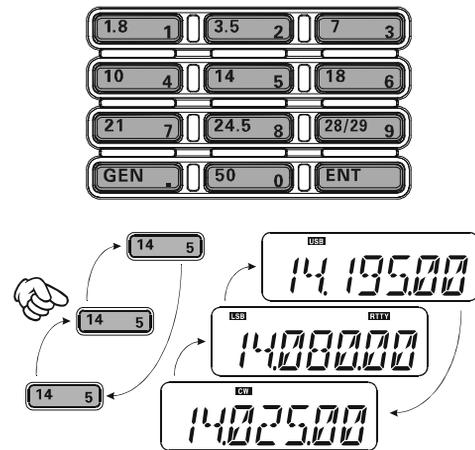


アドバイス

あらたに3つ以上バンドスタックへ記憶すると、以前メモリーした内容は古い順番で上書きされて新しい内容がバンドスタックにメモリーされます。

バンド スイッチ	バンドスタック 1		バンドスタック 2		バンドスタック 3	
	周波数 (MHz)	モード	周波数 (MHz)	モード	周波数 (MHz)	モード
1.8	1.800000	CW	1.800000	CW	1.800000	CW
3.5	3.500000	LSB	3.500000	LSB	3.500000	LSB
7	7.000000	LSB	7.000000	LSB	7.000000	LSB
10	10.100000	CW	10.100000	CW	10.100000	CW
14	14.000000	USB	14.000000	USB	14.000000	USB
18	18.068000	USB	18.068000	USB	18.068000	USB
21	21.000000	USB	21.000000	USB	21.000000	USB
24	24.890000	USB	24.890000	USB	24.890000	USB
28	28.000000	USB	28.000000	USB	28.000000	USB
50	50.000000	USB	50.000000	USB	50.000000	USB
GEN	15.000000	USB	15.000000	USB	15.000000	USB

ATT, IPO, R.FLT, NB (ON/OFFのみ), SHIFT, WIDTH, DNF, NOTCH, DNR, CONT の情報もバンドスタックに記憶されます。ANT はメニューモードの「024 GENE ANT SEL」を「REG(STACK)」に選択すると記憶することができます。



C.S (カスタムセレクション) スイッチ

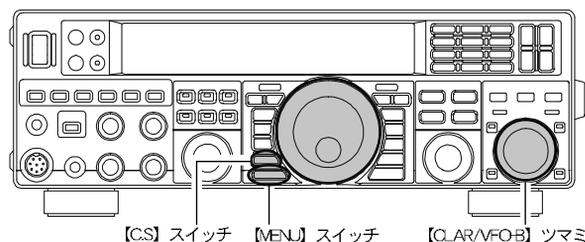
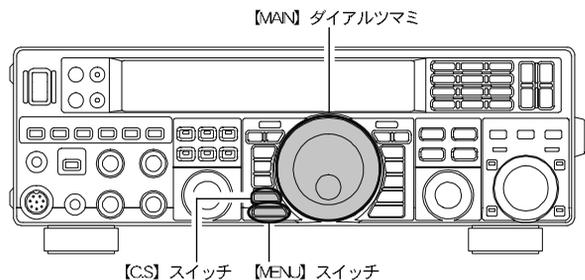
よく使うメニューモードの機能の中から一つを選択して、その機能をワンタッチで呼び出すことができます。

◎ 登録のしかた

1. 【MENU】スイッチを短く押すと、周波数ディスプレイにメニューモードが表示されます。
2. 【SELECT】ツマミ（または【MAIN】ダイヤルツマミ）をまわして、登録したいメニューモードを呼び出します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【C.S】スイッチを約1秒間押して、メニューモードを【C.S】スイッチに登録します。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押して、メニューモードを終了します。

◎ 呼び出し方

1. 【C.S】スイッチを短く押します。
2. 周波数ディスプレイにメニューモードが表示され、【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして設定を変更したあと、【MENU】スイッチを約1秒間押してメニューモードを終了します。



ローテーターコントロール機能

背面の ROT (ROTATOR) 端子にオプションのアンテナローテーター (G-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA または G-2800DXA) をオプションの CONNECTION ケーブル (T9101556) で接続すると、本機からアンテナローテーターをコントロールすることができます。CONNECTION ケーブルを接続するときは ROT 端子に取り付けてあるキャップを外してください。

初めてローテーターを接続するときは、ローテーターのオフセット設定をしてください (下記参照)。

1. 【BAND】キーの【ENT】を約1秒間押します。

周波数ディスプレイの表示がローテーターコントロール画面に切り替わります。

2. 【BAND】キーの【3.5/2】/【7/3】でアンテナの方向が変わります。

【3.5/2】/【7/3】を押している間だけアンテナが回転し、離すと回転が止まります。

アンテナが【3.5/2】で反時計(左)方向に回転し、【7/3】で時計(右)方向に回転します。2°ステップで回転・表示します。

【ご注意】 オプションのデータマネージメントユニット DMU-2000 を接続している場合は、ローテーターの操作方法は異なります。詳細は「DMU-2000 for FT-950 オペレーションマニュアル」を参照してください。

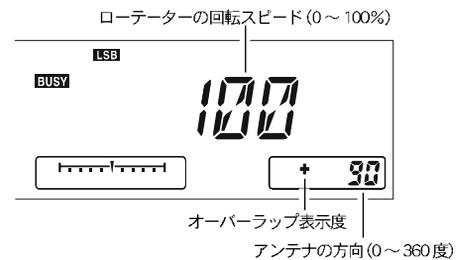
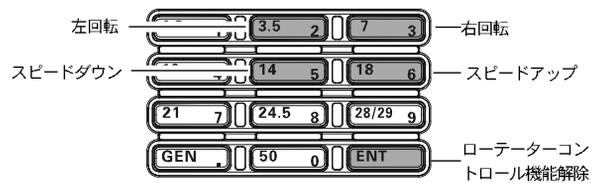
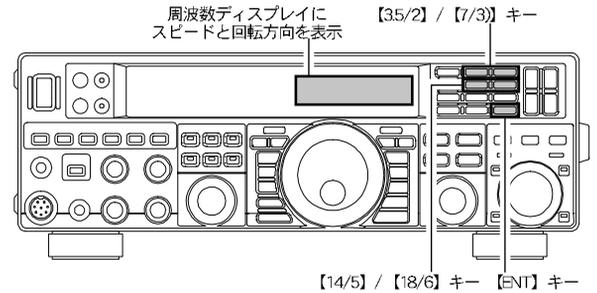
3. 【BAND】キーの【14/5】/【18/6】でローテーターの回転速度が変わります。

【14/5】で回転速度が遅くなり、【18/6】で速くなります。アンテナの方向を変えながら回転速度を変えることはできません。

ローテーターコントローラーの SPEED ツマミの位置と本機側の速度表示とは異なります。ローテーターのコントロールしている操作側に優先されます。

ローテーターコントロール機能を解除するには、【BAND】キーの【ENT】を短く押します。

周波数ディスプレイの表示が元の画面に戻ります。



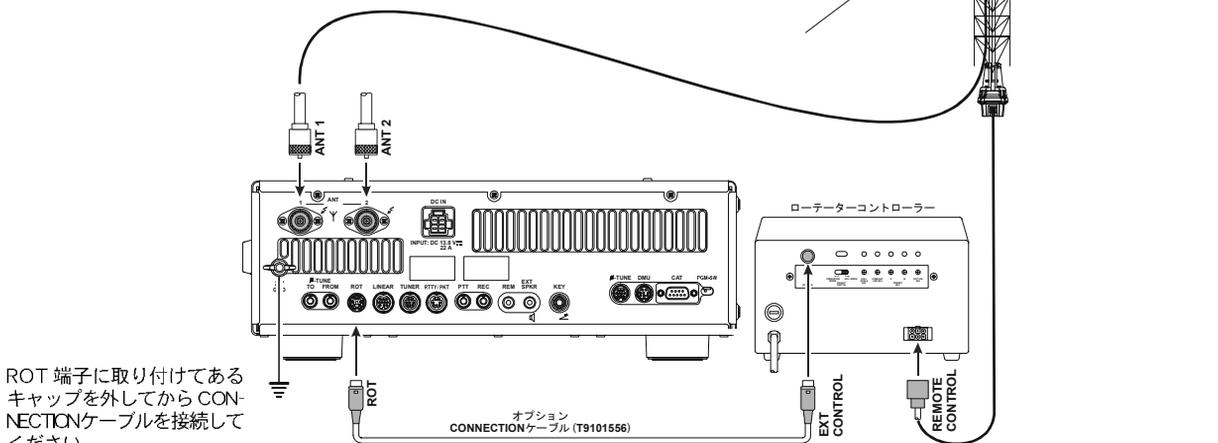
【アドバイス】 ローテーターの基点を変更することができます (メニューモード「011 DISP RTR STU」)。

オフセット設定

本機にローテーターを接続し (下図参照)、ローテーターコントローラーと本機の電源を“ON”にします。

ローテーターコントローラーにより、アンテナ方向の指示を0°に設定すると同時に、本機のディスプレイへアンテナの方向を表示します。ローテーターコントローラーの0°の指示と比べ、本機のディスプレイが何度を指示しているか確認します。もし0°の場合はオフセットの変更は必要ありません。

例として、本機のディスプレイが“2”と表示されている場合は、本機の【ENT】キーを短く押してローテーターコントロール機能を解除してから、メニューモードの「012 DISP RTR AJD」を呼び出し、オフセット値を“-2”に設定してください。



ROT 端子に取り付けてあるキャップを外してから CONNECTION ケーブルを接続してください。

MAIN ダイアルツマミ以外の周波数の設定方法

■ 数字キーから直接周波数を設定する方法

運用周波数は、数字キーから周波数を直接入力して設定することができます。



例1 VFO-A に 14.250.000MHz の周波数を設定する場合

1. 【MAIN】ダイアルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押して、VFO-A の設定に切り替えます。
【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯しているか確認します。
2. 【BAND】キーの【ENT】を短く押します。
○ VFO-A の 10MHz 桁の表示が点滅して、設定可能状態になります。
○ 約 10 秒間放置するとキャンセルされます。
3. 【BAND】キーの数字キーにより運用周波数を入力します。
○ 10MHz の桁から 1Hz の桁まで順番に入力します。
【18/1】⇒【10/4】⇒【35/2】⇒【14/5】⇒【50/0】⇒【50/0】⇒【50/0】⇒【50/0】
○ 入力中、約 10 秒間放置すると入力がキャンセルされます。
4. 再び【BAND】キーの【ENT】を短く押して設定終了です。

例2 VFO-B に 7.050.000MHz の周波数を設定する場合

1. 【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押して、VFO-B の設定に切り替えます。
【RX】インジケータースイッチが緑色に点灯しているか確認します。
2. 【BAND】キーの【ENT】を短く押します。
○ VFO-B の 10MHz 桁の表示が点滅して、設定可能状態になります。
○ 約 10 秒間放置するとキャンセルされます。
3. 【BAND】キーの数字キーにより運用周波数を入力します。
○ 1MHz の桁から 1Hz の桁まで順番に入力します。
【2/17】⇒【GEN./】⇒【50/0】⇒【14/5】⇒【50/0】⇒【50/0】⇒【50/0】⇒【50/0】
○ 入力中、約 10 秒間放置すると入力をキャンセルされます。
4. 再び【BAND】キーの【ENT】を短く押して設定終了です。

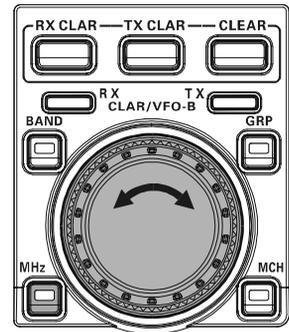
- アドバイス**
- 14.250.00MHz から 21.250.00MHz へ切り換えるときのように、ある桁以下の周波数が同じ(この場合は 100kHz 以下の周波数)で書き換える必要のない場合には、その桁の入力が済みしたら【BAND】キーの【ENT】を短く押して、設定操作を終了することができます。
 - 本機の受信周波数範囲外の周波数 (30kHz 以下または 56.000.00MHz 以上の周波数) を入力したときにも、ダイレクト・チューニング操作を行う前の運用周波数に戻りますので、正しい周波数を入力し直してください。

■ 【CLAR/VFO-B】ツマミでVFO-Aの運用周波数を 1MHz ステップで設定する方法

【MHz】スイッチを押して、【CLAR/VFO-B】ツマミをまわします。

スイッチの LED が橙色に点灯します。

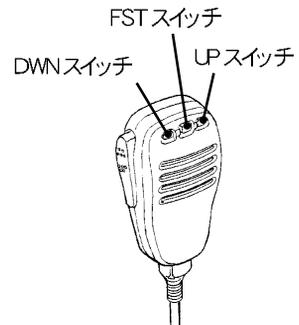
【CLAR/VFO-B】ツマミを時計(右)方向にまわすと、VFO-A の運用周波数を 1MHz ステップで高くすることができます。また、反時計(左)方向にまわすと 1MHz ステップで低くすることができます。



■ 付属のハンドマイク MH-31B8 の UP/DWN スイッチによる方法

VFO-A の運用周波数は、マイクロホンの UP/DWN スイッチでも設定することができます。

SSB/CW モード時は、マイクロホンの UP/DWN スイッチが【MAIN】ダイアルツマミと同じステップで周波数が変化します。



FST (FAST) スイッチを押してマイクロホンの UP/DWN スイッチを押すと、周波数が大きく変化します。

周波数変化量(ステップ幅)は下表に示すように、設定してある電波型式と FST スイッチの状態により異なります。

運用モード (電波型式)	UP	DWN	FST+UP	FST+DWN
LSB, USB, CW, RTTY, PKT(LSB, USB)	+10-hz	-10-hz	+100-hz	-100-hz
AM, FM, PKT(FM)	+5k-hz	-5k-hz	+50k-hz	-50k-hz

- アドバイス**
- LSB, USB, CW, RTTY, PKT(LSB)モード時の UP/DOWN スイッチの周波数変化量を変更することができます(メニューモード「084 TUN DIAL STP」)。
 - LAM/FM モード時の UP/DOWN スイッチの周波数変化量を変更することができます(メニューモード「087 TUN AM STEP, 088 TUN FM STEP」)。

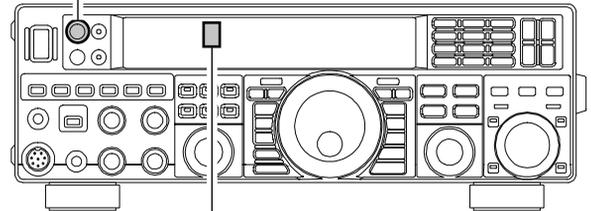
ANTENNA SELECT

2本の送受信用アンテナを切り換えることができます。ANT-1にHF用、ANT-2に50MHz用などの運用においてもワンタッチでアンテナ回路を切り換えることができます。

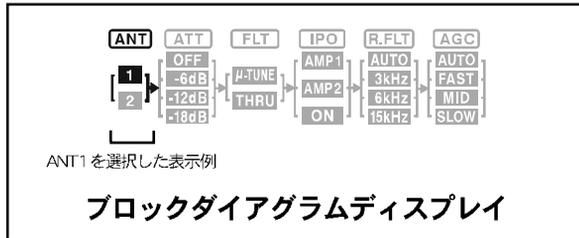
送受信用アンテナは【ANT 1-2】スイッチを交互に押しと本体背面に接続したANT1とANT2が切り換わり、2本のアンテナを使用することができます。

周波数ディスプレイに **1** または **2** が表示されます。

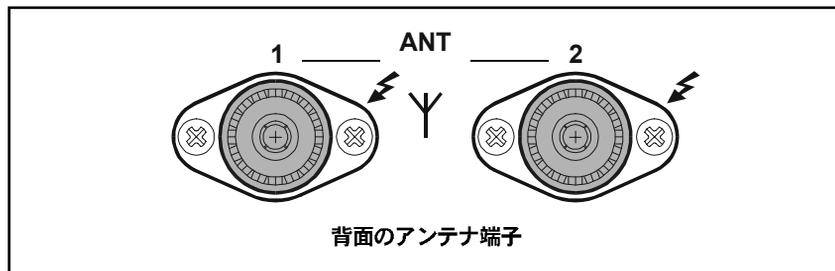
【ANTENNA】スイッチ
【1/2】



アンテナセレクトの表示部分



受信操作



受信時の多彩な機能

FT-950では、FT-2000で定評ある多彩な受信機能を搭載しています。強力な信号を受信するときには使用する通常の受信アッテネータ、IPO(RFフロントエンドの増幅アンプを通さずに信号を直接ミキサー回路に入力する回路)などのほかに、1st IF ステージで狭帯域化を可能にした3kHzのルーフィングフィルター、IFフィルターの通過帯域の輪郭をなめらかに減衰させる目的の信号を浮かび上がらせるCONTOUR機能、鋭いシェープファクターを持ったピート信号に効果的なIF NOTCH回路、IFフィルターの帯域幅、位置を動かして妨害信号を除去するSHIFTやWIDTH機能などさまざまな混信除去機能を搭載しています。

また、 μ 同調回路特有の急峻なシェープファクターによって強力な妨害信号を減衰させることのできる、RF μ Tuning kit をオプションとして用意しました。

μ -TUNE (RF μ Tuning kit : オプション) (I 56 p.56)

オプションのRF μ Tuning kit を接続すると、 μ 同調回路特有の急峻なシェープファクターによって強力な妨害信号を減衰させることができます。高速の高精度モーターで自動チューニングをとります。RF μ Tuning kit にはAタイプ (1.8MHz帯) Bタイプ、(3.5/7MHz帯)、Cタイプ (10/14MHz帯) の三種類を用意しています。

RFLT (狭帯域ルーフィングフィルター) (I 58 p.58)

69MHzの第1IF段に3kHz、6kHz、15kHzのルーフィングフィルターを搭載しました。1st IFを狭帯域化することにより妨害電波を効果的に減衰させることができます。

CONTOUR (コンツアー) 機能 (I 60 p.60)

DSPフィルタの通過帯域の輪郭をなめらかに変えることにより帯域内成分を部分的に減衰することができ、妨害信号を減衰させて目的の信号を浮かび上がらせることができます。減衰量、帯域幅をメニューモードで変えることができます。

SHIFT機能 (I 61 p.61)

帯域幅は変えずにフィルターを電氣的に最大 ± 1 kHz動かして、近接妨害波をフィルターの帯域の外に出して混信を軽減します。

WIDTH機能 (I 62 p.62)

通過帯域幅を可変して妨害信号をフィルターの帯域外に出すことにより混信を軽減します。

NOTCH (ノッチ) 機能 (I 64 p.64)

受信信号のピート音があるときには、マニュアルで不要なピート音を減衰することができます。減衰量が大きくフィルターのシェープファクターも鋭いノッチフィルターですからピート信号をほぼ完全に除去することができます。

DNF (デジタルノッチフィルター) 機能 (I 65 p.65)

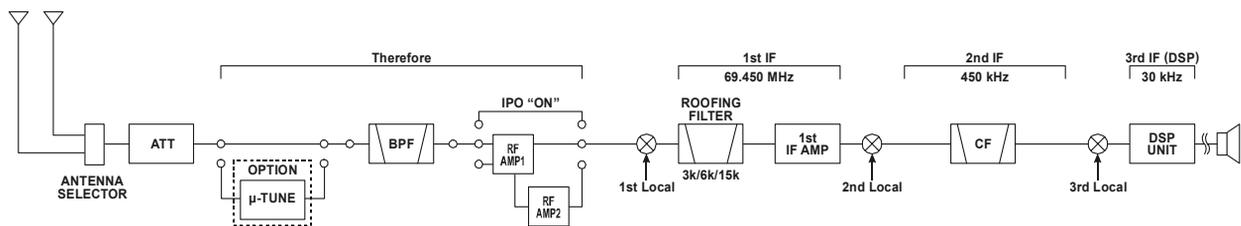
受信信号の中に複数の不要なピート音があるときは、自動的に追尾して軽減することができます。

DNR (デジタルノイズリダクション) 機能 (I 65 p.65)

DSPのデジタル処理によってノイズを低減する回路です。ノイズの種類によってパラメータを15段階に可変して、最適な動作ポイントを選び、ノイズ成分を減衰させて目的の信号を浮かび上がらせることができます。

AGC 機能 (I 68 p.68)

運用モード(電波型式)やフェージングなどの状態にあわせ、AGC回路の時定数を切り換えて受信することができます。



フロントエンドブロックダイアグラム

受信感度を低減させる

ATT - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

目的信号の信号強度が十分に強い場合や、ローバンドでノイズレベルが高い場合にアッテネータを入れてアンテナからの入力を減衰させることができます。ATTはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

【ATT】スイッチにより減衰量を3段階に切り換えることができます(下表参照)。

OFF ⇒ **-6dB** ⇒ **-12dB** ⇒ **-18dB** ⇒ **OFF** へ戻る

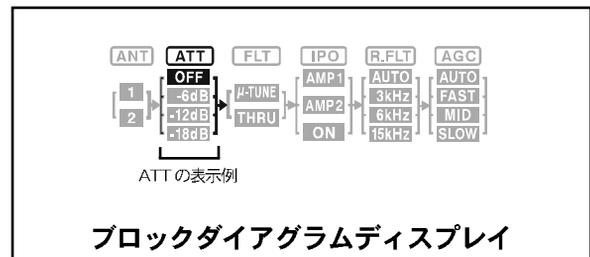
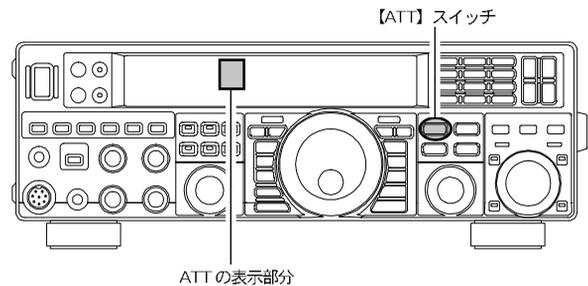
受信信号の強さに合わせて設定してください。

ATTを“OFF”にするには、ブロックダイアグラムディスプレイに **OFF** が表示されるまで【ATT】スイッチを数回押してください。

0dB	ATTがOFFになります
-6dB	0dBに対して1/2の減衰量になります
-12dB	0dBに対して1/4の減衰量になります
-18dB	0dBに対して1/8の減衰量になります

アドバイス

ノイズレベルが高い場合や、受信信号が強力な場合には、IPO, ATTの設定により、信号入力レベルを抑えることができます。SメーターがノイズレベルでS3以上程度振れてしまうような場合や、強力な受信信号でSメーターが+20dB以上になるような場合に使います。IPOは入力信号を減衰させるだけでなく、混変調特性を改善することができますから、初めにIPOを入れて、それでもまだ信号が強い場合には、ATTを使うようにすると効果的に入力信号やノイズを減衰させることができます。



数kHz以上離れた強力な妨害信号を減衰させる

μ-TUNEを使う：オプション -VFO-A, VFO-B 個別に設定可能-

オプションのRF μ Tuning Kitを接続すると、鋭いシェーブファクタを持ったRF μ同調回路により、数kHz以上離れた強力な妨害信号を減衰させることができます。自動的にμ同調回路が挿入され、ローバンドで問題となる強力な妨害信号を効果的に減衰します。さらに共振周波数をマニュアル操作で動かすことも可能です。RF μ Tuning Kitには、Aタイプ (1.8MHz帯)、Bタイプ (3.5/7MHz帯)、Cタイプ (10/14MHz帯)の3種類用意されております。RF μ Tuning Kitの接続方法は144ページを参照してください。

1. 【μ-TUNE】スイッチを短く押します。

【μ-TUNE】スイッチのLEDが点灯します。

2. 【SELECT】ツマミを短く押します。

μ-TUNE ⇒ THRU ⇒ μ-TUNE へ戻る

○ ブロックダイアグラムディスプレイに“μ-TUNE”が点灯します。

○ 受信周波数付近に自動で同調します。

3. 【SELECT】ツマミをまわして、最良のポイントへ設定します。

○ 【SELECT】ツマミをまわした間だけ、周波数ディスプレイの下にある“BARディスプレイ”に、μ-TUNEの同調周波数の位置をバーグラフで表示します (右下図参照)。

○ 【SELECT】ツマミの1クリック当たりの周波数変化量を変えることができます (メニューモード「032 GENE μ T DIAL」)。

○ 【SELECT】ツマミをまわした後【CLEAR】スイッチを押すと、受信周波数付近に自動で同調します。

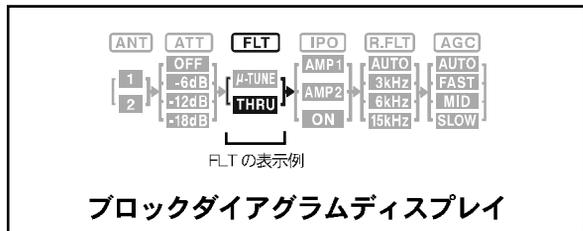
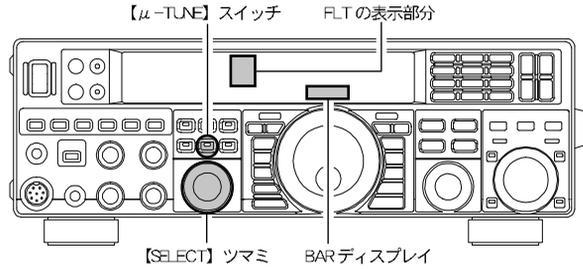
○ RF μ Tuning Kitを接続していない状態では、【μ-TUNE】スイッチを押すごとにブロックダイアグラムディスプレイの【FLT】にTHRUが表示されるか、またはμ-TUNE THRUが同時に表示されます。

○ THRUを選択したときは、フィルターが接続されずスルーの状態を受信回路に接続されますので、通常はこの状態で使用します。また、μ-TUNE THRUを選択する場合は、自作のバンドパスフィルター等をμ-TUNEのTO/FROM端子に接続する場合に選択します。

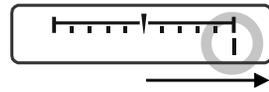
ご注意 μ-TUNE THRUを選択してをμ-TUNEのTO/FROM端子に何も接続しないと受信回路が接続されていない状態になり、何も聞こえませんのでご注意ください。

4. μ-TUNEを解除するには、もう一度【μ-TUNE】スイッチを押すか、または【SELECT】ツマミを押します。

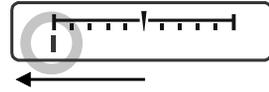
“THRU”が点灯し、受信時にμ-TUNE回路を通らなくなります。



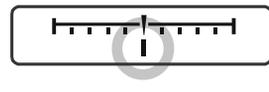
アマチュアバンド上限時



アマチュアバンド下限時



アマチュアバンドセンター時



※：アマチュアバンドとは国際バンドのプランを指します。

アドバイス 周波数ディスプレイの下にある“BARディスプレイ”に、常時μ-TUNEの同調周波数の位置をバーグラフで表示することができます (メニューモード「006 DISP BAR SEL」)。

- アドバイス**
- μ同調回路は、狭い急峻なフィルタ特性を持っていますので、近接の強力な妨害信号をカットしなければならないコンテスト運用時やローバンドにおける放送局等の強力な信号を減衰させたい時には大変効果的ですが、μ同調回路は信号系にアクティブ素子をいっさい使っていないことから、通常のBPF (バンドパスフィルター) と併用するために挿入損失が発生します。したがってμ同調回路を入れるとSメーターの振れが落ちます。混変調特性があまり問題ないような状況で挿入損失が気になる場合はOFFにしてください。
 - μ同調回路は、通常【μ-TUNE】スイッチを“ON”にしておけば、【MAIN】ダイヤルツマミをまわすとステッピングモーターによって自動的に最適な位置へ瞬時に移動しますので、手で調整をする必要はほとんどありません。ただし帯域内に入ってきている強力な妨害信号をμ同調回路のフィルタの肩で切りたいというような場合に、【SELECT】ツマミをまわしてもっとも効果のあるポイントを探してください。【SELECT】ツマミによって同調点を動かしたあとに元の位置に戻りたい場合は、【CLEAR】スイッチを押すと、μ同調回路は元の最適な同調点へ戻ります。

用語説明 μ同調回路は軍用に開発された技術で、狭帯域のフィルターの同調点を運用周波数に応じて連続的に動かしていくものです。同調点を動かす方法としては、L/C共振回路のキャパシタ成分「C」を可変させる方法 (C同調回路) とインダクタンス成分「L」を可変させる方法 (μ同調回路) がありますが、μ同調回路の方が広範囲に適正なL/C比を維持することができるため、高いQを保ったまま広範囲の同調が可能となります。当社では、真空管全盛期の1970年に、FT-101で実用化に成功しています。

受信感度を調節する

PO (Intercept Point Optimization) - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

アンテナからの信号を受信部 RF アンプ回路を通さずに、直接 1st ミキサーに入れる機能です。RF アンプを通さずに直接ミキサー回路に信号が入りますから、RF アンプにおける混変調特性の影響を排除することができます。希望受信信号が十分強力な場合に効果的です。IPO は VFO-A/VFO-B 個別に設定することができます。

ワンポイント

FT-950 の 1st ミキサーは、GaAs ミキサー IC を使用したダブルバランスドタイプです。このダブルバランスドミキサーは、ミキサー自体でゲインを稼ぐことができるアクティブタイプです。ゲイン損失がありませんので IPO 動作時では RF アンプをいっさい通さずに受信信号を直接 1st ミキサーに注入することが可能になります。その結果、IP3 (3 次インターセプトポイント) を大幅に改善することができ、特にローバンドのオペレーションでノイズレベルが高くなっているような場合に使用してください。

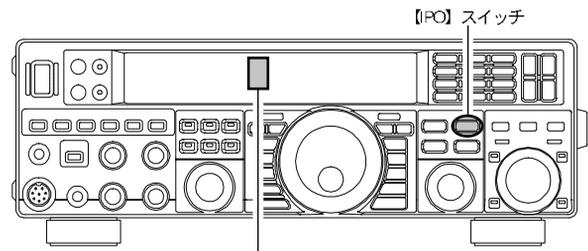
【IPO】スイッチを数回押してブロックダイアグラムディスプレイの表示を **ON** にします。

AMP1 ⇒ **AMP2** ⇒ **ON** (IPO) ⇒ **AMP1** へ戻る

ブロックダイアグラムディスプレイに **ON** が表示され、受信部高周波増幅回路の動作が停止して受信感度を抑えます。

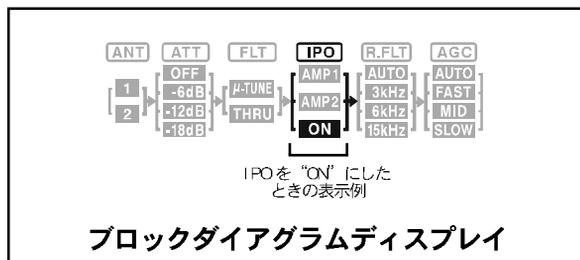
IPO を解除するには、もう一度【IPO】スイッチを数回押して **AMP1** または **AMP2** を選択します。

受信部高周波増幅回路が再び動作します。



IPO の ON/OFF 表示部分

受信操作



RF アンプ回路の ON/OFF 表示

アドバイス

30kHz ~ 1699.999kHz の周波数の間では、IPO は自動的に“ON”の状態になります。スイッチを押しても“OFF”にすることはできません。

受信部 RF アンプ (AMP1, AMP2) について

受信部 RF アンプとは IPO とは逆に弱い信号を増幅して受信しやすくする機能です。

AMP1 は約 10dB の利得になります。

AMP2 は約 17dB の高利得になります。

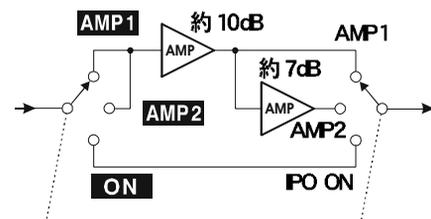
AMP2 は AMP1 とさらに約 7dB の RF アンプを直列に接続し、約 17dB の高利得を得ており、今までにない高感度を体験することができます。

工場出荷時は AMP1 に設定されています。

AMP2 に設定する場合は、【IPO】スイッチを押してブロックダイアグラムディスプレイの表示を **AMP2** にします。

ご注意

AMP2 で電界強度の強い信号を受信すると、受信音が歪むことがありますので、**AMP1** に設定するかまたは【IPO】を **ON** にしてください。通常は、受信部高周波増幅回路の動作を **AMP1** の位置で使用します。



混信・雑音が激しいとき (隣接した妨害信号を減衰させる)

R.FLT (ルーフィングフィルター)を使う - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

69MHzの1st IFに3kHz, 6kHz, 15kHzの狭帯域ルーフィングフィルターが搭載されています。受信周波数が、RFからIFに変換されたすぐ後に狭帯域のルーフィングフィルターを設けることにより帯域外の不要成分を減衰させることができますので、2ndミキサ、DSPの負荷を下げることができます。通常はAUTOで使用しますが、SSBの受信時に数kHzのところには強力な妨害信号があるような時には、マニュアル操作で3kHzに帯域を狭くしてお使いください。R.FLTはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

[R.FLT] スイッチを押します。

AUTO ⇒ 3kHz ⇒ 6kHz ⇒ 15kHz ⇒ AUTO へ戻る

- ◎ [R.FLT] スイッチを押すごとに、選択された帯域幅をブロックダイアグラムディスプレイに表示します。
- ◎ 通常は“AUTO”に設定しておきます。

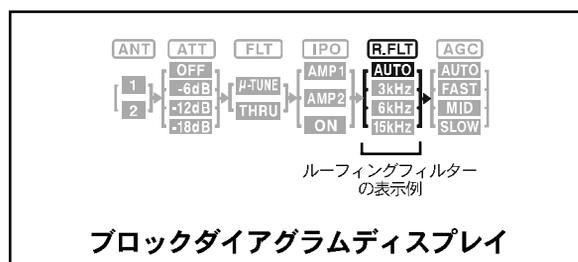
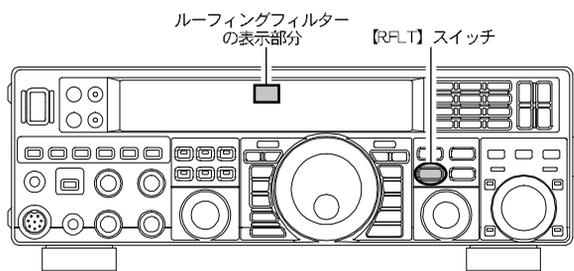
受信操作

アドバイス

- AUTOのときは受信電波型式に対応して、自動的にルーフィングフィルターが選択されます。またマニュアル操作で設定した場合は、電波型式にかかわらず、設定した帯域幅のフィルターが選択されます。
- AUTO時のルーフィングフィルターの帯域幅は下記ようになります。

	PO ON/AMP1	AMP2
AM/FM/FMPKT	15kHz	—
LSB/USB/PKT	6kHz	15kHz
CW/RTTY	3kHz	15kHz

- FMモード時は常に15kHz固定で選択することはできません。



混信・雑音が激しいとき (3kHz 以内の雑音を軽減させる)

NB (Noise Blanker) 機能を使う - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

自動車のイグニッションノイズやパルス性雑音ばかりでなく、“幅の広い雑音”も軽減することができます。NBはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

◎ “パルス性雑音” を軽減する

【NB】スイッチを短く押します。

【NB】スイッチを短く押すと、周波数ディスプレイに【NB】が点灯します。

アドバイス メニューモード「067 RGEN NB 1 LV」により、雑音が少なくなるようにノイズレベルを調節することができます。レベル調節が必要な場合は下記の「ノイズレベルの調節」を参照してください。

NB機能を解除するには、もう一度【NB】スイッチを押します。

【NB】の表示が消え、NB回路の動作が“OFF”になります。

◎ “幅の広い雑音” を軽減する

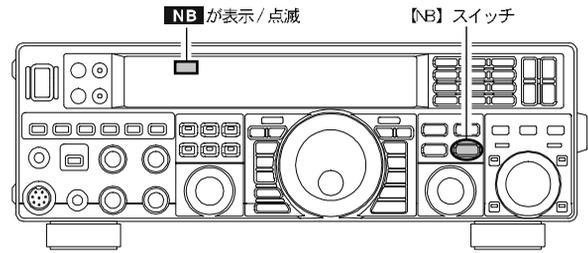
【NB】スイッチを約1秒間押します。

【NB】スイッチを約1秒間押すと、周波数ディスプレイに【NB】が約3秒間点滅し、その後点灯表示にかわります。

アドバイス メニューモード「068 RGEN NB 2 LV」により、雑音が少なくなるようにノイズレベルを調節することができます。レベル調節が必要な場合は下記の「ノイズレベルの調節」を参照してください。

NB機能を解除するには、もう一度【NB】スイッチを押します。

【NB】の表示が消え、NB回路の動作が“OFF”になります。

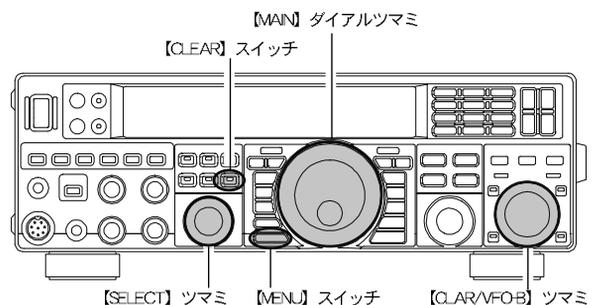


受信操作

ご注意 ノイズの種類によっては、受信音がひずむことがあります。

ノイズレベルの調節

1. 【NB】スイッチを短く押します（“幅の広い雑音”を軽減する場合は、【NB】スイッチを約1秒間押します）。
2. 【MENU】スイッチを短く押すと、周波数ディスプレイにメニューモードが表示されます。
3. 【SELECT】ツマミ（または【MAIN】ダイヤルツマミ）をまわして、メニューモード「067 RGEN NB 1 LV」（“幅の広い雑音”を軽減する場合は、「068 RGEN NB 2 LV」）を選択します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
4. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、雑音が少なくなるように調節します（工場出荷時 128）。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。
5. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと、設定内容が保存され、メニューモードが終了します。



混信・雑音が激しいとき (3kHz以内にある妨害信号を減衰させる)

CONTOUR (コンツアー) 機能を使う – VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 –

コンツアー機能は、通過帯域の一部を減衰させることによって希望の信号を聞きやすくするものです。アナログ的になだらかに変化します。CONTOURはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

1. 【CONT】スイッチを押します。

【CONT】スイッチのLEDが点灯します。

CONTOUR回路が動作し、DSPグラフィックディスプレイに減衰部分を表示します。

2. 【SELECT】つまみをまわして、聞きやすくなる位置に調節します。

【SELECT】つまみをまわすと、約3秒間周波数表示部にコンツアーの中心周波数(100Hz~3000Hz)を表示します。

コンツアーの減衰位置を中央にする場合は、【CLEAR】つまみを押します。

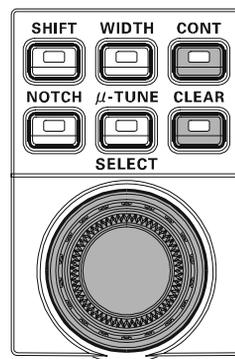
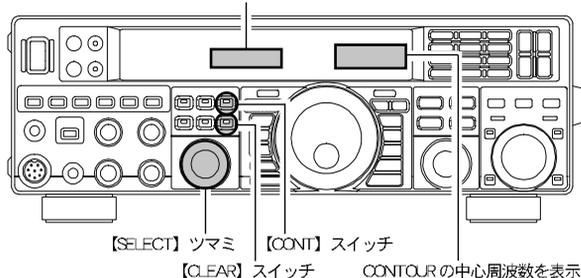
3. コンツアー機能を解除するには、もう一度

【CONT】スイッチを押すか、または【SELECT】つまみを押します。

CONTOUR回路の動作が“OFF”になります。

【SELECT】つまみを押すたびにCONTOUR回路の動作を“ON/OFF”することができます。

DSPグラフィックディスプレイにCONTOURを表示



受信操作

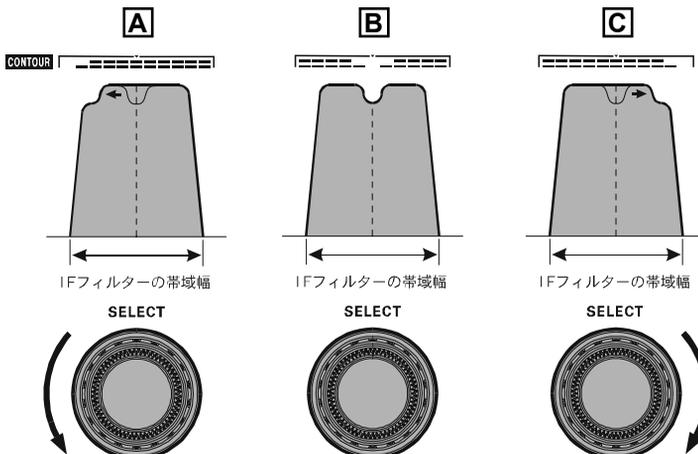
- アドバイス**
- オプションのデータマネジメントユニット“DMU-2000”に市販の外部ディスプレイを接続することにより、オーディオスコープ/オシロスコープ機能が表示される画面に切り替えれば、オーディオスコープで帯域内のコンツアーの動作を確認することができます。この画面を見ながら【SELECT】つまみをまわしますとフィルターの一部分が減衰して帯域内を移動していくことが確認できます。
 - CONTOUR機能の帯域幅と減衰量をメニューモードで設定することができます。
 - ・メニューモード「069 RGEN CNTR LV」でCONTOUR機能の減衰量を設定することができます。工場出荷時は、“-15”になっています。
 - ・メニューモード「070 RGEN CNTR WI」でCONTOUR機能の帯域幅を変えることができます。工場出荷時は、“10”になっています。



減衰部分をグラフィックで表示します。

DSPグラフィックディスプレイ

図(B)はCONTOURの減衰位置が中央にあるときです。帯域幅輪郭の中央部分を球体の円周をカットしてくぼみをつくり曲線的に変化させています。図(A)は【SELECT】つまみを反時計(左)方向にまわすと、帯域幅輪郭に球体のくぼみが左側に移動します。図(C)は【SELECT】つまみを時計(右)方向にまわすと、帯域幅輪郭に球体のくぼみが右側に移動し、近接妨害波を減衰させて目的の信号を浮かび上がらせることができます。



ワンポイント DSPでのデジタルフィルターは、実際に妨害信号を除去しようとする時、あるポイントで突然信号が聴こえなくなるというデジタルフィルター特有の現象が起こり違和感を感じます。CONTOUR回路は、DSPによるデジタルフィルターの通過帯域の中をあたかも球体が動いているように曲線的にフィルターの形状を変化させ、減衰部分を移動させますので、信号が突然カットされるようなこともなく、聴覚的に自然に妨害信号を減衰させて目的の信号を浮かび上がらせる効果があります。

混信・雑音が激しいとき (3kHz 以内にある妨害信号を減衰させる)

SHIFT(シフト)機能を使う -VFO-A, VFO-B個別に設定可能 (SSB, CW, RTTY, PKT運用時) -

IFシフト機能は、受信信号の近くに混信があり希望信号が聞きにくい時に使用します。電氣的にデジタルフィルターの通過帯域の位置を動かして、帯域内の端にある混信を除去しようとする機能です。キャリアポイントを動かさずに、キャリアポイントからのフィルターの位置を電氣的に動かします。あまり大きく動かすと、再生音質が変化して聞きづらくなるので、FT-950ではシフト幅を最大±1kHzに設定しています。SHIFTはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

1. 【SHIFT】スイッチを押します。

【SHIFT】スイッチのLEDが点灯します。

2. 【SELECT】ツマミを妨害信号が軽減される方向へ、左右どちらかにまわします。

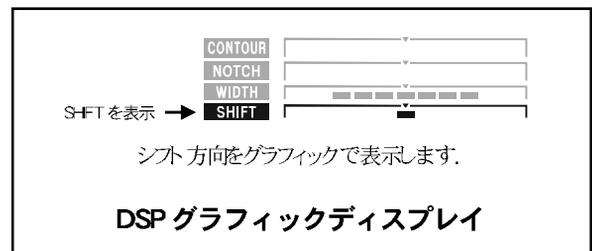
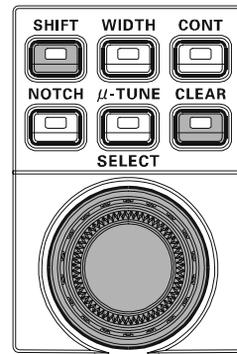
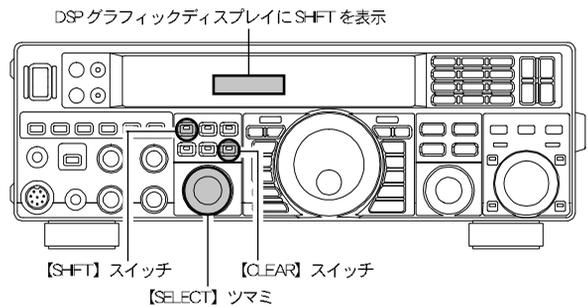
【SELECT】ツマミをまわしてSHIFTを調節中、約3秒間周波数表示部にIFフィルターのシフト周波数を表示します。

SHIFTのフィルター位置を中央にする場合は、【CLEAR】スイッチを押します。

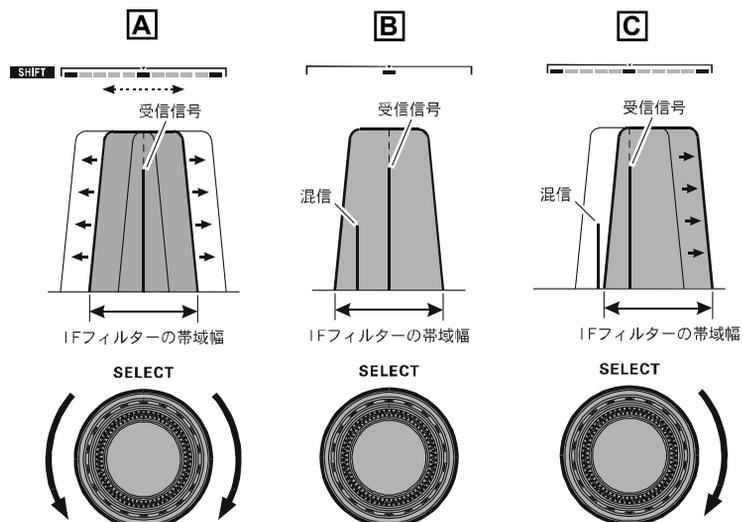
アドバイス 帯域の状態は、DSPグラフィックディスプレイに表示されます。

単位はkHz、**太文字**は初期値

SHIFT	シフト幅
←	+0.60 ~ +1.00
←	+0.40 ~ +0.58
←	+0.20 ~ +0.38
←	+0.10 ~ +0.18
←	+0.02 ~ +0.08
←	± 0.00
←	-0.02 ~ -0.08
←	-0.10 ~ -0.18
←	-0.20 ~ -0.38
←	-0.40 ~ -0.58
←	-0.60 ~ -1.00



図(A)の太線で書かれたフィルターの帯域幅が中央の位置にあるときです。図(B)はフィルターの帯域内に近接妨害波が出現した状態です。ここで【SELECT】ツマミをまわすと、図(C)に矢印で示したようにフィルターの帯域幅が右に動きますので、近接妨害波をフィルターの帯域外に追い出すことができます。



混信・雑音が激しいとき (3kHz以内にある妨害信号を減衰させる)

WIDTH (ワイズ) 機能を使う -VFO-A, VFO-B個別に設定可能 (SSB, CW, RTTY, PKT 運用時) -

IF ワイズ機能は、電気的にデジタルフィルターの通過帯域幅を変化させて、帯域内の端にある混信を除去したり、相手局の音質が良い場合に帯域を広げて、高音質で受信をしたいときに使用します。WIDTHはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

1. 【WIDTH】スイッチを押します。

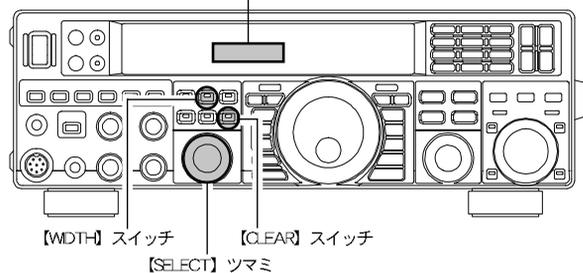
【WIDTH】スイッチのLEDが点灯します。

2. 【SELECT】つまみをまわします。

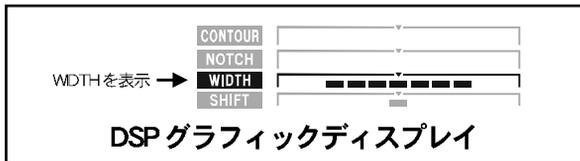
【SELECT】つまみをまわしてWIDTHを調節中、約3秒間周波数表示部にIFフィルターの帯域幅を表示します。混信が軽減されるように【SELECT】つまみを反時計(左)方向にまわして帯域幅を狭くします。帯域を広げたい時は、時計(右)方向へまわします(つまみとグラフィック表示との関係は下表参照)。

WIDTHのフィルター帯域幅を初期値にする場合は、【CLEAR】スイッチを押します。

DSPグラフィックディスプレイにWIDTHを表示



受信操作



単位はHz, 太文字は初期値

WIDTH	USB/LSB	CW	AM	FM, PKT (FM)	RTTY	PKT (LSB, USB)
	3k	2.4k ~ 1.4k	-	-	2.4k ~ 1.4k	2.4k ~ 1.4k
	2.9k ~ 2.7k	1.2k ~ 800	-	-	1.2k ~ 800	1.2k ~ 800
	2.6k ~ 2.4k ~ 1.95k	500	9k	16k	500	500
	1.8k	-	-	-	-	-

通常、図(B)に示すようにフィルターの帯域幅が標準である中央の位置で使用しますが、【SELECT】つまみを反時計(左)方向にまわすと図(A)に示すようにフィルターの帯域幅が連続的に狭くなって行きます。また、【SELECT】つまみを時計(右)方向にまわすと図(C)に示すようにフィルターの帯域幅が連続的に広がって行きます。なお、モードによって可変できる帯域幅が変わります。

-SSBのとき-

1.8kHz ~ 3kHz (初期値: 2.4kHz)

-CWのとき-

500Hz ~ 2.4kHz (初期値: 2.4kHz)

-RTTY, PKTのとき-

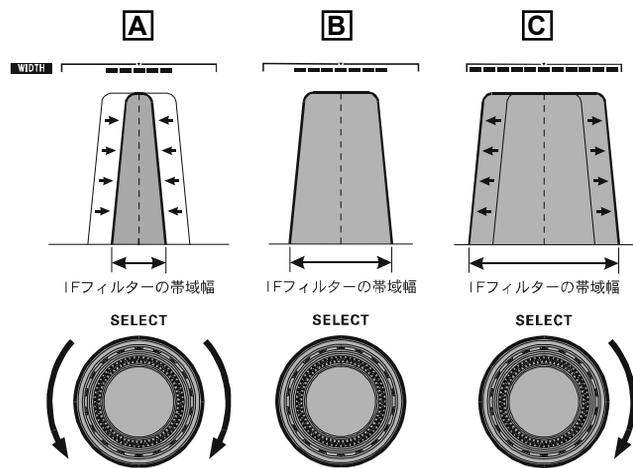
500Hz ~ 2.4kHz (初期値: 500Hz)

-AMのとき-

9kHz 固定

-FMのとき-

16kHz 固定



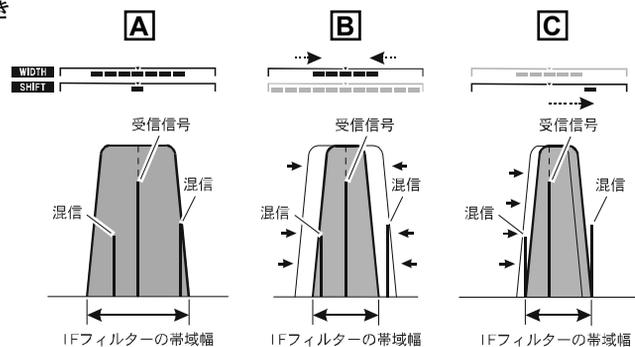
SHIFTとWIDTHを併用する

SHIFTとWIDTHを操作して、混信を軽減することができます。

図(A)は受信信号の高い方と低い方の両方に近接妨害波が出現した状態です。このようなときにはまず最初に、図(B)に示すようにWIDTHを調整して近接妨害波をフィルターの帯域外に追い出します。また、図(C)に示すように片方に近接妨害波がまだ残っている場合はSHIFTを調整してフィルターの帯域内外に追い出します。

アドバイス

効果的に混信を除去するためには、SHIFTとWIDTHを併用することをお勧めします。まずWIDTHでデジタルフィルターの帯域幅を狭くしてSHIFTで聞きやすい音質の場所を探すと、帯域を狭くしても相手局の音声が聞きやすくなります。さらにCONT機能、NOTCH機能を併用するとかなりの効果を得ることができます。



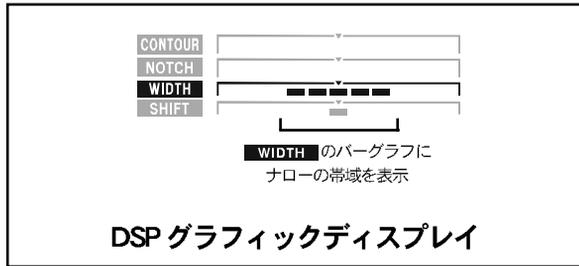
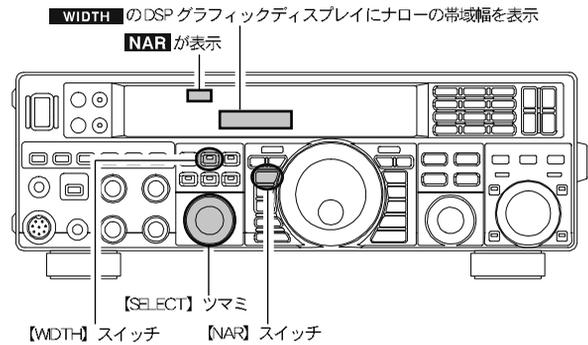
混信・雑音が激しいとき (3kHz 以内にある妨害信号を減衰させる)

NAR (ナロー) スイッチを使う – VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 –

WIDTH の位置に関係なく、瞬時に通過帯域幅を狭くすることができます。
NAR は VFO-A/VFO-B 個別に設定することができます。

【NAR】スイッチを押します。

S メーター表示部の右上に **NAR** が表示されます。
もう一度押すと、ナローを解除することができます。
ナローの状態でも【WIDTH】スイッチを押して【SELECT】ツマミをまわすと、さらに帯域を狭くすることができます (下表参照)。



受信操作

単位は Hz, **太文字**は初期値

WIDTH	USB/LSB	CW	AM	FM, PKT (FM)	RTTY	PKT (LSB, USB)
-----	-	500	-	-	500	500
-----	1.8k~1.5k	400~300	6k	9k	400~ 300	400~ 300
-----	1.35k~850	200~100	-	-	200~100	200~100
-----	600~200	-	-	-	-	-

アドバイス WIDTH で帯域幅を設定してあっても、【NAR】スイッチを押すと WIDTH の通過帯域幅を強制的にナローにします。また、もう一度【NAR】スイッチを押してナロー機能を解除すると WIDTH で設定した通過帯域幅に戻ります。

混信・雑音が激しいとき (3kHz 以内にある妨害信号や雑音を減衰させる)

NOTCH (ノッチ) 機能を使う - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 (SSB, CW, AM 運用時) -

通過帯域の中に不要なビート信号があるときには、IF NOTCH 機能で通過帯域の一部をシャープにカットしてビート信号を排除することができます。NOTCH は VFO-A/VFO-B 個別に設定することができます。

1. 【NOTCH】スイッチを押します。

【NOTCH】スイッチのLEDが点灯します。

NOTCH回路が動作し、DSPグラフィックディスプレイに減衰部分をグラフィックで表示します。

2. 【SELECT】ツマミをまわして、不要なビート音が減衰される位置に調節します。

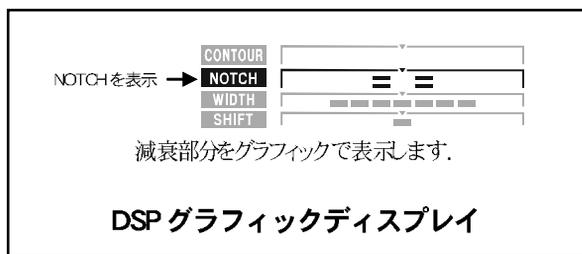
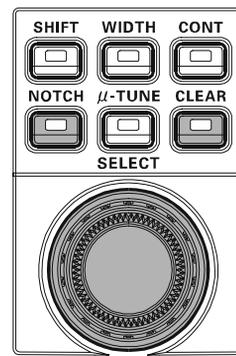
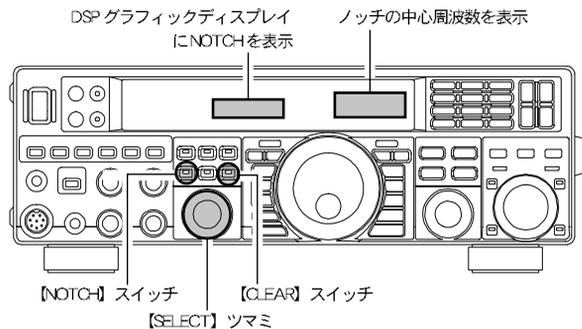
ツマミをまわすと約3秒間周波数表示部にノッチの中心周波数 (10Hz ~ 3000Hz) を表示します。

NOTCHのフィルター位置を中央にする場合は、【CLEAR】スイッチを押します。

3. NOTCH 機能を解除するには、もう一度【NOTCH】スイッチを押すか、または【SELECT】ツマミを押します。

NOTCH回路の動作が“OFF”になります。

【SELECT】ツマミを押すたびにNOTCH回路の動作を“ON/OFF”することができます。

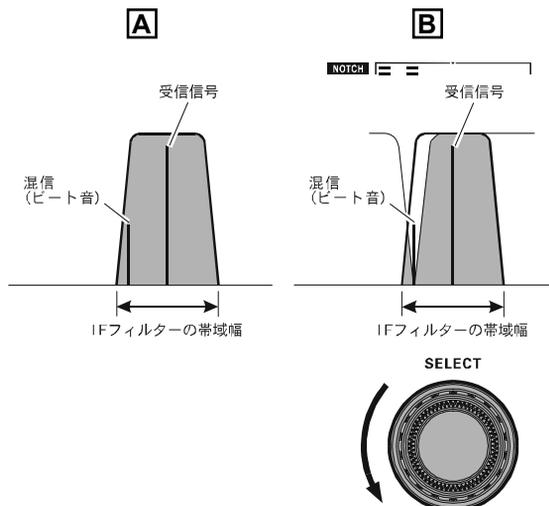


受信操作

アドバイス オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”に市販の外部ディスプレイを接続することにより、オーディオスコープ/オシロスコープ機能が表示される画面に切り替えれば、オーディオスコープで通過帯域内におけるノッチの位置を確認することができます。この画面を見ながらビート信号へ向けて【NOTCH】ツマミをまわすと簡単に目的のビート信号へ移動することができます。

IF NOTCH 回路とは、図(A)に示すように、フィルターの帯域内に深く鋭い切れ込み(ノッチ)を作り、不要なビート音を減衰させようというものです。

【NOTCH】スイッチを押して、【SELECT】ツマミをまわすと、図(B)の矢印で示したようにノッチの位置が左右に大きく動きますので、ノッチの位置を調節してビート音がいちばん弱くなるように【SELECT】ツマミを調節します。



混信・雑音が激しいとき (3kHz 以内にある妨害信号を減衰させる)

DNF (デジタルノッチフィルター) 機能を使う - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

受信信号の中に複数の不要なビート音があるときは、DNF(デジタルノッチフィルター)機能を使うと複数のビート信号の除去に効果があります。オートノッチですので、調整用のツマミはありません。

DNFはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

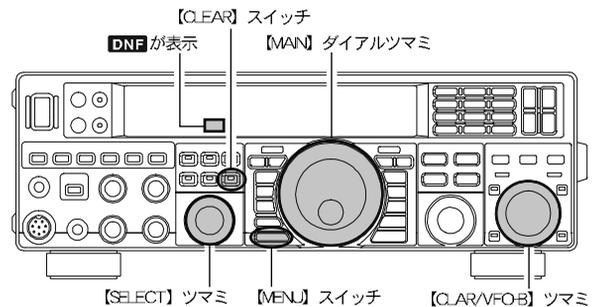
アドバイス

強力なビート信号を除去するには、IF NOTCH(ノッチ)機能の方が効果的ですので、IF NOTCH(ノッチ)機能を使うことをおすすめします。

1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、“メニューモード「071 RGEN DNF」”を呼び出します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、“ON”に設定します(工場出荷時:OFF)。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと、設定内容が保存されメニューモードが終了します。
DSPグラフィックディスプレイにDNFが表示されていることを確認します。

デジタルノッチフィルター機能を解除するには、操作3.を“OFF”にします。

DNFの表示が消え、DNF回路の動作が“OFF”になります。



DNR (デジタルノイズリダクション) 機能を使う - VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 -

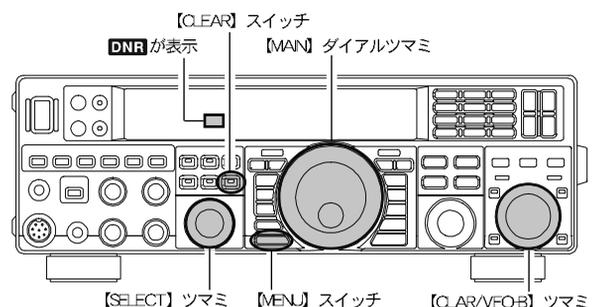
ランダムなノイズ成分を効果的にキャンセルすることができるノイズリダクション機能を搭載しています。SSBによる短波帯通信に特有のノイズ音を減少させることができます。メニューモードの「072 RGEN DNR」を設定することにより、ノイズの種類によってパラメータを15段階に可変しノイズ成分を減衰させます。十分に強い信号を受信している時は使用する必要はありませんが、了解度の低い弱い信号を受信しているときには、ノイズレベルが下がり了解度を上げることができます。

DNRはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、“メニューモード「072 RGEN DNR」”を呼び出します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして (OFF/1~15)、ノイズが一番減衰するように設定します(工場出荷時:OFF)。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと、設定内容が保存されメニューモードが終了します。
DNRが動作中は、DSPグラフィックディスプレイにDNRが表示されていることを確認します。

DNR機能を解除するには、操作3.を“OFF”にします。

DNRの表示が消え、DNR回路の動作が“OFF”になります。



快適な受信を行うために

RF GAIN – SSB, CW, AM 運用時 –

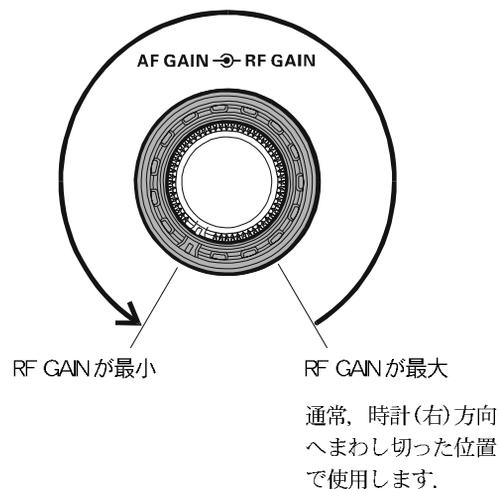
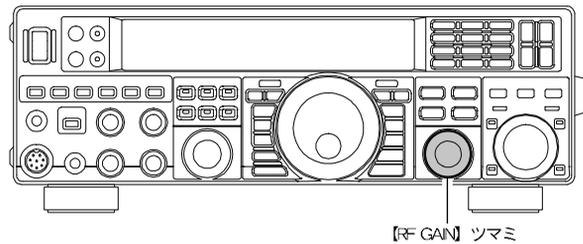
RF GAIN コントロールは、受信部の高周波および中間周波増幅段の利得(ゲイン)を調整している AGC 回路を制御して受信部の利得(ゲイン)を調整するものです。

【RF GAIN】 ツマミをゆっくりと反時計(左)方向へまわします。

- ◎ RF GAIN が下がり、S メーターのスタート位置が上がってきます。
- ◎ **【RF GAIN】** ツマミは通常、時計(右)方向へまわし切った利得(ゲイン)最大の位置で使用します。

アドバイス **【RF GAIN】** ツマミを反時計(左)方向へまわすと、S メーターのスタート位置が上がってきます。これは RF GAIN コントロールで AGC の利得(ゲイン)を調整しているためです。S メーターのスタート位置以下の信号については聴こえないことがあります。希望する受信信号で S メーターが振れるか振れない位置にセットすると聞きやすくなります。

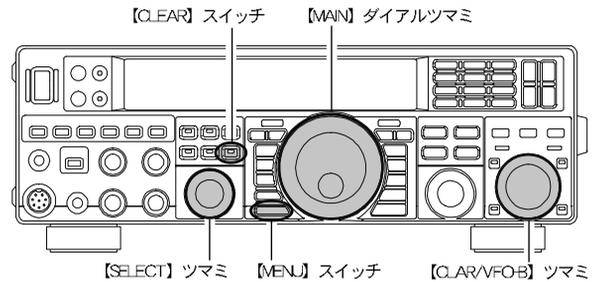
ワンポイント RF GAIN コントロールは受信部全体の利得(ゲイン)を調整します。希望信号を受信しながら **【RF GAIN】** ツマミを調整して最適なポイントに設定してください。IPO と ATN はアンテナからの入力信号をフロントエンドで減衰させますが、RF GAIN コントロールは受信部全体の利得(ゲイン)をコントロールしている AGC (Automatic Gain Control) を強制的に働かせて受信部全体の利得(ゲイン)を抑えます。ノイズレベルを抑えたり強力な信号を減衰させるには、IPO、ATT を使ったほうが効果的です。RF GAIN コントロールは適度な受信信号をノイズを抑えてより快適に受信するために調整します。



SSB 受信音の音質を変える — VFO-A, VFO-B 共通 —

SSB 受信時のキャリアポイントをずらして、好みの音質に変更することができます。設定すると VFO-A/VFO-B 共に変更されます。

1. あらかじめ VFO-A (または VFO-B) を受信し、音質を変えたいモード (LSB または USB) を選択します。
2. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
3. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、希望のメニューモードを選択します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
LSB の場合 : 065 J3E LSB CAR
USB の場合 : 066 J3E USB CAR
4. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして受信音を聴きながら音質を調節します。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。
5. 【MENU】スイッチを約 1 秒間押すと設定内容が保存され、メニューモードが終了します。



快適な受信を行うために

AGC (Automatic Gain Control) 機能を使う - VFO-A, VFO-B個別に設定可能-

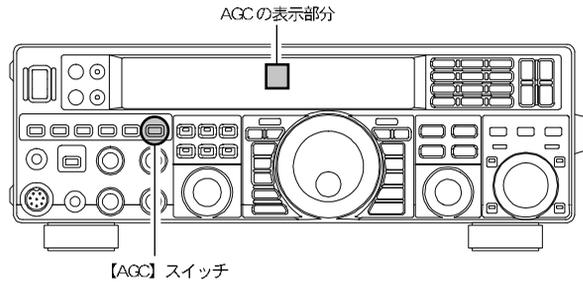
運用モード(電波型式)やフェージングなどの状態にあわせ、AGC回路の時定数を切り換えて受信することができます。AGCはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

【AGC】スイッチを数回短く押して、AGCを切り換えます(約1秒間押しすとAGCはOFFになります)。

アドバイス 【AGC】スイッチを約1秒間押しして“OFF”にすると、信号が入感していてもSメーターは振れなくなります。“OFF”の位置では強い信号が入ると受信音が歪むことがあります。

ワンポイント AGCの細かな設定は、メニューモードで行うことができます。AGCの設定は受信部の基本性能に大きな影響を与えますので、通常はメニューモードの設定変更はおすすめしません。

用語説明 AGC回路は、受信信号の強弱によって受信部全体の利得を調整し、受信部が飽和して歪みを起こさないようにする機能です。受信部の基本性能に大きな影響を与える回路です。



【AGC】スイッチは通常、運用モードにあわせて自動的にAGC回路の時定数が切り換わる“AUTO”の位置を設定しますが、弱い信号を受信するときや、ノイズやフェージングなどがあるときには、そのときの受信状態にあわせて【AGC】スイッチを切り換え、もっとも聞きやすいようにしてください。なお、“AUTO”のときは運用モードによって時定数が切り換わります(下表参照)。

運用モード(電波型式)	AUTO時の時定数
LSB	SLOW
USB	SLOW
CW	FAST
AM	SLOW
FM	FAST
RTTY	SLOW
PKT(FM)	FAST
PKT(LSB, USB)	SLOW

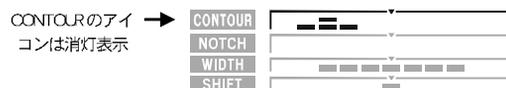
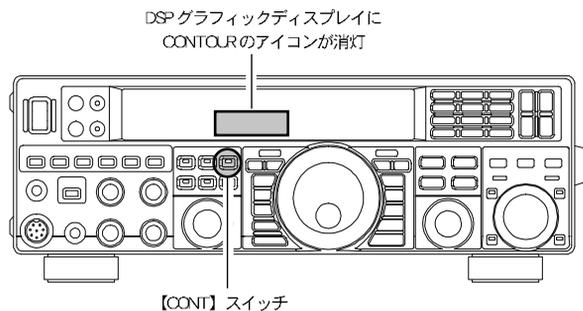
APF (オーディオ・ピーク・フィルタ) 機能を使う - VFO-A, VFO-B個別に設定可能-

CW運用時に混信や雑音がある場合には、中心周波数を自動的にPITCH周波数に設定し、ピークフィルターとして目的の信号を聞きやすくします。

コンツァー機能をOFFにして【CONT】スイッチを約2秒間押します。

「ピピツ」とピープ音となり、自動調整でAPFが動作します。【CONTOUR】が消灯してAPFの中心周波数をグラフィックディスプレイに表示します。

APF機能を“OFF”するには、もう一度【CONT】スイッチを約2秒間押します。



APFの中心周波数をグラフィックで表示します。

DSP グラフィックディスプレイ

快適な受信を行うために

MUTE機能を使う — VFO-A, VFO-B個別に設定可能—

【AF GAIN】ツマミの設定状態は変えずに、受信音を一時的に“OFF”にすることができます（ミュート操作）。VFO-AやVFO-Bの音量を一時的にミュートしたいときに大変便利な機能です。MUTEはVFO-A/VFO-B個別に設定することができます。

◎ VFO-Aの場合

VFO-Aで受信中に、【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します。VFO-Aの受信音が“OFF”（ミュート）になり、インジケータが緑色に点滅します。

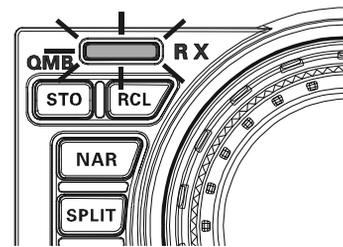
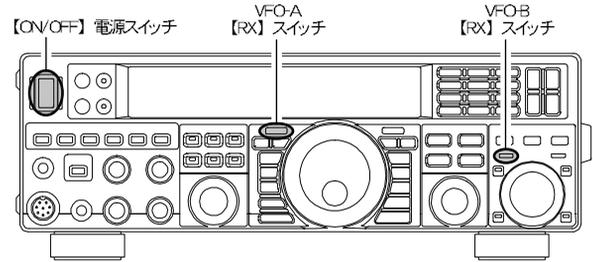
もう一度【RX】インジケータースイッチを押すと、再び受信音が出るようになります。

◎ VFO-Bの場合

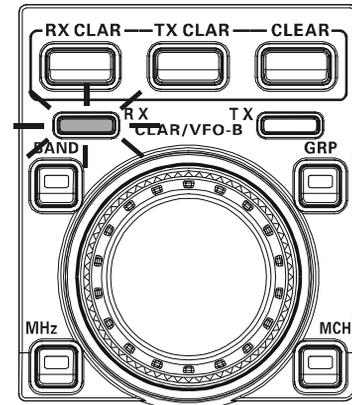
VFO-Bで受信中に、は、【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します。VFO-Bの受信音が“OFF”（ミュート）になり、インジケータが緑色に点滅します。

もう一度【RX】インジケータースイッチを押すと、再び受信音が出るようになります。

アドバイス ミュートにすると、Sメーターは振れなくなりますが、受信回路は動作しています。



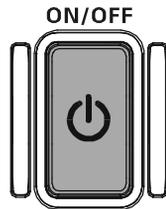
VFO-A



VFO-B

ワンポイント

電源が入っているときに【ON/OFF】電源スイッチを短く押すと、スピーカーからの音声出力を3秒間ミュートすることができます。



SSB/AMモードでの交信 (交信をしてみましょう)

1. 希望の運用モード(電波型式)にします。

MODEの【SSB】スイッチを押します(AMモードのときは【AM/FM】スイッチを短く押します)。

- 【MODE】スイッチの【SSB】を押すごとに周波数ディスプレイに【LSB】または【USB】が点灯し、【LSB】が点灯したときはLSBモード、【USB】が点灯したときはUSBモードになります。
- 【MODE】スイッチの【AM/FM】を短く押すと周波数ディスプレイに【AM】が点灯しAMモードになり、さらに【AM/FM】を短く押すと【FM】が点灯しFMモードになります。
- 【AM/FM】スイッチを約1秒間押すとトーンスケルチの設定になります(☞p.99)。

ワンポイント

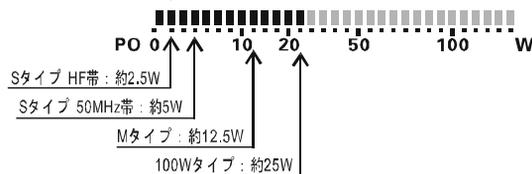
一般的にアマチュア無線では、7MHz帯以下のバンドではLSB、10MHz帯以上のバンドではUSBで運用します。

2. 【MAIN】ダイヤルツマミをまわして希望の周波数にあわせます。

- AMモード時に【SELECT】ツマミをまわすと±5kHz(【FAST】スイッチが“ON”のときは±50kHz)で周波数変化量(ステップ幅)が変化します。
- 【SELECT】ツマミがDSP機能の操作ツマミとして動作しているときはこの機能をOFFにしてください。OFFにする方法として、CONT、NOTCH、 μ -TUNEのいずれかのLEDが点灯しているときは【SHIFT】スイッチまたは【WIDTH】スイッチを押してOFFにしてください。
- 付属のマイクロホンMH-31B8を接続している場合は、マイクロホンのUP/DWNを押しても周波数を変えることができます。

3. マイクロホンのPTTスイッチを押しながらマイクロホンに向かって話します。

- ディスプレイの“TX”が点灯して送信状態になります。
- PTTスイッチを離すと受信状態に戻ります。
- AMモードで送信するときには、無変調時にPOメーターの指示が“約25W”(Mタイプ:約12.5W、Sタイプ:約25W(50MHz帯は約5W))を示すようにメニューモードの「112 TGEN AMCAR」で調節してください。POメーターの振れは目安です。



4. 【METER】スイッチを数回押してALCメーターに設定します。

5. 一定の音量でマイクに向かって話しながら、【MIC GAIN】ツマミをまわしMICゲインの調節をします。

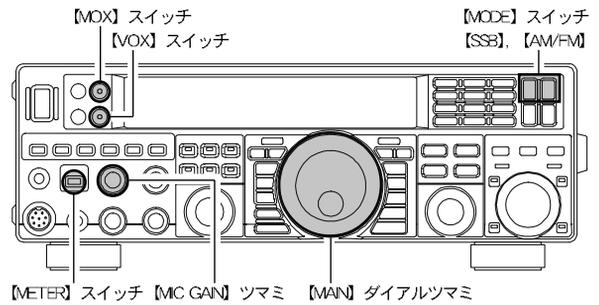
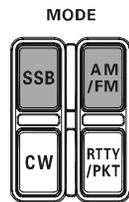
◎ SSBモード

ALCメーターの針がALCゾーン内で音声のピークでいっぱいまで振れる位置に設定します。



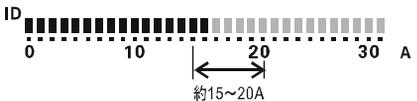
◎ AMモード

音声のピークでもALCが振れない位置に設定します。

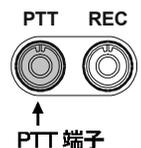


アドバイス

- 本機に接続したアンテナのインピーダンスが50Ωから著しく異なる場合には、ALCメーターの振れが異常に高い値を示すことがあります。その場合はアンテナを再度調整してください。そのため、【MIC GAIN】ツマミの調節を行うときには、インピーダンスが50Ωのアンテナを使う必要があります。
- メニューモードにより最大送信出力を変更することができます(メニューモード「111 TGEN TX PWR」)。通常は、メニューモードの設定値を100にしておきますが、メニューモードの設定値を100以下にし、送信出力を下げた運用することができます。送信出力は、約100W~約10W(Mタイプ:50Wから、Sタイプ:10Wから(50MHz帯は20W))の範囲で変更することができます。
- 【METER】スイッチを数回押して“VDDメーター”に切り換えると、終段FETのドレイン電圧を表示します。13.8Vが適正電圧です。
- 【METER】スイッチを数回押して“IDメーター”に切り換えると、終段FETトランジスタに流れ込むドレイン電流を表示します。BAND、アンテナインピーダンスによって大幅に電流値が変わりますが、目安として送信出力100Wで15A~20Aが適正電流です。



- SSBモードだけメニューモード「111 TGEN TX PWR」の設定に関係なく、最大出力で送信することができます(メニューモード「113 TGEN PWRCTRL」)。
- 電波を送信する時は、その周波数ですで行われているほかの通信に妨害を与えないことを確認してから送信するようにしてください。
- あらかじめTOT(タイムアウトタイマー)を設定しておく、あやまって“連続送信”をしたときに、設定しておいた時間で強制的に受信状態に戻ります(メニューモード「031 GENE TX TOT」)。
- 送信、受信を切り替える方法は、4種類の方法があります。好みに合わせて好きな方法で運用してください。
 - ・ マイクロホンのPTT(Press To Talk)のスイッチを押して切り替える。
 - ・ 背面のPTT端子に市販のフットスイッチを接続して、フットスイッチ等で切り替える。
 - ・ 前面パネルの【MOX】スイッチを押して切り替える。
 - ・ VOX機能を利用して、音声で自動的に送信に切り替える(☞p.82)。



アンテナチューナーの使い方

本機には、本体背面の ANT 端子に接続されるアンテナ用同軸ケーブルと送信ファイナルアンプとの間のインピーダンス整合を行うアンテナ・チューナーを内蔵しています。送信時には必ずご使用することをお勧めします。

アドバイス

- アンテナチューナーは、FT-950 のアンテナ端子から見たインピーダンスを整合します。“アンテナ自体の共振周波数”を調整するものではありません。したがって、本機の性能を最大限に発揮させるためにはアンテナ自体の調整を十分に行い、運用する周波数帯で、できるだけ SWR を下げるように正しく調整してください。
- FT-950 のアンテナチューナーは 100 個のメモリー（マッチングデータメモリー）を持っており、100 個を超えると古いメモリーから消去して、常に最新のチューニング状態を記憶します。そのため、アンテナ・チューナーをよく使うバンドほど、早くチューニングを取ることができます。
- “ホイップ・アンテナ”や“ロングワイヤー・アンテナ”などの“ワイヤー型アンテナ”への単線による給電はできません。単線による給電をしたい場合は、オプションのロングワイヤー用オートマチックアンテナチューナー FC-40 をご使用ください（[P.142](#)）。
- このアンテナ・チューナーで整合できる範囲は、SWR=3 以下（インピーダンスにして 16.7 Ω～150 Ω）です。
- オールリセットを行うとマッチングデータメモリーを初期値（工場出荷時）の状態に戻すことができます（[P.11](#)）。

基本操作

送信操作

1. 【MAIN】ダイヤルツマミをまわして運用バンド（周波数）にあわせます。

2. 【TUNE】スイッチを短く押すと周波数ディスプレイの **TUNER** が表示され、アンテナ・チューナーが“ON”になります。

ワポイント

アンテナ・チューナーに搭載してあるコンピューターが、いままでに記憶したチューニング状態の中から現在設定してある運用周波数にもっとも近い周波数の同調点へ移動します。

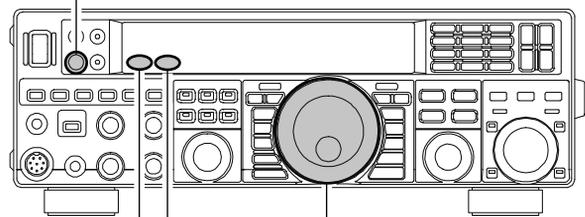
3. 【TUNE】スイッチを約 1 秒間押すと自動的に送信状態となり、チューニングがスタートします。

- チューニング中は **TUNER** の表示が点滅します。チューニングが終了すると受信状態に戻り、**TUNER** が点滅表示から点灯表示にかわり最適な同調点に設定されたことを表示します。
- 1 回のチューニングで SWR が下がらないときは、数回繰り返すことで下がる場合があります。

4. アンテナチューナーを解除 (OFF) するには、【TUNE】スイッチを押すと、**TUNER** の表示が消灯し“OFF”となります。

アンテナチューナーを“OFF”にすると、ANT 端子と送信ファイナルアンプが直接接続されます。

【TUNE】スイッチ



TUNER を表示

【MAIN】ダイヤルツマミ

H SWR のときは **HI-SWR** を表示

ワポイント

- 一度もチューニングを取っていない周波数では、工場出荷時にあらかじめバンドごとに設定された“同調点”に設定されます。
- 運用周波数の変化に対するチューニング状態の更新は、約 10kHz ごとに行われます。
- 工場出荷時の状態（初期値）では、運用周波数の変化に対するマッチング情報がメモリーされていないため、一度もチューニングを取らない状態では、SWR が下がらないことがあります。このようなときは【TUNE】スイッチを約 1 秒間押してチューニングを取りなおしてください。

ご注意

チューニング中は電波が自動的に送信されますので、すでに行われている交信に妨害を与えないようにしてください。

アドバイス

【METER】スイッチを数回押して“SWR メーター”に切り換えるとチューニング時（または送信中）に SWR を測定することができます。



用語説明

マッチングデータメモリーとは？

マッチングデータメモリーは、チューニングを行った周波数とそのマッチングデータを専用の 100 個のメモリーに自動的に記憶することができます。再びそのバンドに戻ったときは、すでにメモリーされている状態に切り換わるので、再度チューニングを取る必要がありません。

アンテナチューナーの使い方

アンテナチューナーの動作について

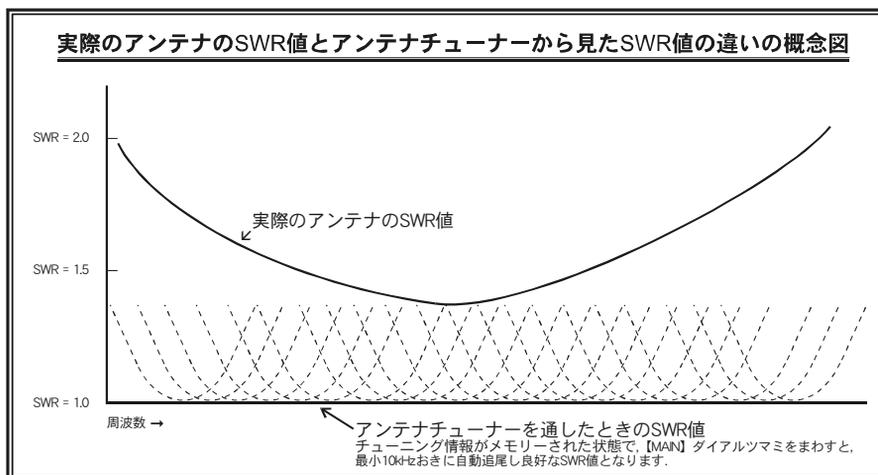
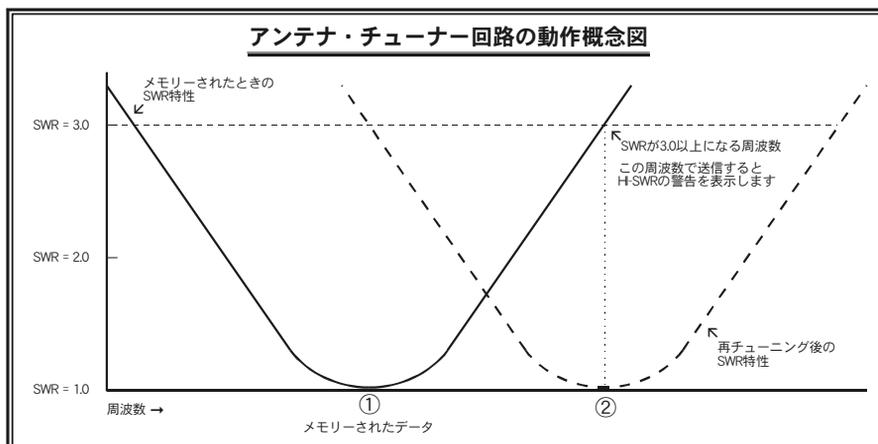
チューニングが正常に行われ、チューニング情報がマッチングデータメモリーにメモリーされたとき、送信部から見たアンテナの状態は、下図の①のようになります。

このまま周波数を変えて下図の②の位置で送信すると周波数ディスプレイに **HI-SWR** が表示されて警告します。

このようなときは再度【TUNE】スイッチを約1秒間押してチューニングを取ってください。

もし、SWRが“3”以下にならないときはアンテナシステムの点検や調整を行ってください。

なお、このような状態での運用は、ミスマッチングによる不要電波（スプリアス）の発射や思わぬ故障などの原因になりますので、ご注意ください。



マッチングデータメモリーについて

◎ **SWRが“2”以下**のとき

チューナー・メモリーに、チューニング情報をメモリーします。

◎ **SWRが“2”以上**のとき

チューニング情報はメモリーされません。

再度この周波数付近で運用するときは、チューニングを取り直す必要があります。

◎ **SWRが“3”以下にならない**とき

周波数ディスプレイに送信時に **HI-SWR** を表示します。

SWRが高いため、アンテナシステムの点検・調整・修理を行ってください。

なお、このような状態での運用は、ミスマッチングによる不要電波（スプリアス）の発射や思わぬ故障などの原因になりますので、ご注意ください。

SSB/AMモードでの交信 (送信音質を変えてみましょう)

送信帯域を広くしたり狭くしたりする – SSB運用時のみ–

SSB運用では、通常 2.4kHz の帯域で送信しますが、好みに合わせて送信帯域を DSP のバンドパスフィルタで広くしたり狭くしたりすることができます。特にローバンドのローカルラグチューなどでは、帯域の広い高音質での送信が可能となります。

1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。

2. 【SELECT】つまみ (または【MAIN】ダイヤルつまみ) をまわして、メニューモードの「064 J3E TX BPF」を呼び出します。

3. 【CLAR/VFO-B】つまみをまわして、希望の周波数特性を選択します (工場出荷時 3-27)。

1-30 (50-3000 Hz) / 1-29 (100-2900 Hz) /
2-28 (200-2800 Hz) / 3-27 (300-2700 Hz) /
4-26 (400-2600 Hz)

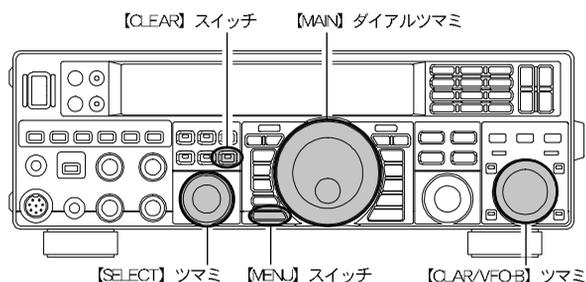
から選択することができます。

【SELECT】つまみ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。

4. 【MENU】スイッチを約 1 秒間押します。

設定内容が保存され、メニューモードが終了します。

- アドバイス**
- オプションのデータマネージメントユニット “DMU-2000” と市販の外部ディスプレイを接続すると、オーディオスコープ/オシロスコープ機能を表示することができます。この画面に切り替えれば、オーディオスコープで通過帯域の変化を確認することができます。
 - 【MONI】スイッチを “ON” にして【MONI】つまみを時計 (右) 方向へまわすと送信信号をスピーカーから聞くことができます。ヘッドフォンを使うと変化がよくわかります (p.82)。
 - 送信周波数帯域を広くするほど低音から高音にわたり広帯域の音声信号を送信することができます。特にローバンドでのローカルラグチューなどで広帯域の優れた音質の送信信号をお楽しみいただけます。



SSB/AMモードでの交信（送信音質を変えてみましょう）

送信周波数特性をパラメトリックマイクイコライザーで変える

— SSB, AM, FM運用時のみ —

好みに合わせて送信音質をDSPによる3ステージパラメトリックマイクイコライザー機能により、低域、中域、高域のそれぞれに独立して変化させることができます。

また、スピーチプロセッサ専用の3ステージパラメトリックマイクイコライザーも搭載しておりますので、スピーチプロセッサ“OFF”時は低音を強調した音質で、“ON”時では高音を強調した音質など独立して調節することができますので、運用シーンによって送信音質を変えて楽しむことができます。

1. マイクロホン接続します。
2. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
3. 【SELECT】つまみ（または【MAIN】ダイヤルつまみ）をまわして、メニューモードの「111 TGEN TX PWR」を呼び出します。
4. 【CLAR/VFO-B】つまみをまわして、最小限の送信出力にします。

TXイコライザーの調整時は送信しながら設定をしますので、他の交信に混信をあたえないように最小限の出力に下げてください。

- アドバイス**
- イコライザーの調整には、好みの音質に調整するために時間がかかりますので、RFダミーロードをご使用することをおすすめします。
 - 自分の音質をチェックするにはヘッドフォンを使用するとよくわかります。

5. パラメトリックマイクイコライザーを調整する場合は、【PROC】スイッチを一回押します。

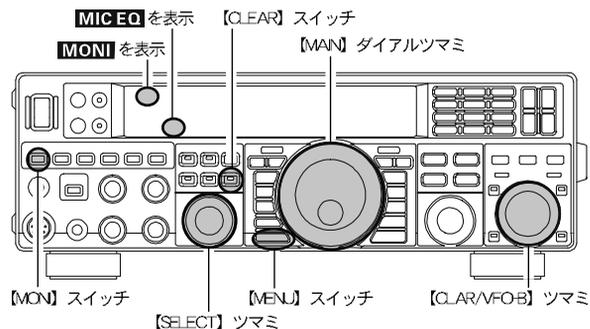
アドバイス ディスプレイに **MICEQ** が表示されます。工場出荷時はパラメトリックマイクイコライザーの中心周波数がすべてOFFに設定してあるため **MICEQ** が点滅します。中心周波数のいずれかを設定すると **MICEQ** が点灯します。

スピーチプロセッサ用のパラメトリックマイクイコライザーを調整する場合は、【PROC】スイッチをさらに一回押します。

ディスプレイに **PROC** と **MICEQ** が表示されます。



6. 【MONI】スイッチを押します。
ディスプレイに **MONI** が表示されます。
7. 【MAIN】ダイヤルつまみをまわして「091 TAUD EQ1 FRQ」～「099 TAUD EQ3 BW」の中から変更したいメニューを選択します。
スピーチプロセッサを調整する場合は、【MAIN】ダイヤルつまみをまわして「100 TAUD PE1 FRQ」～「108 TAUD PE3 BW」の中から変更したいメニューを選択します。
8. 【CLAR/VFO-B】つまみをまわして、選択した項目の設定値を変えます。



9. 設定を変えるたびにマイクロホンのPTTスイッチを押して送信しながら音質を確認します。

- 好みの音質になるまで、低域、中域、高域のそれぞれの音域で上記の調整を繰り返します。
- モニター音の調整は【MONI】つまみで行います。
- 中心周波数の設定をすべて“OFF”にすると **MICEQ** の表示が点滅します。
- スピーチプロセッサのパラメトリックイコライザーを調節する場合は、【PROC】スイッチを二回押してスピーチプロセッサが動作した状態で行います (p.79)。

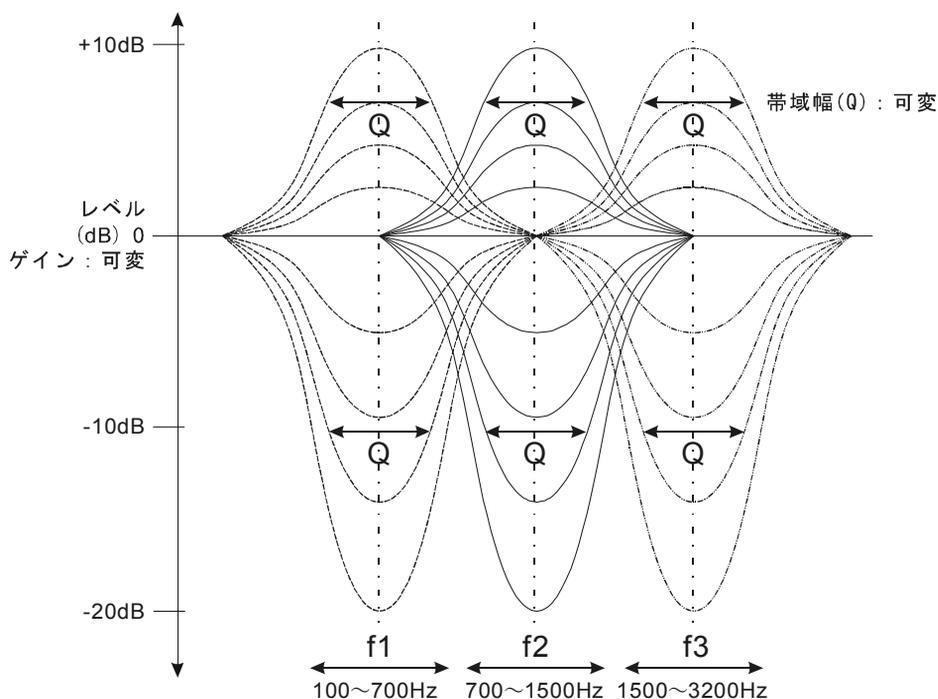
10. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと内容を保存し、メニュー設定画面を終了します。

変更をしないときは、【MENU】スイッチを短く押すと、変更前の設定のままメニューモードを終了します。

ワンポイント FT-950では、3ステージパラメトリックマイクイコライザーを搭載しており、低音、中音、高音のそれぞれの周波数において、音質を劣化させることなく好みの音にあわせて、変化幅、変化量、中心周波数を設定することができます。自分の声に合った品位のある送信音質を創り出すことができます。

SSB/AMモードでの交信 (送信音質を変えてみましょう)

送信周波数特性をパラメトリックマイクイコライザーで変える (つづき)



イコライザーの動作原理図

送信操作

3ステージパラメトリックマイクイコライザーメニューモード

	ユーザー-MENU	選択範囲	初期値
中心周波数	091 tAUd EQ1-FRQ	OFF/ "100" (Hz) ~ "700" (Hz)	OFF
	094 tAUd EQ2-FRQ	OFF/ "700" (Hz) ~ "1500" (Hz)	OFF
	097 tAUd EQ3-FRQ	OFF/ "1500" (Hz) ~ "3200" (Hz)	OFF
マイクゲイン	092 tAUd EQ1-LVL	(低域) "-20" (-20dB) ~ "+10" (+10dB)	+5
	095 tAUd EQ2-LVL	(中域) "-20" (-20dB) ~ "+10" (+10dB)	+5
	098 tAUd EQ3-LVL	(高域) "-20" (-20dB) ~ "+10" (+10dB)	+5
Q 設定	093 tAUd EQ1-BW	(低域) "1" ~ "10"	10
	096 tAUd EQ2-BW	(中域) "1" ~ "10"	10
	099 tAUd EQ3-BW	(高域) "1" ~ "10"	10

スピーチプロセッサ用3ステージパラメトリックマイクイコライザーメニューモード

	ユーザー-MENU	選択範囲	初期値
中心周波数	100 tAUd PE1-FRQ	OFF/ "100" (Hz) ~ "700" (Hz)	200
	103 tAUd PE2-FRQ	OFF/ "700" (Hz) ~ "1500" (Hz)	800
	106 tAUd PE3-FRQ	OFF/ "1500" (Hz) ~ "3200" (Hz)	2100
マイクゲイン	101 tAUd PE1-LVL	(低域) "-20" (-20dB) ~ "+10" (+10dB)	0
	104 tAUd PE2-LVL	(中域) "-20" (-20dB) ~ "+10" (+10dB)	0
	107 tAUd PE3-LVL	(高域) "-20" (-20dB) ~ "+10" (+10dB)	0
Q 設定	102 tAUd PE1-BW	(低域) "1" ~ "10"	2
	105 tAUd PE2-BW	(中域) "1" ~ "10"	1
	108 tAUd PE3-BW	(高域) "1" ~ "10"	1

メニューモードの p.132 ~ p.134 もご覧ください。

中心周波数低域, 中域, 高域に独立して変化させる中心周波数を設定することができます。

マイクゲイン低域, 中域, 高域に独立してマイクイコライザのゲインを設定をすることができます。

Q 設定低域, 中域, 高域に独立してマイクイコライザの変化幅を設定をすることができます。

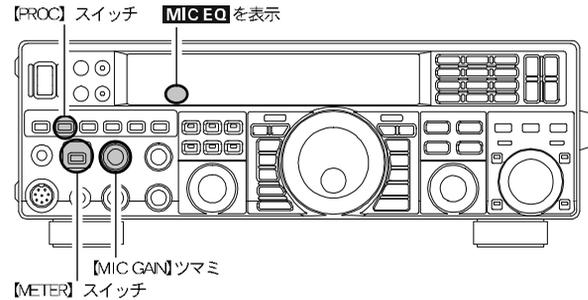
SSB/AMモードでの交信（送信音質を変えてみましょう）

パラメトリックマイクイコライザー を使って送信する

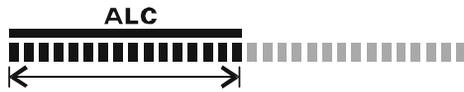
－ SSB, AM, FM 運用時のみ－

3ステージパラメトリックマイクイコライザーは、低音、中音、高音のそれぞれの周波数において、音質を劣化させることなく好みの音にあわせて、変化幅、変化量、中心周波数を設定した、自分の声に合った品位のある音質を創り出し、その音質を送信することができます。

1. あらかじめパラメトリックマイクイコライザーを好みの音質に調整しておきます（[p.76](#)）。
2. PTTスイッチを押しながらマイクロホンに向かって話し【MIC GAIN】ツマミを調節します。
FMモードは、あらかじめ最良点がプリセットされていますが、調整したい場合はメニューモードの「056 F3E FM MIC」で行ってください。また、「Ur」に設定すると【MIC GAIN】ツマミで調節することも可能です。
3. 【METER】スイッチを数回押して“ALCメーター”に切り換えます。



送信操作



SSBの場合はALCがこの範囲になるよう【MIC GAIN】ツマミを調節してください

4. 【PROC】スイッチを一回押します。
周波数ディスプレイに**MIC EQ**が表示され、3ステージパラメトリックマイクイコライザー回路が動作します。
もう一度押すとスピーチプロセッサがONになり**PROC**と**MIC EQ**が表示されます。さらにもう一度押すとアイコンが消えてOFFになります。
- DSP3ステージパラメトリックマイクイコライザーがON (MIC EQが表示される)
← OFF ← DSPスピーチプロセッサがON (PROCとMIC EQが表示される)
5. PTTスイッチを押しながらマイクロホンに向かって話します。

SSB/AMモードでの交信 (送信音質を変えてみましょう)

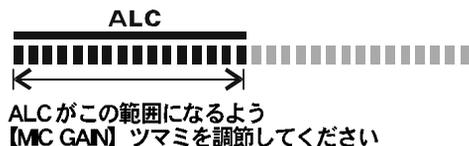
PROC (スピーチプロセッサ) を使う – SSB, AM 運用時のみ –

スピーチプロセッサは、送信信号の平均電力を増加させることによってトクパワーを上げ、相手局の了解度を上げるために使用します。

1. 【METER】スイッチを数回押して“ALCメーター”に切り換えます。

◎ SSBモード

ALCメーターの針がALCゾーン内で音声のピークでいっぱいまで振れる位置に設定します。

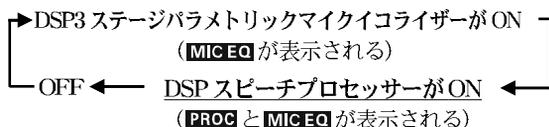


◎ AMモード

音声のピークでもALCが振れない位置に設定します。

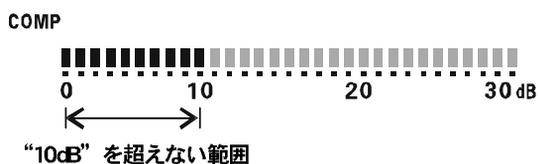
2. PTTスイッチを押しながらマイクロホンに向かって話し【MIC GAIN】ツマミを調節します。
3. 【METER】スイッチを数回押して、“COMPメーター”に切り換えます。
4. 【PROC】スイッチを二回押します。

周波数ディスプレイに**PROC**と**MICEQ**が表示され、スピーチプロセッサ回路とスピーチプロセッサ用3ステージパラメトリックイコライザ回路が動作します。



5. PTTスイッチを押しながらマイクロホンに向かって話します。

COMPメーターが音声に従って振れます。

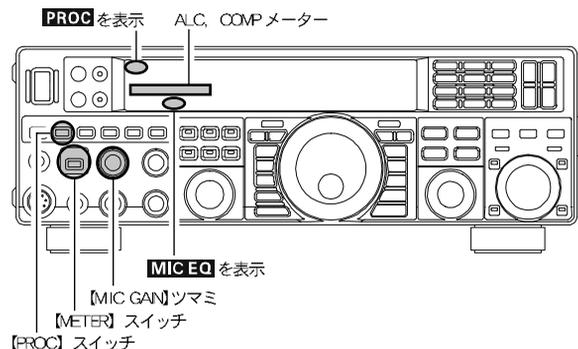


アドバイス コンプレッションレベルはメニューモード「109 TGEN PROCLVL」で調節することができます。

通常は、音声のピークでCOMPメーターの指示が“10dB”を超えない位置に設定することをおすすめします。

スピーチプロセッサを解除するときは、もう一度【PROC】スイッチを押します。

PROCと**MICEQ**の表示が消え、スピーチプロセッサ回路の動作が止まります。



ご注意 コンプレッションレベルを上げすぎると、S/N(送信音声信号対周囲雑音)比が悪化して明瞭度の悪い信号になりますのでご注意ください。

- アドバイス**
- オプションのデータマネジメントユニット“DMU-2000”と市販の外部ディスプレイを接続すると、オーディオスコプ/オシロスコープ機能を表示することができます。この画面に切り替えれば、オーディオスコプ画面でコンプレッションレベルによるトクパワーの増加を確認することができます。
 - コンプレッションをかけた実際の音声は、【MONI】スイッチを“ON”にして【MONI】ツマミを時計(右)方向へまわすことによって自分の音声を聞くことができます。ヘッドフォンを使用すると変化がわかりやすくなります(☞ p.82)。
 - スピーチプロセッサ回路が動作しているときでも、メニューモード「111 TGEN TX PWR」で送信出力の調節をすることができます。
 - スピーチプロセッサ用3ステージパラメトリックイコライザは、あらかじめ最良点にプリセットされていますが、メニューモードの「100 TAUD PE1 FRQ」～「108 TAUD PE3 BW」によりお好みの送信音質に設定することができます(☞ p.76)。
 - スピーチプロセッサが動作中、スピーチプロセッサ用3ステージパラメトリックマイクイコライザの中心周波数設定をすべて“OFF”にすると**MICEQ**の表示が点滅します。

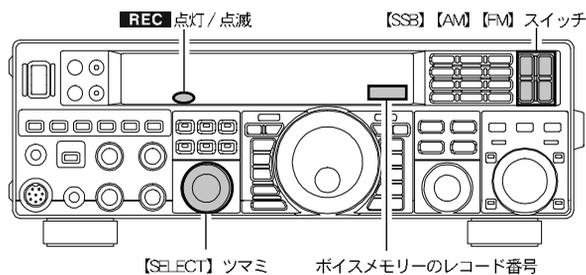
SSB/AMモードでの交信（自分の音声を録音して送信してみましょう）

ボイスメモリー（オプション：DVS-6）

オプションのDVS-6を装着すると、5チャンネルのボイスメモリーを使用することができます。1メモリーに対して約20秒間録音することができます。

また、背面のREMOTE (REM)ジャックにオプションのリモートコントロールキーパッドFH-2を接続することにより、FH-2のキーボードからボイスメモリー録音/送出操作を行うことができます（[p.81](#)参照）。FH-2の接続方法は「マイクロホン、ヘッドホン、FH-2リモートコントロールキーパッドの接続」または「オプションについて」をご覧ください（[p.21](#), [141](#)参照）。

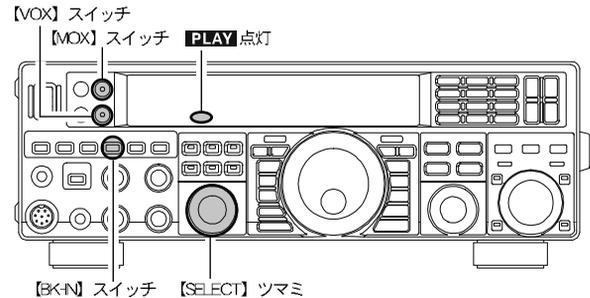
◆メモリーに自分の音声を録音する



1. MODEスイッチの【SSB】（【SSB】を短く押ししてLSBまたはUSBを選択）、または【AM/FM】（【AM/FM】を短く押ししてAMまたはFMを選択）を押して運用モード（電波型式）を選択します。
2. 【SELECT】ツマミを約1秒間押します。
【SELECT】ツマミがボイスメモリー機能の設定ツマミとなり、マルチディスプレイにボイスメモリーのレコード番号が表示されます。
3. 【SELECT】ツマミをまわして、レコード番号（rEC1～rEC5）を選択します。
4. 【SELECT】ツマミを短く押します。
REC が点滅します。
5秒間経ってもPTTスイッチを押さない場合は、自動的にキャンセルされ元に戻ります。
5. マイクロホンのPTTスイッチを短く押しして音声を録音します。
録音時間は20秒以内にしてください。
REC が点灯します。点灯をしている間は録音中です。
6. 【SELECT】ツマミを押して入力を終了します。
REC が消灯します。
7. 【SELECT】ツマミを約1秒間押しして録音機能を終了します。
【SELECT】ツマミがボイスメモリー機能の設定ツマミになる前の機能に戻ります。また、マルチディスプレイの表示もボイスメモリーのレコード番号が表示される前の表示に戻ります。

アドバイス 【MIC GAIN】ツマミでマイク入力レベルを調節することができます。

◆メモリーの内容を確認する



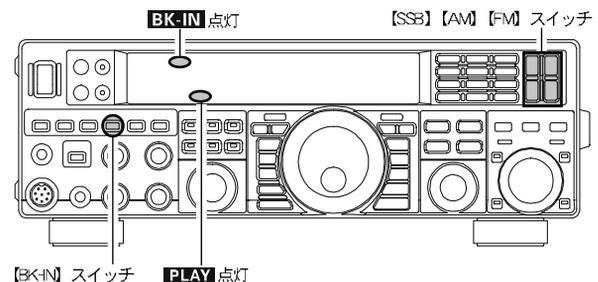
1. 【VOX】スイッチ、【MOX】スイッチ、【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
2. 【SELECT】ツマミを約1秒間押します。
3. 【SELECT】ツマミをまわして録音されているレコード番号（PLY1～PLY5）を選択します。
4. 【SELECT】ツマミを短く押しして内容を確認することができます。

確認中 PLAY が点灯します。

確認中、再度同じスイッチを押すと再生を中止します。

アドバイス 録音内容のモニターレベルを調節することができます（メニューモード「014 DVS RX LVL」）。

◆メモリーした内容を送信する



1. MODEの【SSB】または【AM/FM】を押して運用モード（電波型式）を選択します。
2. 本機の【BK-IN】スイッチを“ON”にします。
BK-IN が点灯します。
3. 【SELECT】ツマミを約1秒間押します。
4. 【SELECT】ツマミをまわして、レコード番号（PLY1～PLY5）のいずれかを選択します。
5. 【SELECT】ツマミを短く押すと録音された内容が送信されます。

送信中 PLAY が点灯します。

送信中、再度同じスイッチを押すと送信を中止します。

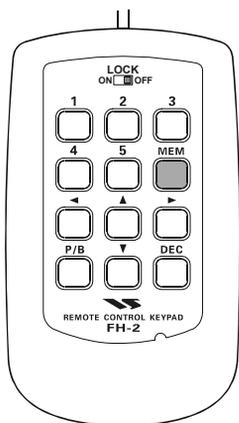
アドバイス 録音の出力レベルを調節することができます（メニューモード「015 DVS TX LVL」）。

SSB/AMモードでの交信 (自分の音声を録音して送信してみましょう)

オプションのリモートコントロールキーパッド“FH-2”による、ボイスメモリーの操作方法を説明します

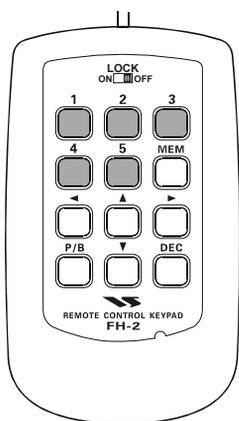
◆メモリーに自分の音声を録音する

1. MODEスイッチの【SSB】(【SSB】を短く押してLSBまたはUSBを選択), または【AM/FM】(【AM/FM】を短く押してAMまたはFMを選択)を押して運用モード(電波型式)を選択します。
2. FH-2の【MEM】キーを押します。
本機のディスプレイに**REC**が点滅します。



3. FH-2の【1】～【5】のキーから使用するメモリー番号を押します。

本機のディスプレイに**REC**が点滅します。
5秒間経ってもPTTスイッチを押さない場合は、自動的にキャンセルされ元にもどります。



4. マイクロホンのPTTスイッチを押して音声を録音します。

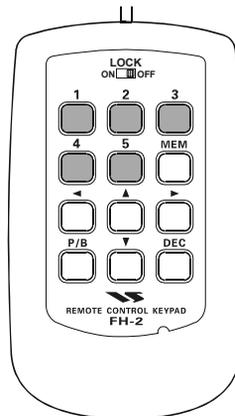
録音時間は20秒以内にしてください。
本機のディスプレイの**REC**が点灯します。点灯をしている間は録音中です。

5. FH-2の【MEM】キーを押して入力を終了します。

本機のディスプレイに**REC**が消灯します。

◆メモリーの内容を確認する

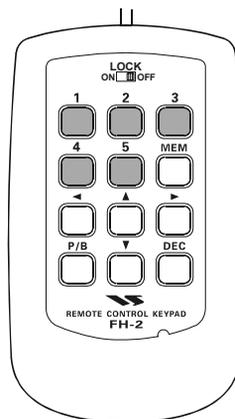
1. 本機の【VOX】スイッチ, 【MOX】スイッチ, 【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
2. FH-2の【1】～【5】のキーを押すと録音されている内容を確認することができます。
確認中, 本機のディスプレイに**PLAY**が点灯します。
確認中, 再度同じスイッチを押すと再生を中止します。



アドバイス 録音内容のモニターレベルを調節することができます(メニューモード「014 DVS RX LVL」)。

◆メモリーした内容を送信する

1. MODEスイッチの【SSB】(【SSB】を短く押してLSBまたはUSBを選択), または【AM/FM】(【AM/FM】を短く押してAMまたはFMを選択)を押して運用モード(電波型式)を選択します。
2. 本機の【BK-IN】スイッチを“ON”にします。
ブレイクイン動作になり, 本機のディスプレイに**BK-IN**が点灯します。
3. FH-2の【1】～【5】のキーいずれかを押すことにより録音された内容が送信されます。
送信中**PLAY**が点灯します。
送信中, 再度同じスイッチを押すと送信を中止します。



アドバイス 録音の出力レベルを調節することができます(メニューモード「015 DVS TX LVL」)。

送信時に便利な機能

音声による自動送受信切り替え機能 (VOX) — SSB, AM, FM 運用時 —

マイクロホンの PTT スイッチやパネル面の MOX スイッチを押さなくても、音声によって送受信を切り換えることができます。

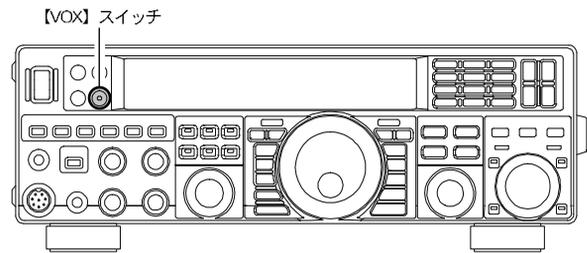
1. 【VOX】スイッチを押して VOX 機能を“ON”にします。
2. マイクロホンに向かって普通に話す大きさの声で話します。

- 普通に話す大きさで送信状態にならない場合は、メニューモードの「115 TGEN V GAIN」で調整します。音声入力によって自動的に送信状態になる位置に設定します。

【ご注意】 メニューモードの「115 TGEN V GAIN」を調整して VOX 感度を上げすぎると周囲の音で動作してしまいますので、ご注意ください。

- 音声入力なくなると自動的に受信状態に戻りますが、言葉の切れ目で受信状態に戻ってしまう場合は、メニューモードの「116 TGEN VOX DLY」で送信状態保持時間を調節して、自然に受信状態にもどる時間に設定します。

VOX 操作を解除するには、もう一度【VOX】スイッチを押します。



- 【アドバイス】**
- VOX 機能の入力を MIC 以外に、DATA を選択することができます (メニューモード 「114 TGEN VOX SEL」)。
 - VOX 運用時に、スピーカーからの受信音により VOX 回路が誤動作して、送信状態に切り換わらないように調節することができます。(メニューモード 「117 TGEN ANTIVOX」)。

送信音をモニターする機能 (MONI : モニター)

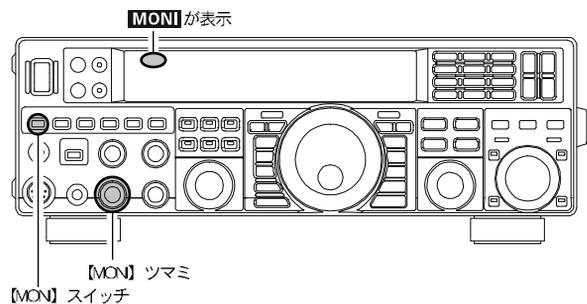
送信時に自分の送信音をモニターすることができます。

1. 【MONI】スイッチを押すと周波数ディスプレイに **MONI** が表示され、スピーカーから自局の送信音が聞こえます。

【アドバイス】 モニター機能は SSB/CW/AM/FM/RTTY モードで動作します。

2. モニター音量の調節は【MONI】ツマミで行い、時計(右)方向にまわすほど音量が大きくなります。

モニター機能を解除するには、もう一度【MONI】スイッチを押すと、**MONI** の表示が消灯しモニター機能が“OFF”になります。



- 【アドバイス】**
- スピーカーでモニターするときには、【MONI】ツマミをまわしすぎるとハウリングを起したり、VOX 動作が不安定になることがありますのであまり大きくしないようにしてください。
 - 本機に内蔵してあるモニター回路は DSP 回路を通った後の信号をモニターしていますので、DSP スピーチプロセッサの動作状態、DSP 送信帯域バンドパスフィルターの動作状態や DSP パラメトリックイコライザーの音質チェックなどに大変便利に使用することができます。

送信周波数だけを一時的に動かす機能 (TX CLAR)

— VFO-A, B 個別に設定可能 —

自局の受信周波数は動かさずに送信周波数だけを最大± 9.999kHz 動かすことができます。通常、クラリファイアは受信周波数だけを動かして相手の送信周波数のずれを補正する目的に使用しますが、その逆に送信周波数だけを動かすことができます。コンテストなどで多数の局に呼ばれている局を呼ぶときに、送信周波数を少しずらして送信すると応答率が上がることもあります。

◎ VFO-A の場合

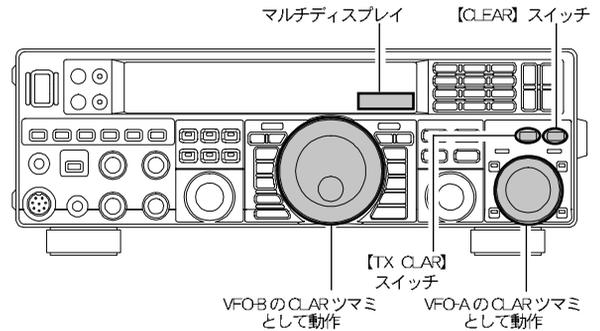
VFO-Aを受信中に【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、オフセット量を設定します。【TX CLAR】スイッチを押して、PTTで送信するとVFO-Aの送信周波数だけが変わります。

- ディスプレイのマルチディスプレイに“CLAR”と“TX”の表示が点灯します。
- 最大± 9.999kHz 動かすことができます。
- 受信クラリファイア機能と同様に、受信周波数と送信周波数の差(オフセット量)は、ディスプレイのマルチディスプレイに表示されます。

◎ VFO-B の場合

VFO-Bを受信中 (p.7, 48) に【MAIN】ダイヤルツマミをまわして、オフセット量を設定します。【TX CLAR】スイッチを押して、PTTで送信するとVFO-Bの送信周波数だけが変わります。

- ディスプレイのマルチディスプレイに“CLAR”と“TX”の表示が点灯します。
- 最大± 9.999kHz 動かすことができます。
- 受信クラリファイア機能と同様に、受信周波数と送信周波数の差(オフセット量)は、ディスプレイのマルチディスプレイに表示されます。



一時的に送信クラリファイアを解除するには、【TX CLAR】スイッチを押します。

マルチディスプレイ内“CLAR”と“TX”表示が消灯します。

クラリファイアのオフセット量を“ゼロ”にしたときには、【CLEAR】スイッチを押します。

アドバイス

受信クラリファイア機能と同様に、送信クラリファイア機能を“OFF”にしても、オフセット量(送信周波数と受信周波数の差)はそのまま保持されます。

オフセット量を“ゼロ”にしたときには、【CLEAR】スイッチを押します。

BAR ディスプレイによるオフセット量の表示

受信周波数と送信周波数の位置関係(オフセット方向とオフセット量)をBAR ディスプレイで表示することができます。

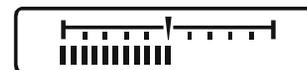
1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、“メニューモード「006 DISP BAR SEL」”を呼び出します。【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、“CLAr (CLAR)”を選択します(工場出荷時 C-tn(CW-TUNE))。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと、設定内容が保存されメニューモードが終了します。



受信周波数と送信周波数のオフセット量がプラスの場合



受信周波数と送信周波数が同じ場合



受信周波数と送信周波数のオフセット量がマイナスの場合

送信時に便利な機能

スプリット (たすきがけ) 運用

VFO-Aに設定した周波数とVFO-Bに設定した周波数を使用して、異なる周波数で送受信することができます。DXペディションなどで行われているスプリット運用に便利です。

1. VFO-Aの周波数を設定します。

2. VFO-Bに送信周波数を設定します。

アドバイス

【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押すと、スイッチが緑色に点灯します（スイッチが緑色に点滅している場合は、ミュート機能が動作しています。もう一度押すと点灯し、ミュート機能が解除されます）。

運用バンド・運用モードを設定し、【CLAR/VFO-B】ツマミで周波数を設定します。

【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押します（スイッチが緑色に点灯）。

3. 【SPLIT】スイッチを短く押すとスプリット運用になります。

VFO-A - 【RX】インジケータースイッチは“ON” (LED 緑点灯)

【TX】インジケータースイッチは“OFF” (LED 消灯)

VFO-B - 【RX】インジケータースイッチは“OFF” (LED 消灯)

【TX】インジケータースイッチは“ON” (LED 赤点灯)

の状態になります。

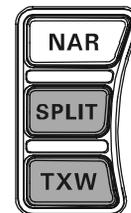
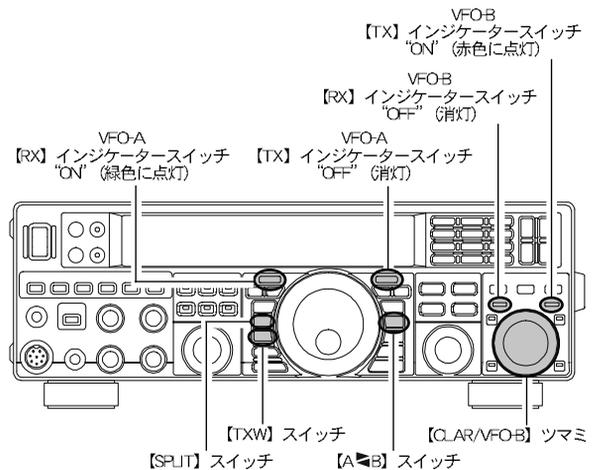
スプリット運用中は、VFO-Aの周波数を受信し、VFO-Bの周波数で送信になります。

スプリット運用の解除は2種類の方法があります。

- もう一度【SPLIT】スイッチを短く押すと、スプリット運用は解除されます。
- VFO-Aの【TX】インジケータースイッチを押すと、送信周波数もVFO-Aの周波数に移動し、スプリット運用は解除されます。

アドバイス

- スプリット運用を行うには、VFO-Bの【TX】インジケータースイッチを直接押すことによっても可能です。
- スプリット運用中に【A⇄B】スイッチを押すと、受信周波数と送信周波数が入れ換わり、今まで送信していた周波数を受信し、受信していた周波数で送信する“リバース運用”になります（もう一度【A⇄B】スイッチを押すと、リバース運用は解除されます）。
- “受信周波数はLSBモードで、送信周波数はUSBモード”と言うように、受信周波数と送信周波数に異なる運用モード（電波型式）を設定することもできます。
- 受信周波数と送信周波数を異なるバンドに設定すれば、“受信は21MHz帯で送信は14MHz帯”のような“クロスバンド運用”を行うこともできます。



スプリット運用中に、【TXW】スイッチを押すと、スイッチを押している間だけ、送信側の周波数を受信することができます。

スプリット (たすきがけ) 運用 (つづき) – VFO-A 受信時のみ –

クイックスプリット機能

自動的に、VFO-Bの周波数が、VFO-Aの周波数より、5kHz高い周波数に設定され、VFO-Aで受信、VFO-Bで送信を行います。

1. VFO-Aに受信周波数を設定します。

VFO-A — [RX] インジケータースイッチは“ON”(LED緑点灯)
 [TX] インジケータースイッチは“ON”(LED赤点灯)
 VFO-B — [RX] インジケータースイッチは“OFF”(LED消灯)
 [TX] インジケータースイッチは“OFF”(LED消灯)
 の状態で設定します。

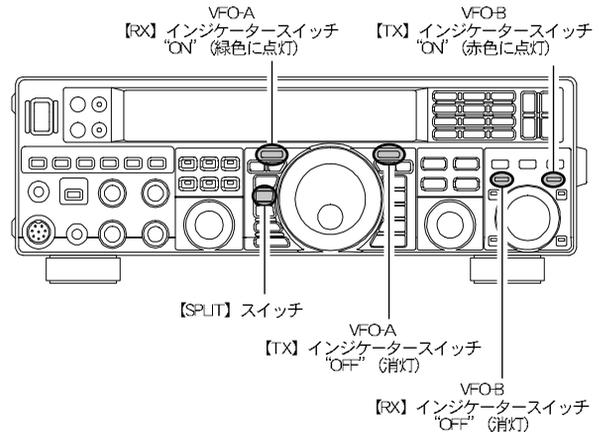
2. 【SPLIT】スイッチを約1秒間押しと VFO-Bの周波数が自動的にセットされ、クイックスプリット運用になります。

また、【SPLIT】スイッチを約1秒間押しごとに5kHzずつアップします。

VFO-A — [RX] インジケータースイッチは“ON”(LED緑点灯)
 [TX] インジケータースイッチは“OFF”(LED消灯)
 VFO-B — [RX] インジケータースイッチは“OFF”(LED消灯)
 [TX] インジケータースイッチは“ON”(LED赤点灯)

ワンポイント

- VFO-Bの運用モード(電波型式)がVFO-Aの運用モード(電波型式)と同じになります。
- VFO-Aの周波数から、あらかじめ決められた値(オフセット値)だけ離れた周波数がVFO-Bに設定されます。
- 【SPLIT】スイッチを約1秒間押しごとに変更したオフセット周波数が加算されます。5kHzの場合は、10kHz → 15kHz → 20kHz・・・



ご注意 VFO-Bで受信しているときには、クイックスプリット機能は動作しません。

送信操作

クイックスプリットのオフセット周波数を変更することができます。下記の手順でメニューモードを設定してください。

1. 【MENU】スイッチを短く押しとディスプレイにメニューモードが表示されます。

2. 【MAIN】ダイヤルツマミをまわして、メニューモードの「030 GENE Q SPLIT」を呼び出します。

【SELECT】ツマミを押しとメニュー名を確認することができます。

3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、希望の“オフセット値”を選びます(工場出荷時5kHz)。

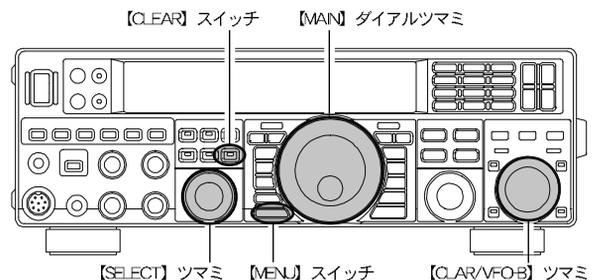
– 20kHz ↔ 0kHz ↔ 5kHz ↔ 20kHz
 (1kHz ステップ)

から選択できます。

【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。

4. 【MENU】スイッチを約1秒間押しと内容を保存しメニュー設定画面を終了します。

変更を保存したくないときは、【MENU】スイッチを短く押しと変更しないでメニューを終了します。



CWモードでの交信

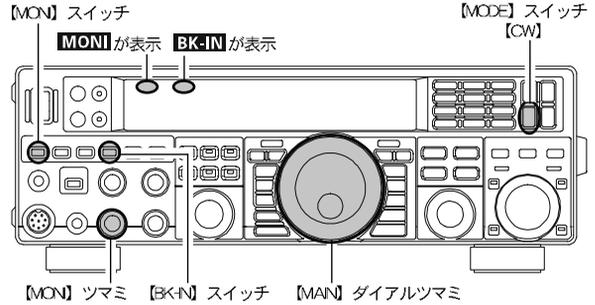
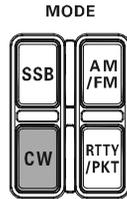
CWの運用を行う場合には、“縦振れ電鍵や複式電鍵を使って運用する方法”と“内蔵のエレクトロニックキーヤーを使って運用する方法”の2通りの交信方法が可能です。

縦振れ電鍵や複式電鍵を使って運用する方法

あらかじめ、パネル面または背面のKEY ジャックに電鍵を接続し、88ページの「キーヤー動作を変更する」の手順に従って、キーヤー機能を“OFF”にしてください。

1. MODEの【CW】スイッチを押して運用モード(電波型式)をCWにします。

- **USB** **CW** が点灯します。
- 周波数ディスプレイに **MONI** が表示されます。
MONI が表示されない場合は、サイドトーンが聞こえませんが **MONI** スイッチを“ON”にしてください。さらに、**MONI** ツマミをまわすとサイドトーンの音量を調節することができます。
- **MODE** スイッチの **CW** をもう一度押すと、周波数ディスプレイに **LSB** が点灯し、CW REVERSE になります(☞ p.90)。



2. **MAIN** ダイヤルツマミをまわして希望の周波数にあわせます。

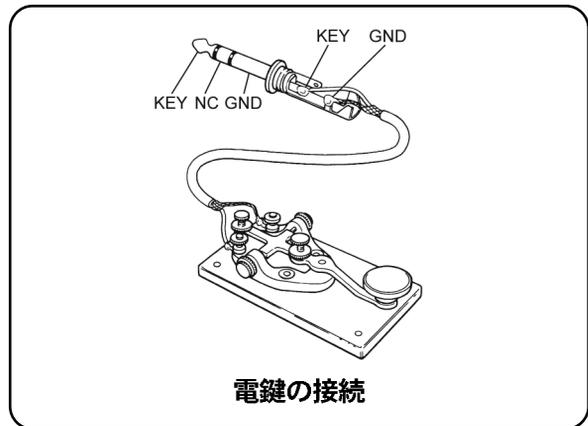
3. **BK-IN** スイッチを“ON”にして、“ブレークイン操作”にします。
周波数ディスプレイに **BK-IN** が表示されます。



アドバイス

電鍵操作を行うと自動的に送信状態になって符号が送信でき、キーイングが終わって一定時間たつと受信状態に戻ります。この受信状態に戻る時間(CWディレイタイム)を調節することができます(☞ p.91)。

4. 電鍵によりキーイング操作を行います。



電鍵の接続

アドバイス

- **BK-IN** スイッチを“OFF”にしておいて、電鍵を操作すると、送信状態にはならずスピーカーからサイドトーンが出ますので、電鍵の調整をするときに便利です。
- CWモードに切り換えなくてもLSB/USBモードでキーイング操作を有効にし、CW信号を送出することもできます(メニューモード「041 A1A CW AUTO」)。
- SSBモードとCWモードで表示周波数を変化させず、同じ周波数表示させることもできます(メニューモード「047 A1A FRQDISP」)。
- CW受信時のBFOの位置を切り替えることができます(メニューモード「042 A1A BFO」)。
- パソコンを接続してフリーソフトまたは市販のソフトでCW運用をすることができます(メニューモード「048 A1A PC KYNG」)。
- 非常連絡設定周波数(4630kHz)をメモリーチャンネルに追加することができます(メニューモード「118 TGEN EMRGNCY」)。

用語説明

セミブレークインとは？

電鍵操作を行うと自動的に送信状態になって符号が送信でき、キーイングが終わって一定時間たつと受信状態に戻ります。

フルブレークインとは？

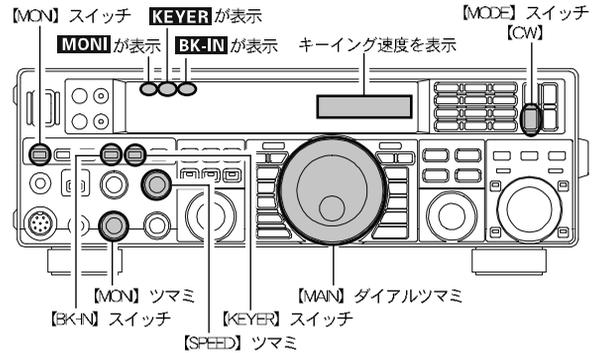
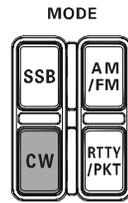
電鍵操作を行うと自動的に送信状態になり電波が発射され、キーイングのスペースの間で自動的に受信状態に戻ります。相手局がキーイング操作の途中で返答してきた場合でも、スペースの間で相手局の信号を受信することができますので大変便利です。

内蔵エレクトロニックキーヤーを使って運用する方法

あらかじめ、前面または背面のKEY ジャックにマニピュレーターを接続してください。

1. 【MODE】スイッチの【CW】を押して、運用モード(電波型式)をCWにします。

- USB CWが点灯します。
- 周波数ディスプレイに【MONI】が表示されます。
- 【MONI】が表示されない場合は、サイドトーンが聞こえませんので【MONI】スイッチを“ON”にしてください。さらに、【MONI】つまみをまわすとサイドトーンの音量を調節することができます。
- 【MODE】スイッチの【CW】をもう一度押すと、周波数ディスプレイに【LSB】が点灯し、CW REVERSEになります(☞ p.90)。



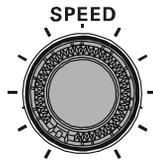
2. 【MAIN】ダイヤルつまみをまわして希望の周波数にあわせます。

3. 【KEYER】スイッチを押します。周波数ディスプレイに【KEYER】が表示され、内蔵のエレクトロニックキーヤーが動作します。



4. 【SPEED】つまみをまわしてキーイング速度の調節を行います。

- マニピュレーターを操作すると、送信状態にはならずスピーカからサイドトーンが出ます。
- 【SPEED】つまみは時計(右)方向へまわすほど、キーイング速度が速くなります。キーイング速度は4WPM~60WPMの速度をコントロールすることができます。
- 【KEYER】スイッチを約2秒間押すと、周波数ディスプレイにキーイング速度が表示されます。



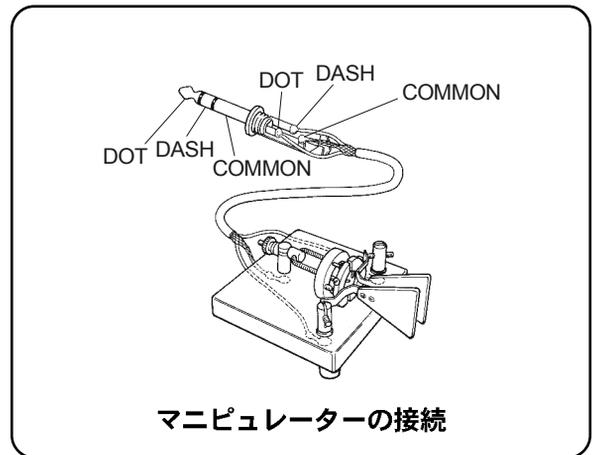
5. 【BK-IN】スイッチを“ON”にして、“ブレークイン操作”にします。

- 周波数ディスプレイに【BK-IN】が表示されます。
- 工場出荷時は“セミブレークイン”に設定してありますが、メニューモードの「043 A1A BK-IN」を“FuLL”に設定すると“フルブレークイン”になります(☞ p.124)。



6. マニピュレーターによりキーイング操作を行います。

マニピュレーターを操作すると自動的に送信状態になって符号が送信でき、キーイングが終わって一定時間たつと受信状態に戻ります。この受信状態に戻る時間(CWディレイタイム)をメニューモード「044 A1A DELAY」で調節することができます(☞ p.91)。



マニピュレーターの接続

アドバイス

- 【BK-IN】スイッチを“OFF”にしておいて、電鍵を操作すると、送信状態にはならずスピーカからサイドトーンが出ますので、電鍵の調整をするときに便利です。
- CWモードに切り換えなくても LSB/USBモードでキーイング操作が有効になり、CW信号を送出することができます(メニューモード「041 A1A CW AUTO」)。
- SSBモードとCWモードとでは表示周波数が変化せず、同じ周波数を表示することができます(メニューモード「047 A1A FRQDISP」)。
- CW受信時のBFOの位置を切り替えることができます(メニューモード「042 A1A BFO」)。
- パソコンを接続してフリーソフトまたは市販のソフトでCW運用をすることができます(メニューモード「048 A1A PC KYNG」)。
- 非常連絡設定周波数(4630kHz)をメモリーチャンネルに追加することができます(メニューモード「118 TGEN EMRGNCY」)。

フルブレークイン操作に切り換える

フルブレークイン操作とは、マニピュレーターを操作するとキーダウンで自動的に送信状態になって電波が発射され、キーアップでただちに受信状態に戻ります。キーイング中でもキーアップ時(モールス符号のスペース時)に受信することができますので、コンテスト時などで威力を発揮します。

1. 【MENU】キーを短く押してメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】つまみ(または【MAIN】ダイヤルつまみ)をまわして、“メニューモード「043 A1A BK-IN」”を呼び出します。
【SELECT】つまみを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】つまみをまわして、“FuLL”を選びます。
4. 【MENU】キーを約1秒間押すと設定が保存されます。

CWモードでの交信

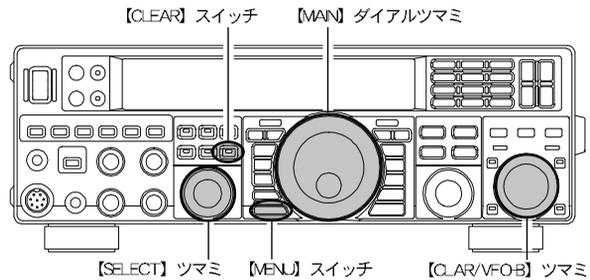
内蔵エレクトロニックキーヤーを使って運用する方法 (つづき)

内蔵のエレクトロニックキーヤーは多彩な機能を備えています。

短点と長点の比率を設定する

短点(dot)と長点(dash)の比率(ウエイト)を設定することができます(工場出荷時:3.0)。

1. 【MENU】スイッチを短く押してメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ(または【MAIN】ダイヤルツマミ)をまわして、メニューモード「046 A1A WEIGHT」を呼び出します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、短点と長点の比率を希望の値にします2.5~4.5(工場出荷時:3.0)。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと設定が保存されます。



キーヤー動作を変更する

エレクトロニックキーヤーの動作を切り換えることができます(工場出荷時: ELEKEY)。オートスペースコントロール機能動作またはバグキー動作に変更することができます。

1. 【MENU】スイッチを短く押してメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ(または【MAIN】ダイヤルツマミ)をまわして、メニューモード「037 A1A F-TYPE」を呼び出します。
○ 【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
○ 背面側のKEYジャックを変更する場合は、メニューモードの「039 A1A R-TYPE」を変更してください。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、希望の動作を選びます(右表参照)。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと設定が保存されます。

OFF	キーヤー機能をOFFにします。
BUG	短点のみが自動(長点は手動)で送出される“バグキー”として動作します。
ELEKEY	短点と長点を自動に送出される“エレクトロニックキーヤー”として動作します。
ACS	キーヤー回路が、自動的に文字と文字の間隔(符号間隔)を正確に3短点分取る“オートスペースコントロール機能付きキーヤー”として動作します。

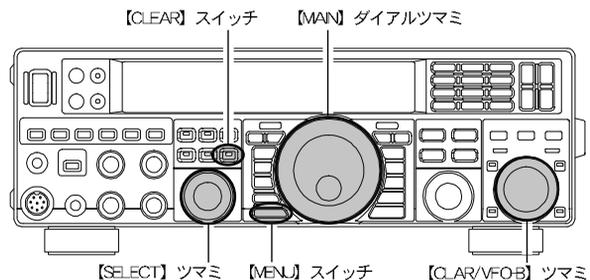
ACS OFF Morse "E" & "T" スペース

ACS ON Morse "E" & "T"

キーヤーの極性を反転する

コンテストなどの複数の人の中で左利きのオペレータがいる場合キーヤーの接続を変えずにメニューモードで簡単に極性を反転することができます。(工場出荷時:nor (NOR))。

1. 【MENU】スイッチを短く押してメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ(または【MAIN】ダイヤルツマミ)をまわして、メニューモード「038 A1A F-REV」を呼び出します。
○ 【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
○ 背面側のKEYジャックを変更する場合は、メニューモードの「040 A1A R-REV」を変更してください。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、“rEU (REV)”を選択します。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと設定が保存されます。



アドバイス

上記の「キーヤー動作を変更する」において、ELEKEY、ACSのみキーヤーの極性を変更することができます。

正確に相手の周波数へゼロインする

◎ CW-TUNE (CW ゼロイン) 機能を使う

CW-TUNE (CW ゼロイン) 機能を使用すれば、あらかじめ設定したピッチ音にあわせて簡単に相手の送信周波数にゼロインすることができます。

ピッチ音の設定は、下記のように行います。

1. 【MENU】キーを短く押してメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】 ツマミ (または 【MAIN】 ダイアルツマミ) をまわして、“メニューモード「045 A1A PITCH」”を呼び出します。
【SELECT】 ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. あらかじめ【MONI】スイッチを“ON”にしておき、【SPOT】スイッチを押しながら【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、希望のピッチに設定します。
【SPOT】スイッチを押している間だけ周波数ディスプレイにピッチ周波数を表示します。
【SELECT】 ツマミ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】キーを約1秒間押すと設定が保存されます。

アドバイス

自局の受信周波数が相手局の送信周波数にゼロインすると、BARディスプレイが右図のように点灯しますので、BARディスプレイが右図のように点灯するよう【MAIN】ダイアルツマミで受信周波数を動かします。

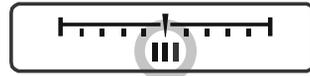
離調時 (希望のピッチ周波数より相手局の信号が高い場合) ※1



離調時 (希望のピッチ周波数より相手局の信号が低い場合) ※2



同調時 (希望のピッチ周波数とゼロインできた場合)



※1: CW REVERSE時は、希望のピッチ周波数より相手局の信号が高い場合に表示

※2: CW REVERSE時は、希望のピッチ周波数より相手局の信号が低い場合に表示

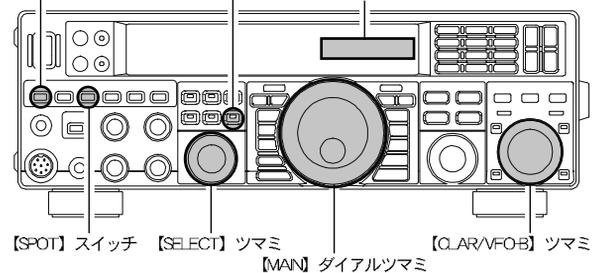
◎ SPOT 機能を使う

受信時に【MONI】スイッチをONの状態、【SPOT】スイッチを押し続けるとSPOT機能が動作し、押している間だけ周波数ディスプレイにピッチ周波数を表示します。SPOT機能は、メニューモードの「045 A1A PITCH」で設定したCWの受信ピッチ(音程)と同じトーンを受信時に再生しますので、相手局のトーンを聞きながら同じ受信PITCH(音程)になるように【MAIN】ダイアルツマミをまわして受信周波数を合わせることで、相手の送信周波数にゼロインすることができる便利な機能です。

アドバイス

BARディスプレイは、CW-TUNE機能、クラリファイア機能、μ-TUNE機能のいずれかの動作を表示することができます。メニューモードの「006 DISP BAR SEL」で設定を変更します。工場出荷時は、CW TUNE 機能 (C-tn) に設定してあります。

【MONI】スイッチ 【CLEAR】スイッチ ピッチ周波数を表示



ワンポイント

- CW-TUNE 機能とは、CW ゼロイン機能ともいいます。あらかじめ設定してあるCWの受信PITCH(音程)にあわせることによってこちらの周波数を相手の周波数にゼロインすることができる便利な機能です。FT-950では、BARディスプレイの中央のドット(3点)が表示するようにすれば、そのポイントがゼロイン周波数となります。CWの受信PITCH(音程)は、メニューモードの「045 A1A PITCH」で好みに合わせて調整することができます。50Hzステップで“300Hz”から“1050Hz”まで設定することができます。ここで設定したPITCH(音程)はCW運用にBARディスプレイでCWゼロイン機能の基準PITCH(音程)となります。
- CWモード時の表示周波数はPITCH周波数分オフセットするように設定されていますが、メニューモードの「047 A1A FRQDISP」の設定を“dir (DIRECT FREQ)”に変更すると、SSBモードからCWモードに切り換えたときの表示周波数は変化することなく、同じ周波数を表示します。SSBモードで交信し、さらに同じ周波数でCWモードで交信する場合は、大変便利な機能です。

CW 運用のときに便利な機能

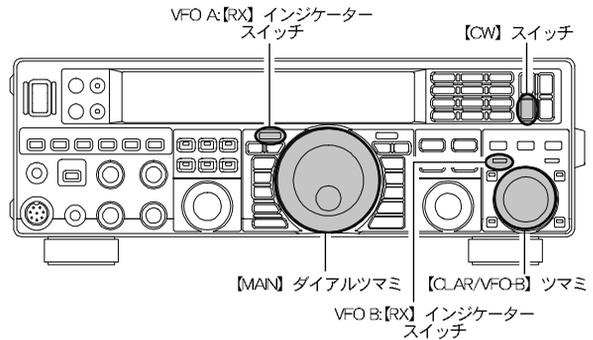
CW REVERSE 機能を使う

CW運用時に受信信号の中に混信がある場合には、サイドバンドを反転させることにより、簡単に混信から逃れることができます。

CWモードで運用中に再度、MODEの【CW】スイッチを押します。

- VFO-Aで運用するときは、【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。
- VFO-Bで運用するときは、【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、【CLAR/VFO-B】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。

CW REVERSEを解除するには、もう一度MODEの【CW】スイッチを押します。



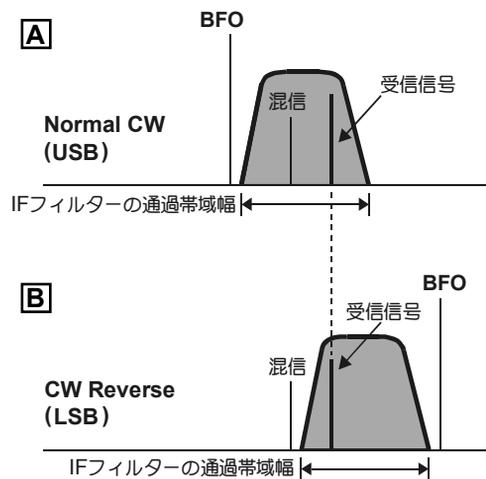
アドバイス

メニューモードの「042 A1A BFO」で、AUTOで運用しているときは、受信周波数が10MHz以下の場合にはBFOの位置がLSB側に、受信周波数が10MHz以上の場合にはBFOの位置がUSB側になります。CWリバーズに切り換えると、受信周波数が10MHz以下の場合にはBFOの位置がUSB側に、受信周波数が10MHz以上の場合にはBFOの位置がLSB側に反転します。

送信操作

CW信号は通常、図(A)に示すように、USBモードで受信しますが、CWモードで運用中に再度MODEの【CW】スイッチを押すとサイドバンドが反転し、図(B)に示すようにLSBモードで受信することができます(CW REVERSE受信)。

そのため、図(A)に示すような位置に混信があるときには、サイドバンドを反転することにより、図(B)に示すように、混信をフィルターの帯域外に追い出すことができます。



ご注意

CWリバーズにするとCW-TUNE機能(p.89)は、通常のCW受信時とくらべ離調時のみ逆に表示されます(右図参照)。同調時は通常のCW受信時と同様で、中心にBARが表示されます。

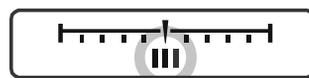
離調時 (希望のピッチ周波数より相手局の信号が低い場合)



離調時 (希望のピッチ周波数より相手局の信号が高い場合)



同調時 (希望のピッチ周波数とゼロインできた場合)



CW 運用のときに便利な機能

キーイングスピードの調節

内蔵エレクトロニクスキーヤーの“キーイングスピード”を調節することができます。4 wpm (反時計 (左) 方向へまわしきる) から 60 wpm (時計 (右) 方向へまわしきる) までのスピードを調節することができます。

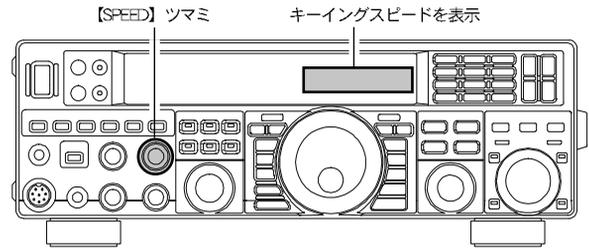
【SPEED】 ツマミをまわしてキーイングスピードを選びます。

ツマミをまわすと、約3秒間周波数表示部にキーイングスピードを表示します。

用語説明

wpm (Word Per Minutes) とは?

5文字の単語を1分間に何単語送出するか、ARRLが定めたキーイングスピードの単位基準です。



CW ディレイタイムの調節

“セミブレイクイン操作”時に、キーイング操作が終わってから受信状態に戻るまでの時間を調節することができます。メニューモードの「044 A1A DELAY」により 30msec から 3000msec までの時間を調節することができます。

1. **【KEYER】** スイッチを短く押して“ON”にします。

【KEYER】 が点灯します。

2. **【MENU】** スイッチを短く押してメニューモードを表示します。

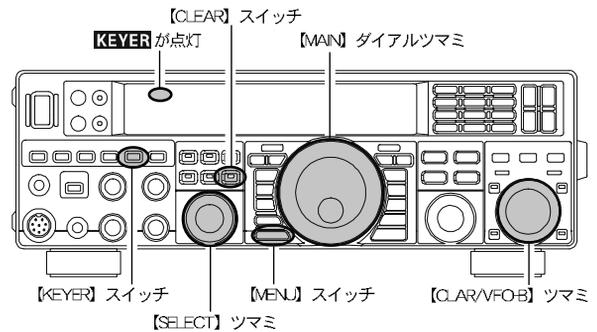
3. **【SELECT】** ツマミ (または **【MAIN】** ダイアルツマミ) をまわして、“メニューモード「044 A1A DELAY」”を呼び出します。

【SELECT】 ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。

4. **【CLAR/VFO-B】** ツマミをまわして、希望する時間 (30msec ~ 3000msec) に設定します (工場出荷時: 200msec)。

【SELECT】 ツマミ右上の **【CLEAR】** キーを押すと、初期値に戻すことができます。

5. **【MENU】** スイッチを約1秒間押すと設定が保存されます。



アドバイス

送信操作を行ってから、実際に電波が送信されるまでの時間を設定することができます (メニューモード「049 A1A QSK TIME」)。

送信操作

CW ピッチの調節

CW 信号の受信音 (CW ピッチ) をメニューモードの「045 A1A PITCH」により 300Hz から 1050Hz まで 50Hz ステップで変更することができます。

1. **【MENU】** スイッチを短く押してメニューモードを表示します。

2. **【SELECT】** ツマミ (または **【MAIN】** ダイアルツマミ) をまわして、“メニューモード「045 A1A PITCH」”を呼び出します。

【SELECT】 ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。

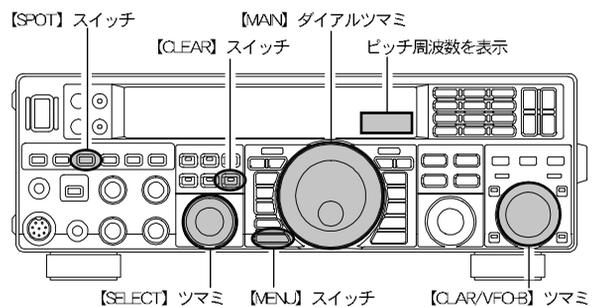
3. **【SPOT】** スイッチを押しながら **【CLAR/VFO-B】** ツマミをまわして、希望のピッチに設定します。

○ **【SPOT】** スイッチを押している間だけマルチディスプレイにピッチ周波数を表示します。

○ **【MONI】** スイッチを“ON”にしておき、**【MONI】** ツマミをまわすと CW ピッチの音量を調節することができます。

○ **【SELECT】** ツマミ右上の **【CLEAR】** キーを押すと、初期値に戻すことができます。

4. **【MENU】** スイッチを約1秒間押すと設定が保存されます。



用語説明

CW ピッチとは?

BFO 周波数と受信周波数の差 (ピッチ周波数) のことで、この周波数の差がピート音として聞こえます。本機ではピッチ周波数を 300Hz から 1050Hz まで 50Hz ステップで調節することができます。

CW 運用のときに便利な機能

コンテストメモリーキーヤー (Contest Memory Keyer)

フロントパネル左下の【SELECT】ツマミの操作により各種のキーコントロールを行うことができます。また、オプションのリモートコントロールキーパッド“FH-2”を背面のREMジャックに接続して、FH-2のキーボードから各種のキーコントロールを行うことができます。操作方法は94、97ページをご覧ください。メモリーキーヤーには2種類のメモリーがあります。どちらのメモリーも5チャンネルあります。このメモリーキーヤーには、直接パドルで打ち込みメモリーする“MESSAGEメモリー”と、テキストで入力した文章をメモリーし、その内容をCW符号に変換し送出する“TEXTメモリー”があります。なお、FH-2の接続方法は21ページまたは141ページをご覧ください。

MESSAGEメモリー

5チャンネルのメモリーがあり、それぞれが短点と長点をPARIS(パリ)を基準にして最高50文字のCW符号をメモリーすることが可能です。

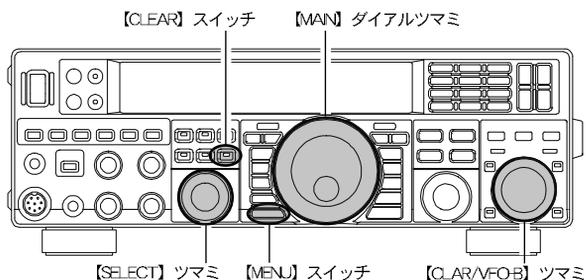
例 CQ CQ CQ DE JA1YOE K (合計15文字)

--- · --- · --- · --- · --- · --- · --- · --- · --- · --- · --- · ---
(C) (Q) (C) (Q) (C) (Q) (D) (E) (J) (A) (I) (Y) (O) (E) (K)

◆メモリーに書き込む前の準備

1. 【MENU】スイッチを短く押すとメニューモードが表示されます。
2. 【SELECT】ツマミ (または【MAIN】ダイヤルツマミ) をまわして、“メニューモード「019 KEY CW MEM1 ~ 023 KEY CW MEM5」”の中からメモリーしたいいずれかのメモリー番号を選択します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます
3. 選択したメモリーを【CLAR/VFO-B】ダイヤルをまわして“typ2 (MESSAGE)”にします。
【SELECT】ツマミ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと内容を保存し、メニュー設定画面を終了します。

あらかじめ、メニューモードの「019 KEY CW MEM1 ~ 023 KEY CW MEM5」が“typ2 (MESSAGE)”に設定されている場合は、“メモリーに書き込む前の準備”を省略することができます。



用語説明

PARIS(パリ)基準とは？

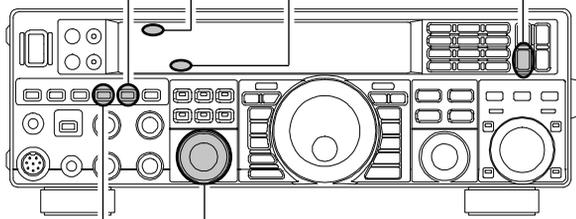
「PARIS」という5文字の単語を1分間に何単語送出するか、ARRLが定めたキーイングスピードの単位基準で、単位はwpm(Word Per Minutes)です。

MESSAGEメモリーは1つのメモリーに、パリあたり50文字までメモリーすることができます。

コンテストメモリーキーヤー (Contest Memory Keyer) (つづき)

◆メモリーに書き込む

【KEYER】スイッチ **KEYER** 点灯 / 点滅 **REC** 点灯 / 点滅 【CW】スイッチ



【BK-IN】スイッチ 【SELECT】ツマミ

1. MODEの【CW】スイッチを押して運用モード(電波型式)をCWにします。
2. 【BK-IN】スイッチを押して“OFF”にします。
【BK-IN】が消灯します。
3. 【KEYER】スイッチを短く押して“ON”にします。
【KEYER】が点灯します。
4. 【SELECT】ツマミを約1秒間押します。
【SELECT】ツマミがボイスメモリー機能の設定ツマミとなり、マルチディスプレイにボイスメモリーのレコード番号が表示されます。
5. 【SELECT】ツマミをまわして、レコード番号(rEC1～rEC5)を選択します。
6. 【SELECT】ツマミを短く押します。

【REC】が点灯します。
10秒間放置するとキャンセルされます。

ご注意

メモリーが“MESSAGE”に選択されているか確認してください。“TEXT”に選択されている場合はキーヤーからの書き込みはできません(92ページの“メモリーに書き込む前の準備”を参照)。

7. マニピュレーターでCW符号を入力します。
8. 【SELECT】ツマミを短く押して入力を終了します。

【REC】が消灯します。

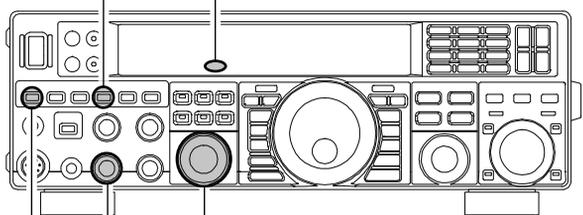
パリス換算で50文字を超えると、自動的に書き込みを終了します。

ご注意

短点・長点・スペースの各比率が整った“正確なキーイング操作”を行わないと、正しくメモリーされません。メニューモードの「037 A1A F-TYPE」, 「039 A1A R-TYPE」により、キーヤーの動作を“ELE (ELEKEY)”または“buG (BUG)”に設定してあるときには、“ACS”に切り換えてからメモリー操作を行ってください。

◆メモリーの内容を確認する

【BK-IN】スイッチ **PLAY** 点灯 / 点滅



【MON】ツマミ 【SELECT】ツマミ
【MON】スイッチ

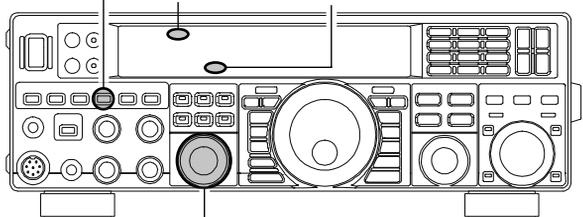
1. 【BK-IN】スイッチを押して“OFF”にします。
2. 【SELECT】ツマミをまわしてメモリーされているレコード番号(PLY1～PLY5)を選択し、CW符号が正しくメモリーされたか確認することができます。
3. 【SELECT】ツマミを短く押します。

“rEC1”にメモリーした場合は、“PLY1”を選択します。確認中、再度同じスイッチを押すと再生を中止します。

アドバンス 録音内容のモニターレベルは、【MON】スイッチを押して【MON】ツマミをまわして調節することができます。

◆メモリーしたCW符号を送出する

【BK-IN】スイッチ **BK-IN** 点灯 **PLAY** 点灯 / 点滅



【SELECT】ツマミ

1. 【BK-IN】スイッチを押して“ON”にします。
【BK-IN】が点灯し、ブレークイン操作になります。
2. 【SELECT】ツマミをまわして、レコード番号(PLY1～PLY5)のいずれかを選択します。
3. 【SELECT】ツマミを短く押すと録音された内容が送信されます。

“rEC1”にメモリーした場合は、“PLY1”を選択します。

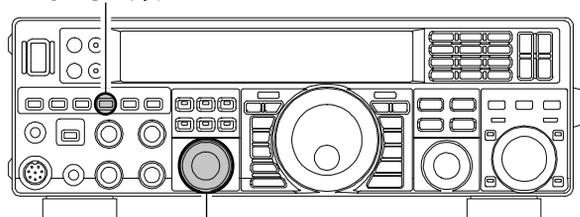
送信中、再度【SELECT】ツマミを押すと送信を中止します。

ビーコンの送出手法

コンテストメモリーキーヤーに登録した MESSAGE メモリーや TEXT メモリーに登録した CW 符号をビーコンとして送出手法が可能です。メニューモードの「016 KEY BEACON」でビーコンを送出する間隔の時間設定(1～255sec)をしてください。ビーコンを送出しない場合は OFF に設定してください。

1. ビーコンで送出手法したい内容をあらかじめ(rEC1～rEC5)にメモリーしておきます。
2. 【BK-IN】スイッチを“ON”にします。
フルブレークイン操作にします。
3. 【SELECT】ツマミをまわして、(PLY1～PLY5)のいずれかを選択し、【SELECT】ツマミを押すと、設定した間隔で送出手法されます。
“rEC1”にメモリーした場合は、“PLY1”を選択します。
4. 送出手法を中止する場合は、メニューモード「016 KEY BEACON」を“OFF”にします。

【BK-IN】スイッチ



【SELECT】ツマミ

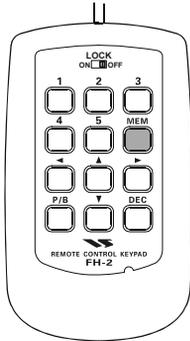
CW運用のときに便利な機能

コンテストメモリーキーヤー(Contest Memory Keyer) (つづき)

オプションのリモートコントロールキーパッド“FH-2”による、MESSAGEメモリーの操作方法を説明します。

◆FH2でメモリーに書き込む

1. 本機のMODEの【CW】スイッチを押して運用モード(電波型式)をCWにします。
2. 本機の【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
3. 本機の【KEYER】スイッチを“ON”にします。
【KEYER】が点灯します。
4. FH-2の【MEM】キーを押します。
【REC】が点滅します。
5秒間放置するとキャンセルされます。

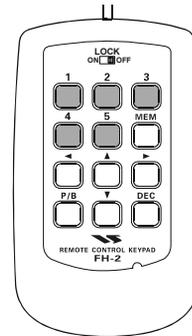


◆FH2でメモリーの内容を確認する

1. 本機の【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
2. メモリーしたFH-2の【1】～【5】キーを押すと、CW符号が正しくメモリーされたか確認することができます。

確認中、再度同じスイッチを押すと再生を中止します。

アドバイス 録音内容のモニターレベルは、【MONI】スイッチを押して【MONI】つまみをまわして調節することができます。



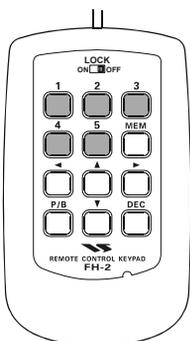
5. FH-2の【1】～【5】キーからメモリーしたい番号を押します。

【REC】が点灯します。

10秒間放置するとキャンセルされます。

ご注意 ●メモリーが“MESSAGE”に選択されているか確認してください。“TEXT”に選択されている場合はキーヤーからの書き込みはできません(92ページの“メモリーに書き込む前の準備”を参照)。

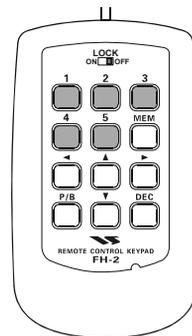
●FH-2の【5】キーにメモリーした内容は、FH-2のみ操作できます。本機のパネルスイッチからは操作できません。



◆FH2でメモリーしたCW符号を送出する

1. 【BK-IN】スイッチを“ON”にします。
【BK-IN】が点灯し、ブレイクイン操作になります。
2. FH-2の【1】～【5】キーのいずれかを押すことにより送られます。

送信中、再度同じスイッチを押すと送信を中止します。



6. マニピュレーターでCW符号を入力します。
7. FH-2の【MEM】キーを押して入力を終了します。

【REC】が消灯します。

パリス換算で50文字を超えると、自動的に書き込みを終了します。

ご注意 短点・長点・スペースの各比率が整った“正確なキーイング操作”を行わないと、正しくメモリーされません。メニューモードの「037 A1A F-TYPE」, 「039 A1A R-TYPE」により、キーヤーの動作を“ELE (ELEKEY)”または“buG (BUG)”に設定してあるときには、“ACS”に切り換えてからメモリー操作を行ってください。

ビーコンの送出方法

コンテストメモリーキーヤーに登録したMESSAGEメモリーやTEXTメモリーに登録したCW符号をビーコンとして送出することができます。メニューモードの「016 KEY BEACON」でビーコンを送出する間隔の時間設定(1～255sec)をしてください。

ビーコンを送出しない場合はOFFに設定してください。ビーコンで送出したい内容をあらかじめ【1】～【5】キーにメモリーしておきます。【BK-IN】スイッチを“ON”にし、【1】～【5】キーのいずれかを押すと設定した間隔で送出されます。もう一度同じキーを押すと送出を中止します。

コンテストメモリーキーヤー(Contest Memory Keyer) (つづき)

TEXT メモリー

5チャンネルのメモリーがあり、それぞれ最高50文字のテキストをメモリーすることが可能です。テキストで入力した文章を送出時にCW符号に変換します。

文字列の最後には必ず“ (I)”を入力します。

例1 CQ CQ CQ DE JA1YOE K (合計21文字)

文章中に#を入れると、コンテストナンバーを自動的にインクリメント(カウントアップ)して、送出することができます。

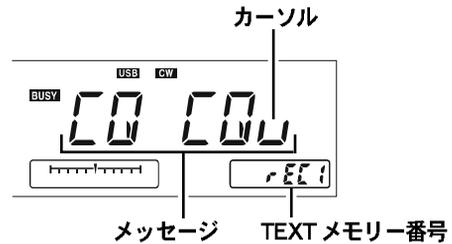
例2 599 10 200 # K (合計15文字)

◆メモリーに書き込む前の準備

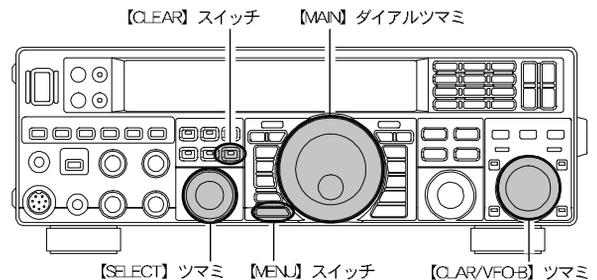
1. 【MENU】スイッチを短く押ししてメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】つまみ(または【MAIN】ダイヤルつまみ)をまわして、メニューモードの「019 KEY CW MEM1 ~ 023 KEY CW MEM5」の中からメモリーしたいいずれかのメモリー番号を選択します。
【SELECT】つまみを押すとメニュー名を確認することができます。
019 KEY CW MEM1
020 KEY CW MEM2
021 KEY CW MEM3
022 KEY CW MEM4
023 KEY CW MEM5
3. 選択したメモリーを【CLAR/VFO-B】ダイヤルをまわして“typ1 (TEXT)”にします。
【SELECT】つまみ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと内容を保存し、メニュー設定画面を終了します。

◎コンテストナンバーの入力方法

1. 【MENU】スイッチを短く押ししてメニューモードを表示します。
2. 【SELECT】つまみ(または【MAIN】ダイヤルつまみ)をまわして、メニューモードの「018 KEY CONTEST」を選択します。
3. 【CLAR/VFO-B】ダイヤルつまみをまわして、希望のコンテストナンバーを設定します。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと内容を保存し、メニュー設定画面を終了します。



入力できる文字はアルファベットと数字のほか、略符号を選択することができます。略符号は96ページのCW略符号表を参照してください。



あらかじめ、メニューモードの「019 KEY CW MEM1 ~ 023 KEY CW MEM5」が“typ1 (TEXT)”に選択してある場合は、“メモリーに書き込む前の準備”を省略することができます。

アドバイス コンテストナンバー送出時に「1」「2」「9」「0」の数字略語化設定をすることができます(メニューモード「017 KEY NUM STL」)。

◎コンテストナンバーのデクリメント

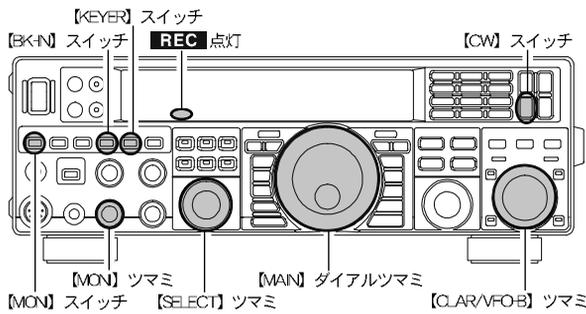
オプションのFH-2を接続すると、FH-2の【DEC】キーを押すとコンテストナンバーのデクリメントを行うことができます。押すたびにコンテストナンバーが1つ戻ります。

アドバイス コンテストナンバーが1000番以下の場合、送出されるコンテストナンバーは3桁となります。

CW運用のときに便利な機能

コンテストメモリーキーヤー (Contest Memory Keyer) (つづき)

◆メモリーに書き込む



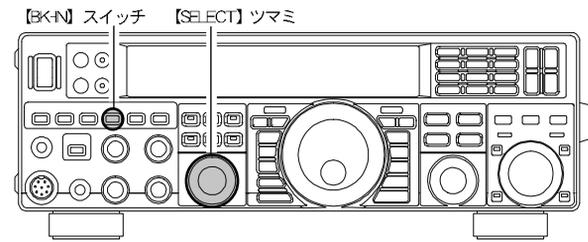
1. MODEの【CW】を押して運用モード(電波型式)をCWにします。
2. 【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
3. 【SELECT】ツマミを約1秒間押します。
【SELECT】ツマミがボイスメモリー機能の設定ツマミとなり、マルチディスプレイにボイスメモリーのレコード番号が表示されます。
4. 【SELECT】ツマミをまわして、レコード番号(rEC1～rEC5)を選択します。
5. 【SELECT】ツマミを短く押します。

【ご注意】 メモリーが“TEXT”に選択されているか確認してください。“MESSAGE”に選択されている場合はテキストの書き込みはできません(95ページの“メモリーに書き込む前の準備”を参照)。

6. 【CLAR/VFO-B】ツマミで文字を選択し【MAIN】ダイヤルツマミでカーソルを移動してTEXTを入力し、文字列の最後に“}”を入力します。
7. 【SELECT】ツマミを約1秒間押して入力を終了します。

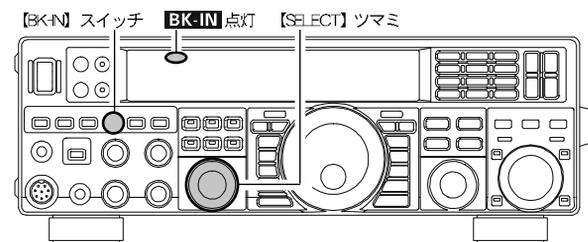
録音内容のモニターレベルは、【MONI】スイッチを押して【MONI】ツマミをまわして調節することができます。

◆メモリーの内容を確認する



1. 本機の【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
2. 【SELECT】ツマミをまわして、プレイ番号(PLY1～PLY5)を選択すると、CW符号が正しくメモリーされたか確認することができます。
3. 【SELECT】ツマミを短く押します。
“rEC1”にメモリーした場合は、“PLY1”を選択します。確認中、再度同じスイッチを押すと再生を中止します。

◆メモリーしたCW符号を送出する



1. 本機の【BK-IN】スイッチを“ON”にします。
【BK-IN】が点灯し、ブレークイン操作になります。
2. 【SELECT】ツマミをまわして、プレイ番号(PLY1～PLY5)を選択します。
3. 【SELECT】ツマミを短く押すと送出されます。
“rEC1”にメモリーした場合は、“PLY1”を選択します。送信中、再度同じスイッチを押すと送信を中止します。

【アドバイス】 コンテストメモリーキーヤーに登録したピーコンの送出方法は93ページの「ピーコンの送出方法」を参照してください。

送信操作

アルファベットと数字のほかに下表の略符号を選択できます。

記号	ディスプレイ	CW略符号	記号	ディスプレイ	CW略符号	記号	ディスプレイ	CW略符号	記号	ディスプレイ	CW略符号
!		SN	(KN	/		DN	@		@
”		AF)		KK	:		OS	[-
#		-	*		-	;		KR	¥(\)		AL
\$		SX	+		AR	<		-]		-
%		KA	,		MM	=		BT	^		-
&		AS	-		DU	>		-	_		Q
'		WG	.		AAA	?		M	}		-

"}", "A", "J", "T", "Z", "Z", “*”の記号はディスプレイに表示されますが、CW符号として動作しませんので使用しないでください。

◎あらかじめ入力してある文字を修正する場合

【MAIN】ダイヤルツマミで修正する文字にカーソルを移動し、【CLAR/VFO-B】ツマミで文字を選択します。

◎あらかじめ入力してある文字を消去する場合

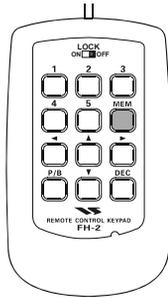
【MAIN】ダイヤルツマミで消去したい文字の先頭の桁にカーソルを移動し、【CLAR/VFO-B】ツマミで“}”を入力すると、“}”を入力した以降の文字を全て消去します。

コンテストメモリーキーヤー (Contest Memory Keyer) (つづき)

オプションのリモートコントロールキーパッド“FH-2”による、TEXTメモリーの操作方法を説明します。

◆FH2でメモリーに書き込む

1. MODEの【CW】スイッチを押して運用モード(電波型式)をCWにします。
2. 本機の【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
3. FH-2の【MEM】キーを押します。
RECが点滅します。
 5秒間放置するとキャンセルされます。

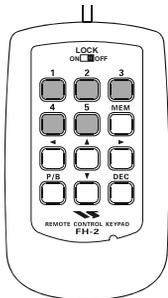


4. FH-2の【1】～【5】キーからメモリーしたい番号を押します。

RECが消灯します。

【注意】

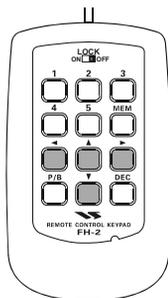
メモリーが“TEXT”に選択されているか確認してください。“MESSAGE”に選択されている場合はテキストの書き込みはできません(92ページの“メモリーに書き込む前の準備”を参照)。



5. FH-2の【◀】【▶】キーはカーソル移動【▲】【▼】キーは文字選択で、TEXTを入力し、文字列の最後に“)”を入力します。

【アドバイス】

【MAIN】ダイヤルツマミでカーソル移動、【SUB VFO-B】ツマミで文字を選択することもできます。



6. FH-2の【MEM】キーを約1秒間押して入力を終了します。

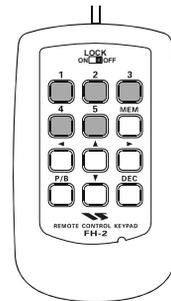
◆FH2でメモリーの内容を確認する

1. 本機の【BK-IN】スイッチを“OFF”にします。
2. メモリーしたFH-2の【1】～【5】キーを押すと、CW符号が正しくメモリーされたか確認することができます。

確認中、再度同じスイッチを押すと再生を中止します。

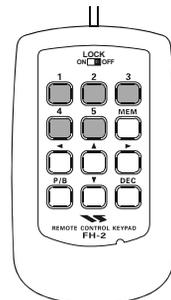
【アドバイス】

録音内容のモニターレベルは、【MONI】スイッチを押して【MONI】ツマミをまわして調節することができます。



◆FH2でメモリーしたCW符号を送出する

1. 本機の【BK-IN】スイッチを“ON”にします。
 ブレークイン動作になります。
BK-INが点灯し、ブレークイン操作になります。
2. FH-2の【1】～【5】キーのいずれかを押すことにより送付されます。
 送信中、再度同じスイッチを押すと送信を中止します。



【アドバイス】

コンテストメモリーキーヤーに登録したピーコンの送付方法は94ページの「ピーコンの送付方法」を参照してください。

◎ あらかじめ入力してある文字を修正する場合

【MAIN】ダイヤルツマミで修正する文字にカーソルを移動し、【CLAR/VFO-B】ツマミで文字を選択します。

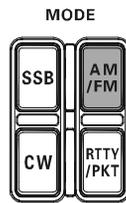
◎ あらかじめ入力してある文字を消去する場合

【MAIN】ダイヤルツマミで消去したい文字の先頭の桁にカーソルを移動し、【CLAR/VFO-B】ツマミで“)”を入力すると、“)”を入力した以降の文字を全て消去します。

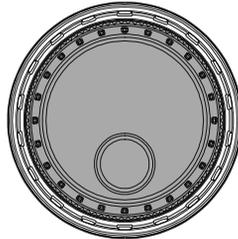
FMモードでの交信

FMモードで送信できるバンドは、法令により28MHz帯と50MHz帯のアマチュアバンドに限られていますのでご注意ください。

1. **FM** が点灯するまでMODEの【AM/FM】スイッチを短く押し、運用モード(電波型式)をFMにします。



2. 【MAIN】ダイヤルつまみをまわし希望の周波数にあわせませす。



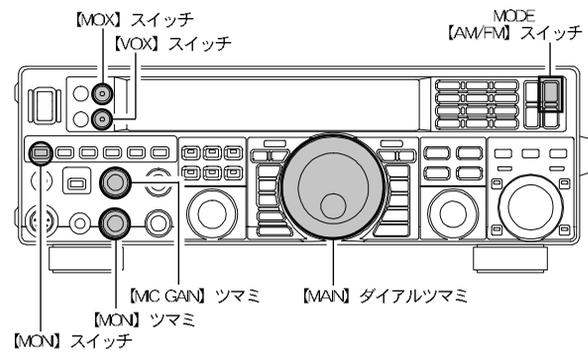
- 【SELECT】つまみをまわすと±5kHz(【FAST】スイッチが“ON”のときは±50kHz)で周波数変化量(ステップ幅)が変化します。
【SELECT】つまみがDSP機能の操作つまみとして動作しているときはこの機能をOFFにしてください。OFFにする方法として、CONT、NOTCH、 μ -TUNEのいずれかのLEDが点灯しているときは【SHIFT】スイッチまたは【WIDTH】スイッチを押してOFFにしてください。
- 付属のマイクロホンMH-31E8を使用するとUP/DWNスイッチで、VFO-Aの周波数を5kHzステップで変化することができます。

アドバイス FMモード時のUP/DWNスイッチの周波数変化量を変更することができます(メニューモード「088 TUN FM STEP」)。

3. マイクロホンのPTTスイッチ(またはパネル面の【MOX】スイッチ)を押して送信状態にし、マイクロホンに向かって話します。

PTTスイッチを離すと(またはパネル面の【MOX】スイッチを再度押すと)受信状態に戻ります。

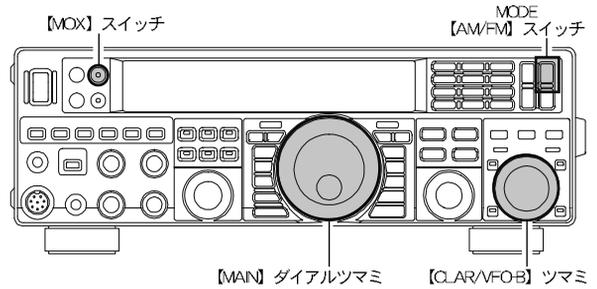
- アドバイス**
- マイクレベルはあらかじめ最良点がプリセットされています。
工場出荷時は【MIC GAIN】つまみは動作しません。
使用するマイクロホンによっては、レベルが異なる場合があります。レベル調整が必要な場合は、メニューモードの「056 F3E FM MIC」を“Ur (MCVR)”に選択するとマイク入力レベルを【MIC GAIN】つまみで設定することができます。
 - 【MONI】スイッチを“ON”にして【MONI】つまみを時計方向にまわすと、送信信号をスピーカーから聞くことができます。マイクレベルの調整は、自分の送信信号を聞きながら行ってください。また、ヘッドフォンを使うと変化がよくわかります(☞p.82)。
 - FMモードでもボイスメモリーの機能を使用することができます(☞p.80)。
 - FMモードで送信できるバンドは、法令により28MHz帯と50MHz帯のアマチュアバンドに限られています。



レピーター (REPEATER) 運用 – VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 –

簡単なキー操作で、29MHz帯のレピーターを使用した交信ができます。

1. 受信周波数を【MAIN】ダイヤルツマミでレピーター局の周波数にあわせます。
2. MODEの【AM/FM】スイッチを約1秒間押し、トーンエンコーダ/トーンスケルチの設定モードにします。
3. 【MAIN】ダイヤルツマミをまわしトーンエンコーダ“TN”を設定します。
【MAIN】ダイヤルツマミをまわすごとに“OFF” → “TN” → “TS” → “OFF”と切り換わります。
4. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわしてトーン周波数を設定します。
トーン周波数は50トーンの中から選択することができます(下記の“設定できるトーン周波数表”を参照)。
5. MODEの【AM/FM】スイッチを短く押してシフト方向を設定します。
押すごとにマルチパネルに“S” → “+” → “-” → “S”と切り換わります(“S”はシンプレックスの表示です)。
6. MODEの【AM/FM】スイッチを約1秒間押し、設定モードを終了します。
7. マイクロホンのPTTスイッチ(またはパネル面の【MOX】スイッチ)を押して送信状態にし、マイクロホンに向かって話します。
送信時にディスプレイの1Hzの桁へ“T”が表示されます。
レピーター運用を解除するには、上記の手順5.でシフト方向を“S”(シンプレックス)にします。



送信時に1Hzの桁へ“T”が表示される



送信操作

アドバイス

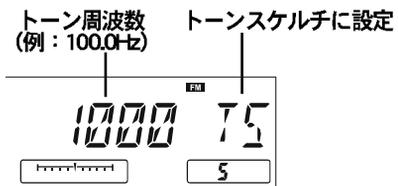
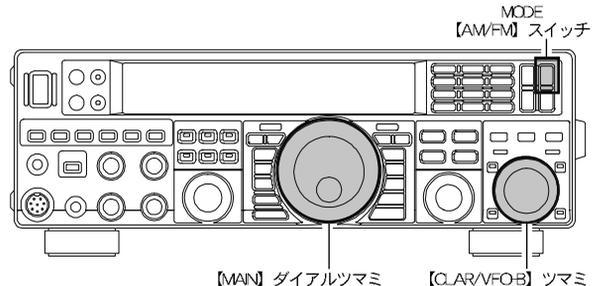
- 手順3, 4, 5において、設定せずに約5秒間放置しておくで設定をキャンセルします。また、設定後約5秒間放置しておくで設定内容は確定され終了します。
- 本機のレピーター機能は、国内の29MHz帯のFMレピーター局をアクセスしやすいように自動的に100kHzのシフト幅を設定(50MHz帯のシフト幅:1000kHz)するようにしてありますが、国外のレピーター局などをアクセスするには、シフト幅を変更します(メニューモード「057 F3E 28 RPT(28MHz)」, 「058 F3E 50 RPT(50MHz)」)。

設定できるトーン周波数(Hz)							
67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4
88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5	107.2	110.9
114.8	118.8	123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	159.8	162.2	165.5	167.9	171.3	173.8
177.3	179.9	183.5	186.2	189.9	192.8	196.6	199.5
203.5	206.5	210.7	218.1	225.7	229.1	233.6	241.8
250.3	254.1	—	—	—	—	—	—

トーンスケルチの設定 (静かな待ち受けをしたいとき) – VFO-A, VFO-B 個別に設定可能 –

設定したトーン周波数と同じトーン周波数を含んだ信号のみ音声を出力させる機能です。

1. 受信周波数を【MAIN】ダイヤルツマミでレピーター局の周波数にあわせます。
2. MODEの【AM/FM】スイッチを約1秒間押し、トーンエンコーダ/トーンスケルチの設定モードにします。
3. 【MAIN】ダイヤルツマミをまわしトーンスケルチ“TS”を設定します。
【MAIN】ダイヤルツマミをまわすごとに“OFF” → “TN” → “TS” → “OFF”と切り換わります。
4. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわしてトーン周波数を設定します。
トーン周波数は50トーンの中から選択することができます(上記の“設定できるトーン周波数表”を参照)。
5. MODEの【AM/FM】スイッチを約1秒間押し、設定モードを終了します。
ディスプレイの1Hzの桁に“D”が表示されます。



多彩なメモリー機能をお使いいただくために

本機には、通常のシンプレックスメモリーチャンネル(メモリーチャンネル番号“01”～“99”までの99チャンネル)のほかに、

- ◎ ワンタッチで周波数、電波型式などの書き込み/呼び出し操作が行える5つのQMB (“Quick Memory Bank”：チャンネル番号“C-1”～“C-5”).
- ◎ 9チャンネルのプログラマブルメモリスキャン(PMS)用メモリーチャンネル (チャンネル番号“P1L/P1U”～“P9L/P9U”)

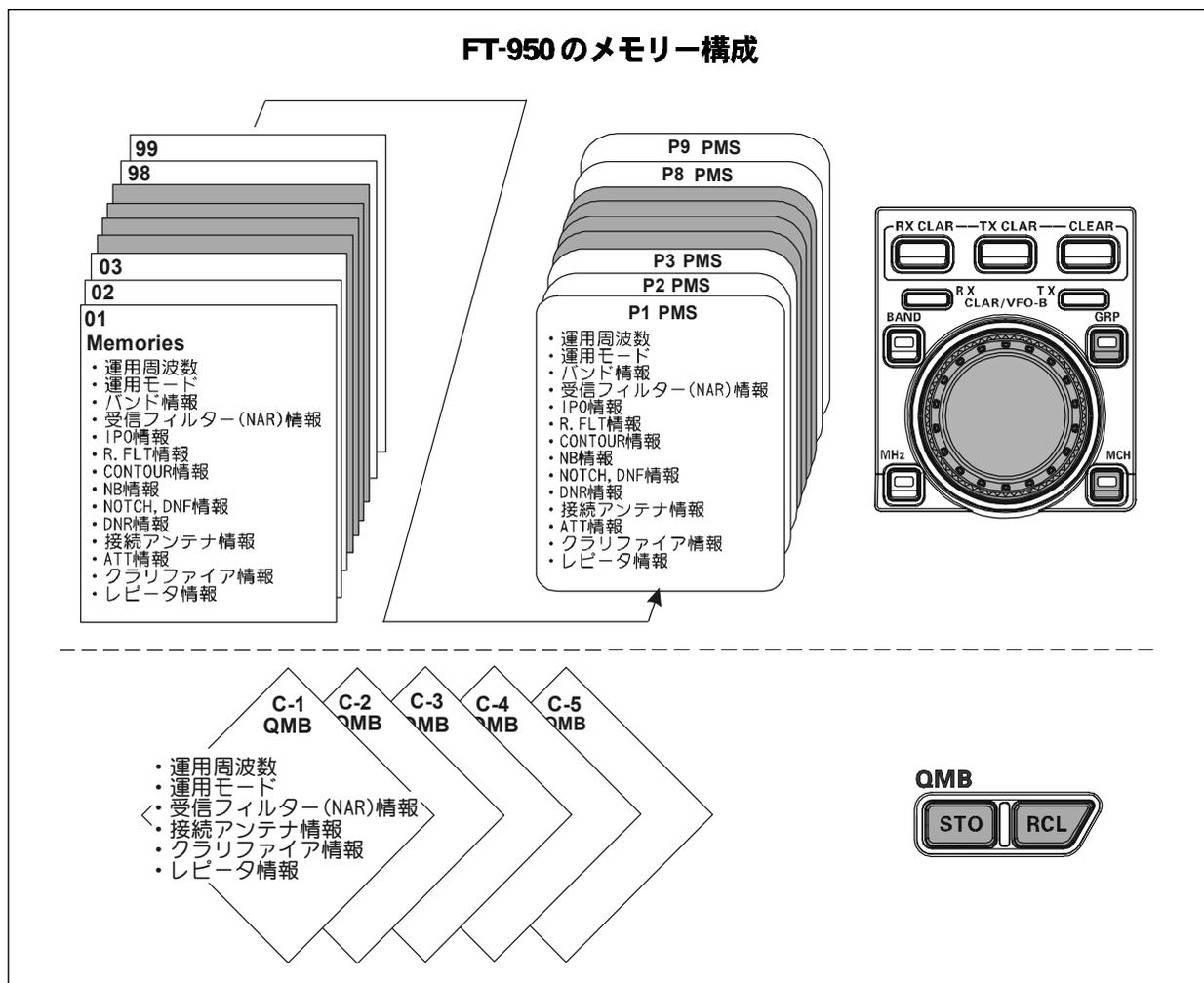
を搭載しています。

ワンポイント これらのメモリーチャンネルには運用周波数のほかに運用モード(電波型式)やアンテナの接続状態などのデータも同時にメモリーすることができます。

メモリーできるデータは、次の通りです。

- 運用周波数
- 運用モード(電波型式)
- FMモードのNARROW/WIDE 情報
- 受信フィルター情報
(CONTOUR, R.FLT, NOTCH, DNF, IPO, DNR, NB, ANT, SHIFT, WIDTH)
- 接続アンテナ情報
- アッテネータ(ATT) 情報
- クラリファイア情報
(オフセット量とオフセット方向)
- レピーター運用情報
(シフト方向とトーン周波数)

FT-950のメモリー構成

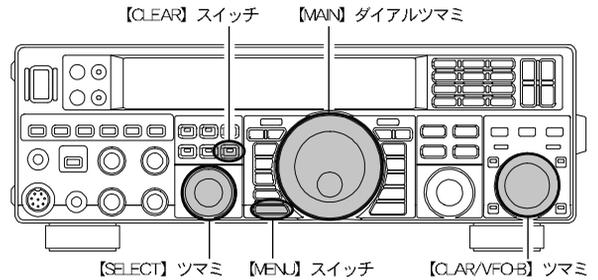


メモリーグループ

メモリーチャンネルは、6つのグループに分けることができます。例えばメモリー周波数を“AM放送グループ”、“短波帯放送グループ”、“コンテストグループ”、“レピーター局グループ”、“PMS用グループ”のように、目的別に整理してメモリーすることができますので、効率の良いメモリー運用が行えるようになります。

メモリーグループの設定

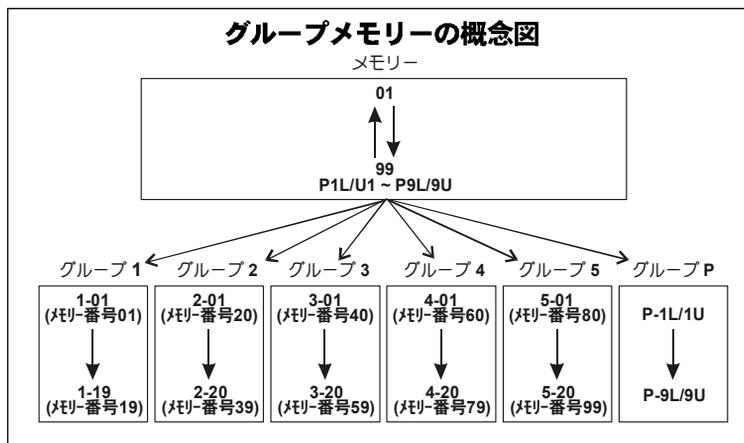
1. **【MENU】** スイッチを短く押します。
メニューモードになります。
2. **【SELECT】** ツマミ（または **【MAIN】** ダイアルツマミ）をまわして、“メニューモード「029 GENE MEM GRP」”を呼び出します。
【SELECT】 ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. **【CLAR/VFO-B】** ツマミをまわして、“On”を選択します。
【SELECT】 ツマミ右上の **【CLEAR】** スイッチを押すと、初期値に戻すことができます。
4. **【MENU】** スイッチを約1秒間押します。
設定内容を保存すると、メモリーチャンネルが6つのグループに分かれます。



メモリーグループを解除するには、手順1.～手順4.の操作を繰り返し、操作3.で“OFF”を選択します。

アドバイス メモリーグループを設定したときには、PMS用メモリーチャンネルは“P1L”～“P9U”と表示されます。

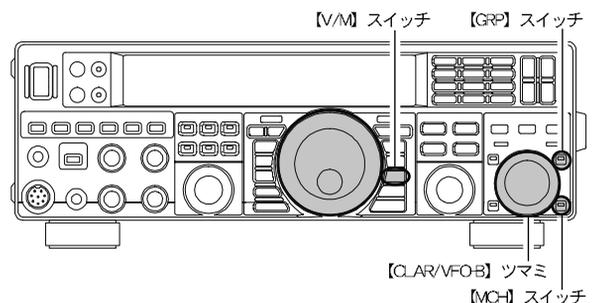
メモリー操作



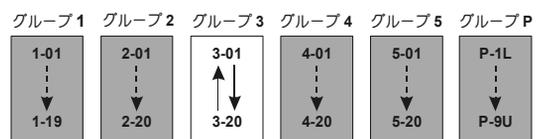
メモリーグループの切り換え

現在呼び出してあるグループ内のメモリーチャンネルだけを呼び出すことができます。

1. **VFO-A** に設定します。
【MAIN】 ダイアルツマミ左上の **【RX】** インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、**【RX】** インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。
2. **【V/M】** スイッチを押します。
メモリーモードになり、マルチディスプレイに“**MR**”を表示します。
3. **【GRP】** スイッチを押します。
スイッチのLEDが橙色に点灯してメモリーグループモードになります。
4. **【CLAR/VFO-B】** ツマミをまわして、希望のメモリーグループを呼び出します。
メモリーチャンネルがメモリーされていないメモリーグループは、呼び出されません。
5. **【MCH】** スイッチを押します。



例 グループ3を呼び出したとき



グループ3を呼び出すときは、必ず40チャンネル～59チャンネルのいずれかにメモリーしてください（※ p.102）。

アドバイス スイッチのLEDが橙色に点灯して、切り換えたメモリーグループ内のメモリーチャンネルだけが、呼び出されるようになります。

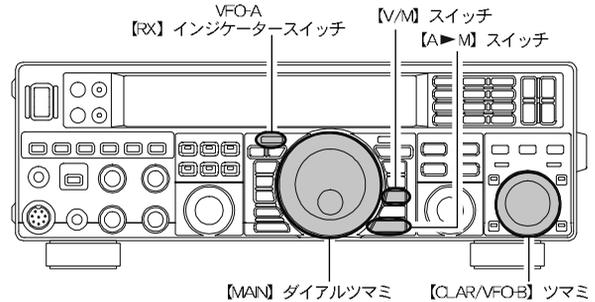
メモリー操作

VFO-Aの周波数と運用モード(電波型式)などをメモリーすることができる、99チャンネルのメモリー(PMSメモリーは9通り)があります。なお、このメモリーは6つのグループ(メモリーグループ)に分けて運用することができますので、あらかじめ目的別に整理して書き込み操作を行うことにより、効率のよいメモリー運用が行うことができます。

メモリーに書き込む

1. VFO-Aにメモリーしたい周波数などのデータを設定します。

- 【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅(または消灯)している場合は、【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。
- メモリーモードのときは、【V/M】スイッチを押してVFOモードにします。



2. 【A▶M】スイッチを押します。

- ディスプレイのメモリー番号が点滅するとともに、周波数ディスプレイへメモリーチャンネルにメモリーされている周波数を表示します。
- 10秒間放置しておくでキャンセルされます。

アドバイス すでにメモリーしてあるチャンネルにも、上記に示す方法でメモリーしたい内容を上書きすることができます。

3. この状態で【CLR/VFO-B】ツマミをまわして、メモリーしたいメモリーチャンネルを選びます。

- すでにメモリーしてあるメモリーチャンネルを呼び出すと、周波数ディスプレイに周波数を表示します。
- 10秒間放置しておくでキャンセルされます。

ご注意 メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は必ず紙などに控えておくようにしてください。

4. ここで【A▶M】スイッチを約1秒間押すと「ピッ」と確認音が出て書き込みが終了します。

メモリーを呼び出す

1. VFO-Aに設定します。

【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅(または消灯)している場合は、【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。

2. 【V/M】スイッチを押します。

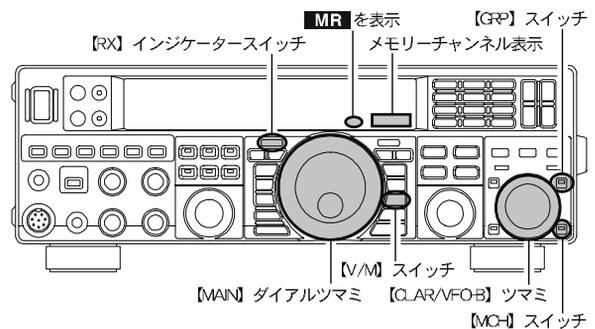
メモリーモードになり、マルチディスプレイに【MR】とメモリー番号を表示します。

3. 【M CH】スイッチを押します。

スイッチが橙色に点灯して、【CLR/VFO-B】ツマミでメモリーチャンネルの選択ができるようになります。

4. この状態で【CLR/VFO-B】ツマミをまわして、呼び出したいメモリーチャンネルを選びます。

- メモリーチャンネルが順番に呼び出されますので、希望するメモリーチャンネルにあわせます。
- メモリーチャンネルにメモリーされている周波数を周波数ディスプレイに表示します。



アドバイス メモリーグループが設定してある場合は、【GRP】スイッチを押すとスイッチのLEDが橙色に点灯し、グループ選択になります。【MCH】スイッチを押すと、スイッチのLEDが橙色に点灯し、選択したグループ内のチャンネルだけを呼び出すことができます。

ご注意 VFO-Bで運用中、【V/M】スイッチを押してもメモリーモードにはなりません。必ず【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押してVFO-Aにしてから【V/M】スイッチを押してメモリーモードにしてください。

メモリーチェック機能

メモリーチェック機能とは、メモリーチャンネルにメモリーしてあるデータをディスプレイに呼び出して確認する機能です。

1. VFO-A に設定します。

【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。

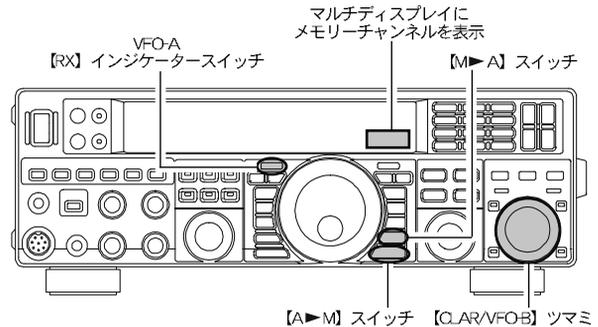
2. 【A▶M】スイッチを短く押します。

- メモリーチャンネルが点滅し、メモリーされているデータが周波数ディスプレイに表示されます。
- 10秒間放置しておくでキャンセルされます。

3. この状態で【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、チェックしたいメモリーチャンネルを選びます。

10秒間放置しておくでキャンセルされます。

メモリーチェック機能を解除するには、もう一度【A▶M】スイッチを短く押します。



アドバイス

- メモリーチェック機能が動作しているときには、ディスプレイのメモリー番号が点滅します。
- VFOモードで運用しているときにメモリーチェック機能を動作させた場合には、【A▶M】スイッチを約1秒間押すことにより、VFO-Aのデータをメモリーチャンネルにメモリーすることができます。同様に、【M▶A】スイッチを約1秒間押すことにより、メモリーチャンネルのデータをVFO-Aに移すことができます。

メモリーチャンネルデータの消去

メモリーチャンネル（またはメモリーグループ内のメモリーチャンネル）の書き込み内容を消去することができます。

1. VFO-A に設定します。

【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。

2. 【A▶M】スイッチを短く押します。

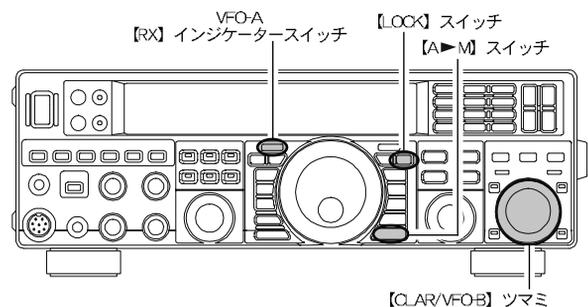
- メモリーチャンネルが点滅し、メモリーされているデータが周波数ディスプレイに表示されます。
- 10秒間放置しておくでキャンセルされます。

3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。

10秒間放置しておくでキャンセルされます。

4. 【LOCK】スイッチを押すとメモリーは消去されます。

周波数などの表示が消えてメモリーチャンネル番号表示だけになり、メモリーチャンネルのデータは消去されます。



アドバイス

消去したメモリーは、周波数などを新たに書き込む前であれば、上記の操作手順1.～手順4.を繰り返すことにより、復活させることができます。

ご注意

メモリーチャンネル1は消去することはできません。

メモリー操作

メモリーデータを VFO-A へ移す方法

メモリーチャンネルにメモリーしたデータは、VFO-A に移すことができます。

1. 【V/M】スイッチを押します。

メモリーモードになり、マルチディスプレイに“MR”を表示します。

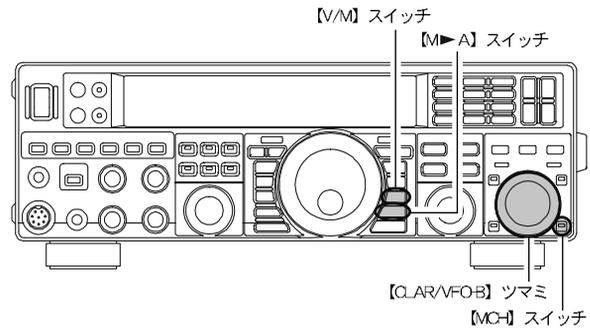
2. 【M CH】スイッチを押します。

マルチディスプレイにメモリー番号を表示します。スイッチが橙色に点灯して、【CLAR/VFO-B】ツマミでメモリーチャンネルの選択ができるようになります。

3. この状態で【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、VFO-A に移したいメモリーチャンネルを選びます。

4. 【M▶A】スイッチを約1秒間押します。

“ピピッ”と電子音を発してメモリーチャンネルデータがVFO-A に移ります。



アドバイス VFO-A に移行しても、メモリーチャンネルのデータは変化しません。

メモリーチューン機能を使う

メモリーしたメモリーチャンネルの周波数と運用モード(電波型式)を、一時的に変更させることができます。メモリーされている周波数と運用モードは、もう一度書き直さない限り変わりません。

1. 【V/M】スイッチを押してメモリーを呼び出した状態にします。

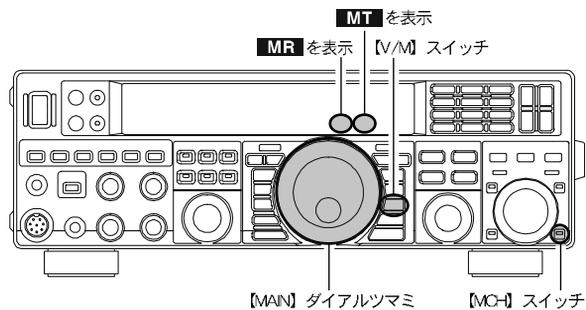
マルチディスプレイに“MR”が表示されます。マルチディスプレイにメモリー番号を表示します。

2. 【M CH】スイッチを押します。

3. 【MAIN】ダイヤルツマミをまわすとメモリーチューンになり、周波数を変えることができます。

- マルチディスプレイに“MT”が表示されます。
- 【MAIN】ダイヤルツマミをまわす以外に、電波型式の変更、クラリファイア機能の“ON”でもメモリーチューンの動作になります。

もう一度【V/M】スイッチを押すと、メモリーチューンは解除され、もとの運用周波数と運用モードに戻ります。



QMB (Quick Memory Bank)

VFO-Aにおいて、現在の運用状態をワンタッチで専用のメモリーチャンネル(クイックメモリーバンク)にメモリーすることができます。メモリーの数はいくつかあります。

QMB に書き込む

1. メモリーしたい周波数にあわせませす。

2. 【QMB STO】スイッチを押します。

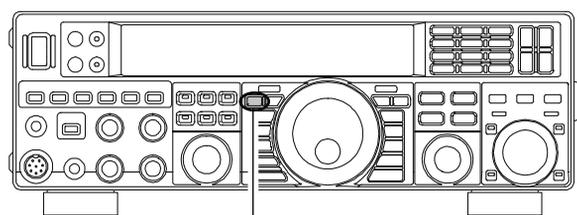
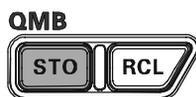
“ピッ”と電子音がして、VFO-AのデータがQMBチャンネルにメモリーされます。

【QMB STO】スイッチは押すたびにその時点のデータを“C-1”にメモリーして、以前メモリーした情報は、

C-2 → C-3 → C-4 → C-5

と順番にメモリーチャンネルが移動していきます。

“C-5”まで移動した後は、古い順番に消去され新しい情報がメモリーされます。



【QMB STO】スイッチ

QMB を呼び出す

1. 【QMB RCL】スイッチを押します。

マルチディスプレイにQMBチャンネルが表示され、VFO-AにQMBチャンネルのデータが呼び出されます。

2. 【QMB RCL】スイッチを繰り返し押して希望のQMBチャンネルにあわせませす。

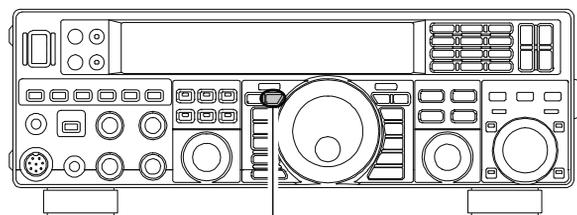
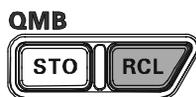
C-2 → C-3 → C-4 → C-5 → C-1

と順番にメモリーチャンネルが移動していきます。

【V/M】スイッチを押すと、QMBを呼び出す前の状態(VFOまたはメモリーチャンネル)に戻ります。

アドバイス

- 【MAIN】ダイヤルツマミをまわして周波数や運用モードを変更するとメモリーチューン機能になります。メモリーされている周波数、運用モードはもう一度書き直さない限り変わりません。もう一度【QMB RCL】スイッチを押すとメモリーチューン機能は解除されます。
- オプションのデータマネージメントユニット(DMU-2000)と、外部ディスプレイを接続すると、外部ディスプレイにQMBメモリーの周波数をスペクトラムスコープ上へ表示することができます(メニューモード「013 DISP QMB MKR」)。



【QMB RCL】スイッチ

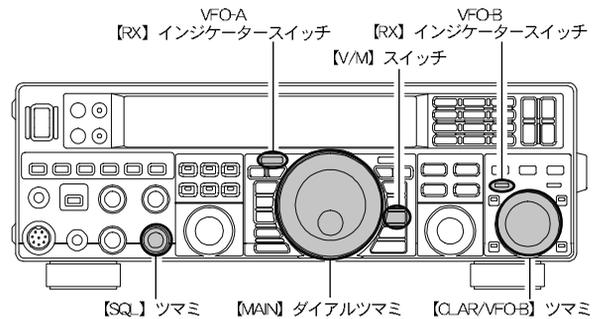
VFO スキャンとメモリスキャン機能

VFO-A/VFO-Bまたはメモリーされた周波数をスキャンして、スケルチで設定したレベル以上の信号を受信したときにスキャンをストップする機能が VFO スキャン、メモリスキャン機能です。

◎ VFO スキャン機能を使用する

1. スキャンする VFO を選択します。

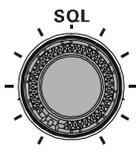
- VFO-A で運用するときは、【MAIN】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。
- VFO-B で運用するときは、【CLAR/VFO-B】ツマミ左上の【RX】インジケータースイッチが緑色に点滅（または消灯）している場合は、【CLAR/VFO-B】ダイヤルツマミ左上の【RX】インジケータースイッチを押して、そのスイッチが緑色に点灯しているか確認してください。



2. スキャンを開始する周波数まで【MAIN】ダイヤルツマミ (VFO-Bの場合は【CLAR/VFO-B】ツマミ) をまわして周波数を設定します。

3. 【SQL】ツマミでスケルチを調節します。

無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くように調節します。

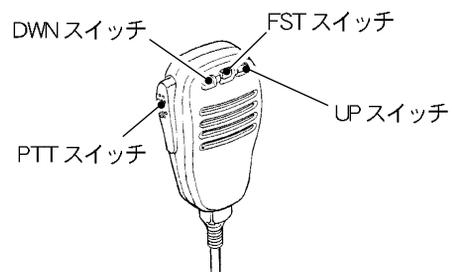


4. マイクロホンのUP/DWNスイッチを約1秒間押しとスキャンを開始します。

- SSB/CWモードのときは、信号が入感するとスキャンのスピードが遅くなります(スキャンは一時停止しません)。
- AM/FMモードのときは、スキャン中に信号が入感すると、スキャンが停止し周波数表示部のMHzとkHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します。
- 【MAIN】ダイヤルツマミでスキャン方向を変更することができます。時計(右)方向にまわすと周波数が高い方向へ、反時計(左)方向にまわすと周波数が低い方向にスキャンします。

ハンドマイク“MD-31B8”の場合

マイクロホンのUP/DWNスイッチを約1秒間押します。



スキャンを中止するには、マイクロホンのPTTスイッチを短く押します。

スキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません。

◎メモリスキャン機能を使用する

1. VFO-Aの状態【V/M】スイッチを押し、メモリーを呼び出してスキャンを開始するメモリーチャンネルを表示します(メモリーを呼び出す102ページ参照)。

2. 【SQL】ツマミでスケルチを調節します。

無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くように調節します。



3. マイクロホンのUP/DWNスイッチを約1秒間押しと、スキャンを開始します。

【MAIN】ダイヤルツマミでスキャン方向を変更することができます。時計(右)方向にまわすとメモリーチャンネル番号が大きくなる方向へ、反時計(左)方向にまわすとメモリーチャンネル番号が小さくなる方向にスキャンします。

スキャンを中止するには、マイクロホンのPTTスイッチを短く押します。

スキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません。

アドバイス

- メモリーグループが設定してあるときは、グループ内のメモリーチャンネルだけをスキャンします。
- スキャンが一時停止しているときに再度マイクロホンのUP/DWNスイッチを操作すると、直ちにスキャンを再開します。
- マイクロホンのUP/DWNスイッチを押している間だけ周波数またはメモリーチャンネルをスキャンすることができます(メニューモード「033 GENE MIC SCN」)。
- 信号入感時のスキャン条件を決めることができます(メニューモード「034 GENE SCN RSM」)。
このメニューにより、5秒間受信するとふたたびスキャンがスタートする「5SEC」と、信号がその周波数で受信されている間はその周波数に止まり受信し続け信号がなくなるとスキャンが再開する「CAR」が選択できます(AM/FMモードのみ)。

プログラマブルメモリースキャン(PMS)

PMSのメモリーはP1L/P1U～P9L/P9Uの9チャンネルメモリーがあります。
あらかじめ設定された周波数範囲内をスキャンし、信号を探し出す機能です。

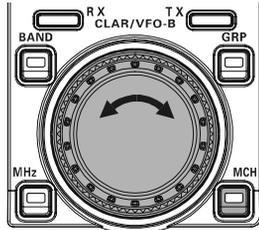
1. 例として、メモリーチャンネル“P1L”にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル“P1U”にスキャンの上限周波数をメモリーします（メモリーに書き込む102ページ参照）。

2. VFO-Aの状態ですべての【V/M】スイッチを押してメモリーモードにします。
マルチディスプレイに“MR”を表示します。



3. 【M CH】スイッチを押します。

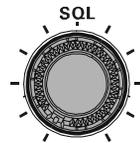
スイッチが橙色に点灯して、【CLAR/VFO-B】ツマミでメモリーチャンネルの選択ができるようになります。



4. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわしてメモリーチャンネル“P1L”を選択します。

5. 【SQL】ツマミをまわしてスケルチを調節します。

無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くように調節します。



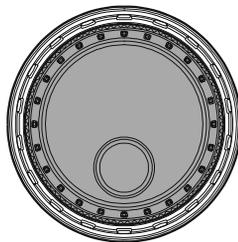
6. 【MAIN】ダイヤルツマミを少しまわしてメモリーチューン機能を動作させます。

マルチパネルに“MT”が表示されます。

ご注意

メモリーチューン機能にしないでマ

イクロホンのUP/DWNスイッチを押すと、メモリースキャン動作になります。

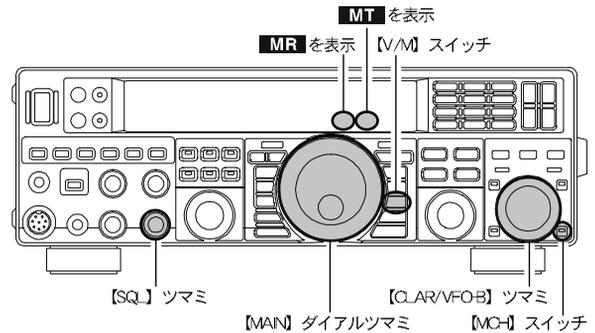


7. マイクロホンのUP/DWNスイッチを約1秒間押すと、プログラマブルメモリースキャンを開始します。

- SSB/CWモードのときは、信号が入感するとスキャンのスピードが遅くなります(スキャンは一時停止しません)。
- AM/FMモードのときは、スキャン中に信号が入感すると、スキャンが停止し周波数表示部のMHzとkHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します。
- 【MAIN】ダイヤルツマミでスキャン方向を変更することができます。時計(右)方向にまわすと周波数が高い方向へ、反時計(左)方向にまわすと周波数が低い方向にスキャンします。

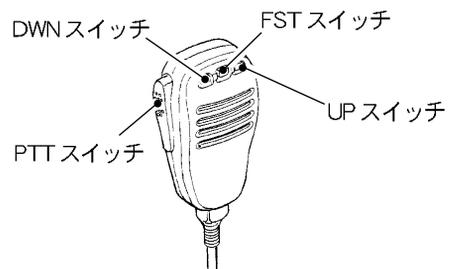
スキャンを中止するには、マイクロホンのPTTスイッチを短く押します。

スキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません。



ハンドマイク“MD-31B8”の場合

マイクrohンのUP/DWNスイッチを約1秒間押します。

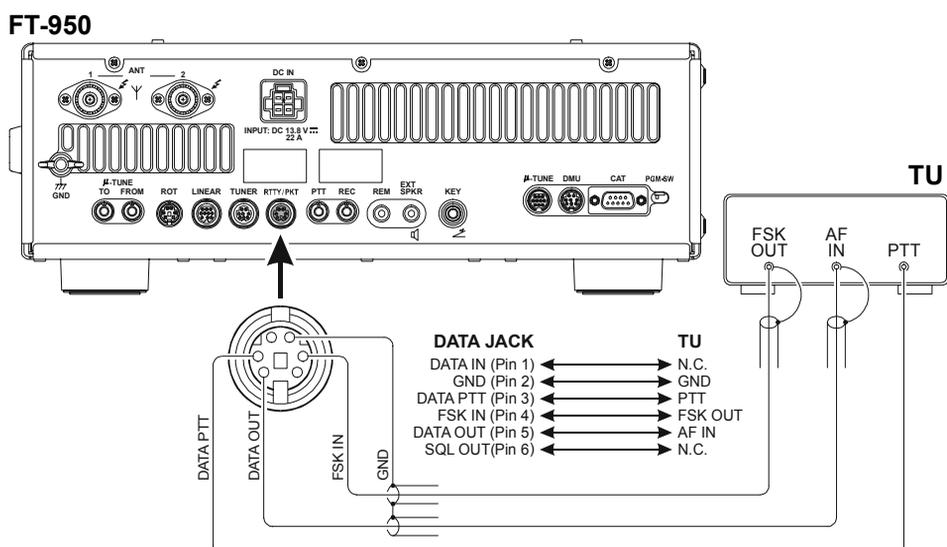


アドバイス

- スキャンが一時停止しているときに再度マイクrohンのUP/DWNスイッチを操作すると、直ちにスキャンを再開します。
- スキャン中に信号が入感すると、スキャンが停止し周波数表示部のMHzとkHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します(AM/FMモードのみ)。
- 信号入感時のスキャン条件を決めることができます(メニューモード「034 GENE SCN RSM」)。
このメニューにより、5秒間受信すると再びスキャンがスタートする“5SEC”と、信号がその周波数で受信されている間はその周波数に止まり受信し続け信号がなくなるとスキャンが再開する“CAR”が選択できます(AM/FMモードのみ)。

RTTY(ラジオテレタイプ)運用

RTTY 通信用 TU(ターミナル・ユニット)を背面の RTTY/PKT 端子に接続することにより、RTTY 通信を行うことができます。下図を参考に接続してください。



RTTY用ジェネレーターの操作

操作を行う前に、下記のメニューモードを設定します。

太文字が初期値

メニューモード	設定
059 RTTY R PLRTY	nor /rEJ (Reverse)
060 RTTY T PLRTY	nor /rEJ (Reverse)
062 RTTY S-HFT	170 /200/425/850 Hz
063 RTTY TONE	1275/ 2125 Hz

基本操作

1. MODEの【RTTY/PKT】スイッチを短く押し、て“LSB RTTY”に設定します。

【RTTY/PKT】スイッチを約1秒間押しと“USB RTTY”→“LSB RTTY”→“USB RTTY”交互に切り替わります。

- 一般的にアマチュア局は、LSBでRTTY運用を行います。LSBのRTTYに設定するとディスプレイには“**LSB**”“**RTTY**”が点灯します。
- USBモードでRTTY運用を行うときにはUSBのRTTYに設定するとディスプレイには“**USB**”“**RTTY**”が点灯します。

2. TUのキーボードを操作すると自動的に送信状態になり、符号を送ることができます。

ご注意

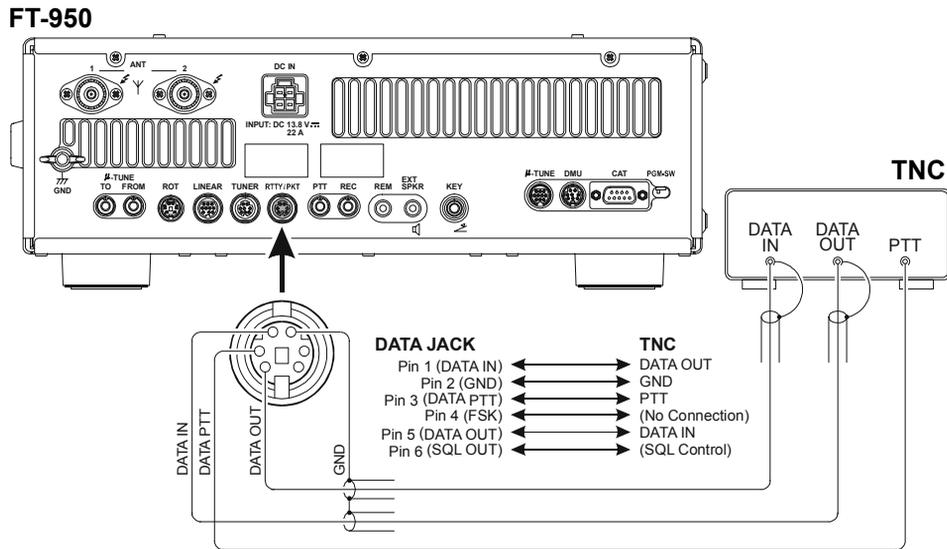
連続して数分以上送信する場合や受信時間に比べて送信時間のほうが長い場合には、メニューモードの「111 TGEN TX PWR」により送信出力を“1/2”～“1/3”に下げて運用してください。

アドバイス

RTTY通信時のデータ出力レベルを設定することができます(メニューモード「061 RTTY OUT LVL」)。

パケット運用

パケット通信用TNC(ターミナル・ノード・コントローラー)を背面のPACKET/PKT端子に接続することにより、パケット通信を行うことができます。下図を参考に接続してください。



サブキャリア周波数の設定操作

操作を行う前に、下記のメニューモードを設定します。

太文字が初期値

メニューモード	設定
050 DATA DT GAIN	0 ~ 50 ~ 100
054 DATA PKTDISP	-3000 ~ 0 ~ 3000 Hz
055 DATA PKT SFT	-3000 ~ 0 ~ 1000 ~ 3000 Hz

基本操作

1. MODEの【RTTY/PKT】スイッチを短く押し“LSB PKT”に設定します。

【RTTY/PKT】スイッチを約1秒間押すと、“USB PKT” → “FM PKT” → “LSB PKT”と切り替わります。

- 一般的にアマチュア局は、LSBでパケット運用を行います。LSBのPKTに設定するとディスプレイには“LSB” “PKT”が点灯します。
- USBモードでパケット運用を行うときにはUSBのPKTに設定します。ディスプレイには“USB” “PKT”が点灯します。
- 28MHz帯と50MHz帯のFMモードでパケット運用を行うときには、FMのPKTに設定します。ディスプレイに“FM” “PKT”が点灯します。
- FM-PKTモード時に【SELECT】ツマミをまわすと±5kHz (【FAST】スイッチが“ON”のときは±50kHz)で周波数変化量(ステップ幅)が変化します。【SELECT】ツマミがDSP機能の操作ツマミとして動作しているときはこの機能をOFFにしてください。OFFにする方法として、CONT, NOTCH, μ -TUNEのいずれかのLEDが点灯しているときは【SHIFT】スイッチまたは【WIDTH】スイッチを押してOFFにしてください。

2. TNCより送信のコマンドを送ると自動的に送信状態になり、データを送ることができます。

パケット運用時にはMICジャックに接続したマイクロホンの動作は停止します。

【注意】

連続して数分以上送信する場合や受信時間に比べて送信時間の方が長い場合には、メニューモードの「111 TGEN TX PWR」により送信出力を“1/2” ~ “1/3”に下げた運用してください。

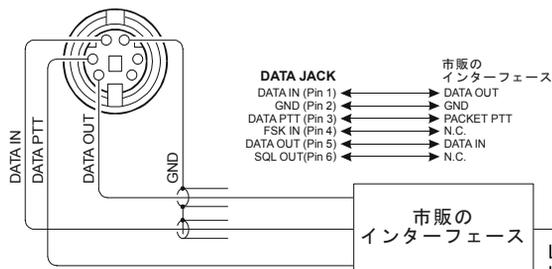
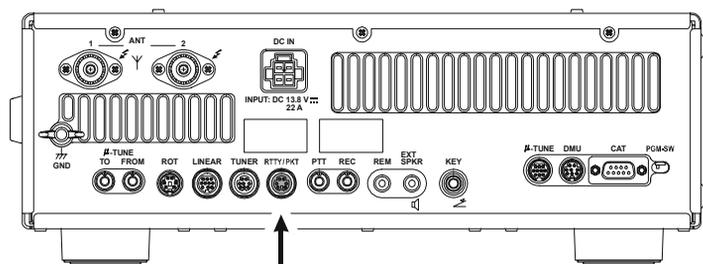
【ワンポイント】

- DATA IN (Pin 1)への入力レベルをメニューモードの「050 DATA DT GAIN」で調節することができます。ALCメーターのALCゾーンを超えないように調節してください。RTTY/PKT端子のDATA IN (Pin1)への入力電圧と入力インピーダンスは次のようになります。入力電圧は「051 DATA OUT LVL」の設定値によって変わります。
 - ・入力電圧：約60mV_{p-p}一定
 - ・入力インピーダンス：約600-ohm
- RTTY/PKT端子のDATA OUT (Pin 5)からの出力レベルをメニューモードの「051 DATA OUT LVL」で調節することができます。RTTY/PKT端子のDATA OUT (Pin 5)からの出力電圧と出力インピーダンスは、パネル面の【AF GAIN】ツマミや【SQL】ツマミの位置に関係なく次のようになります。出力電圧は「051 DATA OUT LVL」の設定値によって変わります。
 - ・出力電圧：約100mV_{p-p}一定
 - ・出力インピーダンス：10k-ohm

AFSK によるデータ通信

市販のソフトやフリーソフトを使用して、AFSKによるデータ通信を行うことができます。下図を参考に接続してください。

FT-950



市販の
インターフェース

LINE入力端子またはMIC入力端子
LINE出力端子またはMIC出力端子
COMポートなどに接続します

※：メニューモードの「114 TGEN VOX SEL」を“dAtA”にすると、VOX機能が動作しますのでPACKET PTTで送受信を切り換える必要がありません。

アドバイス

- データ通信(PSK31やSSTVなど)時のデータ出力レベルを設定することができます(メニューモード「051 DATA OUT LVL」)。
- データ通信(PSK31やSSTVなど)時、VOX運用を行う場合のVOX DELAY時間を設定することができます(メニューモード「052 DATA VOX DLY」)。また、データ入力のVOXゲインを設定することができます(メニューモード「053 DATA V GAIN」)。

AFSKによるデータ通信、運用方法などの詳細は、アマチュアカスタマーサポート(電話：03-5725-6151)にお問い合わせください。

メニューモード

メニューモードとは、一度設定すれば、その後変更する機会の少ない“機能”や“動作”などの設定を行なうための状態をいい、“1 AGC”から“118 TGEN”までの118種類の“機能”または“動作”の設定を行うことができます。

設定のしかた

1. 【MENU】スイッチを短く押します。

周波数ディスプレイにメニューモード設定画面が表示されます。

表示内容は、メニューNo.、メニューグループ、設定値が表示されます。

2. 【SELECT】つまみ（または【MAIN】ダイヤルつまみ）をまわして、変更したい機能メニューを選択します。

【SELECT】つまみを押すとメニュー名を確認することができます。

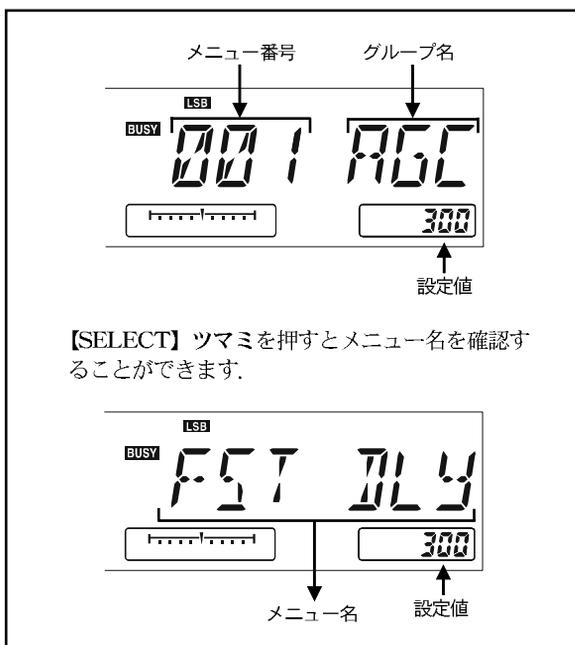
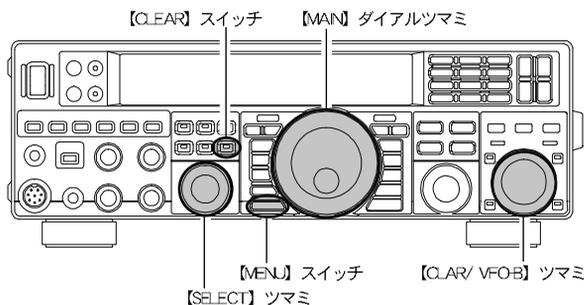
項目の一覧表は、114ページ以降をご覧ください。

3. 【CLAR/VFO-B】つまみをまわして、変更したい設定値を選択します。

【SELECT】つまみ右上の【CLEAR】キーを押すと、初期値に戻すことができます。

4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと内容を保存し、メニュー設定画面を終了後、メニューモードに入る前の画面に戻ります。

【MENU】スイッチを短く押すと、変更せずにメニューを終了します。



【SELECT】つまみを押すとメニュー名を確認することができます。

アドバイス

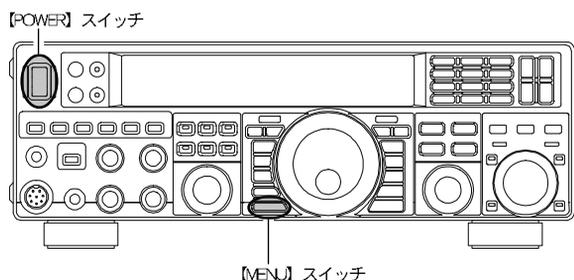
- よく使うメニューモードの機能の中から一つを選択して、その機能をワンタッチで呼び出すことができるカスタムセレクションスイッチを装備しています (P.50).
- オプションのデータマネジメントユニット“DMU-2000”を接続すると、メニュー設定内容をCFカードに保存することができます。運用スタイルにあわせた各種機能や動作状態を個別に設定することができ、またそれらを瞬時に呼び出して運用ができ大変便利です。

メニューモードリセット

メニューモードの内容だけを工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. 前面パネルの【POWER】スイッチをディスプレイが消えるまで長く押して、一度電源を“OFF”にします。

2. 【MENU】スイッチを押しながら【POWER】スイッチをディスプレイが点灯するまで長く押して電源を“ON”にすると、メニューモードの内容が工場出荷時の状態に戻ります。



メニューモードのグループ名

118の項目を11のグループに分けて周波数ディスプレイにメニュー番号とグループ名を表示しています。まず関連のあるグループを【SELECT】つまみ（または【MAIN】ダイヤルつまみ）をまわして選択してから【SELECT】つまみを押し、それぞれのメニュー名を表示してから【SELECT】つまみ（または【MAIN】ダイヤルつまみ）をまわして探すと便利です。

No. 001～003 AGC

このグループはAGCの時定数を詳細に設定することができます。AGC特性は受信性能に大きく影響しますので、通常は設定を変更しないようにしてください。間違えて変更をしてしまった場合はメニューモードリセット機能で工場出荷時の値に戻してください。

No. 004～013 DISP

ディマーやクラリファイアの表示などの表示関係の項目のグループです。

No. 014, 015 DVS

オプションのデジタルボイスレコーダー“DVS-6”を搭載時に、レベル設定を行う項目のグループです。

No. 016～023 KEY

キーヤーの設定を行う項目のグループです。

No. 024～035 GENE (GENERAL)

他の項目に入らない一般設定を行う項目のグループです。

No. 036～066 A3E (AM), A1A(CW), DATA, F3E(FM), RTTY, J3E (SSB)

電波型式によって個別に設定が必要な項目のグループです。

No. 067～072 RGEN (RX GENERAL)

受信関連の機能で、ノイズブランカー、CONTOUR、DNF、DNRのレベル設定等を行う項目のグループです。

No. 073～083 SCP (SCOPE)

オプションのデータマネージメントユニットDMU-2000と市販の外部ディスプレイを接続したときに使用するメニューモードで、スペクトラムスコープのFIX(固定)モードでのスタート周波数をバンドごとに設定するグループです。

No. 084～090 TUN (TUNING)

ダイヤルステップを変えるグループです。

No. 091～108 TAUD (TX AUDIO)

パラメトリックイコライザーの設定を行う項目のグループです。

No. 109～118 TGEN (TX GENERAL)

送信関係の設定を行う項目のグループです。

メニューモード一覧表

グループ	No. メニュー名	設定項目	初期値
AGC	001 AGC FST DLY	20 ~ 4000 msec (20 msec/step)	300 msec
AGC	002 AGC MID DLY	20 ~ 4000 msec (20 msec/step)	700 msec
AGC	003 AGC SLW DLY	20 ~ 4000 msec (20 msec/step)	3000 msec
DISPLAY	004 DISP COLOR	bL1/bL2/bL3/ub1/ub2	bL1 ^{*1}
DISPLAY	005 DISP DIM VFD	0 ~ 15	8
DISPLAY	006 DISP BAR SEL	CLAr/C-tn/u-tn	C-tn
DISPLAY	007 DISP PKH S	OFF/0.5/1.0/2.0 sec	OFF
DISPLAY	008 DISP PKH PO	OFF/0.5/1.0/2.0 sec	OFF
DISPLAY	009 DISP PKH ALC	OFF/0.5/1.0/2.0 sec	OFF
DISPLAY	010 DISP PKH ID	OFF/0.5/1.0/2.0 sec	OFF
DISPLAY	011 DISP RTR STU	0/90/180/270 °	0 ° ^{*3}
DISPLAY	012 DISP RTR ADJ	-30 ~ 0	0 ^{*3}
DISPLAY	013 DISP QMB MKR	On/OFF	On
DVS	014 DVS RX LVL	0 ~ 100	50 ^{*4}
DVS	015 DVS TX LVL	0 ~ 100	50 ^{*4}
KEYER	016 KEY BEACON	OFF/1 ~ 240 sec (1sec/step), 270 ~ 690 sec (30sec/step)	OFF
KEYER	017 KEY NUM STL	1290/AunO/Aunt/A2nO/A2nt/12nO/12nt	1290
KEYER	018 KEY CONTEST	0 ~ 9999	1
KEYER	019 KEY CW MEM1	tyP1/tyP2	tyP2
KEYER	020 KEY CW MEM2	tyP1/tyP2	tyP2
KEYER	021 KEY CW MEM3	tyP1/tyP2	tyP2
KEYER	022 KEY CW MEM4	tyP1/tyP2	tyP2
KEYER	023 KEY CW MEM5	tyP1/tyP2	tyP2
GENERAL	024 GENE ANT SEL	bAnd/rEG	bAnd
GENERAL	025 GENE BEP LVL	0 ~ 100	50
GENERAL	026 GENE CAT BPS	4800/9600/192H (19200)/384H (38400) bps	4800 bps
GENERAL	027 GENE CAT TOT	10/100/1000/3000 msec	10 msec
GENERAL	028 GENE CAT RTS	On/OFF	On
GENERAL	029 GENE MEM GRP	On/OFF	OFF
GENERAL	030 GENE Q SPLIT	-20 ~ 0 ~ +20 kHz (1 kHz/step)	+5 kHz
GENERAL	031 GENE TX TOT	OFF/1 ~ 30 min	OFF
GENERAL	032 GENE uT DIAL	StP1/ StP2	StP1 ^{*2}
GENERAL	033 GENE MIC SCN	On/OFF	On
GENERAL	034 GENE SCN RSM	CAr/5SEc	5SEc
GENERAL	035 GENE FRQ ADJ	-25 ~ 0 ~ +25	0
MODE-AM	036 A3E MICGAIN	Ur/0 ~ 100	Ur
MODE-CW	037 A1A F-TYPE	OFF/buG/ELE/ACS	ELE
MODE-CW	038 A1A F-REV	nor/rEV (NORNAL/REVERSE)	nor (NORNAL)
MODE-CW	039 A1A R-TYPE	OFF/buG/ELE/ACS	ELE
MODE-CW	040 A1A R-REV	nor/rEV (NORNAL/REVERSE)	nor (NORNAL)
MODE-CW	041 A1A CW AUTO	OFF/50/On	OFF
MODE-CW	042 A1A BFO	USb/LSb/Auto	USb
MODE-CW	043 A1A BK-IN	SEni/FuLL	SEni
MODE-CW	044 A1A DELAY	30 ~ 3000 msec	200 msec
MODE-CW	045 A1A PITCH	300 ~ 1050 Hz	700 Hz
MODE-CW	046 A1A WEIGHT	(1:) 2.5 ~ 4.5	3.0
MODE-CW	047 A1A FRQDISP	dir/OFSt	OFSt
MODE-CW	048 A1A PC KYNG	EnA/diS (ENABLE/DISABLE)	diS (Disable)
MODE-CW	049 A1A QSKTIME	15/20/25/30 msec	15 msec
MODE-DATA	050 DATA DT GAIN	0 ~ 100	50
MODE-DATA	051 DATA OUT LVL	0 ~ 100	50
MODE-DATA	052 DATA VOX DLY	30 ~ 3000 msec (10 msec/step)	300 msec
MODE-DATA	053 DATA V GAIN	0 ~ 100	50

※1：オプションのDMU-2000を接続したときに使用するメニューモードです。 ※2：オプションのRF μ Tuning Kitシリーズを接続したときに使用するメニューモードです。 ※3：オプションのDVS-6を搭載したときに使用するメニューモードです。 ※4：オプションのローテーターを接続したときに使用するメニューモードです。

メニューモード一覧表

グループ	No. メニュー名	設定項目	初期値
MODE-DATA	054 DATA PKTDISP	-3000 ~ +3000 Hz (10 Hz/step)	0 Hz
MODE-DATA	055 DATA PKT SFT	-3000 ~ +3000 Hz (10 Hz/step)	1000 Hz
MODE-FM	056 F3E MIC	Ur/0 ~ 100	50
MODE-FM	057 F3E 28 RPT	0 ~ 1000 kHz (10 kHz/step)	100 kHz
MODE-FM	058 F3E 50 RPT	0 ~ 4000 kHz (10 kHz/step)	1000 kHz
MODE-RTTY	059 RTTY R PLRTY	nor/rEV (NORMAL/REVERSE)	nor (NORMAL)
MODE-RTTY	060 RTTY T PLRTY	nor/rEV (NORMAL/REVERSE)	nor (NORMAL)
MODE-RTTY	061 RTTY OUT LVL	0 ~ 100	50
MODE-RTTY	062 RTTY SHIFT	170/200/425/850 Hz	170 Hz
MODE-RTTY	063 RTTY TONE	1275/2125 Hz	2125 Hz
MODE-SSB	064 A3E TX BPF	1-30/1-29/2-28/3-27/4-26	3-27 (300 ~ 2700 Hz)
MODE-SSB	065 A3E LSB CAR	-200 Hz ~ +200 Hz (10 Hz/steps)	0 Hz
MODE-SSB	066 A3E USB CAR	-200 Hz ~ +200 Hz (10 Hz/steps)	0 Hz
RX GENERAL	067 RGEN NB 1 LVL	0 ~ 255	128
RX GENERAL	068 RGEN NB 2 LVL	0 ~ 255	128
RX GENERAL	069 RGEN CNTR LV	-40 ~ +20 dB	-15 dB
RX GENERAL	070 RGEN CNTR WI	1 ~ 11	10
RX GENERAL	071 RGEN DNF	OFF/On	OFF
RX GENERAL	072 RGEN DNR	OFF/1 ~ 15	OFF
SCOPE	073 SCP 1.8 FIX	1.800 ~ 1.999 MHz (1 kHz/steps)	1.800 MHz ^{*1}
SCOPE	074 SCP 3.5 FIX	3.500 ~ 3.999 MHz (1 kHz/steps)	3.500 MHz ^{*1}
SCOPE	075 SCP 5.2 FIX	5.250 ~ 5.499 MHz (1 kHz/steps)	5.250 MHz ^{*1}
SCOPE	076 SCP 7.0 FIX	7.000 ~ 7.299 MHz (1 kHz/steps)	7.000 MHz ^{*1}
SCOPE	077 SCP 10.1 FIX	(1)0.100 ~ (1)0.149 MHz (1 kHz/steps)	(1)0.100 MHz ^{*1}
SCOPE	078 SCP 14.0 FIX	(1)4.000 ~ (1)4.349 MHz (1 kHz/steps)	(1)4.000 MHz ^{*1}
SCOPE	079 SCP 18.0 FIX	(1)8.000 ~ (1)8.199 MHz (1 kHz/steps)	(1)8.068 MHz ^{*1}
SCOPE	080 SCP 21.0 FIX	(2)1.000 ~ (2)1.449 MHz (1 kHz/steps)	(2)1.000 MHz ^{*1}
SCOPE	081 SCP 24.8 FIX	(2)4.800 ~ (2)4.989 MHz (1 kHz/steps)	(2)4.890 MHz ^{*1}
SCOPE	082 SCP 28.0 FIX	(2)8.000 ~ (2)9.699 MHz (1 kHz/steps)	(2)8.000 MHz ^{*1}
SCOPE	083 SCP 50.0 FIX	(5)0.000 ~ (5)3.999 MHz (1 kHz/steps)	(5)0.000 MHz ^{*1}
TUNING	084 TUN DIALSTP	1/5/10 Hz	10 Hz
TUNING	085 TUN CW FINE	EnA/diS (ENABLE/DISABLE)	diS (DISABLE)
TUNING	086 TUN MHz SEL	1/0.1 MHz	1 MHz
TUNING	087 TUN AM STEP	2.5/5/9/10/12.5 kHz	5 kHz
TUNING	088 TUN FM STEP	5/6.25/10/12.5/20/25 kHz	5 kHz
TUNING	089 TUN FM DIAL	10/100 Hz	100 Hz
TUNING	090 TUN MY BAND	1.8 ~ 50/GE	
TX AUDIO	091 TAUD EQ1 FRQ	OFF/100 ~ 700 Hz (100 Hz/step)	OFF
TX AUDIO	092 TAUD EQ1 LVL	-20 ~ +10	+5
TX AUDIO	093 TAUD EQ1 BW	1 ~ 10	10
TX AUDIO	094 TAUD EQ2 FRQ	OFF/700 ~ 1500 Hz (100 Hz/step)	OFF
TX AUDIO	095 TAUD EQ2 LVL	-20 ~ +10	+5
TX AUDIO	096 TAUD EQ2 BW	1 ~ 10	10
TX AUDIO	097 TAUD EQ3 FRQ	OFF/1500 ~ 3200 Hz (100 Hz/step)	OFF
TX AUDIO	098 TAUD EQ3 LVL	-20 ~ +10	+5
TX AUDIO	099 TAUD EQ3 BW	1 ~ 10	10
TX AUDIO	100 TAUD PE1 FRQ	OFF/100 ~ 700 Hz (100 Hz/step)	200
TX AUDIO	101 TAUD PE1 LVL	-20 ~ +10	0
TX AUDIO	102 TAUD PE1 BW	1 ~ 10	2
TX AUDIO	103 TAUD PE2 FRQ	OFF/700 ~ 1500 Hz (100 Hz/step)	800
TX AUDIO	104 TAUD PE2 LVL	-20 ~ +10	0
TX AUDIO	105 TAUD PE2 BW	1 ~ 10	1
TX AUDIO	106 TAUD PE3 FRQ	OFF/1500 ~ 3200 Hz (100 Hz/step)	2100 Hz
TX AUDIO	107 TAUD PE3 LVL	-20 ~ +10	0

メニューモード一覧表

No.グループ	メニュー名	設定項目	初期値
TX AUDIO	108 TAUD PE3 BW	1 ~ 10	1
TX GENERAL	109 TGEN PROCLVL	1 ~ 100	50
TX GENERAL	110 TGEN EXT TUN	itu/Etu (INTERNAL TUNER/EXTERNAL TUNER)	itu (INTERNAL TUNER)
TX GENERAL	111 TGEN TX PWR	5 ~ 100	100
TX GENERAL	112 TGEN AM CAR	0 ~ 100	50
TX GENERAL	113 TGEN PWRCTRL	ALL/CAr	ALL
TX GENERAL	114 TGEN VOX SEL	nic/dAtA	nic
TX GENERAL	115 TGEN V GAIN	0 ~ 100	50
TX GENERAL	116 TGEN VOX DLY	30 ~ 3000 msec (10 msec/step)	500 msec
TX GENERAL	117 TGEN ANTIVOX	0 ~ 100	50
TX GENERAL	118 TGEN EMRGNCY	EnA/diS (ENABLE/DISABLE)	diS(DISABLE)

001 AGC FST DLY (FAST DELAY)

機能：AGC-FAST DELAY 電圧の立ち下がり特性の決定

選択できる項目：20～4000msec
(20msec ステップ)

工場設定値：300msec

解説：入力信号レベルがAGC 検出レベル以下となった後, HOLD時間を超えてからのAGC電圧の立ち下がり特性を, 20msec ステップで設定することができます。

002 AGC MID DLY (MID DELAY)

機能：AGC-MID DELAY 電圧の立ち下がり特性の決定

選択できる項目：20～4000msec
(20msec ステップ)

工場設定値：700msec

解説：入力信号レベルがAGC 検出レベル以下となった後, HOLD時間を超えてからのAGC電圧の立ち下がり特性を, 20msec ステップで設定することができます。

003 AGC SLW DLY (SLOW DELAY)

機能：AGC-SLOW DELAY 電圧の立ち下がり特性の決定

選択できる項目：20～4000msec
(20msec ステップ)

工場設定値：3000msec

解説：入力信号レベルがAGC 検出レベル以下となった後, HOLD時間を超えてからのAGC電圧の立ち下がり特性を, 20msec ステップで設定することができます。

004 DISP (DISPLAY) COLOR

機能：オプションのデータマネージメントユニット DMU-2000 を接続したときのディスプレイ表示の色設定

選択できる項目： bL1 (COOL BLUE)/
bL2 (CONTRAST BLUE)/
bL3 (FLASH WHITE)/
ub1(CONTRAST UMBER)/
ub2(UMBER)

工場設定値：bL1 (COOL BLUE)

解説：オプションのデータマネージメントユニット DMU-2000 を接続したときのディスプレイ画面の表示色を設定します。

005 DISP (DISPLAY) DIM VFD (DIMMER VFD)

機能：周波数ディスプレイの照度設定

選択できる項目：0～15

工場設定値：8

解説：周波数ディスプレイの照度を設定します。照度を確認しながら調整することができます。数値が大きくなるほど明るくなります。

006 DISP (DISPLAY) BAR SEL (BAR DISPLAY SELECT)

機能：バーグラフ表示機能の設定

選択できる項目： CLAr (CLAR)/
C-tn (CW TUNE)/
u-tn (μ TUNE)

工場設定値：C-tn (CW TUNE)

解説：バーグラフ表示機能を設定します。

CLAr：クラリファイアのオフセット位置を表示します(☞ p.46).

C-tn：C W 受信時のチューニングずれ位置を表示します(☞ p.89).

u-tn： μ TUNEのチューニング位置を表示します(☞ p.56).

メニューモード詳細

007 DISP (DISPLAY) PKH S (PEAK HOLD S MTR)

機能：Sメーターのピークホールド設定
選択できる項目：OFF/0.5/1.0/2.0 (sec)
工場設定値：OFF
解説：OFF：ピークホールド機能は動作しません。
・0.5/1.0/2.0：設定した値の時間だけ最大値を保持（ピークホールド）します。

008 DISP (DISPLAY) PKH PO (PEAK HOLD PO MTR)

機能：POメーターのピークホールド設定
選択できる項目：OFF/0.5/1.0/2.0 (sec)
工場設定値：OFF
解説：OFF：ピークホールド機能は動作しません。
・0.5/1.0/2.0：設定した値の時間だけ最大値を保持（ピークホールド）します。

009 DISP (DISPLAY) PKH ALC (PEAK HOLD ALC MTR)

機能：ALCメーターのピークホールド設定
選択できる項目：OFF/0.5/1.0/2.0 (sec)
工場設定値：OFF
解説：OFF：ピークホールド機能は動作しません。
・0.5/1.0/2.0：設定した値の時間だけ最大値を保持（ピークホールド）します。

010 DISP (DISPLAY) PKH ID (PEAK HOLD ID MTR)

機能：IDメーターのピークホールド設定
選択できる項目：OFF/0.5/1.0/2.0 (sec)
工場設定値：OFF
解説：OFF：ピークホールド機能は動作しません。
・0.5/1.0/2.0：設定した値の時間だけ最大値を保持（ピークホールド）します。

011 DISP (DISPLAY) RTR STU (ROTATOR START UP)

機能：ローテーターの基点設定
選択できる項目：0/90/180/270°
工場設定値：0°
解説：オプションのローテーターを接続したときに使用するメニューモードです。ローテーターの基点を設定することができます。

012 DISP (DISPLAY) RTR ADJ (ROTATOR OFFSET ADJ)

機能：ローテーターのオフセット設定
選択できる項目：-30 ~ 0 (2ステップ)
工場設定値：0
解説：オプションのローテーターを接続したときに使用するメニューモードです。ローテーターのオフセットを変更することができます。ローテーターの制御ケーブルが長くなるほどケーブルのインピーダンスが高くなり、オフセット値がずれることがあります。設定方法は下記のように行ってください。
1. 本機にローテーターを接続します (p.51)。
2. ローテーターコントローラーと本機の電源を“ON”にします。
3. ローテーターコントローラーにより、アンテナ方向の指示を0°に設定すると同時に、本機のディスプレイへアンテナ方向を表示します。表示した値がオフセット値になります。
4. 本機の【ENT】キーを短く押してローテーターコントロール機能を解除してから、オフセット値を設定してください。

013 DISP (DISPLAY) QMB MKR (QMB MARKER)

機能：QMB MARKER “▽マーク”表示のON/OFF設定
選択できる項目：On (ENABLE)/OFF (DISABLE)
工場設定値：On (ENABLE)
解説：オプションのデータマネジメントユニット (DMU-2000) を搭載したときに使用するメニューモードで、QMBにメモリーしてある周波数をスペクトラムスコープ上へ表示することができます。スペクトラムスコープの横軸上面にQMBマーカー（白色の▽マーク）が表示されます。
On (ENABLE): QMB MARKER “▽” を表示することができます。
OFF (DISABLE): QMB MARKER “▽” の表示を消すことができます。

014 DVS (DVS) RX LVL (RX OUT LEVEL)

機能: ボイスメモリーのモニターレベルの設定

選択できる項目: 0 ~ 100

工場設定値: 50

解説: オプションの DVS-6 を搭載したときに使用するメニューモードです。
ボイスメモリーのモニターレベルを調節することができます。数字が大きくなるほど出力レベルが大きくなります。

015 DVS (DVS) TX LVL (TX OUT LEVEL)

機能: ボイスメモリーの送信マイクレベルの設定

選択できる項目: 0 ~ 100

工場設定値: 50

解説: オプションの DVS-6 を搭載したときに使用するメニューモードです。
自分の音声の送信マイクレベルを調節することができます。例えば、マイクロホンからのトークレベルとボイスメモリーからのトークレベルの差異を調節することができます。
数字が大きくなるほど出力レベルが大きくなります。

016 KEY (KEYER) BEACON (BEACON TIME)

機能: ビーコンを送出する時間設定

選択できる項目: OFF/1 ~ 240sec (1sec/step)
270 ~ 690sec (30sec/step)

工場設定値: OFF

解説: ビーコンを送出する間隔を設定します。
コンテストメモリーキーヤーに登録した MESSAGE メモリーや TEXT メモリーに、登録した CW 符号をビーコンとして送することができます。
ビーコンを送出しない場合は、OFF に設定してください。

017 KEY (KEYER) NUM STL (NUMBER STYLE)

機能: モールス符号によるコンテストナンバーの数字略語化設定

選択できる項目: 1290/AunO/Aunt/
A2nO/A2nt/12nO/12nt

工場設定値: 1290

解説: コンテストナンバーを送出時に「1」「2」「9」「0」の数字をモールス符号による略語化設定をすることができます。

1290: 数字のモールス符号を略語化せずに送します。

AunO: 数字の「1」を「A」, 「2」を「U」, 「9」を「N」, 「0」を「O」と略して送します。

Aunt: 数字の「1」を「A」, 「2」を「U」, 「9」を「N」, 「0」を「T」と略して送します。

A2nO: 数字の「1」を「A」, 「9」を「N」, 「0」を「O」と略して送します。数字の「2」は略さずに、そのまま送します。

A2nt: 数字の「1」を「A」, 「9」を「N」, 「0」を「T」と略して送します。数字の「2」は略さずに、そのまま送します。

12nO: 数字の「9」を「N」, 「0」を「O」と略して送します。数字の「1」と「2」は略さずに、そのまま送します。

12nt: 数字の「9」を「N」, 「0」を「T」と略して送します。数字の「1」と「2」は略さずに、そのまま送します。

メニューモード詳細

018 KEY (KEYER) CONTEST (CONTEST NUMBER)

機能: モールス符号によるコンテストナンバーの入力

選択できる項目: 0 ~ 9999

工場設定値: 1

解説: モールス符号によるコンテストナンバーを入力します (☞ p.95).

1. **【MENU】** スイッチを短く押して、メニューモードを呼び出します。
2. **【MAIN】** ダイアルつまみをまわして、メニューモード「018 KEY CONTEST」に設定します。
3. **【CLAR/VFO-B】** つまみをまわして希望のコンテストナンバーに設定します。
4. **【MENU】** スイッチを約1秒以上押して内容を保存します。

019 KEY (KEYER) CW MEM1 (CW MEMORY1)

機能: コンテストメモリーキーヤー「C W MEMORY 1」の登録方法の選択

選択できる項目: TEXT/MESSAGE

工場設定値: tyP2 (MESSAGE)

解説: コンテストメモリーキーヤー「C W MEMORY 1」の登録方法を選択します。

tyP1 (TEXT): 本機のパネル操作により、文字を入力してC W MEMORY 1に登録します (☞ p.95)。また、オプションのリモートコントロールキーパッドFH-2から文字入力も可能です (☞ p.97)。

tyP2 (MESSAGE): キーヤーからのキーイング入力でC W MEMORY 1に登録します。

020 KEY (KEYER) CW MEM2 (CW MEMORY2)

機能: コンテストメモリーキーヤー「C W MEMORY 2」の登録方法の選択

選択できる項目: TEXT/MESSAGE

工場設定値: tyP2 (MESSAGE)

解説: コンテストメモリーキーヤー「C W MEMORY 2」の登録方法を選択します。

tyP1 (TEXT): 本機のパネル操作により、文字を入力してC W MEMORY 2に登録します (☞ p.95)。また、オプションのリモートコントロールキーパッドFH-2から文字入力も可能です (☞ p.97)。

tyP2 (MESSAGE): キーヤーからのキーイング入力でC W MEMORY 2に登録します。

021 KEY (KEYER) CW MEM3 (CW MEMORY3)

機能: コンテストメモリーキーヤー「C W MEMORY 3」の登録方法の選択

選択できる項目: TEXT/MESSAGE

工場設定値: tyP2 (MESSAGE)

解説: コンテストメモリーキーヤー「C W MEMORY 3」の登録方法を選択します。

tyP1 (TEXT): 本機のパネル操作により、文字を入力してC W MEMORY 3に登録します (☞ p.95)。また、オプションのリモートコントロールキーパッドFH-2から文字入力も可能です (☞ p.97)。

tyP2 (MESSAGE): キーヤーからのキーイング入力でC W MEMORY 3に登録します。

022 KEY (KEYER) CW MEM4 (CW MEMORY4)

機能: コンテストメモリーキーヤー「CW MEMORY 4」の登録方法の選択

選択できる項目: TEXT/MESSAGE

工場設定値: tyP2 (MESSAGE)

解説: コンテストメモリーキーヤー「CW MEMORY 4」の登録方法を選択します。

tyP1 (TEXT): 本機のパネル操作により、文字を入力してCW MEMORY 4に登録します (☞ p.95)。また、オプションのリモートコントロールキーボードFH-2から文字入力も可能です (☞ p.97)。

tyP2 (MESSAGE): キーヤーからのキーイング入力でCW MEMORY 4に登録します。

023 KEY (KEYER) CW MEM5 (CW MEMORY5)

機能: コンテストメモリーキーヤー「CW MEMORY 5」の登録方法の選択

選択できる項目: TEXT/MESSAGE

工場設定値: tyP2 (MESSAGE)

解説: コンテストメモリーキーヤー「CW MEMORY 5」の登録方法を選択します。

tyP1 (TEXT): 本機のパネル操作により、文字を入力してCW MEMORY 5に登録します (☞ p.95)。また、オプションのリモートコントロールキーボードFH-2から文字入力も可能です (☞ p.97)。

tyP2 (MESSAGE): キーヤーからのキーイング入力でCW MEMORY 5に登録します。

024 GENE (GENERAL) ANT SEL (ANT SELECT)

機能: アンテナ選択の設定

選択できる項目: bAnd(BAND)/rEG (STACK)

工場設定値: bAnd(BAND)

解説: アンテナ選択の設定をすることができます。

bAnd(BAND): 各バンドに対応してアンテナ選択を記憶することができます。

rEG (STACK): バンドスタックに対応してアンテナ選択を記憶することができます。

025 GENE (GENERAL) BEP LVL (BEEP LEVEL)

機能: ビープレベルの設定

選択できる項目: 0 ~ 100

工場設定値: 50

解説: ビープの音量レベルを設定することができます。数値が大きくなるほど音量レベルも大きくなります。

026 GENE (GENERAL) CAT BPS (CAT RATE)

機能: CATコントロールのボーレートの設定

選択できる項目: 4800/9600/192H(19200)/384H(38400) bps

工場設定値: 4800 bps

解説: CATコントロールのボーレートを設定します。

027 GENE (GENERAL) CAT TOT (CAT TIME OUT TIMER)

機能: CATコントロールのタイムアウトタイマーの設定

選択できる項目: 10/100/1000/3000 msec

工場設定値: 10 msec

解説: CATコントロールのタイムアウトタイマーを設定します。

メニューモード詳細

028 GENE (GENERAL) CAT RTS

- 機能:** CAT RTS ポートの設定
選択できる項目: On (Enable) / OFF (Disable)
工場設定値: On (Enable)
解説: RTS 信号によるパソコンの監視設定
On (Enable):
RTS 信号によるパソコンの状態を監視します。
OFF (Disable):
パソコンの状態は監視しません。

029 GENE (GENERAL) MEM GRP (MEM GROUP)

- 機能:** メモリバンク機能の設定
選択できる項目: On (Enable) / OFF (Disable)
工場設定値: OFF (Disable)
解説: この設定を “On” にすると、メモリーチャンネルを5つのグループに分けることができます。

030 GENE (GENERAL) Q SPLIT (QUICK SPLIT FREQ)

- 機能:** クイックスプリット機能動作時のスプリットオフセット周波数設定
選択できる項目: -20 ~ 0 ~ 20 kHz
(1 kHz Step)

- 工場設定値:** 5 kHz
解説: クイックスプリット機能動作時のスプリットオフセット周波数を設定します。

- アドバイス** フロントパネルの【SPLIT】スイッチを長く押すと、Sub VFO-Bの周波数がMain VFO-Aの周波数より設定したオフセット周波数分だけオフセットして設定されます。
【SPLIT】スイッチは長く押すたびに、オフセット周波数が加算されていきます。

031 GENE (GENERAL) TX TOT (TX TIME OUT TIMER)

- 機能:** TOT (タイムアウトタイマー) 時間の設定
選択できる項目: OFF / 1 ~ 30 min
工場設定値: OFF
解説: “連続送信” を行うと、設定した時間で強制的に受信状態に戻します。

032 GENE (GENERAL) μ T DIAL (μ TUNE DIAL STEP)

- 機能:** μ TUNE 機能の動作切り換え
選択できる項目: StP2 (DIAL STEP-2) /
StP1 (DIAL STEP-1)
工場設定値: StP1 (DIAL STEP-1)
解説: オプションのRF μ Tuning Kit シリーズを接続したときに使用するメニューモードで、 μ TUNE 機能の動作モードを切り換えます。
StP2 (DIAL STEP-2):

【 μ -TUNE】スイッチを押して μ TUNE 機能を “ON” にするだけで、1.9MHz 帯から 14MHz 帯のアマチュアバンドをオートで調節することができます。【SELECT】ツマミをまわすと、同調点を微調整 (変化量: 1steps/click) することができます。
StP1 (DIAL STEP-1):

「DIAL STEP-2」と同じ動作をしますが、7MHz 帯以下のバンドでは、【SELECT】ツマミをまわしたときの同調点の変化量が「DIAL STEP-2」より大きく (変化量: 2steps/click) よりスピーディーな同調操作が行えるようになります。

アドバイス RF μ Tuning Kit を取り付けていない場合は、この設定を変えても変化はありません。

033 GENE (GENERAL) MIC SCN (MIC SCAN)

- 機能:** マイクロホン・オートスキャン機能の ON/OFF
選択できる項目: On (Enable) / OFF (Disable)
工場設定値: On (Enable)
解説: マイクロホンの[UP]/[DWN]スイッチの動作を選択します。
On (Enable):
[UP]/[DWN]スイッチを0.5秒以上長く押すと、スイッチを離してもオートでスキャンを続けます。
OFF (Disable):
[UP]/[DWN]スイッチを押している間だけ周波数またはメモリーチャンネルをスキャンします。離すとスキャンは停止します。

034 GENE (GENERAL) SCN RSM (MIC SCAN RESUME)

機能: スキャンリジューム機能の設定

選択できる項目: CAr (PAUSE)/5Sec (TIME)

工場設定値: 5Sec (TIME)

解説: スキャンリジューム機能の設定を行います (AM/FMモード時)。

CAr (PAUSE): オートスキャン中、BUSYの間継続して停止します。

5Sec (TIME): BUSYが5秒間継続すると次チャンネル (周波数)に移り、BUSYがないときはオートスキャンをします。

035 GENE (GENERAL) FRQ ADJ (FREQ ADJ)

機能: 基準周波数の校正

選択できる項目: -25 ~0 ~25

工場設定値: 0

解説: 周波数計を接続して周波数を校正する。または、WWVやWWVHなどの標準電波を受信して、周波数を校正する方法があります。

例

例としてハワイの WWVH の基準電波を受信して周波数を校正する方法を説明します。

1. 調整に入る前に、RX CLARとTX CLARを“OFF”にします。
2. 周波数を 15,000.00MHz、モードをCW-USBにし、【AF GAIN】ツマミをまわして聞きやすい音量にします。
3. メニューモードの「035 GENE FRQ ADJ」を操作してBARディスプレイがセンサーで点灯するように調節します。

036 A3E (MODE AM) MIC GAIN (AM MIC GAIN)

機能: AMモードマイクゲインの設定

選択できる項目: Ur (MCVR)/0 ~ 100

工場設定値: Ur

解説: AMモードのマイクゲインを設定します。“Ur”の場合はマイクゲインをパネル面の【MIC】ツマミで設定することができます。

037 A1A (MODE CW) F-TYPE (F KEYER TYPE)

機能: フロントパネル側のキーヤーの動作切り換え

選択できる項目: OFF/buG/

ELE(ELEKEY)/ACS

工場設定値: ELE(ELEKEY)

解説:

OFF: キーヤー機能を“OFF”にします。

buG: 短点のみが自動(長点は手動)で送出される“BUGキー”として動作します。

ELE(ELEKEY): 短点と長点を自動に送出する“エレクトロリックキーヤー”として動作します。

ACS: キーヤー回路が自動的に、文字と文字の間隔(符号間隔)を正確に3短点分取る“オートスペースコントロール機能付きキーヤー”として動作します。

038 A1A (MODE CW) F-REV (F CW KEYER)

機能: フロントパネル側のCWパドル極性切り換え

選択できる項目: nor/rEV(REV)

工場設定値: NOR

解説: CWパドルの極性を切り換えます。

nor: パドルのDOT側を操作するとDOT信号を出力し、DASH側を操作するとDASH信号を出力します。

rEU(REV): パドルのDOT側を操作するとDASH信号を出力し、DASH側を操作するとDOT信号を出力します。

メニューモード詳細

039 A 1A (MODE CW) R-TYPE (R KEYSER TYPE)

機能：リアパネル側のキーヤーの動作切り換え

選択できる項目： OFF/buG/
ELE(ELEKEY)/ACS

工場設定値： ELE(ELEKEY)

解説：

OFF：キーヤー機能を“OFF”にします。

buG：短点のみが自動(長点は手動)で送出される“BUGキー”として動作します。

ELE(ELEKEY)：短点と長点を自動に送出される“エレクトロリックキーヤー”として動作します。

ACS：キーヤー回路が自動的に、文字と文字の間隔(符号間隔)を正確に3短点分取る“オートスペースコントロール機能付きキーヤー”として動作します。

040 A 1A (MODE CW) R-REV (R CW KEYSER)

機能：リアパネル側のCWパドル極性切り換え

選択できる項目： nor/rEV(REV)

工場設定値： nor

解説： CWパドルの極性を切り換えます。

nor：パドルのDOT側を操作するとDOT信号を出力し、DASH側を操作するとDASH信号を出力します。

rEV(REV)：パドルのDOT側を操作するとDASH信号を出力し、DASH側を操作するとDOT信号を出力します。

041 A 1A (MODE CW) CW AUTO (CW AUTO MODE)

機能： CW運用モードの設定

選択できる項目： OFF/50 (50MHz) /On

工場設定値： OFF

解説：

OFF：CWモード時のみキーイング操作が有効になります。

50：50MHzだけ、LSB、USBモード時もキーイング操作が有効になり、キー操作を行うことで、CW信号を送出することができます。

On：全バンドにおいて、LSB、USBモード時もキーイング操作が有効になり、キー操作を行うことで、CW信号を送出することができます。

042 A 1A (MODE CW) BFO (CW BFO)

機能： CWモード時のBFOの位置設定

選択できる項目： USB/LSb/Auto

工場設定値： USB

解説： CW受信時のBFOの位置を切り換えることができます。

USB：BFOの位置がUSB側になります。

LSb：BFOの位置がLSB側になります。

Auto：受信周波数が10MHz以下の場合はBFOの位置がLSB側に、受信周波数が10MHz以上の場合はBFOの位置がUSB側になります。

043 A 1A (MODE CW) BK-IN (CW BK-IN)

機能： CWブレークイン機能の設定

選択できる項目： SEni(SEMI)/FuLL

工場設定値： SEni(SEMI)

解説： CWブレークイン機能の設定をすることができます。

SEni(SEMI)：キーイングが終わって一定時間経つと受信状態になります。メニューモードの「44 A1A DELAY」で受信状態に戻る時間を設定することができます。

FuLL：マニピュレーターを操作するとキーダウンで自動的に送信状態になって電波が発射され、キーアップでただちに受信状態に戻ります。

044 A1A (MODE CW) DELAY (CW BK-IN DELAY)

機能: CW ディレイタイムの設定
選択できる項目: 30 msec ~ 3000 msec
 (10 msec ステップ)

工場設定値: 200 msec

解説: “セミブレイクイン操作” 時に、キーイング操作が終わってから受信状態に戻るまでの時間を調節することができます。30msec から 3000msec まで 10msec ステップで変更することができます。

045 A1A (MODE CW) PITCH (CW PITCH)

機能: CW ピッチの設定
選択できる項目: 300Hz ~ 1050Hz
工場設定値: 700Hz

解説: CW 信号の受信音 (CW ピッチ) を 300Hz から 1050Hz まで 50Hz ステップで変更することができます。

046 A1A (CW WEIGHT) WEIGHT

機能: CW 符号ウエイト調整
選択できる項目: 2.5 ~ 4.5
工場設定値: 3.0

解説: 内蔵エレクトリックキーヤーの、短点 (ドット) と長点 (ダッシュ) の比率 (ウエイト) を設定します。

047 A1A (MODE CW) FRQDISP (CW FREQ DISPLAY)

機能: PITCH 周波数オフセットの設定
選択できる項目: dir(DIRECT FREQ)/
 oFSt(PITCH OFFSET)

工場設定値: oFSt(PITCH OFFSET)

解説: 電波型式 SSB と CW を切り換えたときの表示周波数オフセット処理を設定します。

dir(DIRECT FREQ):

SSB モードと CW モードとでは表示周波数は変化せず、同じ周波数を表示します。

oFSt(PITCH OFFSET):

SSB モードとくらべ、CW モードの表示周波数は PITCH 周波数分オフセットします。

CW BFO が USB の時は PITCH 周波数分高く表示周波数を表示し、LSB の時は逆に低く表示周波数を表示します。

048 A1A (MODE CW) PC KYNG (PC KEYING)

機能: PACKET 端子による CW キーイングの切り換え

選択できる項目: EnA(ENABLE)/
 diS(DISABLE)

工場設定値: diS(DISABLE)

解説:

EnA(ENABLE): PACKET 端子の PACKET PTT (Pin 3) での CW キーイングを可能にします。

diS(DISABLE): PACKET 端子の PACKET PTT (Pin 3) での CW キーイングを無効にします。

049 A1A (QSK) QSK TIME

機能: キーヤー信号送出ディレイタイムの設定
選択できる項目: 15/20/25/30 msec

工場設定値: 15 msec

解説: 送信操作を行ってから、実際に電波が送信されるまでの時間を 5msec ステップで設定することができます。

メニューモード詳細

050 DATA (MODE DAT) DT GAIN (DATA TX GAIN)

機能：データ通信(PSK31 や SSTV など)時の
入力レベルの設定

選択できる項目：0～100

工場設定値：50

解説：データ通信(PSK31 や SSTV など)時の
データ入力レベルを設定します。数値が
大きくなるほど入力レベルも大きくなり
ます。

051 DATA (MODE DAT) OUT LVL (DATA OUT LEVEL)

機能：データ通信(PSK31 や SSTV など)時の
出力レベルの設定

選択できる項目：0～100

工場設定値：50

解説：データ通信(PSK31 や SSTV など)時の
データ出力レベルを設定します。数値が
大きくなるほど出力レベルも大きくなり
ます。

052 DATA (MODE DAT) VOX DLY (DATA VOX DELAY)

機能：データ通信(PSK31 や SSTV など)時、
VOX 運用を行う場合の VOX DELAY
時間の設定。

選択できる項目：30～3000msec
(10 msec ステップ)

工場設定値：300msec

解説：データ通信(PSK31 や SSTV など)時、
VOX 運用を行う場合の VOX DELAY
時間を設定します。

053 DATA (MODE DAT) V GAIN (DATA VOX GAIN)

機能：データ通信(PSK31 や SSTV など)時、
VOX GAIN の設定

選択できる項目：0～100

工場設定値：50

解説：DATA 入力 VOX のゲインを設定しま
す。

054 DATA (MODE DAT) PKTDISP (PKT DISP (SSB))

機能：PKT 時の表示周波数オフセット設定

選択できる項目：-3000～0～3000 Hz

工場設定値：0 Hz

解説：PKT 時の表示周波数オフセットを設定
します。10Hzステップで設定可能です。

055 DATA (MODE DAT) PKT SFT (PKT SHIFT (SSB))

機能：PKT 時のキャリア位置設定

選択できる項目：-3000～0～3000 Hz

工場設定値：1000 Hz

解説：PKT 時のキャリア位置を設定します。
10Hz ステップで設定可能です。

056 F3E (MODE FM) FM MIC (FM MIC GAIN)

機能：FM モード時のマイクゲインの設定

選択できる項目：Ur(MCVR)/0～100

工場設定値：50

解説：FM モードのマイクゲインを設定しま
す。“MCVR” に設定すると、マイクゲ
インの調整をパネル面の【MIC GAIN】
ツマミで行えるようになります。

057 F3E (MODE FM) 28 RPT (RPT SHIFT(28MHz))

機能：28MHz 帯 RPT オフセット周波数の設定

選択できる項目：0～1000 kHz
(10 kHz ステップ)

工場設定値：100 kHz

解説：28MHz 帯のレピーターオフセット周波
数を設定します。

058 F3E (MODE FM) 50 RPT (RPT SHIFT(50MHz))

機能：50MHz 帯 RPT オフセット周波数の設定

選択できる項目：0～4000 kHz
(10 kHz ステップ)

工場設定値：1000kHz

解説：50MHz 帯のレピーターオフセット周波
数を設定します。

059 RTTY (MODE RTTY) R PLRTY (POLARITY-R)

機能：RTTY 受信時シフト方向の設定

選択できる項目：nor/rEV(REV)

工場設定値：nor

解説：RTTY の受信時シフト方向を設定します。

nor：マーク周波数に対してスペース周波数が低くなります。

rEV(REV)：スペース周波数に対してマーク周波数が低くなります。

060 RTTY (MODE RTTY) T PLRTY (POLARITY-T)

機能：RTTY 送信時シフト方向の設定

選択できる項目：nor/rEV(REV)

工場設定値：nor

解説：RTTY の送信時シフト方向を設定します。

nor：マーク周波数に対してスペース周波数が低くなります。

rEV(REV)：スペース周波数に対してマーク周波数が低くなります。

061 RTTY (MODE RTTY) OUT LVL (RTTY OUT LEVEL)

機能：RTTY 通信時の出力レベルの設定

選択できる項目：0～100

工場設定値：50

解説：RTTY通信時のデータ出力レベルを設定します。数値が大きくなるほど出力レベルも大きくなります。

062 RTTY (MODE RTTY) SHIFT (RTTY SHIFT)

機能：RTTY のシフト幅設定

選択できる項目：170/200/425/850 (Hz)

工場設定値：170Hz

解説：RTTY のシフト幅を設定します。

063 RTTY (MODE RTTY) TONE (RTTY TONE)

機能：RTTY のマーク周波数設定

選択できる項目：1275/2125 (Hz)

工場設定値：2125Hz

解説：RTTY のマーク周波数を設定します。

064 J3E (MODE SSB) TX BPF (SSB TX BPF)

機能：SSBモード TX DSP バンドパスフィルタの周波数特性を設定

選択できる項目：

1-30(100-3000)/1-29(100-2900)/

2-28(200-2800)/3-27(300-2700)/

4-26(400-2600)

工場設定値：3-27(300-2700) Hz

解説：SSB 送信時の DSP バンドパスフィルタの周波数特性を設定することができます。

065 J3E (MODE SSB) LSB CAR (LSB RX CARRIER)

機能：LSB 受信時のキャリアポイント設定

選択できる項目：-200～0～+200 Hz
(10 Hz ステップ)

工場設定値：0 Hz

解説：LSB 受信時のキャリアポイントを設定します。

066 J3E (MODE SSB) USB CAR (USB RX CARRIER)

機能：USB 受信時のキャリアポイント設定

選択できる項目：-200～0～+200 (Hz)
(10 Hz ステップ)

工場設定値：0 Hz

解説：USB 受信時のキャリアポイントを設定します。

067 RGEN (RX GNRL) NB 1 LVL (NB 1 LEVEL)

機能：Nar ノイズブランカーレベルの設定

選択できる項目：0～255

工場設定値：128

解説：Narノイズブランカーレベルを調節します。自動車のイグニッションノイズのようなパルス性雑音を軽減することができます。数字が大きくなるほどノイズブランカーレベルが高くなります。

メニューモード詳細

068 RGEN (RX GNRL) NB 2 LVL (NB 2 LEVEL)

機能：Wide ノイズブランカーレベルの設定

選択できる項目：0～255

工場設定値：128

解説：Wide ノイズブランカーレベルを調節します。ウッドペッカーノイズのような幅の広い雑音を軽減することができます。数字が大きくなるほどノイズブランカーレベルが高くなります。

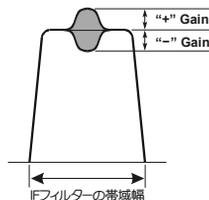
069 RGEN (RX GNRL) CNTR LV (CONTOUR LEVEL)

機能：CONTOUR 回路の GAIN 設定

選択できる項目：-40～0～+20

工場設定値：-15

解説：CONTOUR 回路の減衰量 (GAIN) を設定します。



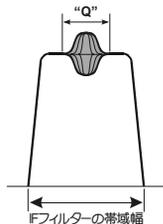
070 RGEN (RX GNRL) CNTR WI (CONTOUR WIDTH)

機能：CONTOUR 回路の帯域幅 ("Q") 設定

選択できる項目：1～11

工場設定値：10

解説：CONTOUR 回路の帯域幅 (WIDTH) を設定します。



071 RGEN (RX GNRL) DNF

機能：DNF 回路の ON/OFF

選択できる項目：On (ON)/OFF

工場設定値：OFF

解説：受信信号の中に複数の不要なビート音があるときは、DNF (デジタルノッチフィルター) 機能を使うと複数のビート信号の除去に効果があります。オートノッチでするので、調整用のツマミはありません。

アドバイス 強力なビート信号を除去するには、1 F NOTCH (ノッチ) 機能の方が効果的です。1 F NOTCH (ノッチ) 機能を使うことをおすすめします。

072 RGEN (RX GNRL) DNR

機能：DNR 回路の ON/OFF

選択できる項目：OFF/1～15

工場設定値：OFF

解説：ランダムなノイズ成分を効果的にキャンセルすることができるノイズリダクション機能を搭載しています。SSB による短波帯通信に特有のノイズ音を減少させることができます。ノイズの種類によってパラメータを15段階に可変しノイズ成分を減衰させます。十分に強い信号を受信している時は使用する必要はありませんが、了解度が低く弱い信号を受信しているときには、ノイズレベルが下がり了解度を上げることができます。

073 SCP (SCOPE) 1.8 FIX (FIX 1.8MHz)

機能：1.8MHz 帯スペクトラムスコープ機能の、FIX (固定) モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目：1.800～1.999 (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値：1.800 (MHz)

解説：オプションのデータマネジメントユニット "DMU-2000" を接続したときの、1.8MHz 帯スペクトラムスコープの FIX (固定) モード時のスタート周波数を設定します。

074 SCP (SCOPE) 3.5 FIX (FIX 3.5MHz)

機能：3.5MHz 帯スペクトラムスコープ機能の、FIX (固定) モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目：3.500～3.999 (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値：3.500 (MHz)

解説：オプションのデータマネジメントユニット "DMU-2000" を接続したときの、3.5MHz 帯スペクトラムスコープ機能の、FIX (固定) モード時のスタート周波数を設定します。

075 SCP (SCOPE) 5.0 FIX (FIX 5.0MHz)

機能: 5MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 5.250 ~ 5.499 (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 5.250 (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、5MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

076 SCP (SCOPE) 7.0 FIX (FIX 7.0MHz)

機能: 7MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 7.000 ~ 7.299 (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 7.000 (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、7MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

077 SCP (SCOPE) 10.1 FIX (FIX 10MHz)

機能: 10MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 0.100(10.100)
~ 0.149(10.149) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 0.100(10.100) (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、10MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

078 SCP (SCOPE) 14.0 FIX (FIX 14MHz)

機能: 14MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 4.000(14.000)
~ 4.349(14.349) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 4.000(14.000) (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、14MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

079 SCP (SCOPE) 18.0 FIX (FIX 18MHz)

機能: 18MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 8.000(18.000)
~ 8.199(18.199) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 8.068(18.068)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、18MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

080 SCP (SCOPE) 21.0 FIX (FIX 21MHz)

機能: 21MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 1.000(21.000)
~ 1.449(21.449) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 1.000(21.000) (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、21MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

メニューモード詳細

081 SCP (SCOPE) 24.8 FIX (FIX 24MHz)

機能: 24MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 4.800(24.800)
~ 4.989(24.989) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 4.890(24.890) (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、24MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

082 SCP (SCOPE) 28.0 FIX (FIX 28MHz)

機能: 28MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 8.000(28.000)
~ 9.699(29.699) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 8.000(28.000) (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、28MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

083 SCP (SCOPE) 50.0 FIX (FIX 50MHz)

機能: 50MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数の設定

選択できる項目: 0.000(50.000)
~ 3.999(53.999) (MHz)
(1kHz ステップ)

工場設定値: 0.000(50.000) (MHz)

解説: オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”を接続したときの、50MHz帯スペクトラムスコープ機能の、FIX(固定)モード時のスタート周波数を設定します。

084 TUN (TUNING) DIALSTP (MAIN DIAL STEP)

機能: ダイアル周波数変化量の設定

選択できる項目: 1/5/10 (Hz)

工場設定値: 10 (Hz)

解説: 【MAIN】ダイアルツマミおよび【CLAR/VFO-B】ツマミの、FM/FM-PKTモード時以外の1ステップあたりの周波数変化量を設定します。【MAIN】ダイアルツマミ、【CLAR/VFO-B】ツマミ両方の周波数変化量が同時に変更されます。

アドバイス オプションのデータマネージメントユニット“DMU-2000”と市販の外部ディスプレイを接続すると、外部ディスプレイに1Hzの桁まで表示することができます。

085 TUN (TUNING) CW FINE (MAIN DIAL CW FINE)

機能: CW/RTTY/PKT時のダイアル周波数変化量を設定

選択できる項目: EnA(ENABLE)/
diS(DISABLE)

工場設定値: diS(DISABLE)

解説: CW/RTTY/PKTモード時の【MAIN】ダイアルツマミおよび【CLAR/VFO-B】ツマミの1ステップあたりの周波数変化量を設定します。

EnA(ENABLE):

メニューモード「084 TUN DIAL STP」の設定にかかわらず、1ステップあたりの周波数変化量は1Hzとなります。

diS(DISABLE):

メニューモード「084 TUN DIAL STP」の設定に従って、周波数変化量が変わります。

【MAIN】ダイアルツマミと【CLAR/VFO-B】ツマミ両方の設定が同時に変更されます。

086 TUN (TUNING) MHZ SEL (1MHz/100kHz SELECT)

機能: 【CLAR/VFO-B】 ツマミの周波数変化量の設定

選択できる項目: 1(1MHz)/0.1(100kHz)

工場設定値: 1(1MHz)

解説: 【CLAR/VFO-B】 ツマミ (【MHZ】スイッチが赤色に点灯している時) の1ステップあたりの周波数変化量を設定します。

087 TUN (TUNING) AM STEP (AM CH STEP)

機能: AMモード時のMIC-UP/DOWNスイッチのステップ幅設定

選択できる項目: 2.5/5/9/10/12.5 (kHz)

工場設定値: 5 (kHz)

解説: AMモード時の1ステップあたりの周波数変化量を設定します。

088 TUN (TUNING) FM STEP (FM CH STEP)

機能: FM/PKT-FM時のMIC-UP/DOWNスイッチのステップ幅設定

選択できる項目: 5/6.25/10/12.5/20/25 (kHz)

工場設定値: 5 (kHz)

解説: FM/PKT-FMモード時の1ステップあたりの周波数変化量を設定します。

089 TUN (TUNING) FM DIAL (FM DIAL STEP)

機能: FM/PKT-FM時のダイヤル周波数変化量の設定

選択できる項目: 10/100 (Hz)

工場設定値: 100 (Hz)

解説: FM/PKT-FMモード時の【MAIN】ダイヤルツマミおよび【CLAR/VFO-B】ツマミの1ステップあたりの周波数変化量を設定します。【MAIN】ダイヤルツマミ、【CLAR/VFO-B】ツマミ両方の周波数変化量が同時に変更されます。

090 TUN (TUNING) MY BAND

機能: マイバンドの設定

選択できる項目: 1.8 ~ 50(MHz)/GE

工場設定値: - - - -

解説: 【CLAR/VFO-B】 ツマミによるバンド選択時 (【BAND】スイッチが橙色に点灯している時) の呼び出すバンドを設定します。

1. 【CLAR/VFO-B】 ツマミで運用したいバンド (マイバンド) を選びます。

2. 【BAND】 キーの【ENT】 を押して、設定を“E(ON)” にします。

【ENT】 キーは押すたびに、“E(ON)/d(OFF)” を繰り返します。

14MHzをマイバンドとして選んだ場合

ONのときは、“14 E” とマルチディスプレイに表示されます。

OFFのときは、“14 d” とマルチディスプレイに表示されます。

3. 操作1と2を繰り返し、運用したいバンドを“ON” にします。

1.8 ~ 50: アマチュアバンドの呼び出しを個別に“ON/OFF”設定することができます。

GE(GEN): GENバンド (ジェネラルバンド) の呼び出しを“ON/OFF”設定することができます。

メニューモード詳細

091 TAUD (TX AUDIO) EQ1 FRQ (PRMTRC EQ1 FREQ)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の中心周波数設定。

選択できる項目： OFF/100～700 (Hz)
(100Hzステップ)

工場設定値：OFF

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の中心周波数を“100 Hz”～“700 Hz”の範囲で設定することができます。

アドバイス 使用するマイクロホンによって効果が変わりますので、本機に内蔵している“モニター機能”を利用して、お好みの音質に設定してください。

092 TAUD (TX AUDIO) EQ1 LVL (PRMTRC EQ1 LEVEL)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化量(ゲイン)設定

選択できる項目： -20～0～+10 (dB)

工場設定値：+5 (dB)

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化量(ゲイン)を“-20 dB”～“+10 dB”の範囲で設定することができます。

093 TAUD (TX AUDIO) EQ1 BW (PRMTRC EQ1 BWTH)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化幅(Q)設定

選択できる項目：1～10

工場設定値：10

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化幅(Q)を“1”～“10”の範囲で設定することができます。

094 TAUD (TX AUDIO) EQ2 FRQ (PRMTRC EQ2 FREQ)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の中心周波数設定。

選択できる項目： OFF/700～1500 (Hz)
(100Hzステップ)

工場設定値：OFF

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の中心周波数を“700 Hz”～“1500 Hz”の範囲で設定することができます。

アドバイス 使用するマイクロホンによって効果が変わりますので、本機に内蔵している“モニター機能”を利用して、お好みの音質に設定してください。

095 TAUD (TX AUDIO) EQ2 LVL (PRMTRC EQ2 LEVEL)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化量(ゲイン)設定

選択できる項目： -20～0～+10 dB

工場設定値：+5 dB

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化量(ゲイン)を“-20 dB”～“+10 dB”の範囲で設定することができます。

096 TAUD (TX AUDIO) EQ2 BW (PRMTRC EQ2 BWTH)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化幅(Q)設定

選択できる項目：1～10

工場設定値：10

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化幅(Q)を“1”～“10”の範囲で設定することができます。

097 TAUD (TX AUDIO) EQ3 FRQ (PRMTRC EQ3 FREQ)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の中心周波数設定

選択できる項目： OFF/1500 ~ 3200 Hz
(100Hzステップ)

工場設定値：OFF

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の中心周波数を“1500 Hz” ~ “3200 Hz”の範囲で設定することができます。

アドバイス 使用するマイクロホンによって効果が変わりますので、本機に内蔵している“モニター機能”を利用して、お好みの音質に設定してください。

098 TAUD (TX AUDIO) EQ3 LVL (PRMTRC EQ3 LEVEL)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の変化量(ゲイン)設定

選択できる項目： -20 ~ 0 ~ +10 dB

工場設定値：+5 dB

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの高域部の変化量(ゲイン)を“-20 dB” ~ “+10 dB”の範囲で設定することができます。

099 TAUD (TX AUDIO) EQ3 BW (PRMTRC EQ3 BWTH)

機能：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の変化幅(Q)設定

選択できる項目： 1 ~ 10

工場設定値：10

解説：マイクロホン用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の変化幅(Q)を“1” ~ “10”の範囲で設定することができます。

100 TAUD (TX AUDIO) PE1 FRQ (P-PRMTRC EQ1 FREQ)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の中心周波数設定

選択できる項目： OFF/100 ~ 700 Hz
(100Hzステップ)

工場設定値：200

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の中心周波数を“100 Hz” ~ “700 Hz”の範囲で設定することができます。

アドバイス 使用するマイクロホンによって効果が変わりますので、本機に内蔵している“モニター機能”を利用して、お好みの音質に設定してください。

101 TAUD (TX AUDIO) PE1 LVL (P-PRMTRC EQ1 LEVEL)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化量(ゲイン)設定

選択できる項目： -20 ~ 0 ~ +10 dB

工場設定値：0 dB

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化量(ゲイン)を“-20 dB” ~ “+10 dB”の範囲で設定することができます。

102 TAUD (TX AUDIO) PE1 BW (P-PRMTRC EQ1 BWTH)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化幅(Q)設定

選択できる項目： 1 ~ 10

工場設定値：2

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの低音域の変化幅(Q)を“1” ~ “10”の範囲で設定することができます。

メニューモード詳細

103 TAUD (TX AUDIO) PE2 FRQ (P-PRMTRC EQ2 FREQ)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の中心周波数設定

選択できる項目： OFF/700～1500 Hz
(100Hzステップ)

工場設定値：800

解説：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の中心周波数を“700 Hz”～“1500 Hz”の範囲で設定することができます。

アドバイス 使用するマイクロホンによって効果が変わりますので、本機に内蔵している“モニター機能”を利用して、お好みの音質に設定してください。

104 TAUD (TX AUDIO) PE2 LVL (P-PRMTRC EQ2 LEVEL)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化量(ゲイン)設定

選択できる項目： -20～0～+10 dB

工場設定値：0 dB

解説：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化量(ゲイン)を“-20 dB”～“+10 dB”の範囲で設定することができます。

105 TAUD (TX AUDIO) PE2 BW (P-PRMTRC EQ2 BWTH)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化幅(Q)設定

選択できる項目：1～10

工場設定値：1

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの中音域の変化幅(Q)を“1”～“10”の範囲で設定することができます。

106 TAUD (TX AUDIO) PE3 FRQ (P-PRMTRC EQ3 FREQ)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の中心周波数設定

選択できる項目： OFF/1500～3200 Hz
(100Hzステップ)

工場設定値：2100 Hz

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の中心周波数を“1500 Hz”～“3200 Hz”の範囲で設定することができます。

アドバイス 使用するマイクロホンによって効果が変わりますので、本機に内蔵している“モニター機能”を利用して、お好みの音質に設定してください。

107 TAUD (TX AUDIO) PE3 LVL (P-PRMTRC EQ3 LEVEL)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の変化量(ゲイン)設定

選択できる項目： -20～0～+10 dB

工場設定値：0 dB

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの高域部の変化量(ゲイン)を“-20 dB”～“+10 dB”の範囲で設定することができます。

108 TAUD (TX AUDIO) PE3 BW (P-PRMTRC EQ3 BWTH)

機能：スピーチプロセッサー用3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の変化幅(Q)設定

選択できる項目：1～10

工場設定値：1

解説：スピーチプロセッサーが“ON”時に動作します。3ステージパラメトリックイコライザーの高音域の変化幅(Q)を“1”～“10”の範囲で設定することができます。

109 TGEN (TX GNRL) PROCLVL (PROC LEVEL)

機能: スピーチプロセッサのレベル設定
選択できる項目: 1 ~ 100
工場設定値: 50
解説: SSB/AMモードで運用時の、スピーチプロセッサの動作レベルを設定します。

110 TGEN (TX GNRL) EXT TUN (TUNER SELECT)

機能: アンテナチューナーの設定
選択できる項目: itu (INTERNAL)/
 Etu (EXTERNAL)
工場設定値: itu
解説: 内蔵アンテナチューナーを使用する場合は“itu”、外部アンテナチューナー（オプションのFC-40など）を使用する場合は“Etu”を選択します。

111 TGEN (TX GNRL) TX PWR (TX POWER)

機能: 送信出力の設定
選択できる項目: 5 ~ 100
工場設定値: 100
解説: 送信出力を設定することができます。設定できる値は、FT-950の仕様および運用周波数帯により異なります(下表参照)。

	HF 帯	50MHz
FT-950	5W ~ 100W	5W ~ 100W
FT-950M	5W ~ 50W	5W ~ 50W
FT-950S	5W ~ 10W	5W ~ 20W

112 TGEN (TX GNRL) AM CAR (AM CARRIER)

機能: AMキャリア出力の設定
選択できる項目: 0 ~ 100
工場設定値: 50
解説: AMキャリア出力を設定することができます。AMモードで送信し、無変調時にPOメーターの指示が送信出力の25%になるよう設定します。

113 TGEN (TX GNRL) PWRCTRL (TX PWR CONTROL)

機能: 電波型式による送信出力の機能設定
選択できる項目: ALL (ALL MODE)/
 CAr(CARRIER)
工場設定値: ALL (ALL MODE)
解説: 電波型式により送信出力をコントロールすることができます。
 ALL (ALL MODE):
 AMを除く全ての電波型式で送信出力のコントロールが可能になります。
 CAr(CARRIER):
 AM, SSBモード以外の電波型式で送信出力のコントロールが可能になります。

114 TGEN (TX GNRL) VOX SEL (VOX SELECT)

機能: VOX機能の動作選択
選択できる項目: nic(MIC)/dAtA(DATA)
工場設定値: nic(MIC)
解説: VOX機能の操作を選択します。
 nic(MIC): MIC端子(マイクロホン)からの入力で作動します。
 dAtA(DATA): RTTY/PKT端子からの入力で作動します。

115 TGEN (TX GNRL) V GAIN (VOX GAIN)

機能: VOXゲインの設定
選択できる項目: 0 ~ 100
工場設定値: 50
解説: VOX回路の動作感度を設定します。“1”が感度最小で“100”が感度最大です。また、送信中にVOX動作感度を設定することもできます。

メニューモード詳細

116 TGEN (TX GNRL) VOX DLY (VOX DELAY)

機能：VOX デレイタイムの設定

選択できる項目：30～3000 msec
(10 msec ステップ)

工場設定値：500 msec

解説：VOX 運用時に、送信状態から受信状態に戻るまでの復帰時間（デレイタイム）を10 msec間隔で設定することができます。また、送信中にデレイタイムを設定することもできます。

117 TGEN (TX GNRL) ANTIVOX (ANTI VOX GAIN)

機能：VOX アンチトリップの設定

選択できる項目：0～100

工場設定値：50

解説：VOX 運用時に、スピーカーからの受信音により VOX 回路が誤動作しないようにするアンチトリップ回路の感度の調節することができます。スピーカーからの受信音では VOX 回路が動作しない位置に設定します（数値が大きいほど動作感度が上がります）。

118 TGEN (TX GNRL) EMRGNCY (EMERGENCY FREQ TX)

機能：非常連絡設定周波数の表示 / 非表示設定

選択できる項目：EnA(ENABLE)/
DiS(DISABLE)

工場設定値：DiS(DISABLE)

解説：非常連絡設定周波数専用メモリーチャンネルを“ON/OFF”します。“EnA”に設定すると、メモリーチャンネルに非常連絡設定周波数(4630kHz)が追加されます。

アドバイス

- 追加される位置は、メモリーチャンネル“01”と一番最後のPMSメモリーチャンネルの間です。
- 非常連絡設定周波数専用メモリーチャンネルを呼び出したときは、マルチパネルのメモリーチャンネル表示が“EJP”(メモリーグループが“ON”のときは“E-JP”)になります。

故障かな？・・・と思うまえに

修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。

■ 電源が入らない！

- **電源コードは正しく接続していますか？**
FT-950 と市販の直流安定化電源を確実に接続してください。
- **DC 電源コードのヒューズは切れていませんか？**
ヒューズが切れたときは、原因を対策してから 25A のヒューズを交換してください (☞ p.20)。
- **市販の直流安定化電源の電源スイッチが“OFF”になっていませんか？**
直流安定化電源の電源スイッチを“ON”にしてください。

■ 音が出ない！

- **AF GAIN ツマミを調節してありますか？**
反時計(左)方向にまわしすぎている場合は、聴きやすい音声出力に調節してください。
- **SQL ツマミをまわしすぎていませんか？**
時計(右)方向にまわしすぎている場合、弱い信号の音声が出力されない場合があります。
- **外部スピーカーの接続に誤りはありますか？**
インピーダンスが 4～8 Ω のスピーカーを接続してください。
- **送信状態になっていませんか？**
MOX スイッチ、PTT スイッチが押された状態になっていないか確認してください。

■ 受信できない！

- **アンテナは正しく接続してありますか？**
無線機は、使用するアンテナによって受信感度や送信電波の飛び具合が大きく影響されますので、自局の運用形態にあったアンテナを各バンドごとに選び、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機との間の整合を確実にとり、SWR が低い状態で使用するようしてください。
- **運用モード(電波型式)が間違っていないですか？**
正しく復調できるモードに切り換えてください。

■ 周波数表示部のインジケータが表示しない！

- **ツマミを極端にゆっくりとまわしていませんか？**
SPEED / CONTOUR / NOTCH / MIC GAIN / SHIFT / WIDTH 機能のツマミを極端にゆっくりまわすと、各機能のパラメーターや調整周波数が周波数表示部に表示されないことがあります。機能自体は動作しておりますので、故障ではありません。

■ 勝手に送信状態になってしまう！

- **VOX 運用になっていませんか？**
VOX スイッチを“OFF”にしてください。

■ 電波が出ない！

すべての運用モード(電波型式)で・・・

- **オフバンドになっていませんか？**
アマチュアバンド以外では送信できませんので、周波数をアマチュアバンド内にセットしてください。
- **アンテナは正しく接続してありますか？**
無線機は、使用するアンテナによって受信感度や送信電波の飛び具合が大きく影響されますので、自局の運用形態にあったアンテナを各バンドごとに選び、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機との間の整合を確実にとり、SWR が低い状態で使用するようしてください。
- **メニューモード「111 TGEN TX PWR」をで送信出力を最小(5W)に設定していませんか？**
メニューモード「111 TGEN TX PWR」を調整してください。

SSB, AM モードのとき・・・

- **マイクロホンは正しく接続してありますか？**
マイク端子の差し込みを確認してください。
- **MC GAIN ツマミを反時計(左)方向にまわしすぎていませんか？**
MIC GAIN ツマミを調節してください。

CW モードのとき・・・

- **電鍵は正しく接続してありますか？**
電鍵を確実に接続してください (☞ p.22, 86, 87)。
- **セミブ레이크イン操作またはフルブ레이크イン操作になっていませんか？**
電鍵を接続しただけでは、モニター音が出るだけで送信状態にはなりません。

FM モードのとき・・・

- **マイクロホンは正しく接続してありますか？**
マイク端子の差し込みを確認してください。

データ通信のとき・・・

- **周辺付属機器 (RTTY 用 TU やバケット通信用 TNC など) は正しく接続してありますか？**
周辺機器を確実に接続してください。
- **TNC の DCD ランプが点灯したままになっていませんか？**
SQL ツマミを調節してください。

アフターサービスについて

◎ 保証期間はご購入の日より 1 年間。

本製品には保証書が添付されています。ご購入いただいた日から 1 年以内に、オペレーションマニュアルに従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

◎ 保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が過ぎたものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名等の必要事項が記入していない保証書も無効扱いにさせていただきますので、ご購入いただきました販売店名・ご購入年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

◎ 保証期間が過ぎた後に故障した場合は、ご相談ください。

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきますので、ご購入いただきました販売店または、当社アマチュアカスタマーサポート(電話: 03-5725-6151)にご相談ください。

◎ 梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

製品の改良のため、オペレーションマニュアルの図面や回路図などが一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、当社アマチュアカスタマーサポート(電話: 03-5725-6151)宛にお願いいたします。また、その際には、必ずセットの製造番号(本体背面に貼ってある銘板に記載してあります)を併せてお知らせください。なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。

オプション

オプションについて

FT-950は、下記のオプションを搭載することにより、さらに高機能なオペレーションを楽しむことができますようになります。また、オペレーターの好みに合わせて自分だけのカスタマイズモデルを自由に作ることも可能です。

■ 最高級デスクトップマイクロホン (MD-200A8x)

SSBを主目的に開発したサイドダンパー付きダイナミックエレメントを採用し、明瞭度が高くダイナミックレンジの広いインパクトある送信音質を楽しめる最高級デスクトップマイクロホンです。周波数設定やスキャン操作として使える [UP] [DWN] キーが付いています。

■ デスクトップマイクロホン (MD-100A8x)

ダイナミックエレメントを採用し、ダイナミックレンジの広い高音質を楽しめるデスクトップマイクロホンです。周波数設定やスキャン操作として使える [UP] [DWN] キーが付いています。

■ [UP][DOWN][FAST]キー付きハンドマイクロホン (MH-31B8)

ダイナミックエレメントを使用した高音質なハンドマイクロホンです。周波数設定やスキャン操作として使える [UP] [DWN] キーが付いています。

■ 通信機用ヘッドホン (YH-77STA)

軽量で長時間使用しても疲れない通信機用ヘッドホンです。6Φ標準ステレオ変換プラグ付です。

■ リモートコントロールキーパッド (FH-2)

リモートコントロールキーパッド (FH-2) を接続すると、ボイスメモリー・コンテストメモリーキーヤーの操作性が向上します。接続方法は 21 ページまたは 141 ページを参照してください。

■ ロングワイヤー用オートマッチングアンテナチューナー (FC-40)

整合することのできる範囲は、長さ 20m 以上 ($\lambda/2$ の整数倍を除く) のワイヤーまたはロッドに 1.8MHz ~ 30MHz、50MHz ~ 54MHz のアマチュアバンドをカバーします。高速でマッチングをとり、すぐに運用ができるようになるためのオートアンテナチューナーです。接続方法は 142 ページを参照してください。

■ RF μ Tuning Kit A (160m), B (80m/40m), C (30m/20m)

14MHz 以下のアマチュアバンドにおいて、28mm 径の超大型コイルを採用した μ (ミュー) 同調回路を接続することができます。これにより、急峻なシェーブファクターによって強力な妨害信号を減衰させることができます。

大口径 28mm のコイルの中を μ の高い高密度フェライト磁性体が移動してコイルの共振周波数を変化させる μ 同調回路を採用することにより、急峻な RF フロントエンドの狭帯域化を実現し、強力な妨害波を抑えて希望の信号を浮かび上がらせることができます。

接続は 144 ページを参照してください。組立方法は RF μ Tuning Kit シリーズのオペレーションマニュアルを参照してください。

■ データマネージメントユニット (DMU-2000)

データマネージメントユニット (DMU-2000) と市販の外部ディスプレイを接続することにより、ワールドクロック機能、スペクトラムスコープ機能、オーディオスコープ/オシロスコープ機能、ログブック機能、温度表示/SWR 特性表示機能、ローテーターコントロール機能、メモリーチャンネルリスト機能などの運用に必要なさまざまな情報を外部ディスプレイに表示することができます。この機能は、運用に必要な補助機能だけを表示する専用画面として使用しますから、運用中であっても各種の機能設定を容易に行うことができます。

接続は 145 ページを参照してください。詳しい操作方法は DMU-2000 のオペレーションマニュアルを参照してください。

■ 1kW/50MHz 500W リニアアンプ (VL-1000)/VL-1000 専用電源 (VP-1000)

接続が簡単な QUADRA SYSTEM の 1kW(50MHz : 500W) リニアアンプです。接続にはオプションの接続ケーブル (CONTROL ケーブル) CT-118 が必要になります。また、他メーカーのリニアアンプや自作のリニアアンプを接続する場合は、オプションの接続ケーブル (P/N: T9207451) が必要になります。なお接続方法は 23 ページを参照してください。

■ ローテーターコネクションケーブル (P/N: T9101556)

当社のアンテナローテーターのコントローラーと、FT-950 を接続するコネクションケーブルです。FT-950 からアンテナローテーターをコントロールすることができます。

オプションについては、当社アマチュアカスタマーサポートにご相談ください。

電話 : 03-5725-6151

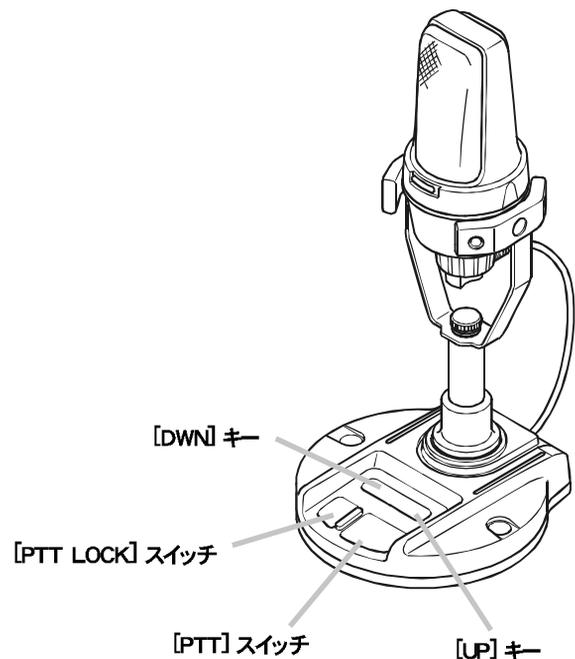
オプションについて (つづき)

最高級デスクトップマイクロホン(MD-200A8X)

[UP] または [DWN] キーは、SSB/CW/RTTY/PKT (LSB, USB) モード時に【MAIN】ダイヤルツマミと同じ 10Hz ステップで周波数が変化します。

AM/FM/PKT (FM) モード時は 5kHz ステップで周波数が変化します。

[UP] または [DWN] キーを 1 秒以上長く押すとスキャンを開始します。また、同じキーを押すとスキャンは停止します。



デスクトップマイクロホン(MD-100A8X)

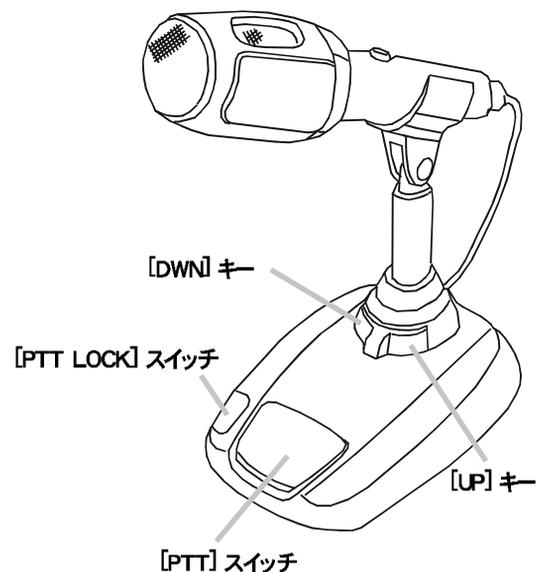
[UP] または [DWN] スイッチは、SSB/CW/RTTY/PKT (LSB, USB) モード時は【MAIN】ダイヤルツマミと同じ 10Hz ステップで周波数が変化します。

AM/FM/PKT (FM) モード時は 5kHz ステップで周波数が変化します。

[UP] または [DWN] スイッチをスライドしている間スキャンします。また、スイッチから手を放すとスキャンは停止します。

アドバイス

MD-100A8X の底面には、送信音質を切り替える TONE スイッチが付いています。HIGH EMPHASIS スイッチを ON にすると高音が強調した音質になります。LOW CUT スイッチを 1 側に切り替えると低域を抑えた音質になり、2 側に切り替えると 1 側よりもさらに低域を抑えた音質になります。



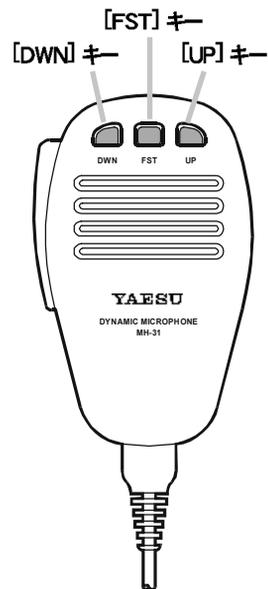
オプション

[UP] [DWN] [FAST] キー付きハンドマイクロホン(MH-31B8)

[UP] または [DWN] キーは、SSB/CW/RTTY/PKT (LSB, USB) モード時は【MAIN】ダイヤルツマミと同じ 10Hz ステップで周波数が変化します。[FST] キーを押して [UP] または [DWN] キーを押すと 100Hz ステップで周波数が変化します。AM/FM/PKT (FM) モード時は 5kHz ステップで周波数が変化します。[FST] キーを押して [UP] または [DWN] キーを押すと 50kHz ステップで周波数が変化します。

[UP] または [DWN] キーを 1 秒以上長く押すとスキャンを開始します。また、同じキーを押すとスキャンは停止します。

- アドバイス**
- MH-31B8 の背面には、送信音質を切り替える TONE スイッチが付いています。スイッチを 2 側に切り替えると高音が強調された送信音になります。
 - 付属のマイクロホンと同等品です。



通信機用ヘッドホン(YH-77STA)

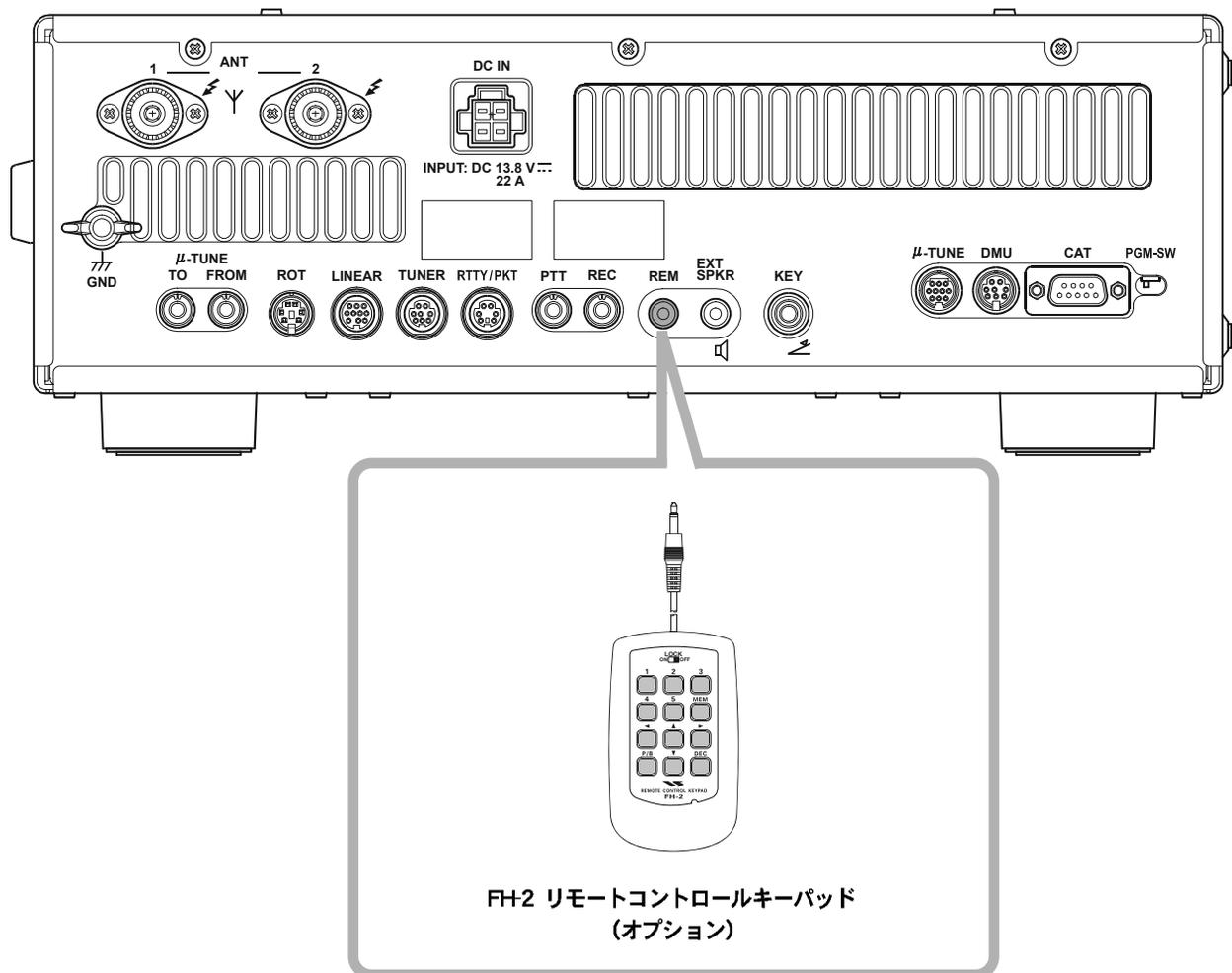
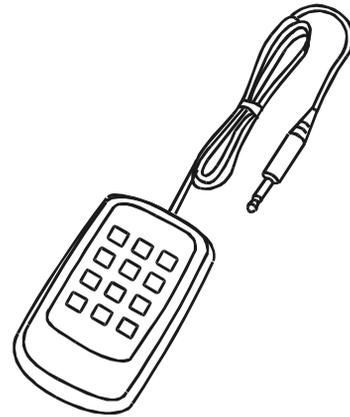
軽量で長時間使用しても疲れない通信機用ヘッドホンです。6Φ標準ステレオ変換プラグ付です。



6Φ標準ステレオ変換プラグ付

リモートコントロールキーパッド(FH2)の接続方法

リモートコントロールキーパッド(FH2)を接続すると、ボイスメモリー・コンテストメモリーキーヤーの操作性が向上します。
接続方法は下記を参照してください。



オプション

ロングワイヤー用オートマチックアンテナチューナー(FC-40)

整合することのできる範囲は、長さ20m以上(λ/2の整数倍を除く)のワイヤーまたはロッドに1.8MHz～30MHz、50MHz～54MHzのアマチュアバンドをカバーします。高速でマッチングをとり、すぐに運用ができるようにするためのオートアンテナチューナーです。

付属品

- コントロールケーブル 5m 1
- 同軸ケーブル (5D-2V) 5m 1
- 自己融着テープ 50cm 1
- フェライトコア 1
- ポールマウント取付金具一式
 - ・Uボルト 2
 - ・マウント金具 2
 - ・ワッシャ (FW6) ⊙ 4
 - ・スプリングワッシャ (SW6) ⊕ 4
 - ・ナット (N6) ⊙ 4

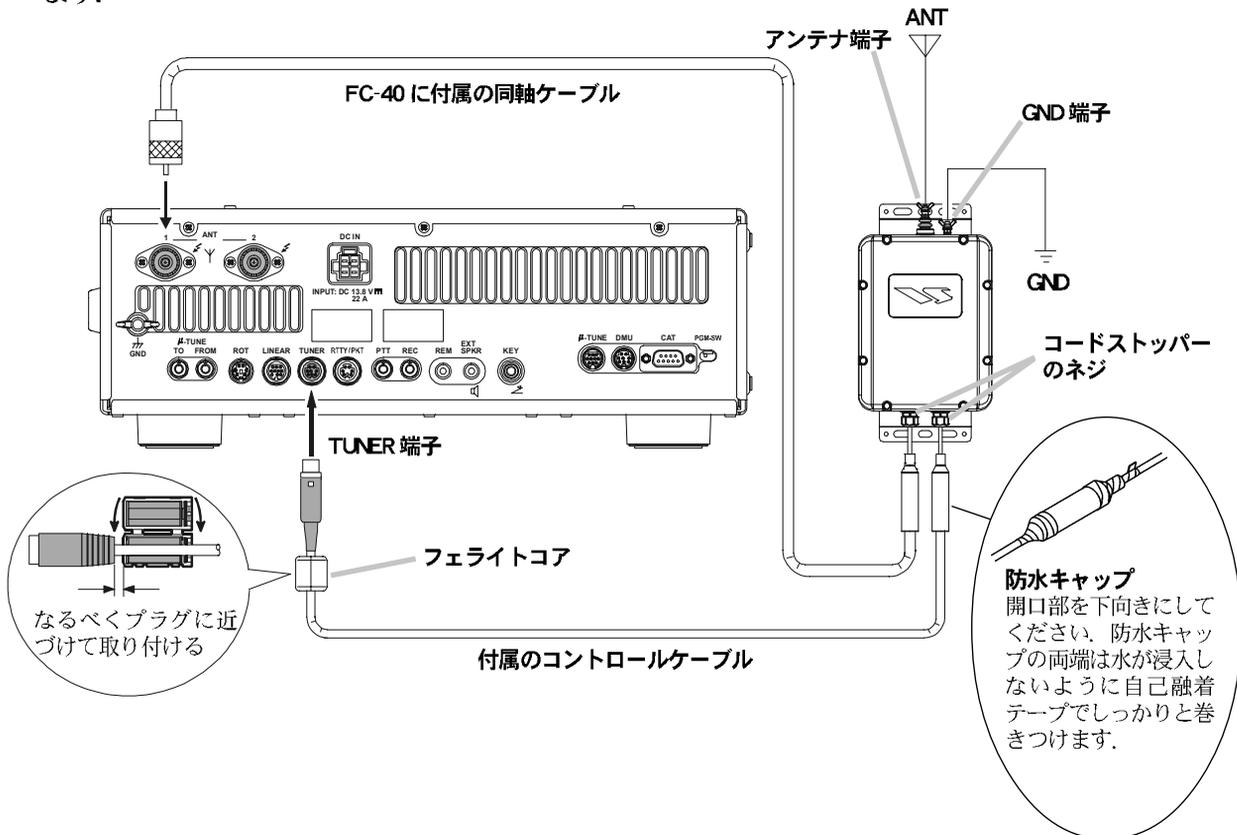
- ボード取付ビス一式
 - ・タッピングビス (5×20) 𠄎 4
 - ・ビス (M5×20) 𠄎 4
 - ・外歯座金 (OW5) ☼ 4
 - ・ワッシャ (FW5) ⊙ 8
 - ・ナット (N5) ⊙ 4

ご注意 アンテナ線は付属品に含まれておりません。

取付方法

1. コードストッパーのネジが緩んでいないか確認し、良く締め付けます。
2. 付属のフェライトコアをコントロールケーブルのトランシーバー側に取り付けます。
3. 付属のコントロールケーブルと同軸ケーブルをFC-40に接続します。
4. コネクター類に水が浸入しないよう防水キャップをかぶせ、付属の自己融着テープを巻きつけます。
5. FC-40を希望の場所に設置します。
6. FC-40にアンテナ線を接続します。
7. アース線をFC-40のGND端子に接続します。
8. コントロールケーブル(TUNERへ)と同軸ケーブル(ANTへ)をトランシーバーに接続します。
9. 操作のしかたは「操作方法」の項目をご覧ください。

オプション



ロングワイヤー用オートマチックアンテナチューナー(FC-40) (つづき)

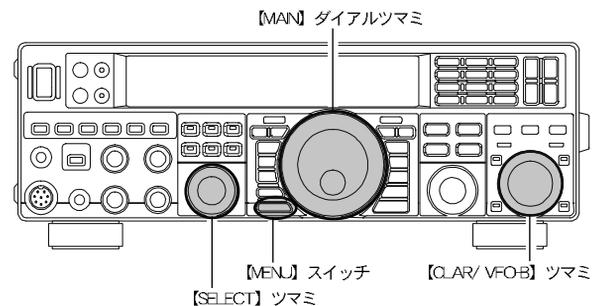
取付時のご注意

- アースは必ずFC-40のGND端子に接続してください。
- 各ケーブルの接続は、トランシーバーの電源をオフにしてから行なってください。
- 濡れた手でコントロールケーブルや同軸ケーブルのコネクターを抜き差ししないでください。感電やケガ等の原因になります。
- 人が出入りするベランダや屋上などにアンテナやオートアンテナチューナーを設置する場合は、その高さが人の歩行その他起居する平面から2.5m以上離して設置してください(電波法施行規則 第3節 安全施設 第22条及び第26条を参照してください)。
感電やケガ・故障の原因になります。
- 送信中またはチューニング中はアンテナ端子およびアンテナに触れないでください。また、容易に人が触れる場所に設置しないでください。
- TUNER端子の2pin (TX GND) とLINEAR端子の2pin (TX GND) は共通端子です。FC-40とVL-1000以外の他社製リニアアンプを同時に接続する場合は、TX GNDの電圧がDC 5Vの範囲内で制御するリニアアンプを使用してください。TX GNDをDC 5V以上の電圧で制御するリニアアンプを使用すると、FC-40が故障の原因になりますので十分ご注意ください。

操作方法

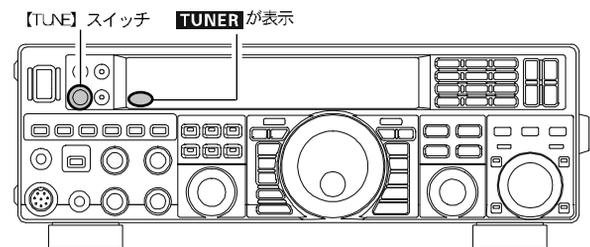
■チューニングを行う前の設定

1. 【MENU】スイッチを短く押して、メニューモードを表示します。
2. 【SELECT】ツマミ(または【MAIN】ダイヤルツマミ)をまわして、“メニューモード「110 TGEN EXT TUN」”を呼び出します。
【SELECT】ツマミを押すとメニュー名を確認することができます。
3. 【CLAR/VFO-B】ツマミをまわして、“Etu”に設定します(工場出荷時:itu)。
4. 【MENU】スイッチを約1秒間押すと、設定内容が保存されメニューモードが終了します。



■チューニングを行う

1. 【TUNE】スイッチを短く押します。
FC-40を使用できない周波数では、“**TUNER**”の表示が消えます。
2. 【TUNE】スイッチを約1秒間押すと、チューニングを開始しします。
チューニングが成功すると自動的にチューニングを終了します。
チューニング中は“**TUNER**”の表示が点滅します。チューニングが成功すると“**TUNER**”の表示が点灯します。



アンテナチューナーの動作について

- 【TUNE】スイッチを短く押してディスプレイに“**TUNER**”が点灯した時は、FC-40に搭載してあるコンピューターが、今までに記憶したチューニング状態の中から、現在設定してある運用周波数に最も近い周波数のチューニング状態を呼び出して再現します。
- 今までにチューニングしたことのない周波数では、工場出荷時にあらかじめバンドごとに設定された“チューニング状態”を呼び出します。
- FC-40には200個のメモリーチャンネルがあります。
- トランシーバーとアンテナのマッチング周波数の変化に対するチューニング状態の更新は、約10kHzごとに行われます。
- チューニング後のSWRが“2”以下のとき、アンテナチューナー内のメモリーチャンネルに、このときのチューニング状態が記憶されます。
- チューニングの結果、SWRが“2”以下にならないときは、ディスプレイに“**HI-SWR**”が点滅します。“**HI-SWR**”が点滅する場合は運用しないでください。

オプション

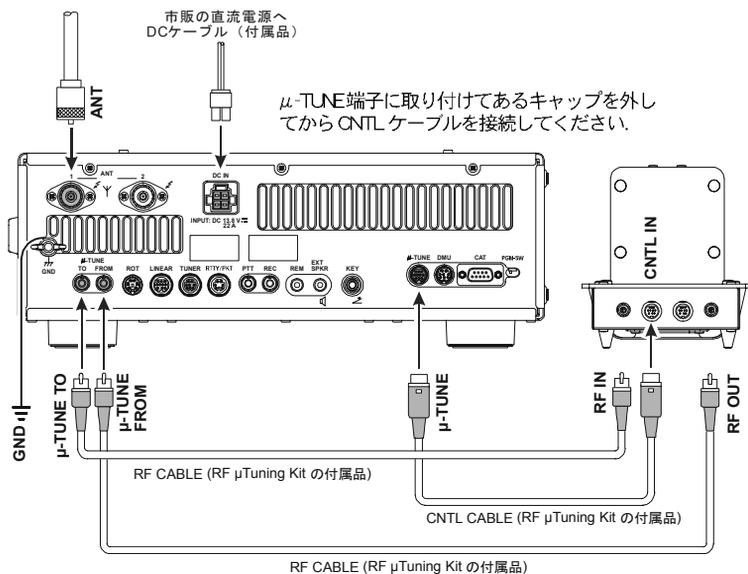
RF μ Tuning Kit

オプションのRF μ チューニングキット (RF μ Tuning Kit A(160m), RF μ Tuning Kit B(80m/40m), RF μ Tuning Kit C(30m/20m)) を組み立てて取り付けると、 μ 同調回路特有の急峻なシェープファクターによって強力な妨害信号を減衰させることができます。なお、1.8MHz帯にはRF μ Tuning Kit A, 3.5 MHz/7MHz帯にはRF μ Tuning Kit B, 10 MHz/14MHz帯にはRF μ Tuning Kit Cが必要です。組み立て方法は、RF μ Tuning Kitに同梱されている「組み立てマニュアル」を参照してください。

接続方法

FT-950の電源スイッチと市販の直流電源の電源スイッチを切ってから接続してください。

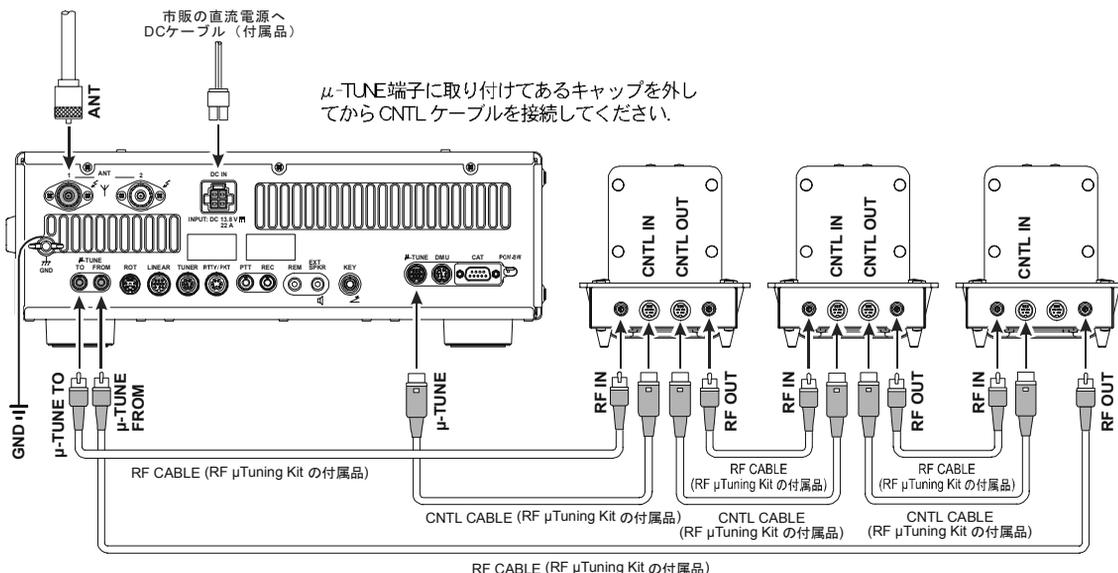
◎ 1台接続する場合



アドバイス

- ◎ RF CABLEには極性(“RF IN”, “RF OUT”)があります。黒色のRCAプラグと、灰色のRCAプラグの2種類を用意してありますので、“RF IN”と“RF OUT”のケーブルを色分けをして、極性を間違いないように接続してください。接続を間違えても故障はしませんが、性能を十分に発揮できない可能性がありますので、正しく接続してください。
- ◎ CNTL CABLEにも極性がありますので、電源を入れる前に“CNTL IN”と“CNTL OUT”の接続を確認してください。また、誤配線して電源を入れると、FT-950の操作や受信することができなくなります。さらに周波数ディスプレイも点滅することがあります。そのような時は“CNTL IN”と“CNTL OUT”の接続を再確認し、もう一度電源を入れなおしてください。
- ◎ RF μ Tuning Kitの接続順は、特にこだわることなく、どの順番でも接続可能です。

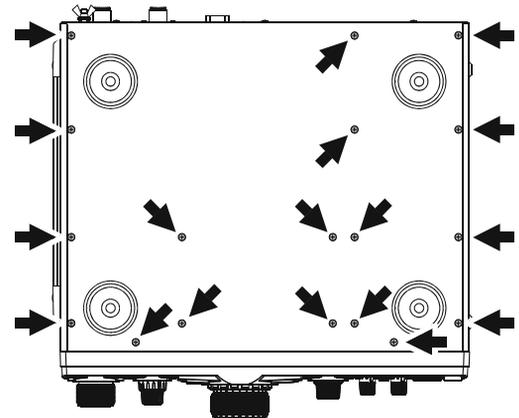
◎ 複数接続する場合 (3台接続例)



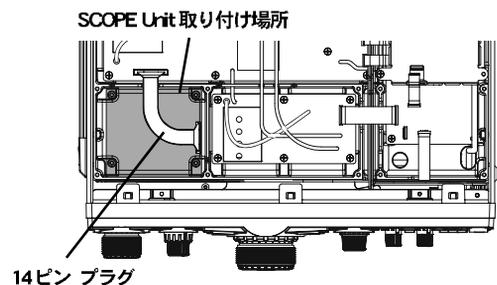
データマネージメントユニット (DMU-2000)

SCOPE Unit の取り付け

1. FT-950 に電源が入っている場合は、【ON/OFF】電源スイッチを約1秒以上押して電源を切ります。
2. 市販の直流電源の【ON/OFF】電源スイッチを切ります。
3. 電源コードを本体背面の電源端子 (DC IN) から外します。
4. 第1図を参考に、底面のビス合計18本(←)を外し、下ケースを外します。
5. 第2図を参考に、前面パネルを手前にして左側のダイキャストフレームにテープで貼られている14ピンのプラグのテープを取り外します。この位置が付属のSCP (SCOPE) Unitを取り付ける場所になります。
6. 第3図を参考に、DMU-2000に付属のビス4本(◀)でSCOPE Unitを取り付けます。
7. 第3図を参考に、手順5で外した14ピンのプラグをSCOPE UnitのJ7002コネクタに接続します。
8. 第3図を参考に、LOCAL UnitのJ4006に接続されている同軸プラグ(◎)を抜き、SCOPE UnitのJ7003に、同軸プラグ(◎)を差し込みます。次に、MAIN Unitの(J1029)に接続されている同軸プラグ(◎)を抜き、SCOPE UnitのJ7001に同軸プラグ(◎)を差し込みます。
9. 第4図を参考に、同軸プラグ(◎)と同軸プラグ(◎)をダイキャストの凹部分に差し込みます。
10. 下ケースを元通りに取り付け、合計18本のビスを締め付けます。
11. 第5図を参考に、DMU-2000とFT-950を各ケーブルで接続します。
DMU-2000の通風孔をふさがないようにDMU-2000とFT-950の間隔を2cm以上開けてください。
12. 以上で接続は終了です。

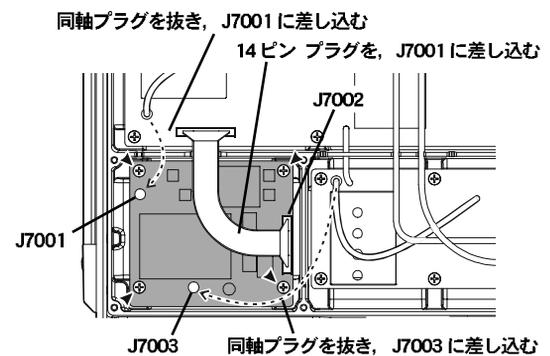


第1図



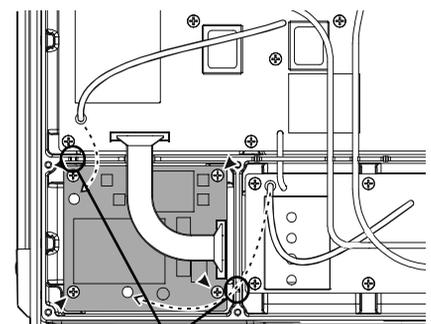
14ピン プラグ

第2図



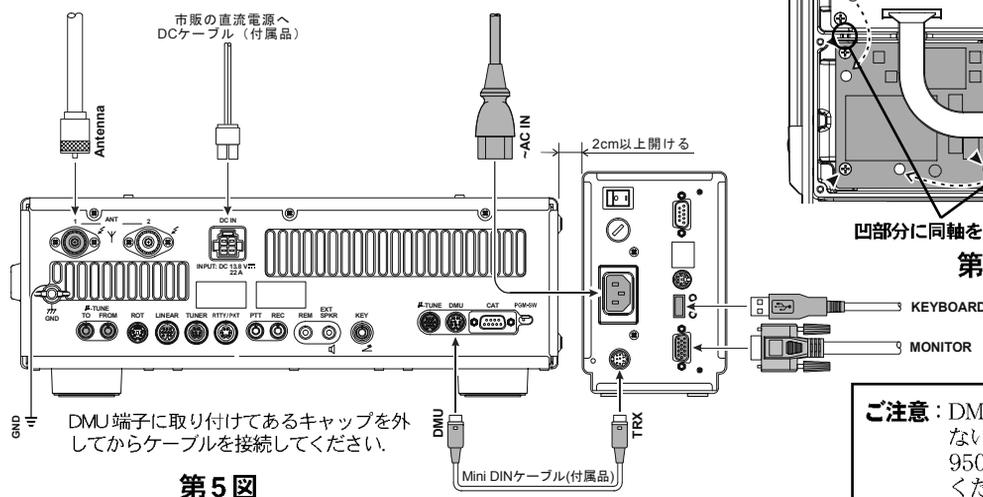
J7003 同軸プラグを抜き、J7003に差し込む

第3図



凹部分に同軸を差し込む

第4図



第5図

ご注意: DMU-2000の通風孔をふさがないようにDMU-2000とFT-950の間隔を2cm以上開けてください。

オプション

データマネージメントユニット (DMU-2000) (つづき)

データマネージメントの操作について

背面の DISPLAY 端子に市販のモニターを接続することにより、ワールドクロック、スペクトラムスコープ、オーディオスコープ/オシロスコープ、ログブック、温度表示/SWR表示、大圏地図/ローテーターコントロール、メモリーチャンネルリストの7種類の専用画面により運用に必要な補助機能としてさまざまな情報を表示することができます。この機能は、[ENT]キーを押して各機能の呼び出しキー（ページセレクトキー）画面を表示させ、このページセレクトキーを押すことで、各機能画面へ移動することができます。なお、詳しい操作方法はDMU-2000のオペレーションマニュアルを参照してください。

■ [ENT]キーを1秒以上押します。

モニターに表示されているファンクションタブに白い文字が表示され、KEY1[1.8/1]~KEY8[24/8]がファンクションキーとして動作します。もう一度[ENT]キーを1秒以上押すと、ファンクションキー動作は無効になり（ファンクションタブから白い文字は消えます）。

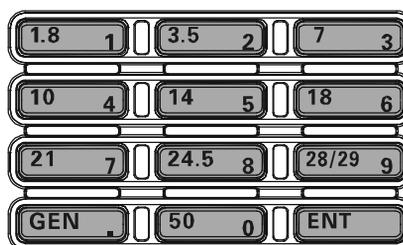
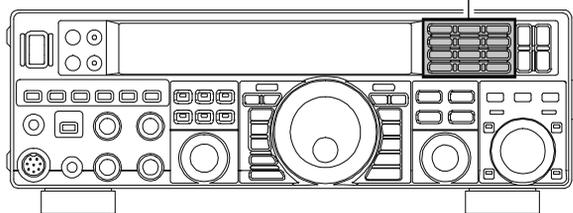
■ [24/8]キーを短く押すと、“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。

■ [ENT]キーを短く押すと、ファンクションキーとして動作していたキーが数字キーとして動作し、直接周波数を入力することができます。もう一度[ENT]キーを短く押すとファンクションキーとして動作します。

■ [ENT]キーを約2秒間押すと、ファンクションキーの機能“OFF”にすることができます。

それぞれの画面によって、ファンクションキーの機能が変わります。画面下にそのつど機能が表示されますので機能を確認して操作を行ってください。

ファンクションキーとして動作する



ファンクションタブ

ファンクションキー

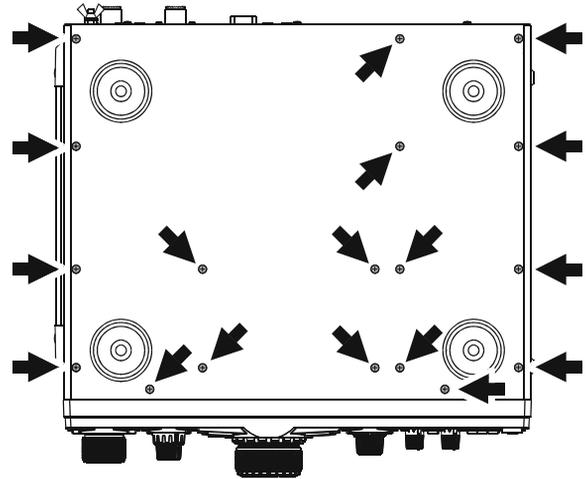
アドバイス

FT-950本体の右上にあるテンキー[1.8/1]~[24/8]/[ENT]がファンクションキーとして動作します（DMU-2000に接続したキーボードのファンクションキーを押しても動作しません）。

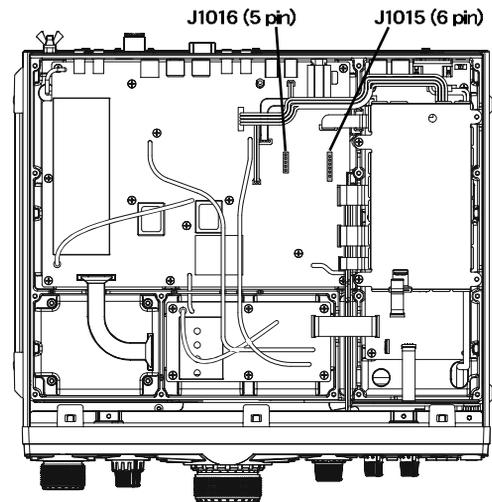
デジタルボイスレコーダ (DVS-6)

DVS-6の取り付け

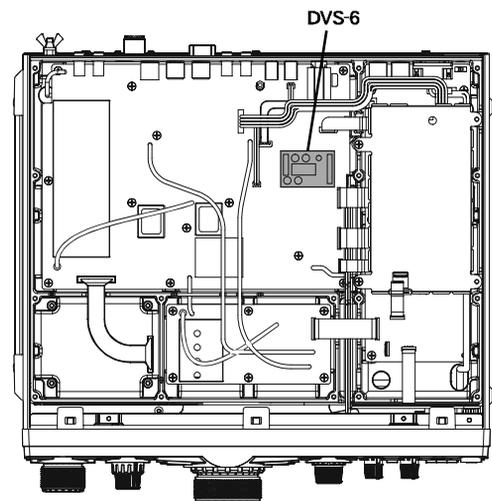
1. FT-950 に電源が入っている場合は、【ON/OFF】電源スイッチを約1秒以上押して電源を切ります。
2. 市販の直流電源の【ON/OFF】電源スイッチを切ります。
3. 電源コードを本体背面の電源端子 (DC IN) から外します。
4. 第1図を参考に、底面のビス合計18本(←)を外し、下ケースを外します。
5. 第2図を参考に、MAIN UnitのJ1016 (5ピン) とJ1015 (6ピン) にDVS-6を差し込みます。
6. 下ケースを元通りに取り付け、合計18本のビスを締め付けます。
7. 市販の直流電源とFT-950 を接続します。
8. 以上で取り付けは終了です。



第1図



第2図

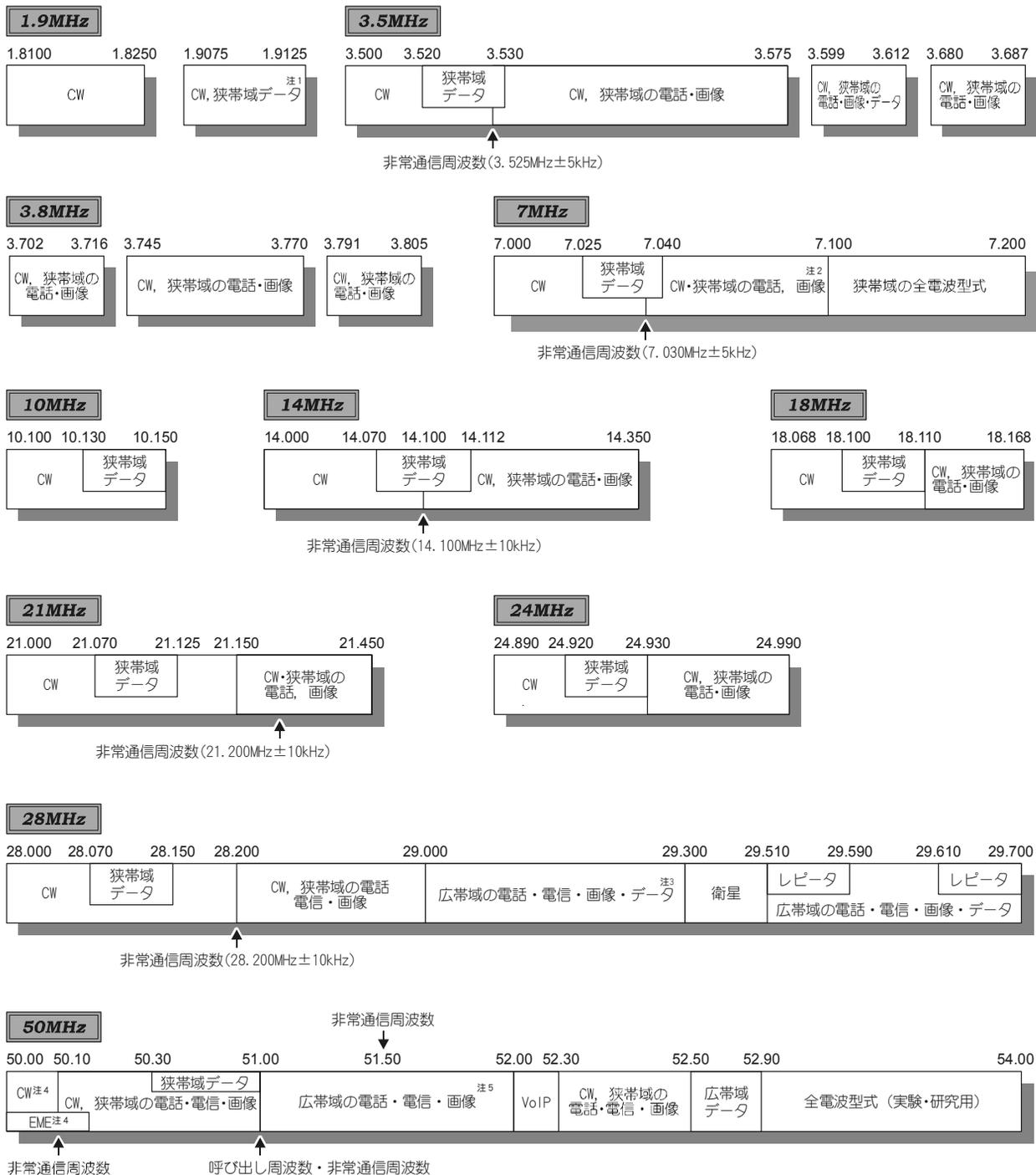


第3図

バンド区分

アマチュア業務に使用する電波の型式および周波数の使用区分

この使用区分は平成21年3月30日に総務省より施行されております。電波を発射するときは、下記の使用区分にしたがって運用してください。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報はJARLニュース等でご確認ください。



付
録

狭帯域：電波の占有周波数帯幅が3kHz以下（A3Eを除く）のもの。
 広帯域：電波の占有周波数帯幅が3kHzを超えるもの。

注1：占有周波数帯幅は100Hz以下のものに限る。

注2：7.040kHzから7.045kHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのデータ通信にも使用することができる。

注3：29.00MHzから29.30MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局との占有周波数帯幅が3kHz以下の電話・電信・画像及びCWによる通信にも使用することができる。

注4：50.00MHzから50.10MHzまでの周波数で、外国のアマチュア局と通信を行う場合と50.00MHzから50.30MHzまでの周波数で月面反射通信を行う場合に限り、占有周波数帯幅が3kHz以下のデータによる通信にも使用することができる。

注5：51MHzから51.5MHzまでの周波数で、外国のアマチュア局と通信を行う場合は、占有周波数帯幅が3kHz以下の電話・電信・画像及びCWによる通信にも使用することができる。

アマチュア無線局免許申請書類の書き方

本機は技術基準適合機ですので、免許申請書に技術適合証明番号を記入することより、一部の記入（次ページの■部分）を省略することができます。

ただし、RTTY用のTUやパケット通信用のTNCなどの付属装置を接続して申請する場合には、下記の記入例を参考にして必要事項を記入し、保証を受けて申請してください。

技術基準適合証明番号は、本体背面に貼り付けてある技術基準適合証明ラベルに記載してあります。

免許申請書記入のご注意

注1. FT-950は100Wモデルで、申請する場合は第二級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。

FT-950Mは50Wモデルで、申請する場合は第三級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。

FT-950Sは10W（50MHz帯は20W）モデルで、申請する場合は第四級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。

2. 10MHz帯と14MHz帯の申請は、第二級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。

3. 4630kHz、1.9MHz帯※、18MHz帯の申請は、第三級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。

また、第四級アマチュア無線技士の方でも「無線局事項書及び工事設計書」の1.9MHz※の電波型式に4MAへレ印を入れることによりPSK31などを申請することができます。この場合、例としてPSK31を申請するときは電波の型式に“G1B”を記入するとともに、付属装置の諸元も合わせて記入します。

※：1.9MHz帯の電波型式は平成21年3月17日に総務省より告示されております。

4. 24MHz帯以下のアマチュアバンドを申請する場合には、発射される電波の特性周波数を0.025%以内の誤差で測定できる周波数測定装置が必要ですが、FT-950/M/Sはその条件を備えているので、工事設計書による「周波数測定装置の有無」の「有」の項目にレ印をつけてください。

5. 1.9MHz帯と10MHz帯では、A3E及びJ3E申請はできません。

6. F3Eは、28MHz帯と50MHz帯のみ申請することができます。

7. 1.9MHz帯、3.8MHz帯を除き、RTTY(F1B)の免許も申請することができます。

この場合、電波の型式に“F1B”を記入するとともに、付属装置の諸元も合わせて記入します。

8. 28MHz帯と50MHz帯では、パケット(F2D)の免許も申請できます。

この場合、電波の型式に“F2D”を記入するとともに、付属装置の諸元も合わせて記入します。

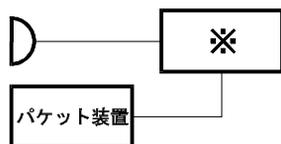
9. 1.9MHz帯と10MHz帯を除き、FAX(F3C)、SSTV(F3F)の免許も申請することができます。

この場合、電波の型式に“F3C”、“F3F”を記入するとともに、付属装置の諸元も合わせて記入します。

10. 移動する局を申請する場合は、工事設計書による「送信空中線の型式」の記載は、省略することができます。

パケット通信用のTNCを接続する場合の記入例

●『送信機系統図』に、次の項目を記入します。



※『技術基準適合証明番号』を記入します。

100Wの場合：002KN483

50Wの場合：002KN484

10Wの場合：002KN485

●『付属装置の諸元内容等』に、次の項目を記入します。

データ 通信装置 (パケット)	1 方式	AFSK	第 1 送信機
	2 通信速度	300bps/1200bps	
	4 副搬送波周波数(副搬送波を用いる方式の場合のみ。)	1700Hz/1700Hz	
	5 最大周波数偏移または位相偏位量(副搬送波を用いる場合は、副搬送波のもの。)	±100Hz/±500Hz	
	9 符号の構成	ASCIIコードとJISコード	
	10 装置出力の最高周波数(副搬送波を用いる方式の場合のみ。)	3kHz以下	
	11 その他	電波型式 F1D/F2D	

『方式、規格』は、一例です。

お手持ちのTNC等の取扱説明書を参考にご記入ください。

アマチュア無線局免許申請書類の書き方

第一級アマチュア無線技士または第二級アマチュア無線技士のかたが申請する場合 (例)

無線局事項書及び工事設計書

1 申請(届出)の区分 <input type="checkbox"/> 開設 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許		2 免許の番号	A第	号	3 呼出符号	※ 整理番号	
5 氏名 (クラブ) / 個人の別	社団(クラブ)名 フリガナ				6 工事落成の予定期日	<input type="checkbox"/> 日付指定 <input type="checkbox"/> 予備免許の日から 月日の日 <input type="checkbox"/> 予備免許の日から 日目の日	
	個人又は代表者名 フリガナ					※ 免許の年月日	
7 住所	フリガナ				9 無線局の目的	アマチュア業務用	
	郵便番号					アマチュア業務に関する事項	
11 無線設備の設置場所又は常置場所				12 移動範囲		<input type="checkbox"/> 移動する(陸上、海上及び上空) <input type="checkbox"/> 移動しない	
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	電波の型式		空	線	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力
	<input checked="" type="checkbox"/> 1.9M <input type="checkbox"/> A1A <input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4MA <input checked="" type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 3.8M <input type="checkbox"/> 3HD <input type="checkbox"/> 4HD <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 7M <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 10M <input type="checkbox"/> 2HC <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 14M <input type="checkbox"/> 2HA <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 18M <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 21M <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 24M <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 28M <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 50M <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 144M <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 430M <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF <input type="checkbox"/>		100W	希望する周波数帯	<input type="checkbox"/> 1200Hz <input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 2400Hz <input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 5600Hz <input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 10.1G <input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 10.4G <input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 100W <input checked="" type="checkbox"/> 4630kHz A1A <input type="checkbox"/> 100W	<input type="checkbox"/> 100W <input type="checkbox"/> 50W <input type="checkbox"/> 25W <input type="checkbox"/> 10W <input type="checkbox"/> 5W <input type="checkbox"/> 2W <input type="checkbox"/> 1W <input type="checkbox"/> 0.5W <input type="checkbox"/> 0.25W <input type="checkbox"/> 0.1W	
14 変更する欄の番号		3		15		8	
15 備考							
① 移動する局の場合は、「工事設計書」の欄に記載している送信機の台数 _____ 台 ② 現にアマチュア局を開設しているときは、その免許の番号及び呼出符号 _____ 免許の番号 _____ 呼出符号 _____ ③ 過去にアマチュア局を開設していた場合であって、そのアマチュア局の廃止又は11から6ヶ月を経過していないときは、そのアマチュア局に指定されていた呼出符号 _____							

※：1.9MHz帯の電波型式は平成21年3月17日に総務省より告示されております。

装置の区別		変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管	定格出力
第1	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	002KN483	A1A { 4630kHz, 1.9MHz, 10MHz } A1A { 3.5MHz, 18MHz } J3E { 3.8MHz, 21MHz } A3E { 7MHz, 24MHz, 14MHz } A1A { 3.5MHz, 18MHz } J3E { 28MHz } A3E { 50MHz } F3E	平衡変調(J3E) 低電力変調(A3E) リアクタンス変調(F3E)	RD100HF1×2	13.8 V 100
第2	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第3	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第4	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第5	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第6	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第7	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第8	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第9	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
送信空中線の型式				周波数測定装置の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有(誤差0.025%以内) 無	
添付図面		<input type="checkbox"/> 送信機系統図		その他の工事設計		<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。	

付録

アマチュア無線局免許申請書類の書き方

第三級アマチュア無線技士のかたが申請する場合（例）

無線局事項書及び工事設計書

1 申請（届出）の区分		<input type="checkbox"/> 開設 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許		2 免許の番号	A第	号	3 呼出符号	※ 整理番号																																																																																					
5 氏名 申請又は届出の個人名称	社団（クラブ）名 フリガナ							6 工事落成の予定期日																																																																																					
	個人又は代表者名 フリガナ							※ 免許の年月日																																																																																					
11 無線設備の設置場所又は常置場所	郵便番号							9 無線局の目的																																																																																					
	住所							アマチュア業務用																																																																																					
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	電波の型式							12 移動範囲																																																																																					
	<p>1.9M 3MA*, 3.5M 3HA, 3.8M 3HD, 7M 3HA 18M 3HA, 21M 3HA, 24M 3HA, 28M 3VA, 50M 3VA に ✓ 印をつけてください。</p>							移動する（陸上、海上及び上空） <input type="checkbox"/> 移動しない																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>希望する周波数帯</th> <th>電波の型式</th> <th>帯域</th> <th>希望する周波数帯</th> <th>電波の型式</th> <th>空中線電力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 1.9M</td> <td><input type="checkbox"/> A1A <input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4MA</td> <td>50 W</td> <td><input type="checkbox"/> 1200kHz</td> <td><input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF</td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3.5M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA</td> <td>50 W</td> <td><input type="checkbox"/> 2400kHz</td> <td><input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF</td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3.8M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3HD <input type="checkbox"/> 4HD</td> <td>50 W</td> <td><input type="checkbox"/> 5600kHz</td> <td><input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF</td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 7M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA</td> <td>50 W</td> <td><input type="checkbox"/> 10.1kHz</td> <td><input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF</td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 10M</td> <td><input type="checkbox"/> 4HC</td> <td>50 W</td> <td><input type="checkbox"/> 10.4kHz</td> <td><input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF</td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 14M</td> <td><input type="checkbox"/> 4HA</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 18M</td> <td><input type="checkbox"/> 4HA</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 21M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 24M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 28M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 50M</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 144M</td> <td><input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 430M</td> <td><input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF</td> <td>50 W</td> <td></td> <td></td> <td>50 W</td> </tr> </tbody> </table>										希望する周波数帯	電波の型式	帯域	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	<input checked="" type="checkbox"/> 1.9M	<input type="checkbox"/> A1A <input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4MA	50 W	<input type="checkbox"/> 1200kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 3.5M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W	<input type="checkbox"/> 2400kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 3.8M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HD <input type="checkbox"/> 4HD	50 W	<input type="checkbox"/> 5600kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 7M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W	<input type="checkbox"/> 10.1kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W	<input type="checkbox"/> 10M	<input type="checkbox"/> 4HC	50 W	<input type="checkbox"/> 10.4kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W	<input type="checkbox"/> 14M	<input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W	<input type="checkbox"/> 18M	<input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 21M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 24M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 28M	<input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W	<input checked="" type="checkbox"/> 50M	<input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W	<input type="checkbox"/> 144M	<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W	<input type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W
希望する周波数帯	電波の型式	帯域	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 1.9M	<input type="checkbox"/> A1A <input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4MA	50 W	<input type="checkbox"/> 1200kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 3.5M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W	<input type="checkbox"/> 2400kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 3.8M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HD <input type="checkbox"/> 4HD	50 W	<input type="checkbox"/> 5600kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 7M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W	<input type="checkbox"/> 10.1kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W																																																																																								
<input type="checkbox"/> 10M	<input type="checkbox"/> 4HC	50 W	<input type="checkbox"/> 10.4kHz	<input type="checkbox"/> 3SA <input type="checkbox"/> 4SA <input type="checkbox"/> 3SF <input type="checkbox"/> 4SF	50 W																																																																																								
<input type="checkbox"/> 14M	<input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W																																																																																								
<input type="checkbox"/> 18M	<input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 21M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 24M	<input checked="" type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA	50 W			50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 28M	<input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 50M	<input checked="" type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W																																																																																								
<input type="checkbox"/> 144M	<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W																																																																																								
<input type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	50 W			50 W																																																																																								
<p>14 変更する帯の番号</p> <p>15 備考</p> <p>① 移動する局の場合は、工事設計書の欄に記載している送信機の台数 _____ 台</p> <p>② 現にアマチュア局を開設しているときは、その免許の番号及び呼出符号 _____ 免許の番号 _____ 呼出符号 _____</p> <p>③ 過去にアマチュア局を開設していた場合であって、そのアマチュア局の廃止又は11から6ヶ月を経過していないときは、そのアマチュア局に指定されていた呼出符号 _____</p>																																																																																													

※：1.9MHz 帯の電波型式は平成 21 年 3 月 1 7 日に総務省より告示されております。

16 工事設計書		技術基準適合証明番号		発射可能な電波の型式及び周波数の範囲		変調方式		終端管		定格出力	
第 1 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	002KN484		A1A { 4630kHz 1.9MHz		A1A { 3.5MHz, 18MHz J3E { 3.8MHz, 21MHz A3E { 7MHz, 24MHz F3E { 28MHz A3E { 50MHz F3E		平衡変調 (J3E) 低電力変調 (A3E) リアクタンス変調 (F3E)		ED100HF1×2 13.8 V 50	
第 2 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
第 3 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
第 4 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
第 5 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
第 6 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
第 7 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
第 8 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更									V	
送信空中線の型式				周波数測定装置の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有 (誤差 0.025%以内)				無	
添付図面		<input type="checkbox"/> 送信機系統図		その他の工事設計		<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。					

付録

アマチュア無線局免許申請書類の書き方

第四級アマチュア無線技士のかたが申請する場合（例）

無線局事項書及び工事設計書

1 申請（届出）の区分		2 免許の番号		A第 号		3 呼出符号		※ 整理番号		4 欠格事由		□有 □無			
5 氏名 申請又は届出の名称	□個人 □個人別		3.5M 4HA, 3.8M 4HD, 7M 4HA 21M 4HA, 24M 4HA, 28M 4VA, 50M 4VA に✓印をつけてください。												
	□個人 □個人別		空中線電力の10を（50Mは20）を記入してください。												
	□個人 □個人別														
6 工事落成の予定期日		7 免許の年月日		8 無線局の目的		アマチュア業務用									
9 無線局の目的		アマチュア業務に関する事項													
11 無線設備の設置場所又は常置場所		12 移動範囲		移動しない											
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力		電波の型式		希望する周波数		電波の型式		空中線電力							
14 変更する欄の番号		3		5		8		11		12		13		16	
15 備考		① 移動する局の場合は、「工事設計書」の欄に記載している送信機の台数 _____ 台 ② 現にアマチュア局を開設しているときは、その免許の番号及び呼出符号 _____ 免許の番号 _____ 呼出符号 _____ ③ 過去にアマチュア局を開設していた場合であって、そのアマチュア局の廃止又は免許の有効期間満了の日から6ヶ月を経過していないときは、そのアマチュア局に指定されていた呼出符号 _____ 呼出符号 _____													

付録

16 工事設計書		技術基準適合証明番号		放射可能な電波の型式及び周波数の範囲		変調方式		最終管		定格出力	
第1 送信機		002KN485		J3E { 3.5MHz, 3.8MHz A3E { 7MHz, 21MHz 24MHz		J3E { 28MHz A3E { 50MHz F3E		平衡変調 (J3E) 低電力変調 (A3E) リアクタンス変調 (F3E)		RD100HF1×2 13.8 V 10 (50MHz) 20	
第2 送信機										V	
第3 送信機										V	
第4 送信機										V	
第5 送信機										V	
第6 送信機										V	
第7 送信機										V	
第8 送信機										V	
第9 送信機										V	
送信空中線の型式				周波数測定装置の有無		□有 (誤差0.025%以内)		□無			
添付図面		□ 送信機系統図		その他の工事設計		□		□		□	
						☑ 法第3章に規定する条件に合致する。					

✓印をつけてください。

定 格

一般定格

送信周波数範囲	: 1.9MHz帯～50MHz帯のアマチュアバンド 非常連絡設定周波数 4630kHz
受信周波数範囲	: 30.00kHz～56.00000MHz(動作範囲) 1.80000MHz～29.699999MHz(保証範囲) 50.00000MHz～53.999999MHz(保証範囲)
電波型式	: A1A(CW), A3E(AM), J3E(LSB/USB), F3E(FM), F1B(RTTY), F1D(PACKET), F2D(PACKET)
周波数切替ステップ	: 1/10Hz(CW/SSB/AM), 100 Hz (FM)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω不平衡 (アンテナチューナー“OFF”時) 16.7 Ω～150 Ω:不平衡 (アンテナチューナー“ON”時)
動作温度範囲	: -10°C～+50°C
周波数安定度	: ±0.5ppm (+25°C時:電源投入1分後) ±1.0ppm (-10°C～+50°C時:電源投入1分後)
電源電圧	: DC 13.8V±10%
接地方法	: マイナス接地
消費電力	: 受信無信号時 約1.8A 受信信号出力時 約2.1A FT-950(100W送信時) 約22A FT-950M(50W送信時) 約15A FT-950S(HF帯10W送信時) 約9A (50MHz帯20W送信時) 約10A
外形寸法	: 365W×115H×315D mm(突起物含まず)
重量	: 約9.8 kg

送信部

定格送信出力	: FT-950 FT-950M FT-950S (アンテナチューナーOFF) CW/SSB/FM 100W 50W 10W/50MHz 20W AM 25W 12.5W 2.5/5W
変調方式	: J3E(SSB) 数値演算型平衡変調 A3E(AM) 数値演算型低電力変調 F3E(FM) 数値演算型リアクタンス変調
FM最大周波数偏移	: ±5.0kHz/±2.5kHz(Narrow) (TDCおよびスプラッタフィルタ付)
スプリアス発射強度	: HF帯 -60dB以下(高調波) -50dB以下(高調波以外) 50MHz帯(FT-950) -65dB以下 50MHz帯(FT-950M/-950S) -60dB以下
搬送波抑圧比	: 60dB以上
不要側波帯抑圧比	: 60dB以上
第三次混変調積歪	: -31dB(14MHz, 100WPEP出力時)
占有周波数帯域幅	: SSB 3kHz以内, CW 500Hz以内, AM 6kHz以内, FM 16kHz以内
送信周波数特性	: SSB 300～2700Hzにて-6dB以内
マイクロホンインピーダンス	: 600 Ω(200～10k Ω)

受信部

受信方式	: トリプルコンバージョンスーパーヘテロダイナ方式
中間周波数	: 第1中間周波数 69.450MHz 第2中間周波数 450kHz 第3中間周波数 30kHz (AM/FMは2kHz)
受信感度(TYP)	: SSB(通過帯域幅2.4kHz/10dB S+N/N) 0.5MHz～1.8MHz 4 μV以下(TPO ON) 1.8MHz～30MHz 0.2 μV以下(AMP2 ON) 50MHz～54MHz 0.125 μV以下(AMP2 ON) AM(100Hz, 30%変調波, 通過帯域幅6kHz/10dB S+N/N) 0.5MHz～1.8MHz 28 μV以下(TPO ON) 1.8MHz～30MHz 2 μV以下(AMP2 ON) 50MHz～54MHz 1 μV以下(AMP2 ON) FM(BW:15kHz, 12dB SINAD) 28MHz～30MHz 0.5 μV以下(AMP2 ON) 50MHz～54MHz 0.35 μV以下(AMP2 ON)
通過帯域幅/選択度	: Mode -6dB -60dB (WIDTH:センター時) CW/RTTY/PKT 0.5kHz以上 750Hz以下 SSB 2.4kHz以上 3.6kHz以下 AM 6kHz以上 15kHz以下 FM 15kHz以上 25kHz以下
イメージ妨害比	: 70dB以上(1.8MHz帯～28MHz帯アマチュアバンド) 60dB以上(50MHz帯アマチュアバンド)
低周波定格出力	: 2.5W以上(@1Ω THD10%)
低周波出力インピーダンス	: 4～8 Ω(標準4 Ω)
副次的に発する電波等の限度	: 4nW以下

付 録

- ☆ 定格値は常温・常圧時の計測値です。
- ☆ 測定法は、電波法告示で定めた測定法によります。
- ☆ 改良のため予告なく変更することがあります。

索引

数字

- 3kHz 以内にある妨害信号を減衰させる 60
- 3kHz 以内の雑音を軽減させる 59

μ

- μ-TUNE (TO/FROM) 端子 40
- μ-TUNE スイッチ 8, 31
- μ-TUNE を使う 56
- μ-TUNE 端子 41

A

- A▶B スイッチ 33
- A▶B スイッチ 33
- 周波数ディスプレイ 34
- A▶M スイッチ 33
- AF GAIN ツマミ 37
- AFSK によるデータ通信 110
- AGC (Automatic Gain Control) 機能を使う 68
- AGC スイッチ 29
- ALC メーター 27
- ANTENNA SELECT 53
- ANTENNA SELECT スイッチ 26
- ANT 端子 40
- APF 機能を使う 68
- ATT 55
- ATT スイッチ 36

B

- BANDキー 36
- BAND スイッチ 9, 38
- BAND の選択 6
- BAR ディスプレイ 35, 46, 56, 83, 89
- BK-IN スイッチ 29

C

- C.S スイッチ 33, 50
- CAT 端子 41
- CLAR 46
- CLAR/VFO-B ツマミで VFO-A の
運用周波数を 1MHz ステップで設定する方法 52
- CLAR/VFO-B ツマミ 9, 38
- CLEAR スイッチ 8, 9, 31, 38
- COMP メーター 27
- Contest Memory Keyer 92
- CONTOUR 機能を使う 60
- CONT スイッチ 8, 31
- CW REVERSE 機能を使う 90
- CW-TUNE (CW ゼロイン) 機能を使う 89
- CW ディレイタイムの調節 91
- CW ピッチの調節 91
- CW モードでの交信 86

D

- DC IN 端子 40
- DIM 47
- DMU-2000 145
- DMU 端子 41
- DNF 機能を使う 65
- DNR 機能を使う 65
- DSP 機能の操作として使う (SELECT ツマミ) 8
- DSP グラフィックディスプレイ 35
- DVS-6 147

E

- EXT SPKR 端子 41

F

- FAST スイッチ 32
- FC-40 142
- FII-2 141
- FII-2 による TEXT メモリーの操作 97
- FII-2 によるボイスメモリーの操作 81
- FII-2 の接続 21
- FM モードでの交信 98

G

- GND 端子 40
- GRP スイッチ 37

I

- IDメーター 27
- IPO (Intercept Point Optimization) 57
- IPO スイッチ 37

K

- KEYER スイッチ 29
- KEY ジャック 27
- KEY の接続 22
- KEY 端子 41

L

- LINEAR 端子 40
- LOCK 47
- LOCK スイッチ 32

M

- M▶A スイッチ 33
- MAIN ダイアルツマミ 33
- MAIN ダイアルツマミ以外の周波数の設定方法 52
- MCI スイッチ 9, 39, 101, 102, 104, 107
- MD-100^{ASX} 139
- MD-200^{ASX} 139
- MENU スイッチ 33
- MESSAGE メモリー 92
- METER スイッチ 27
- MII-31^{BS} 140
- MIIz スイッチ 9, 38
- MIC GAIN ツマミ 27
- MIC ジャック 27
- MODE スイッチ 36
- MODE の選択 6
- MONITOR 82
- MONI スイッチ 28
- MONI ツマミ 27
- MOX スイッチ 26
- MUTE 機能を使う 69
- M 型同軸コネクタの取り付け方 19

N

- NAR スイッチ 32
- NAR スイッチを使う 63
- NB (Noise Blanker) 機能を使う 59
- NB スイッチ 37
- NOTCH 機能を使う 64
- NOTCH スイッチ 8, 30

P

- PGM SW 41
- PIONES ジャック 27
- PMS 107
- PROC スイッチ 28
- PROC を使う 79

PTT 端子.....	40	VFO-B の周波数で送信する.....	7
		VFO スキャン機能.....	106
	Q	VL-1000 の接続.....	23
QMB (Quick Memory Bank).....	105	VOX.....	82
QMB スイッチ.....	32	VOX スイッチ.....	26
	R		W
R. FLT スイッチ.....	37	WIDTH スイッチ.....	8, 31
R. FLT を使う.....	58	WIDTH 機能を使う.....	62
RCL スイッチ.....	32		Y
REC 端子.....	40	YII-77STA.....	140
REM 端子.....	40		あ
REPEATER 運用.....	99	アースについて.....	19
RF GAIN.....	65	アイコン.....	34
RF GAIN ツマミ.....	37	アフターサービスについて.....	137
RF μ Tuning Kit.....	56, 144	アマチュア無線局免許申請書類の書き方.....	149
ROT 端子.....	40	誤って【MAIN】ダイヤルツマミに触れても 周波数に変化しないようにする (LOCK) ...	47
RTTY/PKT 端子.....	40	アンテナチューナーの使い方.....	72
RTT 運用.....	108	アンテナチューナーの動作について.....	73
RX CLAR スイッチ.....	9, 38	アンテナについて.....	19
RX インジケータースイッチ.....	9	アンテナの接続.....	20
RX インジケータースイッチ (VFO-A).....	32		い
RX インジケータースイッチ (VFO-B).....	38	一時的に RX CLAR を解除する.....	46
	S		お
SELECT ツマミ.....	31	オプション.....	18
SELECT ツマミの使い方.....	8	オプションについて.....	138
SHIFT スイッチ.....	8, 30	オフセット量を“ゼロ”にする.....	39
SHIFT 機能を使う.....	61	音声による自動送受信切り替え機能 (VOX).....	82
SPEED ツマミ.....	27		か
SPLIT スイッチ.....	33	快適な受信を行うために.....	65
SPOT スイッチ.....	29	カスタムセレクションスイッチ.....	50
SPOT 機能を使う.....	89		き
SQL ツマミ.....	27	キーイングスピードの調節.....	91
SSB/AM での交信.....	71	キーヤーの極性を反転する.....	88
SSB 受信音の音質を変える.....	67	キーヤー動作を変更する.....	88
STO スイッチ.....	32	基準周波数の校正.....	45, 123
SWR メーター.....	27		く
S メーター.....	34	クイックスプリット機能.....	85
	T	クイックメモリーバンクスイッチ.....	32
TEXT メモリー.....	95	クラリファイアー.....	46
TUNER 端子.....	40	クラリファイア機能として使う (CLAR/VFO-B ツマミ) ...	9, 39
TUNE スイッチ.....	26		こ
TX CLAR.....	83	故障かな?... と思うまえに.....	137
TX CLAR スイッチ.....	9, 38	混信・雑音が激しいとき.....	58
TXW スイッチ.....	33	コンツァー機能を使う.....	60
TX インジケータースイッチ.....	9	コンテストナンバーのデクリメント.....	95
TX インジケータースイッチ (VFO-A).....	32	コンテストナンバーの入力方法.....	95
TX インジケータースイッチ (VFO-B).....	38	コンテストメモリーキーヤー.....	92
	V		さ
VDD メーター.....	27	最高級デスクトップマイクロホン (MD-200ASX) ...	139
VFO-A によるダイヤル操作.....	7		し
VFO-A の BAND 選択.....	6	静かな待ち受けをしたいとき.....	99
VFO-A の MODE 選択.....	6	シフト機能を使う.....	61
VFO-A の周波数で送信する.....	7	自分の音声を録音して送信する.....	80
VFO-A の補助機能 (CLAR/VFO-B ツマミ).....	9, 39	周波数帯の選択.....	6
VFO-B によるダイヤル操作.....	7	周波数表示部.....	35
VFO-B による受信.....	48	受信感度を低減させる.....	55
VFO-B の BAND 選択.....	6		
VFO-B の MODE 選択.....	6		
VFO-B のダイヤル操作として使う (CLAR/VFO-B ツマミ) ..	9, 39		

索引

受信感度を調節する	57
受信時の多彩な機能	54
受信周波数を変えずに送信周波数だけを変える	39
受信部 RF アンプ (AMP1, AMP2) について	57

す

数 kHz 以上離れた強力な妨害信号を減衰させる	56
数字キーから直接周波数を設定する方法	52
スピーチプロセッサを使う	79
スプリット (たすきがけ) 運用	84
すべての内容を初期値に戻す	11
正確に相手の周波数へゼロインする	89
設置と接続方法	19
セミブレイクイン	86
前脚の使い方	5
操作方法	44

そ

送信音をモニターする機能 (MONITOR)	82
送信機系統図	153
送信時に便利な機能	82
送信周波数を変えずに 受信周波数だけを変える	39, 46
送信周波数特性を変える	76
送信周波数だけを一時的に動かす機能 (TX CLAR)	83
送信帯域を広くしたり狭くしたりする	75
その他のリニアアンプの接続	23

た

ダイアル操作	7
多彩なメモリー機能をお使いいただくために	100
縦振れ電鍵や複式電鍵を使って運用する方法	86
短点と長点の比率を設定する	88

つ

通信機用ヘッドホン (YII-77STA)	140
-----------------------	-----

て

定格	154
ディスクトップマイクロホン (MD-100ASX)	139
ディスプレイの明るさを調節する (DIM: ディマー)	47
ディマー	47
データマネージメントユニット (DMU-2000)	145
デジタルノイズリダクション機能を使う	65
デジタルノッチフィルター機能を使う	65
デジタルボイスレコーダ (DVS-6)	147
電鍵の接続	22
電源ケーブルの接続	20
電源スイッチ	26
電源を入れる前に	43
電源を入れる	4
電波型式の選択	6
電波を発射する前に	16

と

同軸ケーブルについて	19
トーンスケルチの設定	99
特長	12

な

内蔵エレクトロニックキーヤーを 使って運用する方法	87
ナロースイッチを使う	63

の

ノイズブランカー機能を使う	59
---------------	----

ノイズレベルの調節	59
ノッチ機能を使う	64

は

背面の説明	40
パケット運用	109
パネル面の説明	26
幅の広い雑音を軽減する	59
パラメトリックマイクイコライザー	76
パラメトリックマイクイコライザー を使って送信する	78
パルス性雑音を軽減する	59
バンドスタック機能	50
ハンドマイクロホン (MH-31B8)	140
バンド区分	148

ひ

ビーコンの送出方法	93, 94
-----------	--------

ふ

付属のハンドマイク MH-31B8 の UP/DWN スイッチによる方法	52
付属品	17
プラグの接続図	24
フルブレイクイン操作に切り換える	87
プログラマブルメモリースキャン (PMS)	107
ブロックダイアグラムディスプレイ	35

へ

ヘッドホンの接続	21
----------	----

ほ

ボイスメモリー	80
ボイスメモリーの操作として使う (SELECT ツマミ)	8

ま

マイクロホンの接続	21
マイバンド機能	49
マッチングデータメモリー	72, 73
マルチディスプレイ	35
マルチファンクションダイアル	9, 39

み

ミュート機能を使う	69
-----------	----

め

メインダイアルのトルク調整	5
メニューモード	112
メニューモード一覧表	114
メニューモード詳細	117
メニューモードに入るには	10
メニューモードのグループ名	113
メニューモードの設定操作として使う (SELECT ツマミ)	8
メニューモードの内容を初期値に戻す	11
メニューモードの変更方法	10
メニューモードリセット	112
メモリーグループの切り換え	101
メモリーグループの設定	101
メモリースキャン機能	106
メモリーチェック機能	103
メモリーチャンネルデータの消去	103
メモリーチューン機能を使う	104
メモリーデータを VF0-A へ移す方法	104
メモリーに書き込む	102
メモリーの内容を初期値に戻す	11
メモリーの補助機能 (CLAR/VF0-B ツマミ)	9, 39

メモリーを呼び出す	102
メモリー構成	100
ふ	
文字を修正する場合 (コンテストメモリーキーヤー)	96, 97
ら	
ラジオテレタイプ運用	108
り	
リセット操作	11
オールリセット	11
メニューモードリセット	11
メモリーリセット	11
リモートコントロールキーパッド (FII-2)	141
リモートコントロールキーパッド (FII-2) の接続	21
隣接した妨害信号を減衰させる	58
る	
ルーフィングフィルターを使う	58
れ	
レピーター運用	99
ろ	
ローテーターコントロール機能	51
ロングワイヤー用オートマッチック アンテナチューナー (FC-40)	142
わ	
ワイズ機能を使う	62



本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げ
いただきました販売店または、株式会社バーテックススタンダード
アマチュアカスタマーサポートにお願いいたします。

アマチュアカスタマーサポート
〒153-8644 東京都目黒区中目黒 4-8-8
電話：03-5725-6151

株式会社バーテックススタンダード
〒153-8644 東京都目黒区中目黒 4-8-8



©2011 株式会社バーテックススタンダード
無断転載・複写を禁ず